

文京遺跡 VII-4

— 文京遺跡16次調査B区 —

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2013

文京遺跡Ⅶ-4

— 文京遺跡16次調査B区 —

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2013



1 完掘全景（北から）



2 SB-1（北から）



1 SC-14 カマド土器出土状況（南東から）



2 SC-52出土土シカ絵画土器

序 文

愛媛大学は、松山市および愛媛県内各所に大小のキャンパスをもち、敷地総面積は464ヘクタールに及び、本部事務局と4つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樟味団地には樟味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地では桑原西稲葉遺跡、学生寮のある御幸団地では御幸遺跡等、数多くの遺跡をかかえている。愛媛大学では、1987年に愛媛大学埋蔵文化財調査委員会の基に埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設で埋蔵文化財が破壊される場合には発掘調査を実施し記録保存するとともに、基幹整備等の諸工事に伴っては埋蔵文化財に影響が及ばない設計・計画を施設基盤部等と協議する等、埋蔵文化財の保護に努めてきた。

そうした発掘調査の記録は調査報告書として刊行してきたが、1994・1996・1997年度に実施した工学部校舎（Ⅰ～Ⅲ期）工事に伴う文京遺跡12・14・16次調査については、膨大な量の出土遺物と、その後も継続された校舎建設等に伴う発掘調査のため、出土した遺構と遺物が相対的に少ない文京遺跡13・18・20・23・25次調査、樟味遺跡4～8次、桑原西稲葉遺跡3～5次調査の報告書の刊行を先行させたため、調査報告書の刊行を先送りすることとなった。

しかし、2011年以降、グリーンゾーンの整備計画が本格化するに伴い、基礎資料でもある12・14・16次調査成果を調査報告書として刊行する必要が生じてきた。そこで、『文京遺跡Ⅶ』として一括し、第1分冊で12次調査、第2分冊で14次調査、第3分冊として16次調査A区、第4分冊として同B区の調査記録を報告し、第5分冊で自然科学的分析と調査成果を総括する中期計画をたて、調査報告書の刊行に向けた整理作業を再開した。

本書は、その中の第4分冊となる文京遺跡16次調査B区の記録である。文京遺跡は、これまでの51次にわたる全面調査で、弥生時代における西日本屈指の大集落であることが判明してきているが、16次調査B区は、その中心部分に当たる密集居住域の一角に当たり、数多くの竪穴建物群が出土している。また、これまで知られていなかった古墳時代後期の竪穴建物群や古代の大型建物も発見され、弥生時代～古代の複合遺跡であることが明らかにされている。

引き続き他の分冊を刊行していく計画であるが、発掘調査から記録・遺物類の整理、そして本書の刊行にいたるまでには、多くの方々の協力を得た。それらの方々に深く感謝するとともに、本書および報告資料が多くの人々に活用され、文京遺跡がさらに広く理解され活用されることを祈念する。

2013年8月10日

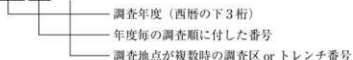
愛媛大学埋蔵文化財調査室

室長 田 崎 博 之

例 言

- 1 本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が1997年度に実施した文京遺跡16次調査B区の報告書である。
- 2 文京遺跡16次調査B区は、愛媛大学工学部校舎新営第Ⅲ期工事に伴うもので、同Ⅰ期工事に伴う12次調査、同Ⅱ期工事に伴う14次調査、そして同Ⅲ期工事に伴う16次調査A区と、隣接した調査で遺跡自体も一連の広がりとなる。そのため、愛媛大学工学部校舎新営工事に伴う調査報告をまとめ、愛媛大学埋蔵文化財調査室がこれまで刊行してきた、8・9・11次調査、10次調査、13次調査(Ⅲ)、20・23次調査(Ⅳ)、18次調査(Ⅴ)、25次調査(Ⅵ)に続けて、12・14・16次調査を7冊目の報告書『文京遺跡Ⅶ』とし、12次調査をⅦ-1分冊、14次調査をⅦ-2分冊、16次調査A区をⅦ-3分冊、16次調査B区をⅦ-4分冊、自然科学的分析の報告と調査の総括をまとめるⅦ-5分冊として報告を行うこととした。本書は、その第4分冊となるため、『文京遺跡Ⅶ-4』となる。また同時に、愛媛大学埋蔵文化財調査報告XXⅥ-4にあたる。
- 3 埋蔵文化財調査室では、事前全面調査・遺跡範囲確認調査については、遺跡毎に調査次数を付しているが、同時にすべての小規模調査も含めて、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下3桁の後に年度ごとの調査順に1からの2桁の通し番号を加えた5桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点(トレンチ)を調査した場合、-の後に地点番号を付して表示している。

例：99602-1



- 4 本書では、遺構番号に冠して、堅穴建物：SC、掘立柱建物：SB、土壌：SK、柱穴・小穴：SP、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。
- 5 本書で表示した座標・標高・方位は、日本測地系(Tokyo Datum)平面直角座標系Ⅳ系にしたがった。
- 6 土層・遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1967)に準拠している。
- 7 本書に使用した遺構図は、吉田広・三吉秀充・宮崎直栄・川口雅之・伊藤亜紀・伊藤健司・小野多恵・坂井清春・坂本豊治・幡上敦一・松村さを里・波邊芳貴・平塚景子・松田ちづる・持田透が作成し、製図を吉田・三吉・宮崎直栄が行った。
- 8 本書に使用した遺物図は、吉田・三吉・宮崎が作成するとともに、観察表作成を行った。遺物図縮尺1/3を基本とし、その2倍大での製図は宮崎が行った。
- 9 本書で使用した発掘調査時の写真は、吉田・三吉が撮影した。
- 10 本書で使用した遺物の写真は、吉田が撮影した。
- 11 本書の執筆は、吉田が行った。
- 12 本書の編集は、田崎博之の指導のもとに、三吉・宮崎・田中いづみの協力を得ながら、吉田が行った。
- 13 本書に報告した調査に関わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

目 次

序 説	1
1 発掘調査の経緯と経過	1
(1) 調査にいたる経緯	1
(2) 発掘調査の経過	1
(3) 整理作業の経過	2
2 整理の方法	3
(1) 調査区の区割	3
(2) 出土情報の登録	3
(3) 隣接調査区との振り分け	4
(4) 遺物の登録	4
(5) 遺物の保管	5
(6) 記録類の保管	5
I 調査の概要	7
1 土層の堆積状況	7
2 遺構と遺物	8
(1) 弥生時代以前の遺構と遺物	8
(2) 弥生時代の遺構と遺物	8
(3) 古墳時代の遺構と遺物	8
(4) 古代前半の遺構	13
(5) 古代後半から中世の遺構と遺物	13
II 調査の記録	14
1 竪穴建物	14
(1) 2号竪穴建物 (SC-2)	14
(2) 72号竪穴建物 (SC-72)	23
(3) 73号竪穴建物 (SC-73)	27
(4) 13号竪穴建物 (SC-13)	27
(5) 30号竪穴建物 (SC-30)	31
(6) 3号竪穴建物 (SC-3)	33
(7) 4号竪穴建物 (SC-4)	38
(8) 14号竪穴建物 (SC-14)	44
(9) 15号竪穴建物 (SC-15)	52
(10) 16号竪穴建物 (SC-16)	59
(11) 10号竪穴建物 (SC-10)	61
(12) 11号竪穴建物 (SC-11)	61
(13) 12号竪穴建物 (SC-12)	63
(14) 19号竪穴建物 (SC-19)	65
(15) 20号竪穴建物 (SC-20)	69
(16) 21号竪穴建物 (SC-21)	70
(17) 42号竪穴建物 (SC-42)	72
(18) 22号竪穴建物 (SC-22)	74
(19) 41号竪穴建物 (SC-41)	76
(20) 23号竪穴建物 (SC-23)	77
(21) 24号竪穴建物 (SC-24)	84
(22) 25号竪穴建物 (SC-25)	86
(23) 26号竪穴建物 (SC-26)	87
(24) 27号竪穴建物 (SC-27)	92
(25) 29号竪穴建物 (SC-29)	93
(26) 28号竪穴建物 (SC-28)	94
(27) 71号竪穴建物 (SC-71)	96
(28) 43号竪穴建物 (SC-43)	96

(29) 44号竪穴建物 (SC-44)	100	(30) 49号竪穴建物 (SC-49)	101
(31) 52号竪穴建物 (SC-52)	101	(32) 54号竪穴建物 (SC-54)	103
(33) 64号竪穴建物 (SC-64)	166		
2 掘立柱建物	106		
(1) 1号掘立柱建物 (SB-1)	106	(2) 63号掘立柱建物 (SB-63)	115
3 土城	115		
(1) 34号土城 (SK-34)	116	(2) 35号土城 (SK-35)	118
(3) 39号土城 (SK-39)	119	(4) 40号土城 (SK-40)	119
(5) 45号土城 (SK-45)	120	(6) 48号土城 (SK-48)	121
(7) 50号土城 (SK-50)	122	(8) 51号土城 (SK-51)	122
(9) 55号土城 (SK-55)	122	(10) 56号土城 (SK-56)	123
(11) 57号土城 (SK-57)	124	(12) 58号土城 (SK-58)	124
(13) 59号土城 (SK-59)	124	(14) 60号土城 (SK-60)	125
(15) 62号土城 (SK-62)	125	(16) 70号土城 (SK-70)	125
(17) 74号土城 (SK-74)	125		
4 その他の遺構	126		
(1) SX-18	126		
5 柱穴・小穴	126		
(1) 弥生時代の柱穴出土遺物	129	(2) 古墳時代の柱穴出土遺物	134
(3) 古代後半・中世の柱穴出土遺物	136		
6 Ⅲ層出土遺物	137		
(1) 縄文土器	137	(2) 弥生土器	137
(4) 土師器	150	(3) 須恵器	147
(7) 鉄滓	151	(5) 土製品	150
(6) 石器	150		
7 古代後半・中世の出土遺物	151		
Ⅲ まとめ－遺構の変遷－	155		
(1) 弥生時代の遺構	155	(2) 古墳時代の遺構	155
(3) 古代前半の遺構	158	(4) 古代後半から中世の遺構	158

巻頭図版目次

巻頭図版1

- 1 完掘全景（北から）
- 2 SB-1（北から）

巻頭図版2

- 1 SC-14カマド土器出土状況（南東から）
- 2 SC-52出土シカ絵画土器

図版目次

図版1

- 1 表土掘削後全景（南東から）
- 2 遺構検出状況全景（南東から）

図版2

- 1 完掘全景（北から）
- 2 完掘全景（西から）

図版3

- 1 完掘全景（北東から）
- 2 古代・中世遺構完掘全景（南から）

図版4

- 1 調査区中央北部完掘状況（北から）
- 2 調査区中央東部完掘状況（西から）

図版5

- 1 SC-2・72・73、SC-3検出状況（南から）
- 2 SC-2・73床面検出状況（南から）
- 3 SC-2・73完掘（南から）
- 4 SC-72中央土壇遺物出土状況（北東から）

図版6

- 1 SC-3遺物出土状況（北東から）
- 2 SC-3完掘（南から）

図版7

- 1 SC-4、SC-14・15、SC-19・20・21・43等完掘状況（北から）
- 2 SC-14・15完掘（西から）

図版8

- 1 SC-14カマド周辺土器出土状況（南東から）
- 2 SC-14カマド土器出土状況（南から）
- 3 SC-14カマド土器出土状況（南西から）
- 4 SC-14カマド土器出土状況（南東から）

図版9

- 1 SC-19・20・21・42完掘（北から）
- 2 SC-22完掘（北から）

図版10

- 1 SB-1、SC-23・24・25・26・27・29完掘（北から）
- 2 SC-52・54完掘（西から）

図版11

- 1 SC-43カマド？遺物出土状況（南から）
- 2 SC-49土壇遺物出土状況（北から）
- 3 SC-49土壇遺物出土状況（北から）
- 4 SC-43・44・49完掘（東から）

図版12

- 1 SB-1完掘（1）（北から）
- 2 SB-1完掘（2）（北から）
- 3 SB-1完掘（3）（北から）

図版13

- 1 SB-1 SP-102検出状況（南から）
- 2 SB-1 SP-102土層（東から）

3 SB-1 SP-103・104検出状況（北から）

4 SB-1 SP103・104土層（北から）

5 SB-1 SP105検出状況（西から）

6 SB-1 SP-106検出状況（西から）

7 SB-1 SP-106土層（北西から）

8 SB-1 SP-108土層（東から）

図版14

1 SB-1 SP-109土層（北東から）

2 SB-1 SP-110土層（西から）

3 SB-1 SP-111検出状況（西から）

4 SB-1 SP-111土層（西から）

5 SB-1 SP-174土層（西から）

6 SB-1 SP-178土層（東から）

7 SB-1 SP-179土層（東から）

8 SB-1 SP-180土層（東から）

図版15

1 SB-63完掘（東から）

2 SP-118土層（南から）

3 SP-420（西から）

4 SC-25 SP-194土層（北から）

5 SC-64 SP-421土層（北から）

6 SP-223・224遺物出土状況（南から）

図版16

1 SC-2出土遺物（1）

2 SC-2出土遺物（2）

3 SC-2出土遺物（3）

4 SC-2出土遺物（4）

5 SC-2出土遺物（5）

6 SC-2出土遺物（6）

7 SC-2出土遺物（7）

8 SC-2出土遺物（8）

図版17

1 SC-72出土遺物（1）

2 SC-72出土遺物（2）

3 SC-72出土遺物（3）

4 SC-72出土遺物（4）

5 SC-72出土遺物（5）

図版18

1 SC-73出土遺物（1）

2 SC-73出土遺物（2）

3 SC-73出土遺物（3）

4 SC-73出土遺物（4）

5 SC-73出土遺物（5）

図版19

1 SC-13出土遺物（1）

2 SC-13出土遺物（2）

3 SC-13出土遺物（3）

4 SC-13出土遺物（4）

5 SC-13出土遺物（5）

6 SC-13出土遺物（6）

7 SC-13出土遺物（7）

8 SC-13出土遺物（8）

図版20

1 SC-30出土遺物（1）

2 SC-30出土遺物（2）

3 SC-30出土遺物（3）

4 SC-30出土遺物（4）

5 SC-30出土遺物（5）

図版21

1 SC-3出土遺物（1）

2 SC-3出土遺物（2）

3 SC-3出土遺物（3）

4 SC-3出土遺物（4）

5 SC-3出土遺物（5）

6 SC-3出土遺物（6）

7 SC-3出土遺物（7）

8 SC-3出土遺物（8）

図版22

1 SC-3出土遺物（9）

2 SC-3出土遺物（10）

3 SC-3出土遺物（11）

4 SC-3出土遺物（12）

5 SC-3出土遺物（13）

6 SC-3出土遺物（14）

7 SC-3 出土遺物 (15)

8 SC-3 出土遺物 (16)

図版23

1 SC-4 出土遺物 (1)

2 SC-4 出土遺物 (2)

3 SC-4 出土遺物 (3)

4 SC-4 出土遺物 (4)

5 SC-4 出土遺物 (5)

6 SC-4 出土遺物 (6)

図版24

1 SC-4 出土遺物 (7)

2 SC-4 出土遺物 (8)

3 SC-4 出土遺物 (9)

4 SC-4 出土遺物 (10)

5 SC-4 出土遺物 (11)

6 SC-4 出土遺物 (12)

7 SC-4 出土遺物 (13)

8 SC-4 出土遺物 (14)

9 SC-4 出土遺物 (15)

図版25

1 SC-4 出土遺物 (16)

2 SC-4 出土遺物 (17)

3 SC-4 出土遺物 (18)

4 SC-4 出土遺物 (19)

5 SC-4 出土遺物 (20)

6 SC-4 出土遺物 (21)

7 SC-4 出土遺物 (22)

8 SC-4 出土遺物 (23)

9 SC-4 出土遺物 (24)

10 SC-4 出土遺物 (25)

図版26

1 SC-14出土遺物 (1)

2 SC-14出土遺物 (2)

3 SC-14出土遺物 (3)

4 SC-14出土遺物 (4)

図版27

1 SC-14出土遺物 (5)

2 SC-14出土遺物 (6)

3 SC-14出土遺物 (7)

4 SC-14出土遺物 (8)

5 SC-14出土遺物 (9)

6 SC-14出土遺物 (10)

7 SC-14出土遺物 (11)

8 SC-14出土遺物 (12)

9 SC-14出土遺物 (13)

図版28

1 SC-15出土遺物 (1)

2 SC-15出土遺物 (2)

3 SC-15出土遺物 (3)

4 SC-15出土遺物 (4)

5 SC-15出土遺物 (5)

図版29

1 SC-14・15出土遺物 (1)

2 SC-14・15出土遺物 (2)

3 SC-14・15出土遺物 (3)

4 SC-14・15出土遺物 (4)

5 SC-14・15出土遺物 (5)

6 SC-14・15出土遺物 (6)

7 SC-14・15出土遺物 (7)

8 SC-14・15出土遺物 (8)

図版30

1 SC-14・15出土遺物 (9)

2 SC-14・15出土遺物 (10)

3 SC-14・15出土遺物 (11)

4 SC-14・15出土遺物 (12)

5 SC-14・15出土遺物 (13)

6 SC-14・15出土遺物 (14)

7 SC-14・15出土遺物 (15)

8 SC-14・15出土遺物 (16)

9 SC-14・15出土遺物 (17)

10 SC-14・15出土遺物 (18)

11 SC-14・15出土遺物 (19)

12 SC-14・15出土遺物 (20)

13 SC-14・15出土遺物 (21)

图版31

- 1 SC-16出土文物
- 2 SC-10·11出土文物 (1)
- 3 SC-10·11出土文物 (2)
- 4 SC-10·11出土文物 (3)
- 5 SC-10·11出土文物 (4)
- 6 SC-10·11出土文物 (5)

图版32

- 1 SC-12出土文物 (1)
- 2 SC-12出土文物 (2)
- 3 SC-12出土文物 (3)
- 4 SC-12出土文物 (4)
- 5 SC-12出土文物 (5)
- 6 SC-12出土文物 (6)

图版33

- 1 SC-19出土文物 (1)
- 2 SC-19出土文物 (2)
- 3 SC-19出土文物 (3)
- 4 SC-19出土文物 (4)
- 5 SC-20出土文物
- 6 SC-21出土文物 (1)
- 7 SC-21出土文物 (2)

图版34

- 1 SC-42出土文物 (1)
- 2 SC-42出土文物 (2)
- 3 SC-42出土文物 (3)
- 4 SC-42出土文物 (4)
- 5 SC-42出土文物 (5)
- 6 SC-42出土文物 (6)

图版35

- 1 SC-22出土文物 (1)
- 2 SC-22出土文物 (2)
- 3 SC-22出土文物 (3)
- 4 SC-22出土文物 (4)
- 5 SC-22出土文物 (5)
- 6 SC-22出土文物 (6)
- 7 SC-22出土文物 (7)

- 8 SC-41出土文物 (1)

- 9 SC-41出土文物 (2)

图版36

- 1 SC-23出土文物 (1)
- 2 SC-23出土文物 (2)
- 3 SC-23出土文物 (3)
- 4 SC-23出土文物 (4)
- 5 SC-23出土文物 (5)
- 6 SC-23出土文物 (6)
- 7 SC-23出土文物 (7)
- 8 SC-23出土文物 (8)

图版37

- 1 SC-24出土文物 (1)
- 2 SC-24出土文物 (2)
- 3 SC-24出土文物 (3)
- 4 SC-25出土文物 (1)
- 5 SC-25出土文物 (2)
- 6 SC-25出土文物 (3)
- 7 SC-25出土文物 (4)
- 8 SC-25出土文物 (5)
- 9 SC-25出土文物 (6)

图版38

- 1 SC-26出土文物 (1)
- 2 SC-26出土文物 (2)
- 3 SC-26出土文物 (3)
- 4 SC-26出土文物 (4)
- 5 SC-27出土文物
- 6 SC-29出土文物 (1)
- 7 SC-29出土文物 (2)

图版39

- 1 SC-28·71出土文物 (1)
- 2 SC-28·71出土文物 (2)
- 3 SC-28·71出土文物 (3)
- 4 SC-28·71出土文物 (4)
- 5 SC-28·71出土文物 (5)
- 6 SC-28·71出土文物 (6)

图版40

- 1 SC-43·44出土遺物 (1)
- 2 SC-43·44出土遺物 (2)
- 3 SC-43·44出土遺物 (3)
- 4 SC-43·44出土遺物 (4)
- 5 SC-43·44出土遺物 (5)
- 6 SC-43·44出土遺物 (6)

図版41

- 1 SC-43·44出土遺物 (7)
- 2 SC-43·44出土遺物 (8)
- 3 SC-43·44出土遺物 (9)
- 4 SC-43·44出土遺物 (10)
- 5 SC-43·44出土遺物 (11)
- 6 SC-49出土遺物

図版42

- 1 SC-52出土遺物 (1)
- 2 SC-52出土遺物 (2)
- 3 SC-52出土遺物 (3)
- 4 SC-54出土遺物 (1)
- 5 SC-54出土遺物 (2)
- 6 SC-54出土遺物 (3)
- 7 SC-54出土遺物 (4)

図版43

- 1 SC-64出土遺物
- 2 SB-1出土遺物 (1)
- 3 SB-1出土遺物 (2)
- 4 SB-1出土遺物 (3)
- 5 SB-1出土遺物 (4)
- 6 SB-1出土遺物 (5)
- 7 SB-63出土遺物 (1)
- 8 SB-63出土遺物 (2)
- 9 SB-63出土遺物 (3)
- 10 SB-63出土遺物 (4)

図版44

- 1 SK-34出土遺物 (1)
- 2 SK-34出土遺物 (2)
- 3 SK-35出土遺物 (1)
- 4 SK-35出土遺物 (2)

- 5 SK-39出土遺物
- 6 SK-45出土遺物 (1)
- 7 SK-45出土遺物 (2)
- 8 SK-45出土遺物 (3)
- 9 SK-48出土遺物

図版45

- 1 SK-55出土遺物
- 2 SK-56出土遺物
- 3 SK-57出土遺物
- 4 SK-70他出土遺物 (1)
- 5 SK-70他出土遺物 (2)
- 6 SK-70他出土遺物 (3)
- 7 SK-70他出土遺物 (4)
- 8 SK-70他出土遺物 (5)
- 9 SK-70他出土遺物 (6)
- 10 SK-74出土遺物
- 11 SX-18出土遺物

図版46

- 1 弥生時代柱穴出土遺物 (1) - SP-118-
- 2 弥生時代柱穴出土遺物 (2) - SP-119-
- 3 弥生時代柱穴出土遺物 (3) - SP-185-
- 4 弥生時代柱穴出土遺物 (4) - SP-193-
- 5 弥生時代柱穴出土遺物 (5) - SP-206・207-
- 6 弥生時代柱穴出土遺物 (6) - SP-240-
- 7 弥生時代柱穴出土遺物 (7) - SP-289-
- 8 弥生時代柱穴出土遺物 (8) - SP-290-
- 9 弥生時代柱穴出土遺物 (9) - SP-314-

図版47

- 1 弥生時代柱穴出土遺物 (10) - SP-418-
- 2 弥生時代柱穴出土遺物 (11) - SP-433-
- 3 弥生時代柱穴出土遺物 (12) - SP-434-
- 4 弥生時代柱穴出土遺物 (13) - SP-441-
- 5 弥生時代柱穴出土遺物 (14) - SP-441-
- 6 弥生時代柱穴出土遺物 (15) - SP-477-
- 7 弥生時代柱穴出土遺物 (16) - SP-508-
- 8 弥生時代柱穴出土遺物 (17) - SP-629-
- 9 弥生時代柱穴出土遺物 (18) - SP-651-

図版48

- 1 古墳時代柱穴出土遺物 (1) - SP.194 -
- 2 古墳時代柱穴出土遺物 (2) - SP.203 -
- 3 古墳時代柱穴出土遺物 (3) - SP.309 -
- 4 古墳時代柱穴出土遺物 (4) - SP.387 -
- 5 古墳時代柱穴出土遺物 (5) - SP.514 -
- 6 古墳時代柱穴出土遺物 (6) - SP.514 -
- 7 古墳時代柱穴出土遺物 (7) - SP.523, 524 -
- 8 古墳時代柱穴出土遺物 (8) - SP.634 -
- 9 古墳時代柱穴出土遺物 (9) - SP.654 -
- 10 古墳時代柱穴出土遺物 (10) - SP.672 -

図版49

- 1 古墳時代柱穴出土遺物 (11) - SP.714, 715 -
- 2 古墳時代柱穴出土遺物 (12) - SP.716 -
- 3 古墳時代柱穴出土遺物 (13) - SP.716 -
- 4 古墳時代柱穴出土遺物 (14) - SP.716 -
- 5 古墳時代柱穴出土遺物 (15) - SP.723 -
- 6 古代中世柱穴出土遺物 (1) - SP.223, 224 -
- 7 古代中世柱穴出土遺物 (2) - SP.356 -
- 8 古代中世柱穴出土遺物 (3) - SP.463 -
- 9 古代中世柱穴出土遺物 (4) - SP.525 -

図版50

- 1 Ⅲ層出土遺物 - 縄文土器 -
- 2 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (1) -
- 3 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (2) -
- 4 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (3) -
- 5 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (4) -
- 6 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (5) -
- 7 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (6) -
- 8 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (7) -
- 9 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (8) -

図版51

- 1 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (9) -
- 2 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (10) -
- 3 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (11) -
- 4 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (12) -
- 5 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (13) -

- 6 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (14) -
- 7 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (15) -
- 8 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (16) -
- 9 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (17) -
- 10 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (18) -
- 11 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (19) -

図版52

- 1 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (20) -
- 2 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (21) -
- 3 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (22) -
- 4 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (23) -
- 5 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (24) -
- 6 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (25) -
- 7 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (26) -
- 8 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (27) -
- 9 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (28) -
- 10 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (29) -
- 11 Ⅲ層出土遺物 - 弥生土器 (30) -

図版53

- 1 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (1) -
- 2 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (2) -
- 3 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (3) -
- 4 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (4) -
- 5 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (5) -
- 6 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (6) -
- 7 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (7) -
- 8 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (8) -
- 9 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (9) -
- 10 Ⅲ層出土遺物 - 須恵器 (10) -

図版54

- 1 Ⅲ層出土遺物 - 土師器 (1) -
- 2 Ⅲ層出土遺物 - 土師器 (2) -
- 3 Ⅲ層出土遺物 - 土師器 (3) -
- 4 Ⅲ層出土遺物 - 土師器 (4) -
- 5 Ⅲ層出土遺物 - 土師器 (5) -
- 6 Ⅲ層出土遺物 - 土師器 (6) -
- 7 Ⅲ層出土遺物 - 土師器 (7) -

- 8 Ⅲ層出土遺物～土師器 (8) -
- 9 Ⅲ層出土遺物～土製品 (1) -
- 10 Ⅲ層出土遺物～土製品 (2) -
- 11 Ⅲ層出土遺物～土製品 (3) -

図版 55

- 1 Ⅲ層出土遺物～石器 (1) -
- 2 Ⅲ層出土遺物～石器 (2) -
- 3 Ⅲ層出土遺物～石器 (3) -
- 4 Ⅲ層出土遺物～石器 (4) -
- 5 Ⅲ層出土遺物～石器 (5) -
- 6 Ⅲ層出土遺物～石器 (6) -
- 7 Ⅲ層出土遺物～石器 (7) -
- 8 Ⅲ層出土遺物～石器 (8) -

図版 56

- 1 Ⅲ層出土遺物～石器 (9) -
- 2 Ⅲ層出土遺物～石器 (10) -
- 3 Ⅲ層出土遺物～石器 (11) -
- 4 Ⅲ層出土遺物～石器 (12) -
- 5 Ⅲ層出土遺物～石器 (13) -
- 6 Ⅲ層出土遺物～石器 (14) -

図版 57

- 1 Ⅲ層出土遺物～石器 (15) -
- 2 Ⅲ層出土遺物～石器 (16) -
- 3 Ⅲ層出土遺物～石器 (17) -
- 4 Ⅲ層出土遺物～石器 (18) -
- 5 Ⅲ層出土遺物～石器 (19) -
- 6 Ⅲ層出土遺物～石器 (20) -
- 7 Ⅲ層出土遺物～鉄滓 (1) -
- 8 Ⅲ層出土遺物～鉄滓 (2) -

図版 58

- 1 古代中世の遺物 (1)
- 2 古代中世の遺物 (2)
- 3 古代中世の遺物 (3)
- 4 古代中世の遺物 (4)
- 5 古代中世の遺物 (5)
- 6 古代中世の遺物 (6)
- 7 古代中世の遺物 (7)
- 8 古代中世の遺物 (8)

挿 図 目 次

図1	14次調査と16次調査B区の振り分け	1			
図2	調査作業風景(1)	2			
図3	調査作業風景(2)	2			
図4	文京遺跡16次調査B区調査地点位置図 (縮尺1/3,500)	6			
図5	文京遺跡16次調査B区全体図 (縮尺1/100)	9・10			
図6	文京遺跡16次調査B区主要遺構時期別全体図 (縮尺1/100)	11・12			
図7	文京遺跡16次調査B区主要遺構全体図 (縮尺1/100)	15・16			
図8	SC-2・72・73遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)	17			
図9	SC-2遺構実測図(縮尺1/50)	18			
図10	SC-2出土遺物(1)(縮尺1/3)	19			
図11	SC-2出土遺物(2)(縮尺1/3)	20			
図12	SC-2出土遺物(3) (縮尺1/3, 1/2, 2/3, 1/1)	21			
図13	SC-72遺構実測図(縮尺1/50)	22			
図14	SC-72出土遺物(1)(縮尺1/3)	23			
図15	SC-72出土遺物(2)(縮尺1/3)	24			
図16	SC-73遺構実測図(縮尺1/50)	25			
図17	SC-73出土遺物(1)(縮尺1/3)	26			
図18	SC-73出土遺物(2)(縮尺1/2, 2/3)	27			
図19	SC-13遺構実測図(縮尺1/50)	28			
図20	SC-13出土遺物(縮尺1/3, 2/3)	29			
図21	SC-30遺構実測図(縮尺1/50)	30			
図22	SC-30出土遺物(1)(縮尺1/3)	31			
図23	SC-30出土遺物(2)(縮尺1/3)	32			
図24	SC-3遺構実測図(縮尺1/50)	34			
図25	SC-3出土遺物(1)(縮尺1/3)	35			
図26	SC-3出土遺物(2)(縮尺1/3)	36			
図27	SC-3出土遺物(3)(縮尺1/3, 2/3)	37			
図28	SC-4遺構実測図(縮尺1/50)	39・40			
図29	SC-4カマド遺構実測図(縮尺1/25)	41			
図30	SC-4出土遺物(1)(縮尺1/3)	41			
図31	SC-4出土遺物(2)(縮尺1/3)	42			
図32	SC-4出土遺物(3)(縮尺1/3)	43			
図33	SC-4出土遺物(4)(縮尺1/3, 1/2)	44			
図34	SC-4出土遺物(5) (縮尺1/3, 1/2, 2/3)	45			
図35	SC-4出土遺物(6)(縮尺1/2)	44			
図36	SC-14・15・16遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)	47・48			
図37	SC-14・15遺構実測図(縮尺1/50)	49・50			
図38	SC-14カマド周辺遺構実測図 (縮尺1/25)	51			
図39	SC-14出土遺物(1)(縮尺1/3)	52			
図40	SC-14出土遺物(2)(縮尺1/3)	53			
図41	SC-14出土遺物(3) (縮尺1/3, 1/2, 2/3)	54			
図42	SC-15出土遺物(縮尺1/3)	55			
図43	SC-14・15出土遺物(1)(縮尺1/3)	56			
図44	SC-14・15出土遺物(2)(縮尺1/3)	57			
図45	SC-14・15出土遺物(3) (縮尺1/3, 1/2)	58			
図46	SC-16遺構実測図(縮尺1/50)	60			
図47	SC-16出土遺物(縮尺1/3)	61			
図48	SC-10・11遺構実測図(縮尺1/50)	62			
図49	SC-10・11出土遺物(縮尺1/3)	63			
図50	SC-12遺構実測図(縮尺1/50)	64			
図51	SC-12出土遺物(1)(縮尺1/3)	65			
図52	SC-12出土遺物(2)(縮尺1/4, 1/2)	66			
図53	SC-19・20・21・42・SX-18遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)	67			
図54	SC-19遺構実測図(縮尺1/50)	68			
図55	SC-19出土遺物(縮尺1/3, 1/2)	69			
図56	SC-20遺構実測図(縮尺1/50)	70			
図57	SC-20出土遺物(縮尺1/3)	70			
図58	SC-21遺構実測図(縮尺1/50)	71			
図59	SC-21出土遺物(1)(縮尺1/3)	71			
図60	SC-21出土遺物(2)(縮尺1/4)	71			
図61	SC-42遺構実測図(縮尺1/50)	72			
図62	SC-42出土遺物(縮尺1/3, 1/2)	73			
図63	SC-22・41重複関係実測図(縮尺1/50)	74			
図64	SC-22遺構実測図(縮尺1/50)	75			
図65	SC-22出土遺物(1)(縮尺1/3)	76			
図66	SC-22出土遺物(2)(縮尺1/3, 1/2)	77			
図67	SC-41遺構実測図(縮尺1/50)	78			
図68	SC-41出土遺物(縮尺1/3)	78			

図69	SC-23・24・25・26・27・29遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)	79・80	図107	SK-35遺構実測図 (縮尺1/50)	116
図70	SC-23遺構実測図 (縮尺1/50)	81	図108	SK-35出土遺物 (縮尺1/3)	117
図71	SC-23出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	82	図109	SK-39・40遺構実測図 (縮尺1/50)	117
図72	SC-24遺構実測図 (縮尺1/50)	83	図110	SK-39出土遺物 (縮尺1/3)	117
図73	SC-24出土遺物 (縮尺1/3)	84	図111	SK-45遺構実測図 (縮尺1/50)	118
図74	SC-25遺構実測図 (縮尺1/50)	85	図112	SK-45出土遺物 (縮尺1/3)	119
図75	SC-25出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	86	図113	SK-48遺構実測図 (縮尺1/50)	119
図76	SC-26遺構実測図 (縮尺1/50)	87	図114	SK-48出土遺物 (縮尺1/3)	119
図77	SC-26出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	88	図115	SK-50遺構実測図 (縮尺1/50)	120
図78	SC-27遺構実測図 (縮尺1/50)	88	図116	SK-51遺構実測図 (縮尺1/50)	120
図79	SC-27出土遺物 (縮尺1/3)	89	図117	SK-55遺構実測図 (縮尺1/50)	120
図80	SC-29遺構実測図 (縮尺1/50)	89	図118	SK-55出土遺物 (縮尺1/3)	120
図81	SC-29出土遺物 (縮尺1/3)	90	図119	SK-56遺構実測図 (縮尺1/50)	121
図82	SC-28・71遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)	90	図120	SK-56出土遺物 (縮尺1/3)	121
図83	SC-28遺構実測図 (縮尺1/50)	91	図121	SK-57遺構実測図 (縮尺1/50)	121
図84	SC-28・71出土遺物実測図 (縮尺1/3)	92	図122	SK-57出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	121
図85	SC-71遺構実測図 (縮尺1/50)	93	図123	SK-58・59遺構実測図 (縮尺1/50)	122
図86	SC-43・44・49・SD-47遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)	94	図124	SK-60遺構実測図 (縮尺1/50)	123
図87	SC-43遺構実測図 (縮尺1/50)	95	図125	SK-62遺構実測図 (縮尺1/50)	123
図88	SC-43・44出土遺物 (1) (縮尺1/3)	97	図126	SK-70・SP-337・338遺構実測図 (縮尺1/50)	123
図89	SC-43・44出土遺物 (2) (縮尺1/3, 1/2)	98	図127	SK-70・SP-337・338出土遺物 (縮尺1/3)	124
図90	SC-44遺構実測図 (縮尺1/50)	99	図128	SK-74遺構実測図 (縮尺1/50)	125
図91	SC-49遺構実測図 (縮尺1/50)	100	図129	SK-74出土遺物 (縮尺1/3)	125
図92	SC-49出土遺物 (縮尺1/3)	100	図130	SX-18出土遺物 (縮尺1/3)	126
図93	SC-52・54遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)	101	図131	出土柱穴配置図 (縮尺1/100)	127・128
図94	SC-52遺構実測図 (縮尺1/50)	102	図132	SP-118・SP-420遺構実測図 (縮尺1/50)	129
図95	SC-52出土遺物 (縮尺1/2, 1/3)	103	図133	弥生時代柱穴出土遺物 (1) (縮尺1/3, 1/2)	130
図96	SC-54遺構実測図 (縮尺1/50)	104	図134	弥生時代柱穴出土遺物 (2) (縮尺1/3, 1/2)	131
図97	SC-54出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	104	図135	弥生時代柱穴出土遺物 (3) (縮尺1/3)	132
図98	SC-64遺構実測図 (縮尺1/50)	105	図136	古墳時代柱穴出土遺物 (1) (縮尺1/3, 1/2)	133
図99	SC-64出土遺物 (縮尺1/3)	105	図137	古墳時代柱穴出土遺物 (2) (縮尺1/3)	134
図100	SB-1遺構実測図 (縮尺1/50)	107・108	図138	古墳時代柱穴出土遺物 (3) (縮尺1/4)	135
図101	SB-1各柱穴土層図 (縮尺1/50)	109・110	図139	SP-223・224遺構実測図 (縮尺1/50)	135
図102	SB-1出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	112	図140	古代後半・中世の柱穴出土遺物	
図103	SB-63遺構実測図 (縮尺1/50)	113			
図104	SB-63出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	114			
図105	SK-34遺構実測図 (縮尺1/50)	116			
図106	SK-34出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)	116			

(縮尺1/3)	136	図152	Ⅲ層出土遺物 (12) (縮尺1/2)	148	
図141	Ⅲ層出土遺物 (1) (縮尺1/3)	137	図153	Ⅲ層出土遺物 (13) (縮尺1/2, 2/3)	149
図142	Ⅲ層出土遺物 (2) (縮尺1/3)	138	図154	Ⅲ層出土遺物 (14) (縮尺1/3)	150
図143	Ⅲ層出土遺物 (3) (縮尺1/3)	139	図155	Ⅲ層出土遺物 (15) (縮尺1/2)	151
図144	Ⅲ層出土遺物 (4) (縮尺1/3)	140	図156	古代後半・中世の遺物出土位置図 (縮尺1/100)	153・154
図145	Ⅲ層出土遺物 (5) (縮尺1/3)	141	図157	古代後半・中世の出土遺物 (縮尺1/3)	152
図146	Ⅲ層出土遺物 (6) (縮尺1/3)	142	図158	文京遺跡16次調査B区遺構変遷図 (1) (縮尺1/250)	156
図147	Ⅲ層出土遺物 (7) (縮尺1/3)	143	図159	文京遺跡16次調査B区遺構変遷図 (2) (縮尺1/250)	157
図148	Ⅲ層出土遺物 (8) (縮尺1/3)	144			
図149	Ⅲ層出土遺物 (9) (縮尺1/3)	145			
図150	Ⅲ層出土遺物 (10) (縮尺1/3)	146			
図151	Ⅲ層出土遺物 (11) (縮尺1/3)	147			

挿表目次

表1	文京遺跡16次調査B区出土遺構 時代別一覧	13	表3	文京遺跡16次調査B区出土遺物観察表	170~188
表2	文京遺跡16次調査B区出土 遺構一覧 ...	159~169			

序 説

1 発掘調査の経緯と経過

(1) 調査にいたる経緯

工学部校舎新営工事に対し、1994年度にⅠ期工事に伴う文京遺跡12次調査を実施し、1996年度にⅡ期工事とⅢ期工事の一部、1997年度にⅢ期工事の残り範囲の発掘調査を順次実施する計画で、平成7年7月5日付愛大工発第367号で、工学部長より埋蔵文化財室長に、埋蔵文化財発掘調査の依頼がなされた。

ところが、地域共同研究センター新営工事計画が途中立ち上がり、平成7年7月10日には調査依頼が埋蔵文化財調査室にもたらされた。先のⅠ期工事に伴う文京遺跡12次調査で予想以上の遺構密度に伴い調査期間を延長しており、Ⅱ期工事も同様の遺跡内容が予想され、さらに新たな調査が加わることとなり、埋蔵文化財調査室の調査体制を見直す必要が生じた。施設部との調整、そして埋蔵文化財調査委員会での協議を経て、まずは地域共同研究センター新営工事に伴う調査を優先し、現有スタッフにおいて文京遺跡13次調査として実施し、工学部新営Ⅱ期工事他に伴う調査に対しては、スタッフを増員して対応することとし、スタッフ採用の手続きを進めるとともに、発掘調査計画などの諸準備を行っていった。

そして、1996年4月1日付けで、吉田広（法文学部講師）と三吉秀充（法文学部助手）が埋蔵文化財調査室調査員として着任し、5月20日より工学部校舎新営

Ⅱ期工事およびⅢ期工事の一部範囲について、文京遺跡14次調査（1976m）として着手した。

万端の準備を整えて調査に臨んだものの、文京遺跡14次調査では、表土掘削と遺構検出を終えた段階で、予想していた以上の遺構密集度となることが明らかとなり、東側から順次遺構内の調査に進むに及んで、当初計画の1996年度末までに全域の調査を完了することが難しい状況がみえてきた。これを承けて、1996年秋以降、埋蔵文化財調査室と施設部において協議を重ね、作業員動員計画や土曜日作業の一部実施などの諸調整を行い、1996年度中に工学部校舎新営Ⅱ期工事範囲の調査は確実に完了することとし、新営Ⅲ期工事範囲については、1997年度に調査を持ち越すこととした（図1）。結果、当初Ⅱ期工事およびⅢ期工事の一部を対象として開始した文京遺跡14次調査は、1976mからⅡ期工事分のみの1349mとなり、残る627mを工学部校舎新営Ⅲ期工事に伴う発掘調査、文京遺跡16次調査に位置づけることとなった。当初計画からⅢ期工事に伴って実施するとしていた範囲をA区、14次調査範囲として着手して持ち越した範囲をB区とした。なお、16次調査B区発掘調査に対する依頼自体も、平成9年1月11日付愛大企発第502号で改めて埋蔵文化財調査室長宛に提出し直された。

(2) 発掘調査の経過

14次調査は1996年度年度末の3月31日まで実施して完了することができ（図1）、引き渡した工事範囲の環境整備等の作業期間を開けて、4月9日より16次調査B区の調査を再開した。また、16次調査A区の調査も4月28日から表土掘削を開始した。

14次調査として実施していた16次調査B区は、既に表土掘削及びⅢ層の手作業により掘り下げを経て遺構検出、さらには一部遺構の調査に及んでいた。したがって、16次調査B区としての調査は遺構内の発掘調査・精査にはは限られ、4月開始以降順調に作業を進め（図2）、7月には高所作業車を用意して遺構掘削全景写真を撮影した（図3）。そして、7月29日には現地で



図1 14次調査と16次調査B区の掘り分け
(歩み板の左側が16次調査B区)

の調査をすべて終了し、現地での調査を終えた。調査範囲は、16次調査A区の調査進行を待って成果を同時に確認および写真記録するとともに、現地説明会を広範囲で行うことを意図し、一旦ブルーシートで養生保護した。

現地説明会は16次調査A・B区一体で11月8日（土）に開催し、学内外から100名を超える参加があった。また、埋蔵文化財発見届もA・B区一体として、A区調査を終えた後、12月25日付で、出土遺物数コンテナ350箱として提出した。

なお、発掘調査作業にあたっては、以下の当時愛媛大学法文学部学生が、調査補助員として参加した。

伊藤重紀・伊藤健司（現南島市教育委員会）・小野多恵（現福山市教育委員会）・川口雅之（現鹿児島県教育委員会）・坂井清春（現唐津市教育委員会）・坂本豊治（現出雲市教育委員会）・村上敬一（現鬼北町教育委員会）・松村さを里（現愛媛県埋蔵文化財センター）・渡邊芳貴（現西条市教育委員会）・平塚景子・松田ちづる・持田透（現イビソク）

（3）整理作業の経過

調査終了後も1997年度は、吉田・三吉とも小規模調査や榊味遺跡4次調査が続き、整理作業を進めたのは1998年度からであった。1998年度には、出土遺物の洗浄・注記作業を、1999年度には出土遺物の分類・復元作業と水洗土壌からの微細遺物の選別作業を終えたが、本格調査だけでも、文京遺跡18次調査（1998年12月～1999年8月）、榊味遺跡5次調査（1999年3月～7月）、文京遺跡20次調査（2000年2月～6月）が続き、調査員の吉田・三吉が整理作業に専従する時間は限られていた。辛うじて、合間を縫って断続的に調査図面の整理作業を行うことで、遺構図面関係の基礎的整理作業は、1999年度中にはほぼ終えることができた。

一方、なお本格調査が継続する中で、調査成果の公開発信について協議を重ねる中で、年度ごとの調査概要報告として「埋蔵文化財調査室年報」の刊行が2000年度から定期化するとともに、正式報告書刊行計画も整備された。ただし、遺構重複が激しく遺物量も多い、文京遺跡12次調査・14次調査・16次調査については後発とすることされ、文京遺跡16次調査B区も、2002年3月発行の『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1997・1998年度－』において概要が報告されたまま、



図2 調査作業風景（1）



図3 調査作業風景（2）

報告書作成に向けた作業は停止して、出土遺物も収蔵庫に収められた状態となった。替わって、この間に整理報告を進めた成果が以下の通りである。

『榊味遺跡Ⅳ－榊味遺跡4次調査・榊味遺跡5次調査・桑原西稲葉遺跡3～5次調査－』（2003年）

『文京遺跡Ⅲ－文京遺跡13次調査報告－』（2004年）

『文京遺跡Ⅳ－文京遺跡20次調査・文京遺跡23次調査－』（2005年）

『文京遺跡Ⅴ－文京遺跡18次調査報告－』（2007年）

『文京遺跡Ⅵ－文京遺跡25次調査－』（2009年）

改めて、文京遺跡16次調査報告書刊行に向けて動き始めたのは、2010年度後半からである。保存整備対象範囲（グリーンゾーン）の駐車場利用に伴うアスファルト舗装整備に端を発した、文京遺跡の保存整備・活用のあり方を巡っての議論提起を受けてのことである。この中で、遺跡保存整備の問題とともに、保存整備すべき遺跡の重要性を明示するために不可欠の、発掘調査報告書未刊行が問題視されたからに他ならない。とりわけ、文京遺跡12次調査・14次調査・16次調査の報告書がいずれも未刊行である事実は、保存整備対象範囲（グリーンゾーン）に隣接し、これ自体の設

定根拠でありながら、遺跡内容の詳細・重要性を広く周知する上でも不適切な状況であると判断された。

このような考え方に基づき、遺跡主要部分を構成する文京遺跡12次調査・14次調査・16次調査について、調査報告書の刊行による調査成果の公開を図り、遺跡自体の評価をより適切なものとするべく、報告書刊行計画の改訂が図られた。結果、文京遺跡12次調査・14次調査・16次調査の整理作業を優先して集中的に実施し、2011年度から順次報告書を刊行していくこととなった。

12次調査・14次調査に先行して16次調査のA・B区から始めることとし、16次調査B区は、2011年度に報告書掲載に向けた遺構図のデジタル化を実施するとともに、出土遺物実測を進め、2011年度中には報告書執筆と編集作業を終え、2012年度早々に発行する計画であった。しかし、遺構図のデジタル化作業および遺物

実測を担う補佐員が、発掘調査補助業務にあたらざるを得ないとともに、調査員自体もミュージアム業務に当たる時間が少なくなく、当初計画より大幅に報告書作成作業は遅れることとなった。遺構図デジタル化作業と遺物実測を終えたのが2012年末前後で、その後遺物トレース作業、出土遺物写真撮影作業、そして報告書執筆編集作業を要して、2013年7月に体裁を整えた報告書データをすべて入稿することができた。

以上のような経過において、整理作業は吉田・三吉の指示により、洗浄・注記・接合・復元等の作業を、施設部技能補佐員の井手野文江・生鷹千代・門田都・林まゆみ・村上洋子・丸岡美智子・山口千鶴が行ってきた。出土遺物の実測は吉田・三吉・宮崎があたり、製図を宮崎が行った。なおそのほか、整理に際して、橋本麻紀・鈴木優子・田中いづみの協力を得た。

2 整理の方法

16次調査B区は調査番号として99702にあたるが、本格調査として次数を付し、略号としてBNK-16Bを冠している。

(1) 調査区の区割

愛媛大学構内の大半に及ぶ文京遺跡の調査にあたっては、埋蔵文化財調査室設置以後、位置関係を日本測地系(Tokyo Datum)平面直角座標系第IV系に従って測量・記録し、独自の区割を設定してきた。そのため、2002年4月に世界測地系に移行した現在もなお、日本測地系に基づく区割を踏襲している。

文京遺跡16次調査B区実施時までは、上記座標系に基づき、調査毎に対象範囲内のみ適用する5m四方を基本区画とする区割を仮設してきたが、14次調査・16次調査においては、先行した隣接12次調査区南東角部を起点とした区画名をそのまま拡張適用していた。しかし、16次調査以後も文京遺跡全域で大小調査の頻出が予測されたため、大学城北構内全域をカバーする区割を、1998年に改めて設定した。

道後一万交差点付近の、日本測地系(Tokyo Datum)平面直角座標系第IV系の、(X=93900, Y=66800)を基点として、東から西へ向かって5mおき

に、AA・AB・AC・……・AY・AZ・BA・BB・……・EN・EO・EP、南から北へ向かって5mおきに、1・2・3・4・5・6・……・115・116・117・118・119・120とし、両者を組み合わせた5m方眼の調査区画によるものである。さらに必要に応じて、この区画内を1m方眼に分け、南東隅から西に1～5、そして北側列を6～10と、北西隅に到る25区画に細分する。したがって、この1m方眼を示す場合は、「DC27-14」のように呼称することとなる。

文京遺跡16次調査B区は、旧区割においては、Y=67285以西の、N～S区の10～15区にあっていたが、城北構内全域に及ぶ新区割では、DT～DY区の26～31区に振り替えることとなった。そして、調査時に付与した旧区割名は、1998年度の整理段階で、ラベル・台帳とも書き換えを行った。

城北団地内には、これらの区割および測量の基準として、以下の3級基準点を設置・利用している。

No.1 : X = 94189.370, Y = -67208.921, H = 28.274

No.2 : X = 94178.099, Y = -67052.098, H = 29.342

No.3 : X = 93971.166, Y = -67057.373, H = 29.209

No.5 : X = 93976.415, Y = -67214.492, H = 28.740

(2) 出土情報の登録

出土情報には出土平面位置と層位がある。最も詳細な出土情報を伴うのは、出土原位置を1/20で実測記録した遺物であり、これは出土単位毎にRを冠した遺物番号を与え、出土位置と遺物番号を登録している。

しかし、多くの遺物は一定範囲の出土位置と層位関係、さらには出土日時で区別できる単位での遺物取り上げであり、袋等の単位での出土情報の一括登録となる。出土情報のうち平面位置は、文京遺跡全体の区割りに基づく場合と遺構単位の場合があるが、基本的に前者は、遺構検出以前のⅢ層等の城北団地基本層序に基づく取り上げに対して採用している。

一方、遺構として認識した単位には、個別に遺構番号を付すが、堅穴建物・掘立柱建物・土塼・溝・柱穴や小穴・その他の遺構の種類毎に、それぞれSC・SD・SK・SP・SXの略号を、遺構番号の頭に冠して呼称している。さらに、遺構内出土遺物の取り上げは、土層観察用坪による区画での平面細分を行っていることが多い。例えば、土層観察用坪で4分割された堅穴建物など、基本的に北ないしカマドのある方向を上、右上区画を1区として時計回りに4区に区画している。また遺構内の分層については、埋土・焼土炭層・床面・造成土等と、土層の性格を考慮して細分呼称を与えている。そして、遺構内の床(底)面で認識出土した柱穴・小穴や土塼、溝については、SC番号の後に、PあるいはK、Dの略号を挟んで、遺構内で重複のないよう番号を与え、SC25P3(このような場合、遺構略号と番号の間の・は省略している。また、挿入表中でも省略している場合がある。以下同。)等の遺構番号の表記・登録を行っている。

なお、調査の記録においても改めて述べるが、堅穴建物等が複雑に重複する中で、上層遺構床面から掘り込まれた柱穴等の埋土と上層遺構床造成土、さらには下層遺構埋土の区別を十分果たせなかったことから、堅穴建物の床面認識を的確に行い得なかったところが多く、調査段階では床面を掘り抜いてしまった平面実測図となってしまっていることが少なくない。したがって、整理時に焼土・炭層の広がり等の関係から床面との層位関係を確定できるものについては個別に言及している。他は、床面以上の埋土と床面、造成土について、区別し切れていない場合もある。

(3) 隣接調査区との振り分け

隣接連続する14次調査および16次調査A区との振り分けについて、触れておかなければならない。

前者は、当初は14次調査と一括して開始した後、基本的に遺構検出以後の当該範囲のみ16次調査B区としたため、基準杭設置以前のⅠ・Ⅱ層(攪乱層)出土遺物は、すべて14次調査出土遺物とした。Ⅲ層出土遺物は、多くが1m方眼での出土調査区を記録しており、調査後に16次調査B区に相当する範囲を、14次調査分から移管した。遺構については、DT26~28区・DU26区の攪乱溝南東側を除く、Y=467285ライン以西を16次調査B区とした。

ただし、当然遺構がこの範囲で泣き別れになった箇所も多くある。調査段階ではそれぞれの調査次における別遺構として対応したが、以下の報告においては、いずれかの調査において遺構の全容をまとめて報告することとしている。

まず、一部14次調査範囲に入りながら主体が16次調査B区に入るため、本書16次調査B区調査報告において報告する遺構は以下の通り。

16次調査B区 SC-4→14次調査 SC-927

16次調査B区 SC-14・15→14次調査 SC-926

逆に16次調査B区に一部入りながら、主体が14次調査範囲のため、14次調査報告において報告する遺構は以下の通り。

16次調査B区 SC-6→14次調査 SC-947

16次調査B区 SC-7→14次調査 SC-951

16次調査B区 SC-8→14次調査 SC-950

16次調査B区 SC-9→14次調査 SC-167

16次調査B区 SC-46→14次調査 SC-948

16次調査B区 SC-31→14次調査 SC-955

16次調査B区 SC-32→14次調査 SC-141

16次調査B区 SD-33→14次調査 SD-953

同様に、16次調査A区との振り分けにおいて、主体がB区のため、16次調査A区分を一括報告するのは、以下の遺構。

16次調査B区 SK-52→16次調査A区 SK571

逆に、16次調査A区において一括報告するB区調査遺構は以下である。

16次調査B区 SC-53→16次調査A区 SC-78

16次調査B区 SD-47→16次調査A区 SD-520

(4) 遺物の登録

出土遺物については、調査時に出土の原位置を記録したもののについては、1からのR番号を取上遺物番号として与えた。調査段階では、欠番を挟みつつ、184にまで及ぶ。さらに、調査終了後に番号重複等を調整し新たに付与したもの、14次調査において取り上げていたが16次調査B区として報告するにあたり番号を付与し直したものが、201から310に及ぶ。

この他の出土原位置を記録していない遺物は、土層と調査区割単位あるいは遺構と埋土別の単位、すなわち袋単位の取り上げである。この取り上げ単位である袋に対して、整理時に4桁のRを冠した番号を登録し、接合他の検討を行った。当初14次調査として開始したため、1層・Ⅱ層・掘乱層についてはすべて14次調査出土遺物として扱うため、16次調査B区において、これらの土層出土遺物の登録はない。R2001～2535が遺物包含層とした城北団地基本層Ⅱ層で取り上げた遺物、R3001～4003が遺構名を冠して取り上げた遺構出土遺物である。

さらに、報告書に記載すべき記録可能な個体を選別する時点で、1個体(実測図単位)に対して改めて5桁のRを冠した番号(実測遺物番号)を与えた。R2000番台に対応するⅢ層出土遺物がR20001～20214、R3000番台に対応する遺構出土遺物のうち弥生・古墳時代に関するものがR30001～30665とした。なお、遺構出土遺物でも、明らかに古代・中世に降る遺構の出土遺物については、別途R11001～11008とした。さらに、遺構に伴わない、あるいは取り上げ時に古墳時代以前の遺構内に一括してしまった、古代・中世以降の遺物について、R12001～12023としている。なお、これら5桁の実測遺物番号を付したもののでも、本書に掲載していないものも存在する。

(5) 遺物の保管

出土したすべての遺物については、文京遺跡16次調査B区を表すBNK-16Bと、出土層位あるいは遺構、取上遺物番号(Rを冠した4桁までの番号)を注記して、遺物台帳に記録し、遺構等の単位毎に、コンテナに収納している。その中から、実測図を掲載して報告すべき遺物を抽出し、先に述べたような5桁の実測遺物番号を、別色で追加注記している。本報告の挿図番

号と遺物本体の対応は、この実測遺物番号に拠る。これらの遺物は1分の1の実測図を作成し、必要に応じて写真記録をとっている。また、報告書掲載遺物は、本報告挿図単位でコンテナに収納し、コンテナに番号を付して、遺物台帳に記録している。コンテナ数は94箱に達する。

(6) 記録類の保管

発掘調査時の記録類には、遺構・土層の実測図・観察所見と写真がある。

遺構・土層の実測図・観察所見は、発掘調査時に作成された遺構および土層の実測図(基本的に20分の1縮尺)と、それに伴う土質・色調の記述類で、厚紙方眼紙あるいはセクションマイラーに記録している。これらの実測図には、99702-001～108までの通し番号を付した。さらに、整理段階で複雑な遺構切り合い関係を整理して遺構単位に作成したトレース原図についても、99702-110～166の番号を付して、遺構図台帳に登録して整理・保管している。

調査の際には、35mmモノクロ・カラスライド、6×7モノクロ・カラスライドによる写真記録をとっている。こうした写真類については、同一構図ごとに検索用のカードを作成し、写真登録番号を付して、台帳に記録し、99702-01～69に及ぶ。また各フィルムについてもそれぞれ番号を与え、35mmモノクロはフィルム番号(1桁)にカット番号2桁で登録し、1-01～6-36に及ぶ。35mmカラスライドにはカット毎に通しの3桁とし、001～245になる。6×7モノクロ・カラスライドもカット毎に通しの3桁として、前者は001～207、後者は001～222である。

整理段階で新たに作成したものに、遺物実測図・遺物写真がある。遺物実測図については、出土遺構あるいは層位単位で実測遺物番号の順に3桁の通し番号を与え、001～172に及んだ。また、報告書掲載用の遺物撮影写真は、デジタルカメラに拠っており、そのままファイルを調査室パソコン内に保存し、台帳を同時に作成している。カット数は682カットに及んだ。

以上の方法で記録類と遺物を整理・保管しているが、本書に掲載した遺物については、本文中の遺物観察表に実測遺物番号の項を設けて表記し、報告書から遺物の検索ができるようにしている。

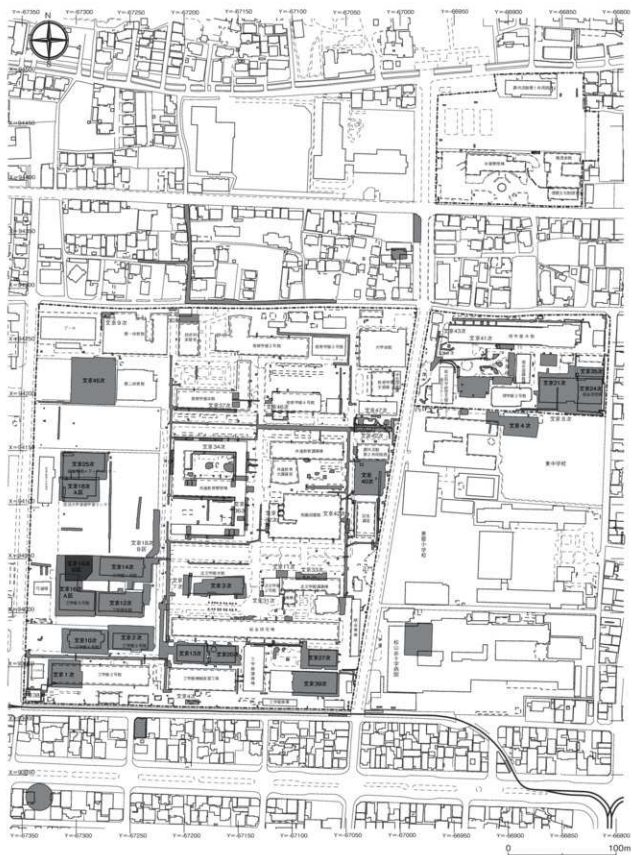


图4 文景道路16次调查B区调查地点位置图 (缩尺1/3,500)

I 調査の概要

調査地点 松山市文京町3番 愛媛大学城北団地
工学部校舎新営Ⅲ期工事予定地(図4)
調査略号 BNK-16B
調査番号 99702
調査面積 627㎡

調査期間 1997年4月9日～7月29日
調査種別 全面調査
整理期間 1998～1999年度・2010～2013年度
調査担当 吉田広・三吉秀光
依頼文書 愛大企発第502号(平成9年1月11日付)

1 土層の堆積状況

16次調査B区(図5)は旧グラウンドに位置し、現表土面は標高27.90m前後とほぼ水平を保っていた。表土層(城北団地基本層序Ⅰ層)は、現地表の造成土の下に、旧グラウンドの真砂土層、排水用砕石層、そしてグラウンド造成土があり、水平堆積は30～50cmである。部分的に、さらに表土層による攪乱が及んでいるのが、主として旧練兵場時代の構造物であり、その最たるものが演習用壘壕であった。溝状の攪乱で、深さは表土から1mを超えるものもある。直線のもの、曲線をなすもの、それらが重複して、とりわけ調査区南西部では、遺構残存範囲が鳥状を呈するほどである。これらの中で、14次調査区との境界を一部なすL字状の直線的な溝と、DU30・31区のSC-22・41部を北東端として、調査区南西角に緩やかな波状を描いて伸びる溝は、南東向きの障地を構築した壘壕と見られる。

表土層の下は、城北団地基本層序Ⅱ層としている、城北団地造成前の耕作土層である。層厚は30cm前後。灰色系の土色を示し、古代・中世から近世・近代の時間幅がある。古代・中世に遡るⅡ層は、18次調査区や25次調査区など、低地部の流路埋没後に形成されていたが、微高地上にあたる16次調査B区では認められず、近世から近代の耕作土層に限られている。

以上の城北団地基本層序Ⅰ層とⅡ層を重機掘削し、壘壕など深くに及ぶ攪乱を除くと、遺物包含層である城北団地基本層序Ⅲ層の、暗褐色から黒色の砂質土が広がる。検出高は27.30m前後で、調査区北壁での東西差はほとんどなく、わずかに西へ低くなるのみである。層厚も、わずかに低位の西側に厚くなるものの、およそ30cm前後と差異は小さい。南北方向の検出高も大きく変わらず、調査区内はほぼ水平な地形環境にあったことがうかがえる。

Ⅲ層は本来、遺構埋土の上部に相当する堆積を含む。実際に高位で検出できた遺構もあるが、基本的にはⅣ層上面での遺構検出である。遺構自体の重複も激しく、上位Ⅲ層と下位遺構の対応を限定することはきわめて困難である。このような状況から、Ⅲ層として掘り下げ出土した遺物は、下位の遺構出土遺物と接合が確認できた以外は、遺物包含層Ⅲ層出土遺物とし、遺構出土遺物とは区別している。

基本的にⅢ層に近似する各遺構埋土はわずかず異なり、相違を断面・平面で識別し、複雑な切り合い関係を判定していった。それでも、遺構下部の床造成土や床面の柱穴、その下に切られた遺構埋土の区別に苦慮し、結果、堅穴建物床面を掘り抜いてしまった場合が多い。

Ⅲ層の下は、城北団地基本層序Ⅳ層の、黄褐色系のシルト～砂質土層が堆積する。検出高は27.00m前後と、上位のⅢ層と同じく東西での差はあまりない。調査区西寄りではⅣ層自体の砂質が強くなる。南北方向もわずかに北側に高い程度のはほとんど水平で、西側に延びる微高地上に位置するこの地点に、弥生時代以降の遺跡が形成されていたことになる。なお、調査地点によれば、Ⅳ層中から縄文時代の遺構・遺物が出土しているが、16次調査B区では認められなかった。

16次調査A区の調査終了時に北壁際を断ち割って下部の堆積を確認したところ、西側で約1.5mの厚さ、標高25.30m前後まで続く。ただし、この地点でのⅣ層は上記したようにやや砂質が強い。一方、東側は、DT区東端でⅣ層はわずかに30cm程度の堆積で、城北団地基本層序でⅤ層とした、花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層に替わる。以西、DU区西端の掘削深度の標高25.30mまで、直線的に深くなり、DV区以西ではⅤ層を見いだすことができなかった。

2 遺構と遺物

16次調査B区で出土した遺構は、竪穴建物33棟、掘立柱建物2棟、土壇18基、その他の遺構1基、柱穴・小穴590基に及び(図5)、出土遺物はコンテナ94箱に達する。これらについて時期別に概要を以下示すが、遺物を伴わない柱穴・小穴については、時期を限定することのできないものが多くを占める(図6・131、表1)。

(1) 弥生時代以前の遺構と遺物

弥生時代以前に遡る遺構は城北団地基本層序Ⅳ層内において出土するが、16次調査B区においては、該当する遺構は確認できなかった。ただし、Ⅳ層より上位層で、わずかながらではあるが縄文土器の出土があり(図11-2、141-1)、弥生時代を遡る痕跡とすることができるとする。

(2) 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代になると、多くの遺構を認めることができ、出土遺物の過半を弥生時代の遺物が占める。

出土した弥生時代の遺構は以下の通り。

竪穴建物：22棟

SC-2・SC-72・SC-73・SC-13・SC-30・SC-3・SC-16・SC-12・SC-19・SC-20・SC-21・SC-42・SC-22・SC-41・SC-26・SC-27・SC-29・SC-28・SC-71・SC-49・SC-52・SC-54

土壇：9基

SK-34・SK-40・SK-48・SK-51・SK-55・SK-56・SK-62・SK-70・SK-74

柱穴・小穴：99基

竪穴建物は、円形ないし楕円形のもの(SC-72・73・30・3・16・22・41・52・54)と、隅丸の方形ないし長方形のもの(SC-2・13・12・19・20・21・42・26・27・29・28・71)がある。規模は、円形の建物は径5m前後と、一回り小さい径3～4m程度のもの、方形の建物はSC-2とSC-13がやや大きめに復元できる他は、一辺4m前後である。时期的には中期後葉から後期中葉までに収まるが、平面形・規模と時期の相関は明確でない。

これら遺構からは多くの弥生土器・石器が出土している。中でも、SC-2ではガラス小玉1点、SC-52からシカ絵陶土器1点が出土している。弥生時代の遺構に伴わず、古墳時代の遺構に紛れ込み、さらに上部の包含層であるⅢ層からも多く弥生土器・石器が出土しており、古墳時代竪穴建物のSC-4からは分銅形土製品1点が出土している。また、東南部九州系・山ノ口式系の搬入土器が16次調査A区とともに多いことも、本調査区の特徴の一つである。なお、確実に弥生時代と特定できる鉄器は出土していない。

(3) 古墳時代の遺構と遺物

16次調査B区は、文京遺跡内においても、東側の14次調査区とともに古墳時代後期の遺構が密集する。両調査区とも東から西に延びる微高地上に位置し、わずかながら低位にあたる12次調査区・16次調査A区での稀薄さとは対照的である。

出土した古墳時代遺構は以下の通り。すべて古墳時代後期の遺構である。

竪穴建物：11棟

SC-4・SC-14・SC-15・SC-10・SC-11・SC-23・SC-24・SC-25・SC-43・SC-44・SC-64

掘立柱建物：1棟

SB-63

土壇：9基

SK-35・SK-39・SK-50・SK-57・SK-58・SK-59・SK-60

その他：1基

SX-18

柱穴・小穴：52基

竪穴建物は、すべて方形ないし長方形。1辺7mを超える大型のSC-14・15、一回り小さく1辺6m規模のSC-4、これらはいずれも1辺の中央にカマドを伴う。以外は1辺4～5m規模で、カマドの痕跡も断片的なものか(SC-23・43)、存在を確認できないものがほとんどである。

古墳時代の遺構に伴っては、須恵器・土師器を中心とした古墳時代の土器が出土するとともに、先行した弥生時代遺構の掘り返しにより、弥生土器・石器も多

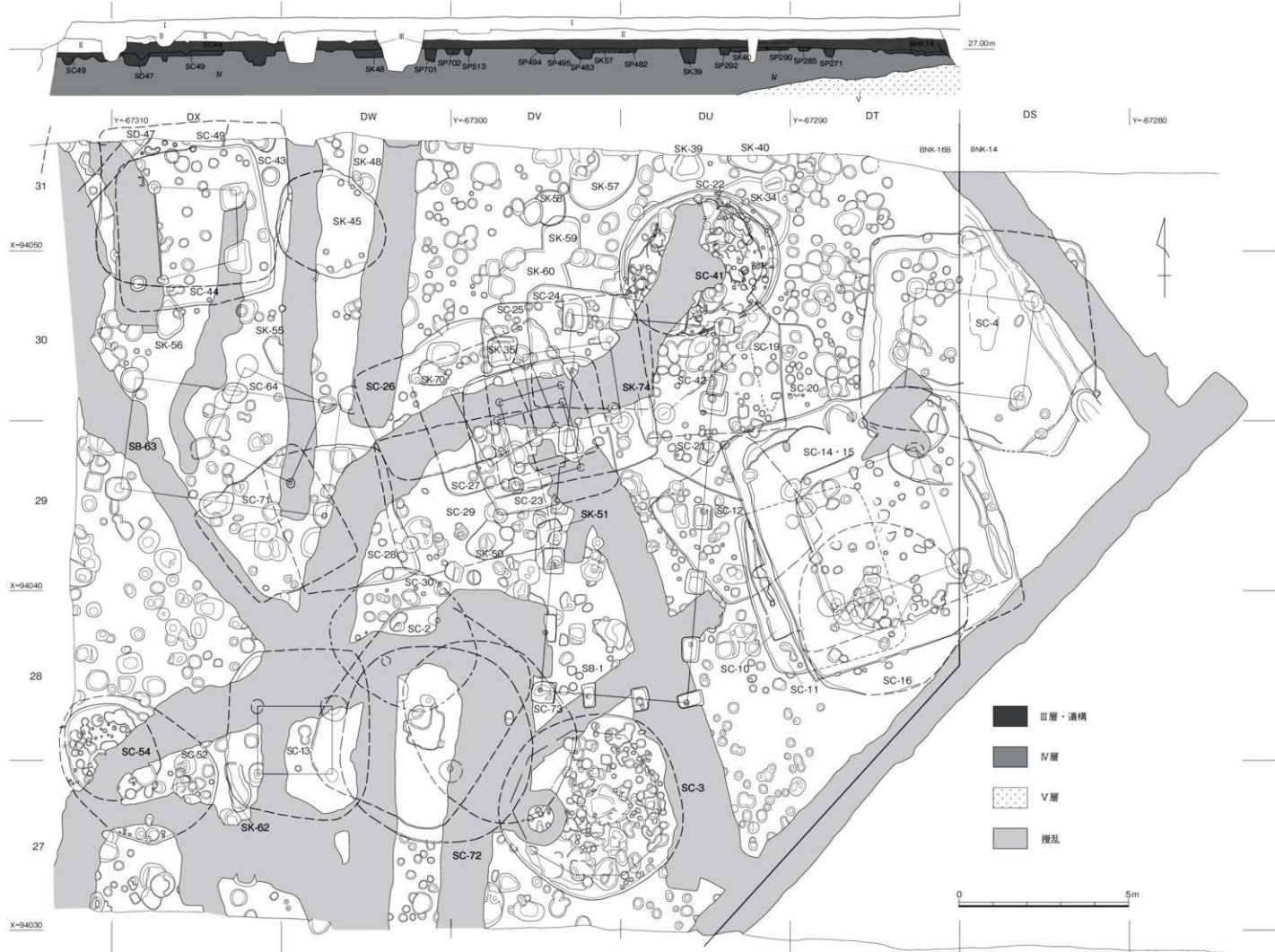


図5 文京遺跡16次調査B区全体図(縮尺1/100)



図6 文京遺跡16次調査B区主要遺構時期別全体図 (縮尺1/100)

表1 文京遺跡16次調査B区出土遺構一覧

遺構	時代・時期				総数	
	弥生時代		古墳時代			
竪穴建物	22棟	SC-2・SC-72・SC-73・SC-13・SC-30・SC-3・SC-16・SC-12・SC-19・SC-20・SC-21・SC-42・SC-22・SC-41・SC-26・SC-27・SC-29・SC-28・SC-71・SC-49・SC-52・SC-54	11棟	SC-4・SC-14・SC-15・SC-10・SC-11・SC-23・SC-24・SC-25・SC-43・SC-44・SC-64	33棟	
掘立柱建物			1棟	SB-63	1棟	
土壇	9基	SK-34・SK-40・SK-48・SK-51・SK-55・SK-56・SK-62・SK-70・SK-74	7基	SK-35・SK-39・SK-50・SK-57・SK-58・SK-59・SK-60	1基	
その他			1基	SX-18	1基	
柱穴・小穴	99基	SP-118・119・121・126・128・182・184・185・190・192・193・195・197・199・200・202・204・206・207・218・237・240・255・263・264・273・289・290・294・300・314・316・324・331・336・337・344・346・347・374・376・380・382・390・396・398・403・405・410・418・428・430・433・434・436・437・440・442・447・449・469・477・479・490・491・496・508・537・538・557・568・574・576・577・583・596・611・619・620・626・629・633・638・651・655・657・659・662・668・675・680・683・712	52基	SP-127・188・194・198・203・213・309・345・354・381・384・387・421・427・429・435・474・501・509・510・514・520・521・523・524・534・581・591・594・595・617・625・634・637・645・649・652・654・672・676・679・682・706・714・716・723	26基	SP-101・103・105・111・174・181・223・224・293・356・463・465・516・525
	時期不明					
	413基	SP-112・117・120・122・125・129・154・156・172・183・186・187・189・191・196・201・205・208・212・214・217・219・222・225・236・238・239・241・254・256・262・265・272・274・288・291・292・295・299・301・308・310・313・315・317・323・325・330・332・334・338・343・348・353・355・357・360・370・373・375・383・385・386・388・389・391・395・397・399・402・404・406・409・411・417・419・420・431・432・438・444・446・450・462・464・466・468・470・473・475・476・480・489・492・495・497・500・502・507・511・513・515・517・519・522・526・533・535・539・551・553・556・558・563・565・567・569・573・575・578・580・582・584・590・592・593・597・602・604・610・612・616・618・621・624・627・628・630・632・635・636・639・644・646・648・650・653・656・658・660・661・663・667・669・671・673・674・677・678・681・684・686・701・704・707・711・713・717・722				
欠番の遺構	SC-5・9・17・31・32・37・38・46・53・61・SD-33・47・SK-36・65・69・75・100・SP-155・173・335・361・369・439・443・536・552・564・603・687・700・705					

く含まれる。また、小型利器とみられる鉄器および鉄滓、さらにはフイゴ羽口などの土製品が、古墳時代後期の出土遺物である。

(4) 古代前半の遺構

古代前半の出土遺物を伴っていないが、遺構の特徴から、古代前半に位置づけられるべきと考えるのが、掘立柱建物SB-1である。3間×6間。桁行4.3m、梁行11.1mと大型。基本的に平面隅丸長方形を呈する柱穴からなり、埋土は互層状で、径15～20cmの柱痕を残すものがあつた。

(5) 古代後半から中世の遺構と遺物

当初、弥生時代・古墳時代の遺構と区別できずにいたが、出土遺物から明らかに古代後半から中世に降る遺構の存在が明らかとなった。擾乱として掘り下げた中にも、この時期の遺構とすべきものがあった可能性も考えられる。

古代後半から中世の遺構と認定できたのは土壇1基と柱穴・小穴26基である。

出土遺物には、土師器・瓦器・白磁などがあり、上記した以外の遺構埋土あるいはⅢ層中からの出土も後に確認している。

II 調査の記録

既に記したように、文京遺跡16次調査B区では、I・II層を重機掘削後（図版1-1）、III層を手作業で掘り下げ遺構検出を行い（図版1-2）、その上で遺構内の調査に進んだ。結果、53基の大型遺構（図7）と590基の柱穴・小穴（図131）が出土し、コンテナ94箱に及ぶ遺物が出土した。以下、遺構種別（竪穴建物、掘立柱建物、土塼、その他の遺構、柱穴・小穴）毎に出

土遺構・遺物の詳細を報告する。そして、包含層出土で遺構に伴わない遺物として、III層出土遺物について報告する。さらに、認識できないままIII層あるいは弥生時代から古墳時代の遺構埋土に紛れ込んで取り上げてしまった古代・中世の出土遺物についても、最後に別途報告する。

1 竪穴建物

出土した竪穴建物は33棟。うち弥生時代に遡るのが22棟、古墳時代が11棟である（図4）。いずれも、城北団地基本層序のIII層を手作業で掘り下げた後、IV層上面が一部覗いた高さで検出した遺構である。竪穴建物自体、調査区全域に広がるが、古墳時代の竪穴建物は調査区南西部にみられない。

竪穴建物の調査においては、まず土層観察用畔を設定して掘り下げあるいは先行断ち割りを行っているが、この畔により適宜区割りを行っている。以下、既述「(2) 出土情報の登録」の繰り返しとなるが、4分割された竪穴建物など、基本的に北ないしカマドのある方向を上、右左上区画を1区として時計回りに4区に区画するなどである。遺構内の分層は、埋土・焼土・炭層・床面・造成土等と、土層の性格を考慮して細分呼称している。そして、遺構内の床（底）面で認識出土した柱穴・小穴や土塼、溝は、SC番号の後に、PあるいはK、Dの略号を挟んで、遺構内で重複のないよう、SC25P3等としている。

ただ、弥生時代遺構と古墳時代遺構が複雑に重複することもあるため、遺構検出から遺構内調査においては、切り合いや床面を明確に区分することに困難を呈した。とりわけ先行する遺構の埋土上面にあたる竪穴建物床面を的確に認識できず、調査段階で床面を掘り抜いてしまっていることが多い。結果、埋土および造成土を掘り抜いた平面実測図となってしまっているものがほとんどである。そのような平面図により、一部認識した床面や焼土・炭層の広がり等から、本来の床面や切り合い関係を整理時に見直して、以下提示する。

(1) 2号竪穴建物（SC-2）

（図8～12、図版5・16）

DV27・DV28区、DW27・DW28区に竪穴建物群の重複が所在し、塹壕等の攪乱により4つの島に分断されていた。それもあって、調査時には下部のSC-72・SC-73と一括してSC-2と認識し調査していたが、調査後の検討により、建物跡の重複が明らかとなった（図8、図版5-2・3）。そのうちSC-72・SC-73・SC-30・SC-13を切る最上部の竪穴建物を、改めてSC-2とした。

分断されるが、SC-2は平面6.2×4.9mの隅丸長方形に復元でき、長軸は北から北東・南西に約30°傾く（図9）。

南北畦（Y=-67300.7）と東西畦（X=94035）で分割した北東側を1区、南東側を2区、南西側を3区、北西側を4区とし、その内部を攪乱で分断されている場合は適宜細分し、掘り下げおよび遺物の取り上げを行っている。

埋土は、(4)・(5)層の、にぶい黄褐色砂質土を主体とし、炭化物・土器片を含んでいる。また、中央北よりには、にぶい黄褐色砂質土（(7)層）、西部には灰黄褐色砂質土（(8)層）の床造成土が一部みられる（図8）。

調査時には、以下のSC-72・SC-73とともにIV層上面まで掘り下げて認識したため、SC-2に伴うことを特定できる遺構は少ない。わずかに柱穴3基（P1～P3）がSC-2に伴うとした。土層から復元される床面は、標高26.9～27.0m（図9）。



图7 文京遺跡16次調査B区主要遺構全体図(縮尺1/100)

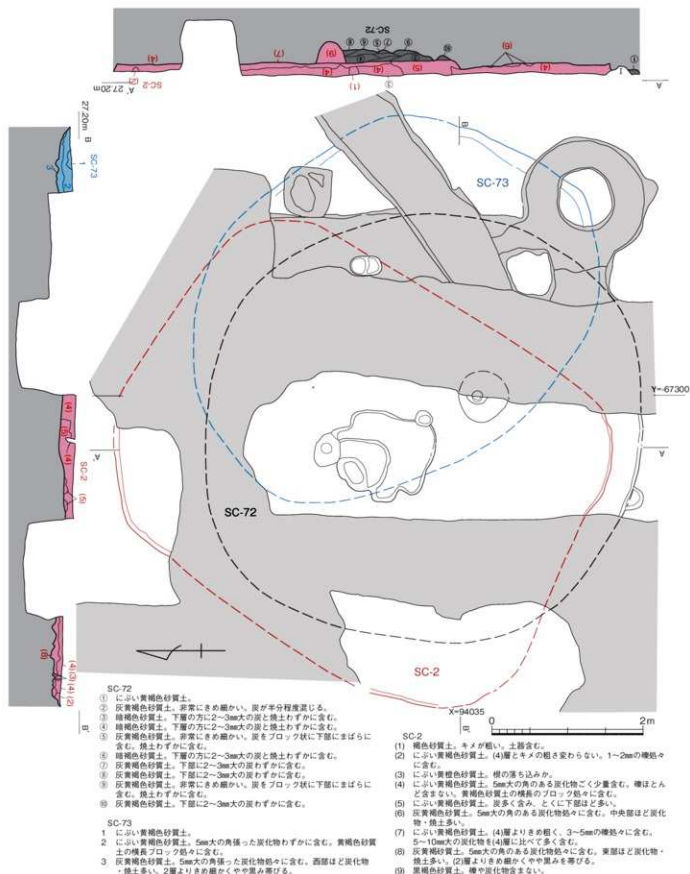


図8 SC-2・72・73遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)

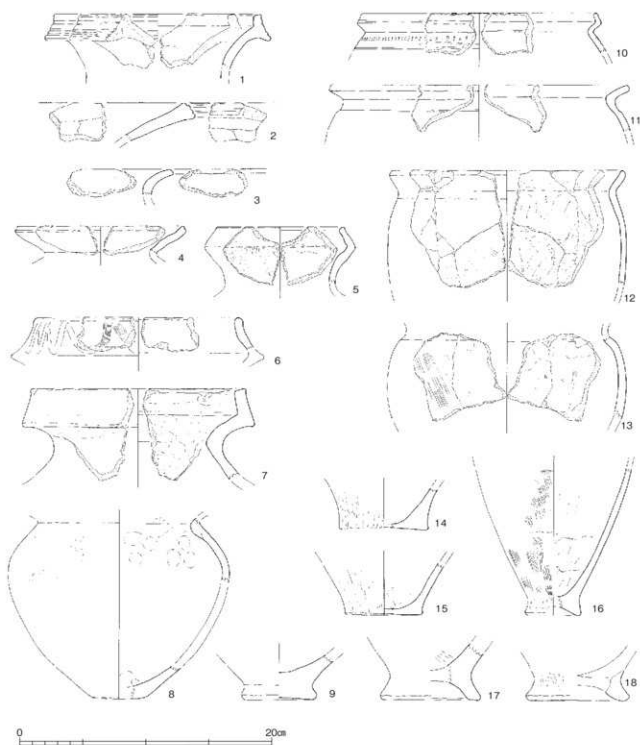


図10 SC-2出土遺物 (1) (縮尺1/3)

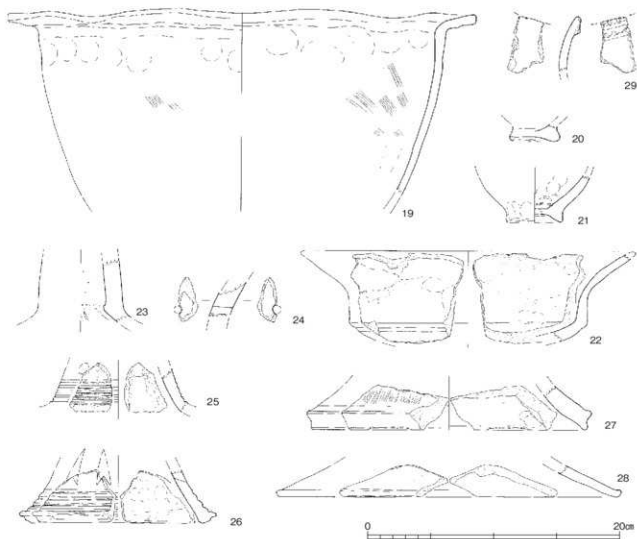


図11 SC-2出土遺物 (2) (縮尺1/3)

遺物数はコンテナ4箱。出土遺物は原位置で取り上げたものもあるものの、床面等出土を認識でき住居機能時の土器と特定できるものはなく、かつ完形に近い大型破片もない。基本的には、住居埋没時の埋土に含まれた遺物群である。一部の埋土（1区東・1区北・3区畔）に須恵器片3点が含まれていたものの、いずれも紛れ込みと判断でき、それ以外はいずれも弥生時代とそれ以前の遺物である。うち図化できたのは36点（図10～12、図版16）。

1～28は弥生土器で、1～9は壺。1は口縁を上下に拡張し凹線文4条をもつ。Ⅳ様式。2は口縁端部を若干肥厚させ凹線文3条を施す。Ⅳ様式。3は頸部から短く緩やかに外反する口縁部。Ⅴ-1様式。4は径が小さいが、短く外反する口縁部。Ⅴ-1様式。5～7は複合口縁壺。5は複合口縁接合部が丸みをもち、6は外反する二次口縁外面にクシ描波状文をもつ。7

は直線的に内傾し文様をもたないが、横方向のハケ目を横ナデ状に残す二次口縁部をもつ。Ⅴ-2～3様式。8は背の低い短頸壺。9は外にやや張り出す厚めの底部で、鉢の可能性もある。

10～18は甕。10は逆くの字状に折り返した口縁部に横ナデを施し、頸部直下に2条単位のクシ歯刺突文とクシ描直線文がみられる。口縁部に複数条の凹線文をもたないが、中国地方山間部の塩町式の系譜に連なる土器と考えられる。Ⅳ様式。11はくの字に口縁を外反させるが、頸部に強い横ナデを施す。多量の雲母を含み暗赤褐色を呈する胎土は、東南部九州系・山ノ口式系の搬入土器に近似する。関係を考える上で興味深い資料である。12は緩やかに外反する口縁をもち、胴部は内面ケズリ後横ハケ目、外面はハケ目。Ⅴ-1～2様式。13は胴部が張り、最大径以下に煤が顕著に付着する。14～18は底部。14・15は口縁部に凹線文をも

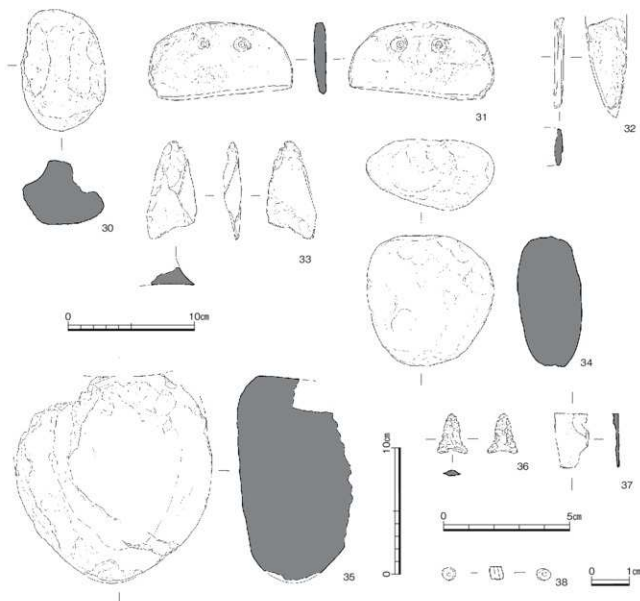


図12 SC-2出土遺物 (3) (縮尺1/3, 1/2, 2/3, 1/1)

つ壺の底部で外面は縦ミガキ。Ⅳ様式。16～18は口縁部に凹線文をもたない壺の底部で上げ底。Ⅳ～Ⅴ・2様式。16はP2出土。

19は大型の鉢。口縁は水平近くで逆L字状をなし、焼きひずみにより若干波打つ(図版163)。Ⅴ・2様式か。20・21は底部。いずれも小型で、20は凹み底、21は上げ底。

22～28は高坏。22は大きく外反する口縁をもつ高坏坏部。Ⅴ・2様式。23は壺頸部とも考えたが径が小さく、やや大型の脚部下半から裾部片。Ⅴ・2様式。24は小円孔をもつ小破片で、高坏以外の可能性もある。25は脚部裾近くで、6条の沈線と円孔の一端が残る。Ⅳ様式。26は、矢羽根透かしと凹線文を施す典型的な

Ⅳ様式の高坏脚部。27・28はやや大型の脚部。27は端部を横ナデし、28は内外面横ミガキを施し丁寧に上げている。

29は縄文晩期突帯文土器。身の湾曲と口縁が平行せず、波状口縁をなす。口縁外端部に刻みを施し、口縁から少し下がった位置に刻目突帯を貼り付ける。

30は発砲土塊。被熱発泡し多孔質で軽石状を呈する。一部弧状をなす面があり木材等の圧着が推測される。

31～37は石器。31は完形の磨製石庖丁。平面弧背直刃で、刃は若干研ぎ減りする。原礫面も一部残るが、背側を中心に粗い縦方向の擦痕、身に横方向の細かな擦痕がみられる(図版16-5)。結晶片岩製。現重量34.4g。32は柱状片刃石斧の刃部付近の側面断片。前後主

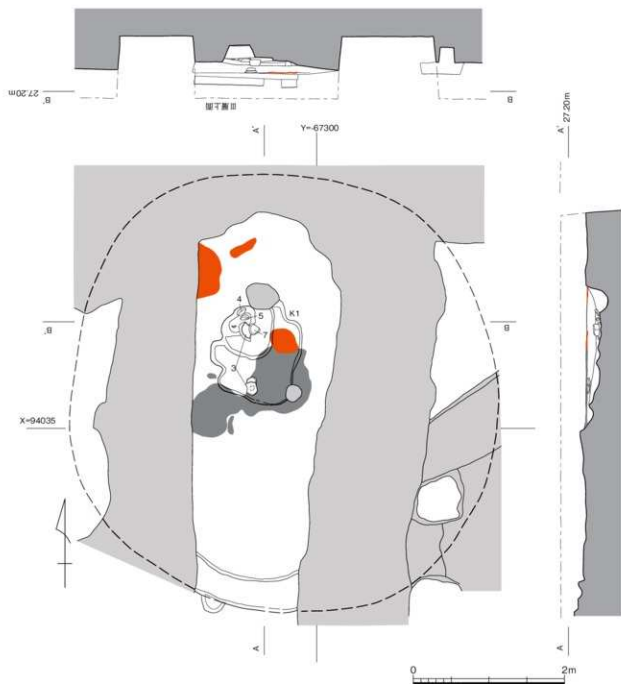


図13 SC-72遺構実測図（縮尺1/50）

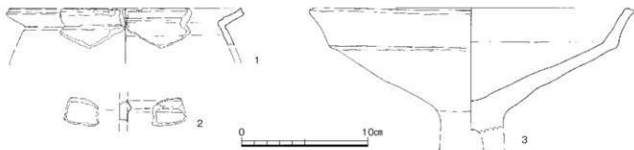


図14 SC-72出土遺物 (1) (縮尺1/3)

面がそれぞれわずかに残る。結晶片岩製 (図版16-6)。33は砥石残片。2面の湾曲した砥面が鋭角状をなす。粘板岩製で砥目は細かい。34は磨石。手持ちの大きさで、扁平な円盤の一端端部に細かな磨面が重なる。花崗岩製。現重量228.1g。35は大型で1面と側面の一部に磨面がみられる。花崗岩製で風化により崩壊が進行している。現重量2.775g。36は凹基式の打製石鏃。刃両側からの微細な剥離が身中央に及び、身は厚い。サヌカイト製。現重量0.6g (図版16-7)。37はサヌカイト剥片。現重量0.3gを量る。

38はガラス小玉。長軸3.6mm・短軸3.4mm・厚3.2mmの扁円柱状で、側方からみると平行四辺形。孔は長軸1.0mm・短軸0.8mm。スカイブルーの発色 (図版16-8)。

SC-2出土遺物は、中期後葉の遺物を含みつつ、確実に後期前葉から中葉に下る遺物を一定含み、住居最終埋没をその時期に求められる。

(2) 72号堅穴建物 (SC-72)

(図8・13~15、図版5・17)

調査時にSC-2と一括して調査していたが、SC-2床面下の造成土を掘り下げていたところ、炭化物・焼土を伴った土壌が出土し、住居の炉にあたる中央土壌と考えられた (図版5-4)。調査後に埋土等を検討し、SC-2の南側が2段を呈している部分を出土土壌の建物外形の一部とし、このわずかな部分と中央土壌の深部を残して、SC-2により床面等は削平されたものとした。SC-2に切られ、SC-73とは直接切り合い関係はないが、床面高や出土遺物からSC-72がSC-73を切るとみられる (図8)。SC-2に攪乱された以外の住居外形も、ちょうど掘削内にそのラインが収まっていたとみて、径5.5m前後の円形建物であったと復元した。DV27・DV28区、DW27・DW28区に広がる (図13)。

埋土は、SC-2と同じくぶい黄褐色砂質土。中央土

壌K1部分は、焼土・炭化物を含んだ多く含んだ灰黄褐色砂質土 (②層)、焼土・炭化物をまばらに含む灰黄褐色砂質土 (⑤・⑨層) や暗褐色砂質土 (③・④・⑥層) からなり、周辺にも炭化物層・焼土層の広がりが認められた (図8)。

土壌底付近では、比較的大型の土器・石器が出土しており (3~5・7)、中央土壌や焼土・炭層から採取した土壌の水洗選別後に、種実を含んだ炭化物片を多く採取している (図13)。

その中から8点を図化した (図14・15、図版17)。

1~3は弥生土器。1は甕口縁部で、端部をつまみ上げて1条の凹線文を施し、頸部内面屈曲部も強い横ナデにより凹線状となる。IV様式。2は貼付突帯をもつ甕胴部片で、胎土に雲母を多く含む東南部九州系・山ノ口式系の搬入土器。3は高坏坏部。まだ比較的短く外反屈曲する口縁部で、V・I様式 (図版17-1)。4~8は石器。4は磨石で1側面に4単位の磨面が明瞭。半深成岩製で現重量766.0g (図版17-2)。5も磨石であるが、磨面は表面と側面の軽微な2カ所のみ。チャート製で現重量681.2g。6・7は砥石。6は白色の泥質岩製の仕上砥。使い込まれ、反り上がった4面からなる (図版17-3)。7は砂岩製の粗砥。表裏面・1側面と側面の一部を砥面として使用し、とくに側面の使用が顕著。現重量1.825gと大型であるが、側面端部に敲打痕を顕著に残し、敲石としても使用している (図版17-4)。8は台石片。敲打痕を顕著に残す平坦面と側面の一部が残る。斑晶の発達しない硬質の火成岩製。現重量220.3g (図版17-5)。

出土弥生土器から、SC-72は後期初頭に位置づけることができる。

(3) 73号堅穴建物 (SC-73)

(図8・16~18、図版5・18)

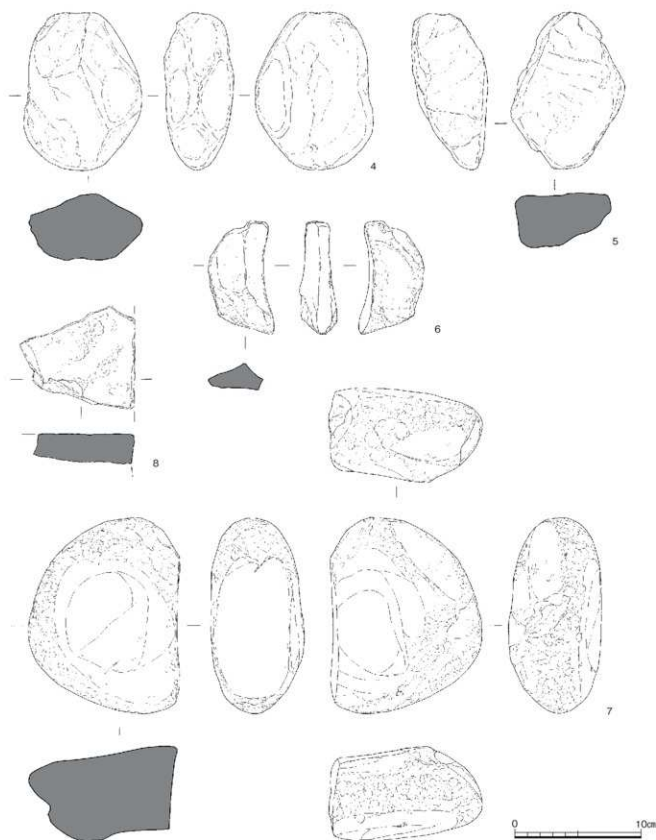


図15 SC-72出土遺物 (2) (縮尺1/3)

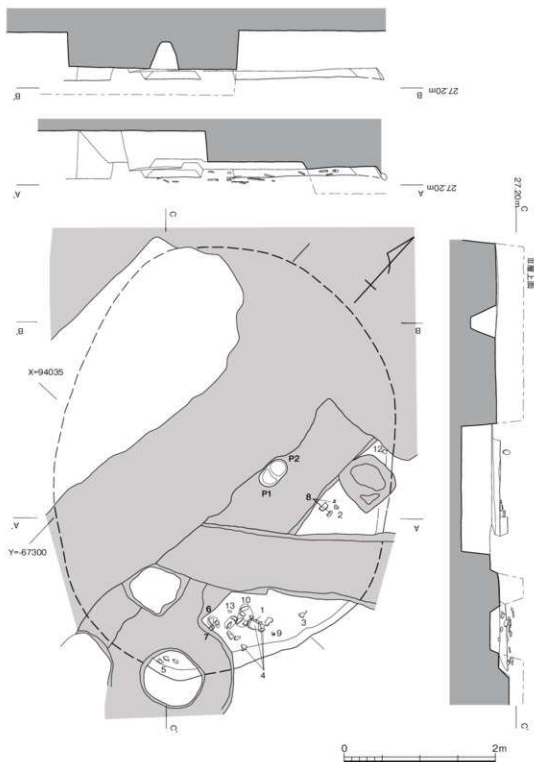


図16 SC-73遺構実測図 (縮尺1/50)

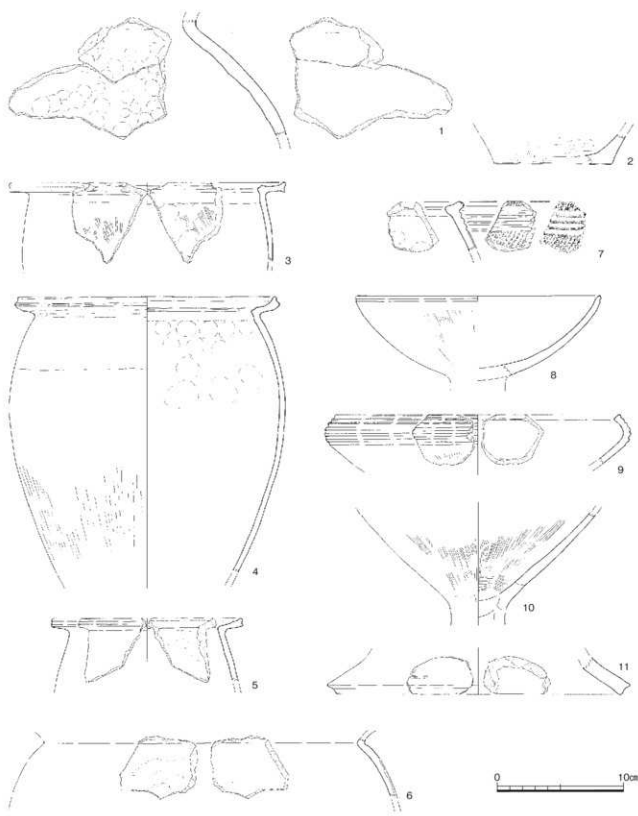


図17 SC-73出土遺物 (1) (縮尺1/3)

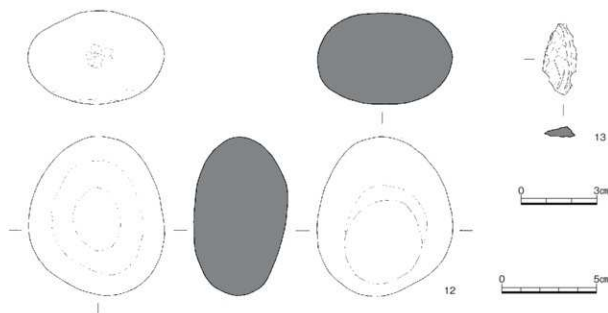


図18 SC-73出土遺物 (2) (縮尺1/2, 2/3)

調査時にSC-2と一括して調査していたが、調査後の検討により、主に東部の広がり部分をSC-2より分離独立させたのがSC-73である。SC-3を切り、SC-72を切ると想定され、SC-2、SB-1に切られる(図8)。平面は、長軸5.5m・短軸4.5m前後の長円形に復元でき、北から北西・南東に約40度傾く。DV27・DV28区、DW27・DW28区に広がる(図16)。

伴う柱穴等はP1・P2が認められるのみで、主柱穴・中央土壌等は不明である。P1埋土は黒褐色砂質土で、5mm大の礫を処々に含み、土器片をまばらに含む。P2埋土は灰黄褐色砂質土。

SC-2として取り上げた遺物のうち、SC-73出土と特定できるのは、攪乱東部のSC-3を切る範囲の遺物で、大型に復元できた遺物もあるため、コンテナ2箱分の出土数となる。とくに、東部でまとまった出土がみられる。それらの中から、13点を図化した(図17・18、図版18)。

1～11は弥生土器。1は壺胴部。径はでないが、丸く張る胴上部から横ナデを施された頸部への転換部が辛うじて残る。2は壺底部。外面縦方向のミガキが施される。3～6は甕で、口縁が残る3点はいずれも凹線文1条が認められ、3・4は口縁部内面屈曲部にも顕著な横ナデが施される。4の外面には煤が顕著に残る。口縁の凹線文はやや幅が広い(図版18-1)。6は胴部がかなり張る。7は鉢口縁部で台付の可能性が高い。逆し字状の口縁端部には刻目があり、直下に4条の凹線と斜交クシ歯刺突文が巡る。8～11は高坏。8

は浅い椀状の坏部で、口縁端部に浅い1条の凹線文をもち、外面は縦ミガキ。坏底部に脚を貼り付けていたのが剥落している(図版18-3)。9は内湾する口縁部外面に6条の凹線文をもち外面縦ミガキ。10は深みのある坏下半部で内外面に丁寧なミガキ仕上げがみられる。底部は円盤充填部が剥落している(図版18-4)。11は脚裾部でP1・P2出土。12は磨石で、1面に顕著な磨面が認められるとともに全面を使用し、1個端部にわずかに敲打痕が残る。現重量425.6g(図版18-5)。13はサヌカイト製刮片。

出土土器はいずれも弥生土器で、しかも中期後葉に相当し、遺構の時期は中期後葉と位置づけられる。

(4) 13号竪穴建物(SC-13)

(図19・20、図版19)

DW27・DW28区に所在し、壙壕等の攪乱により3つの島に分断される。SK-62を切り、SC-2に切られる。SC-30とSC-72とは、想定される平面の広がりにおいて重複が想定されるが、具体的な切り合い関係は確認できない。竪穴建物平面形は、主軸をほぼ南北とする約4.9×4.1mの隅丸長方形に復元できる。P1・不明(攪乱)・P6(旧SC2P9)・P7(旧SC2P1)の4本主柱穴をもち、東西柱間2.4m・南北柱間2.0mを測る(図19)。

東西畦と中央南北を分断する攪乱によって、北東部・南東部・南西部・北西部の区割により掘り下げを行っている。埋土は砂粒を多く含む暗褐色砂質土で、床面

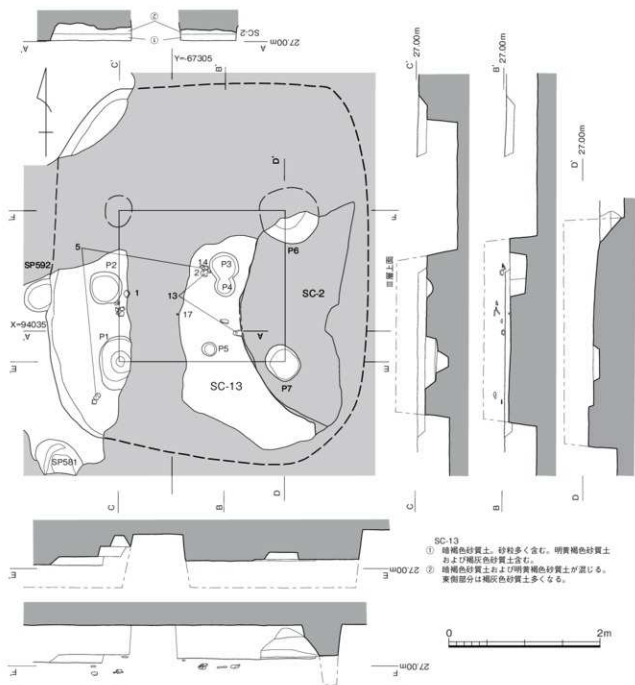


図19 SC-13遺構実測図 (縮尺1/50)

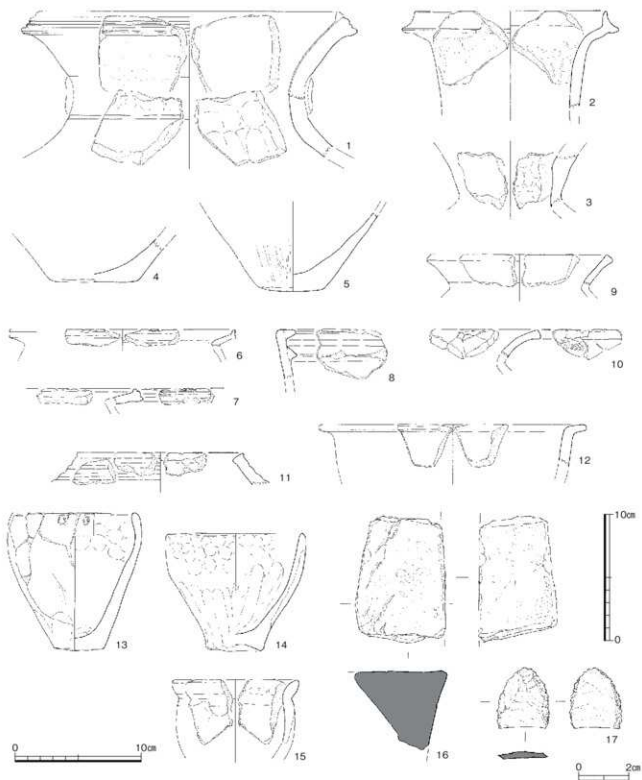


図20 SC-13出土遺物 (縮尺1/3, 2/3)

のレベルを2690m前後とする。以下の床造成土は、暗褐色砂質土および明黄褐色砂質土が混じった層。なお、支柱穴を構成するP1の埋土は黒褐色砂質シルトで、P7埋土は小石・炭化物を含まない黒褐色砂質土。P3からは赤色顔料がややまとまって出土している（図19）。

SC-13出土遺物はコンテナ1箱。そのうち17点の弥生土器と石器を図化した（図20、図版19）。

1～5は弥生土器壺。1は大型で、口縁部に4条の凹線文をもち、頸部には幅広押圧突帯の剥落した痕跡が残る（図版19-1）。Ⅳ様式。2は複合口縁をもち頸部はやや直立気味。頸部は内外にハケ目を残す（図版19-2）。Ⅴ・2様式。3は頸部。4・5は底部で、4は平底、5はやや凸気味。なお、5は比較的離れた位置で出土した破片が接合している。6～10は甕。6は端部をつまみ上げ強く横ナデする。7はやや厚くした端

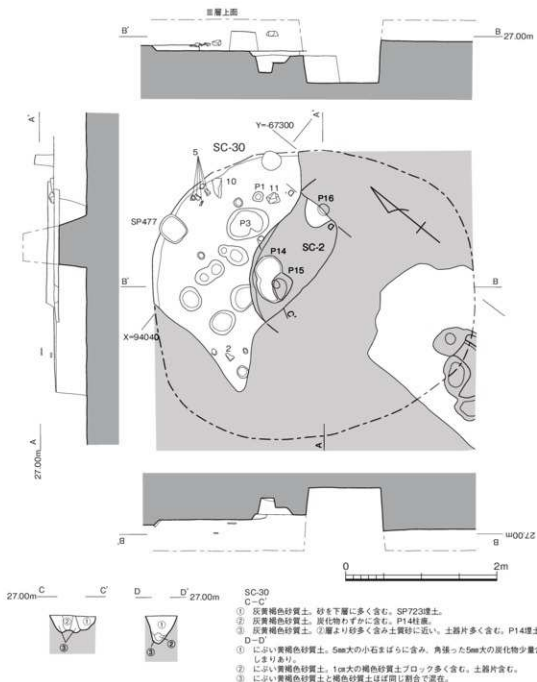


図21 SC-30遺構実測図（縮尺1/50）

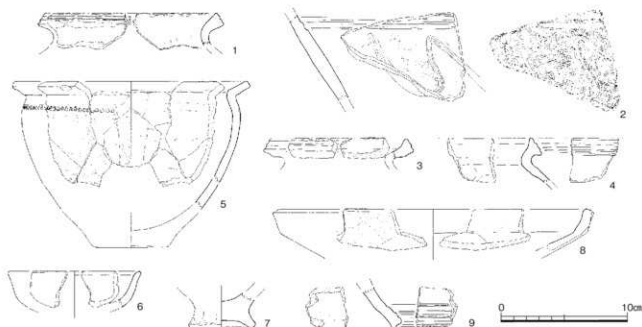


図22 SC-30出土遺物 (1) (縮尺1/3)

部に2条の凹線文をもつ。6・7はⅣ様式。8は口縁部と少し下がって断面三角形の貼付突帯を2条もつ。東南部九州系・山ノ口式系の搬入土器である。9は直線的に外傾し、10は強く外湾する口縁部で、端部はいずれも若干肥厚する。ともにⅤ・2様式。11～15は鉢。11は内傾する口縁外面に4条以上の凹線文を施す。Ⅳ様式。12は逆し字状に屈曲する口縁部。Ⅴ・1様式。13～15は小型で整形はやや粗い。13は内湾する口唇部に1cm間隔で2カ所の凹部に別粘土を貼り足した記号文が認められる(図版19-4)。14は直線的に開いたまま口縁部となる。内外面とも粗いオサエ・ナデで器面調整している(図版19-5)。15は頸部から短く外反肥厚する口縁部をもつ(図版19-6)。16・17は石器。16は砥石で、鋭角をなす2面を砥石として利用しており、若干敲打痕を残す。砥目は粗く砂岩製。現重量541.3g(図版19-7)。P1出土。17はササカイト製打製石鏃。平基式で平面砲弾形。表裏とも主要剥離片を大きく残し、端部を細かく剥離調整し刃部とする。現重量1.6g(図版19-8)。

出土弥生土器には、Ⅴ・2様式に位置づけられるものがあり(2・9・10)、SC-13を後期前葉の建物とすることができると。

(5) 30号竪穴建物(SC-30)

(図21～23、図版20)

DW28・DW29区、塹壕による攪乱で南北に別れて出土した。SC-29・SC-30を切り、SC-21に切られる。SC-13・SC-72・SC-73とは重複が想定されるが、調査時に具体的切り合い関係を特定できなかった。

平面は、長軸を東北-南西方向に向けた、約4.3×3.6mの偏円形、床面レベルは26.80m前後に復元できる。主柱穴は不明(図21)。

土層観察用堀により地区を東西に分割して掘り下げている。埋土は、におい黄褐色砂質土で褐灰色砂質土が不定形ブロック状に混じる。埋土掘り下げ後、床面以下で柱穴・小穴を比較的多く検出している。それらのうち、P15(旧SC2P7)に切られたP14(旧SC2P8)に柱痕がみられ、P16(旧SC2P4)には柱抜き取りが窺える(図21)。

SC-30出土遺物はコンテナ1箱で、そのうち9点の弥生土器と2点の石器を図化した(図22・23、図版20)。

1は壺口縁部。体部から短く外反し、端部に2条の凹線文を施す。Ⅳ～Ⅴ・1様式。2は大型壺胴部上半片で、2条以上の浅い沈線文下にクシ描波状文がみられる(図版20-2)。Ⅴ・2様式以降。3・4は甕口縁部。3は小型ながら外面に煤が付着し、端部に浅い2条の凹線文を施す。4は端部を上下に拡張して3条の凹線文をもち、体部は肩が張る。胎土に雲母を多く含み、中部瀬戸内地域からの搬入品とみられる。5～7は鉢。5は、北壁際やや高い位置で出土した破片がまとまっ

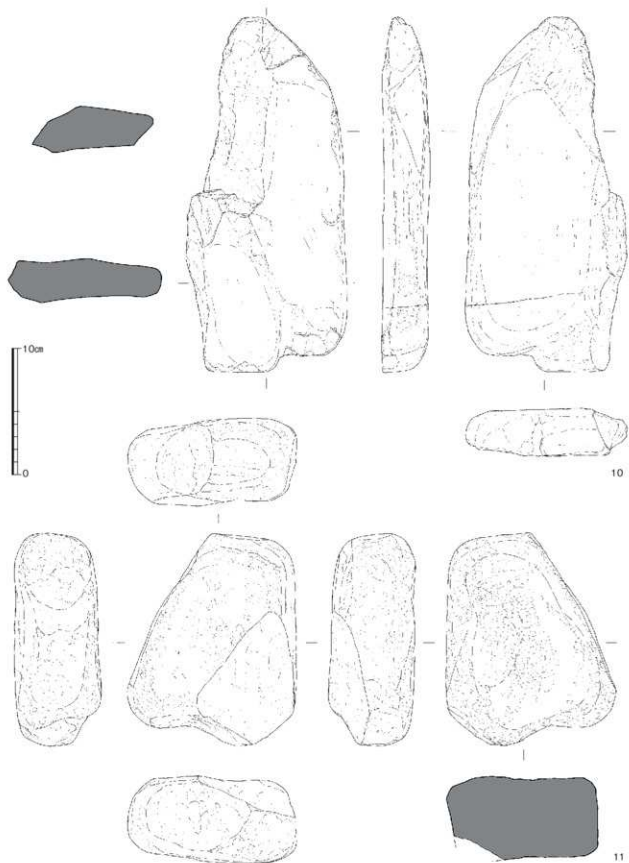


図23 SC-30出土遺物 (2) (縮尺1/3)

て接合した。くの字状に屈曲する口縁部をもち、体部に三角形列点文をもつ。体部内面は横方向のヘラケズリが認められる（図版203）。Ⅳ様式か。6は小型の碗状品。外反する口縁内側に面をもつ。7は小型の上げ底部。8・9は高坏。8は外面に剥落で失うが、屈曲口縁であることは確実。Ⅴ-1～2様式。9は脚裾部で、外面に3条、端部に1条の凹線文をもつ。Ⅳ様式。10は結晶片岩製の砥石。扁平な表裏両面と1側面を砥面あるいは磨面として使用し、片面（右図）には、雲母細片が砥面に多く圧着している。現重量2,030g（図版204）。11は台石。出土は埋土でもかなり上位にあたる。表裏両面と全側面を敲打後に磨面として使用。砂質。現重量2,090g（図版205）。

SC-30出土弥生土器にも、Ⅴ-2様式に降るものがあり（2）、SC-13と同じく、後期前葉の建物と位置づけられる。

（6）3号竪穴建物（SC-3）

（図24～27、図版6・21・22）

DU27・DU28区、DV27・DV28区で出土した。SC-73に切られ、SC-72とは重複が想定されるが、具体的前後関係を遺構からは特定できない（図版5-1）。

東西両側の一部に擾乱が及ぶものの、残存は比較的良好。平面径4.5m前後の円形。調査時に床面を面的に抑えられなかったが、床面のレベルは27.00m前後。主柱穴は9本と推定でき、そのうち、P2・P11・P28・P34の4基とK2内の柱穴状凹み2箇所が残る。柱間は1.5～1.8m。中央に炉跡の中央土塊K1がある（図24、図版6-2）。

南北畦（Y = -67295.8）と東西畦（X = 94033.6）で分割した北東側を1区、南東側を2区、南西側を3区、北西側を4区とし、その内部を擾乱で分断されている場合は、適宜細分した。

主体となる埋土は、灰黄褐色砂質土（④層）で、上位の包含層（Ⅲ層）に比べⅣ層黄褐色砂質土の混じり多く、Ⅳ層黄褐色砂質土をブロック状に含む箇所も多い。砂質強く粘性低い。炉跡の中央土塊K1では、埋土自体炭化物の含有が多くなるが、K1底部には、より炭化物を含んで粘性のある暗褐色砂質土が三日月状に堆積する。埋土の下には、暗褐色砂質土ブロックの混じりが多くしまりのある、にぶい黄褐色砂質土が床造成土として広く分布する。なお、中央土塊K1北側

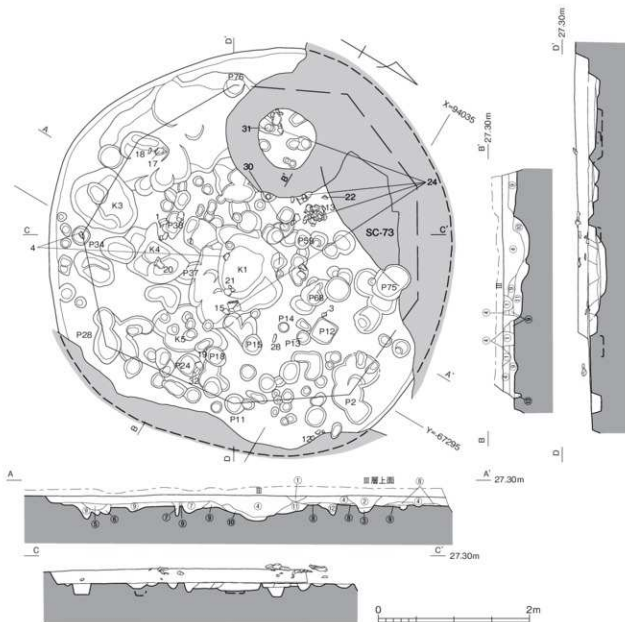
には、埋土（④層）の下、床造成土（⑨層）の間に、炭化物が混じり、しまりの強い暗褐色砂質土（⑧層）が薄く広がり、床上の硬化面を形成している（図4）。

SC-3からの出土遺物はコンテナ5箱に及ぶ。その中から34点を図化でき、以下提示する（図25～27、図版21・22）。

1～27が弥生土器で、1～9は壺。1・2は頸部に押圧貼付突帯をもち、口縁端部には凹線文をもたない。1の突帯は幅で連続的な押圧が施され、口縁は短く外反する。2の突帯はやや細く間隔の空いた押圧が施される。3は直立気味に外反する口縁部で、端部は上方に肥厚し横ナデが施される。4は、接合しないか同一個体と判断した、中央土塊K1出土の頸部とP34上位埋土出土口縁部からなる大型壺。口縁部を上下にやや拡張させ、凹線文を4条施し、凹線文をまたいだ密な刻み目が施される。頸部には幅広の突帯が貼り付けられ、布目押圧が連続的に施されている（図版21-2）。5は外反する口縁部に擬凹線2条をもち、6は短く直立気味に外反する口縁端部上面に1条の凹線文をもつ（図版21-4）。7は頸部に布目押圧貼付突帯をもつ破片。P15出土。8・9は底部。

10～14は鉢・高坏。10は内湾する鉢口縁部で、内外面縦ハケ目を残す。11は小型の脚台部で、内面を丁寧にナデ仕上げる。鉢の脚台部と考えた。12は内湾する口縁部の外面に5条の凹線文をもつ大型高坏。13は脚裾外面に4条、下端面に太い1条の凹線文をもつ高坏脚裾部。脚部に矢羽根透かし下端が2単位見られる。14は、径1.5cm前後の焼成前穿孔をもつ小破片で、高坏あるいは器台の脚部片の可能性が高い。中央土塊K1出土。

15～27は甕。15～24は口縁部が残る資料であるが、15～22は口縁端部に凹線文をもたない。15は逆L字状の口縁部で、端部を密に刻み、頸部に布目押圧貼付突帯をもつ。胴部下半内面には、縦方向のケズリ痕跡が残り、器壁もこれに対応して薄くなる。口径20cmに及ぶ大型品（図版21-6）。16～19はくの字状口縁。17はやや立ち気味で胴部も張る。18は口縁部が内湾気味で胴部もやや張る大型品。Ⅳ様式期に道後城北地区に限定的な器形である（図版21-7）。19は口縁部全体が横ナデでなく断続的なオサエ状に口縁部の仕上げを行い、胴部内外面はミガキ仕上げる。20～22は短いながらもやや外反気味の口縁部をもつ。21は張りのある胴部の最上部にまで横ナデが、口縁部の横ナデもやや



SC-3

- ① にふい黄褐色砂質土。埋土内でもとくに砂質強くブロック状。
- ② 灰黄褐色砂質土。④層に比べて炭化物の混じり多い。
- ③ にふい黄褐色砂質土。炭化物わずかに含む。
- ④ 灰黄褐色砂質土。上部包含層（Ⅱ層）に比べⅣ層黄褐色砂質土の混じり多く、ブロック状に含む箇所も多い。砂質強く粘性低い。K1 部は炭化物や多い。
- ⑤ にふい黄褐色砂質土。
- ⑥ にふい黄褐色砂質土。暗褐色砂質土多く含む。
- ⑦ にふい黄褐色砂質土。炭化物多く、やや粘性あり。
- ⑧ 暗褐色砂質土。炭化物混じり。しりぞき。
- ⑨ にふい黄褐色砂質土。Ⅱ層に比べ大きな暗褐色砂質土ブロックの混じり多く、しりぞきあり。
- ⑩ 暗褐色砂質土。Ⅳ層黄褐色砂質土ブロック混じるが、やや粘性あり。
- ⑪ にふい黄褐色砂質土。暗褐色砂質土がブロック状に混在。
- ⑫ にふい黄褐色砂質土。炭化物含む。
- ⑬ 暗褐色砂質土。

図24 SC-3遺構実測図（縮尺1/50）

強く端部が凹状を呈する(図版22-1)。22は頸部に布目押圧貼付突帯をもつ(図版22-2)。23・24は口縁端部に凹線文をもつ。いずれも1条で、上端部をつまみ上げている。23は口縁部内面稜部も横ナデによりつまみ出されている。24は建物西部の埋土上位でまとまって出土した破片群を中心に(図版6-1)、平面的にも広い範囲出土の破片が接合するとともに、層位的にも上はⅢ層出土から下はSC-3造成土出土破片が接合して、全形を復元できた。口径18cm・器高27.3cmを測り、底部は平底。内面は摩滅で調整の詳細不明であるが外面は上半に斜め方向のハケ目を残し、下半は縦方向にミガキ仕上げる(図版22-3)。25・26は底部で、25

は上げ底で、26が平底。25の口縁部には凹線文をもたず、26は凹線文をもっていたと考えられる。27は口縁端部と直下に刻目貼付突帯をもつ甕。胎土に角閃石をごく少量、赤色粒をやや多く含む、東南部九州系・山ノ口式系の搬入土器である(図版22-4)。

28~34は石器。28は棒状の磨石か。結晶片岩製であるが、半身はか表面の多くは剥脱し、磨面の残存範囲は狭い。29~32は台石ないし磨石。29は扁平な両面の中央部を中心に敲打痕が集中するとともに、両面を磨面として使用する。花崗岩製(図版22-5)。30は横断面不整な三角形を呈し、その2面を磨面として使用する。花崗岩製で、風化により剥落が著しい(図版22-

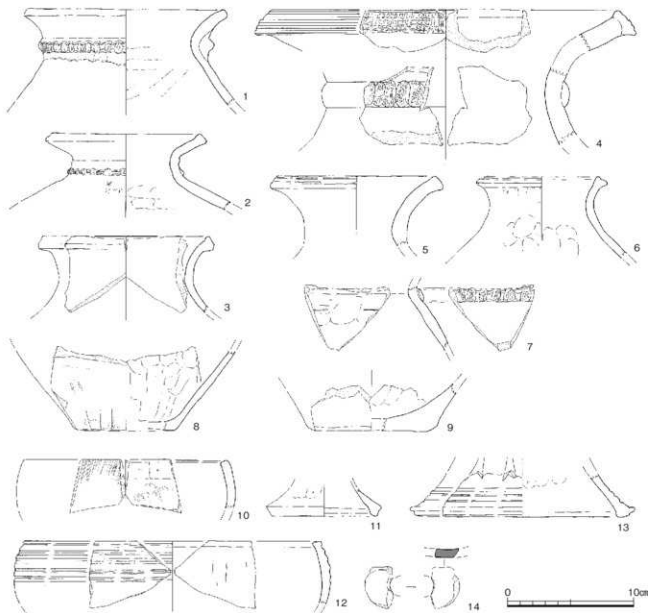


図25 SC-3出土遺物 (1) (縮尺1/3)

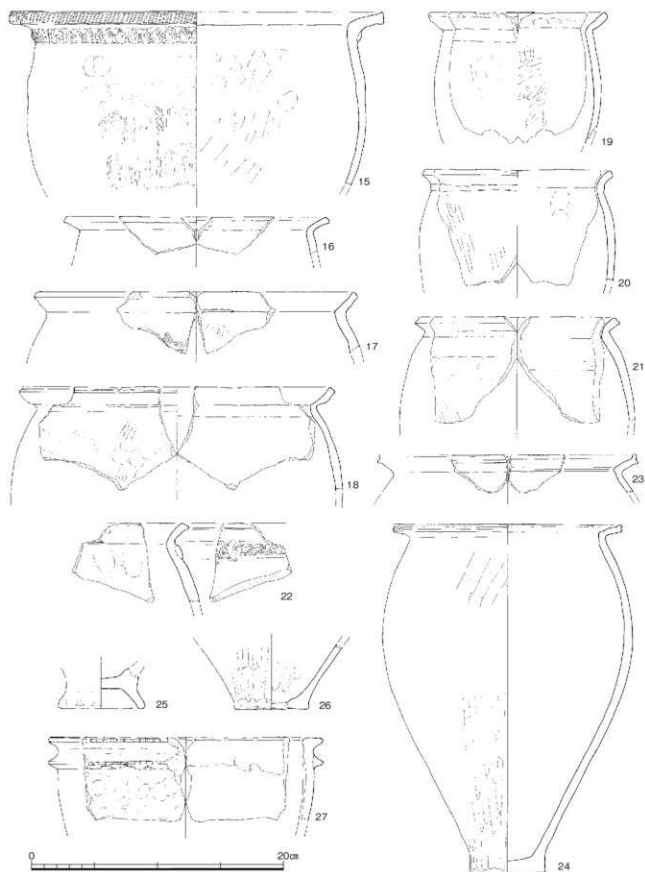


図26 SC-3出土遺物 (2) (縮尺1/3)

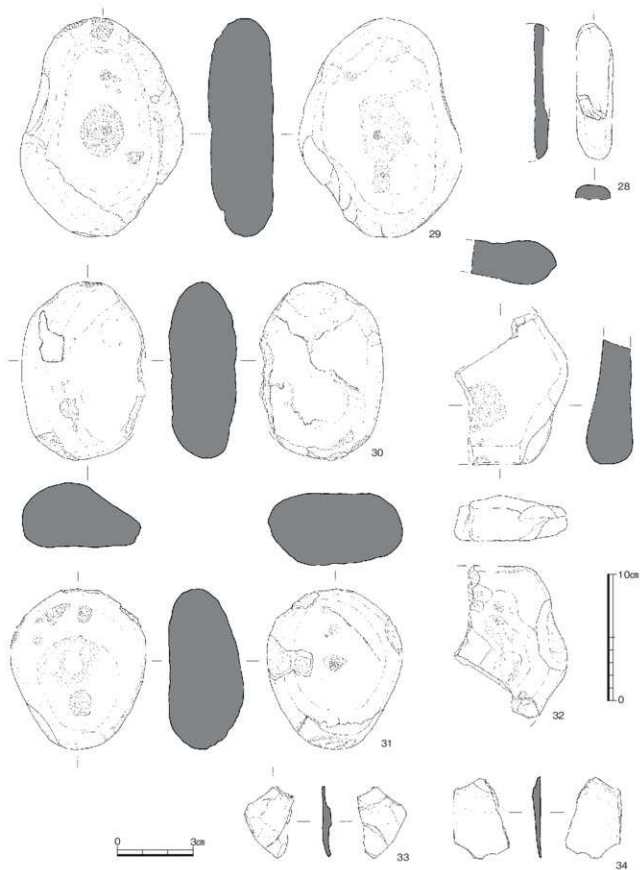


図27 SC-3出土遺物 (3) (縮尺1/3, 2/3)

6). 31は、やや断面に丸みをもつ表裏両面の中央部を中心に敲打痕が集中し、両面を磨面として使用する。花崗岩製(図版22-7)。32は平面多角形状の3辺が残り、表裏両面は敲打痕を残しながら磨面として使用され、1側面も磨面として顕著に使用されている。砂岩製(図版22-8)。33・34はサヌカイト剥片。

SC-3出土遺物は、床面出土土器を特定できないが、埋土から造成土まで含めた出土土器のほとんどがⅣ様式であるが、Ⅴ・Ⅰ様式まで降る土器も見られ、建物堅穴は中期後葉の可能性が高いものの、最終埋没は後期初頭まで降る。

(7) 4号堅穴建物(SC-4)

(図28～35、図版7-1・23～25)

DS29・DS30・DS31区、DT29・DT30・DT31区に位置する遺構。Y = -67285以東の14次調査範囲内は、14次調査SC-927として調査したが、ここではこれも含めて、16次調査B区SC-4として一括報告する。調査時には、埋土の観察から上下2面の床面があるとして、SC-4とSC-5の2単位を想定したが、平面的な区別ができず、かつ伴うカマドおよびカマドから掻き出された焼土・炭層の広がり、さらには主柱穴の組み合わせが1単位(面)であることから、1棟の堅穴建物として、SC-4に一括する。

SC-14・15、14次調査SD-953(16次調査B区SD-33)、14次調査SK-914に切られ、14次調査SC-141(16次調査B区SC-32)・14次調査SC-955(16次調査B区SC-31)を切る(図版7-1)。

北側にカマドを設ける長方形の堅穴建物で、東北部は塹壕による擾乱を受けてわずかにコーナー部が残るのみ。南北6.0m・東西6.8m前後を測り、東側がやや影らむ。主柱穴はP1・不明(擾乱)・P27と14次調査SD-953内の柱穴状の凹みの4本で、柱間南北2.9m・東西3.5mと、平面形に対応している(図28)。

掘り下げに際しては、東西畦(X = 94048.2)で、14次調査分および16次調査B区分を南北に分割している。埋土最上部の①層は暗褐色砂質シルトで、小指先大のひしゃげた明黄褐色砂質土の小塊をまばらに、部分的に焼土の薄いレンズ状の塊を点々と含む。下面は標高27.05～27.10m。土層観察用畔から外れていたが、カマドから続く中央部に細長く伸びる焼土・炭層も、これに対応するとみられる。その下には、暗褐色砂質

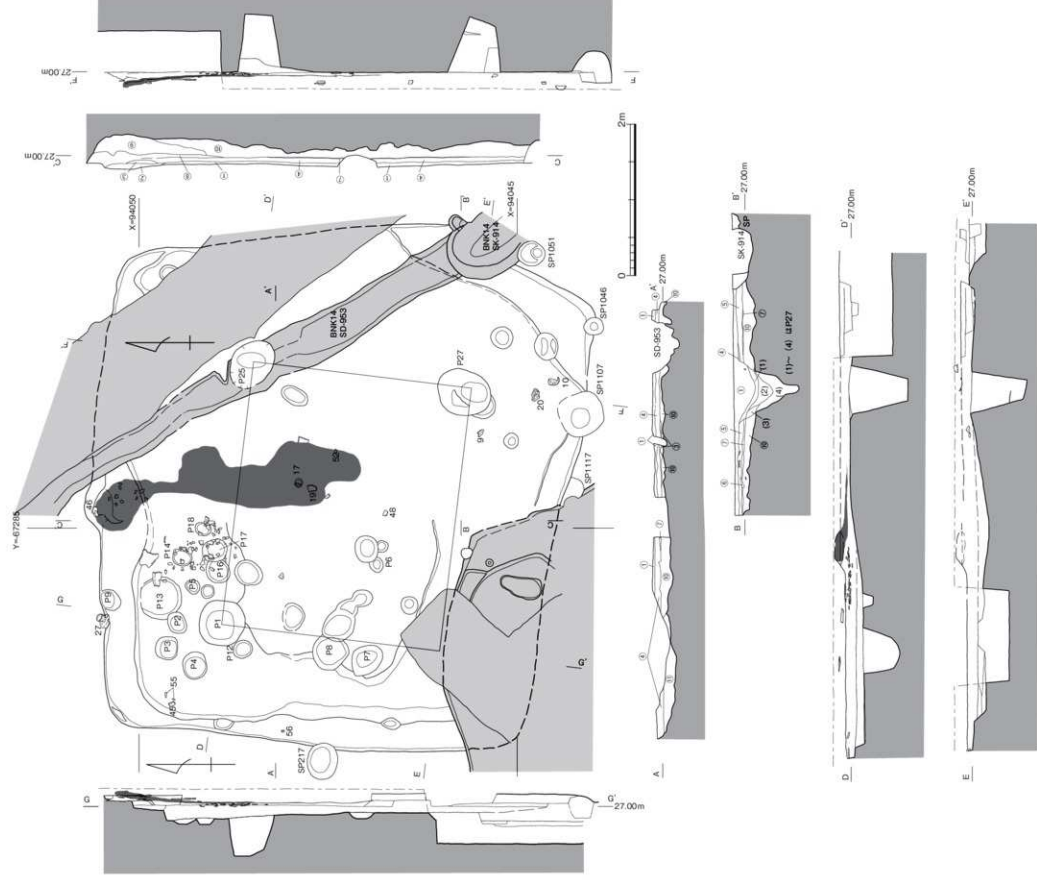
シルトに明黄褐色砂質土の小指～親指先大の小塊をややひしゃげた状態で含む、ほぼ同質の埋土④層がある。この埋土④層の上にカマドの崩落土(②層)と火床部(③層)がのるとともに、下面には暗褐色砂質シルト中に、褐灰色細砂・明黄褐色砂質シルトの小指先大の小塊を点々と含む⑦層が薄く水平に堆積する。以下は明らかな造成土(⑧～⑪層)である。これらから、カマドが機能していたより以前に、より下位に27.00mあたりを床面とする段階が存在していた可能性がある。しかし、既に述べたように、主柱穴は1組のみで、建て直しの痕跡も窺えない。また、西部の一段高いテラス部にも下部の④層が広がり、最上部埋土①層の堆積範囲は狭く、明確に異なる建物とは認識できず、SC-4として一括する(図28・29)。

主柱穴の1基であるP27は、埋土がいずれも中央部に凹み(①～④層)、さらに上位の堅穴建物埋土①層も大きく落ち込み、住居廃絶に際して柱を抜き取ったことが窺える。

SC-4出土遺物はコンテナ7箱に及ぶ。埋土からの出土が多いが、カマドから建物中央部にかけての焼土・炭層の広がりが、とくにカマド左手前(西側)から、土師器・須恵器の小片がまとまって出土している。ただし、カマドで使用した状態、あるいはそれを降ろした状態ではなく、いずれも小破片で、大型に復元できない。その他、南西部の埋土上位にやや大型土器片の出土がみられる。また採取した、カマド・焼土・炭層から炭化物を多く選別しているが、その中には多くの動物骨片が含まれていた。また、埋土に1点ながら瓦器小皿1点が含まれていたが、これは紛れ込みとみて、別途報告する。

出土遺物からは57点が図化できた(図30～34、図版23～25)。

1～20は須恵器。1～7は坏蓋で、1は口縁端部内面に明瞭な段があり、外面口縁部と天井部の境は突帯状(図版23-1)。2は口縁端部内面に段をもち、外面口縁部と天井部の境は明確な線をなす。3・4も同様だが、外面の線はあまい。5・6は、口縁端部内面と外面口縁部と天井部の境がともに凹線となる。7は天井部内面に青海波文をもつ。8は口縁部が短く天井部へと線をなして屈曲する低平な坏蓋。口縁部外面にペラ状工具による刻目痕が見られる(図版23-3)。9～13は蓋杯。9は口縁端部内面に段をもち立ち上がりが高く、内底面に青海波文が残る(図版23-4)。P27脇の



想定される床面近くで出土した。10は口縁端部内面に段をもつが、立ち上がりは9より低い(図版23-5)。11~13は口縁端部を丸く収めるが、立ち上がりはまだやや高い(図版23-6)。14は短頸壺蓋。口縁部内面に段をもち、端部が外反する。天井はやや丸みがあり高い(図版24-1)。15は提瓶胴部片。同心円状のカキ目か外面に施される。16は大きく外反する趣口縁部で、器壁が薄い。17は円孔を穿った趣胴部で、底部を内面から棒状工具による突き出した後、外面を回転ヘラケズりする(図版24-2)。18~20は甕胴部で、いずれも外面平行タタキ目、内面青海波文をもつ。18は肩部に自然軸が厚く付着し、胴部へと幾筋も滴り落ちている(図版24-3)。建物中央部の焼土・炭層の広がりから17・19は出土した。

21~34は土師器。21~29は甕。上胴部片の29を除いて口縁部で、いずれも内湾気味である。21は口縁端部を内面につまみ出し、22・23は肥厚して上端面をなす。24は丸く肥厚し、25・26はやや尖り気味に外方へと伸びる。27は口縁部中位が外面側に肥厚して端部は外側に面を取る。上胴部外面は斜め方向のハケ目調整を施し、頸部を横ナデする(図版24-5)。建物壁北辺脇の高い位置から出土した。28は内湾気味の口縁部を横

ナデつまみ上げて二重口縁状となる(図版24-4)。29は上胴部のハケ目が横方向。30は直立からやや外湾気味で口径は小さく壺とした。口縁部内面にはハケ目が残る。31は内外面ハケ目を残し、わずかに外傾した直口の口縁部で甕とした。32・33は甕ないし壺の把手部で、32は断面扁楕円形(図版24-6)、33は不整形円形(図版24-7)。34は高坏口縁の坏外反部片。

35~46は弥生土器。35は大きく外反して上下に拡張

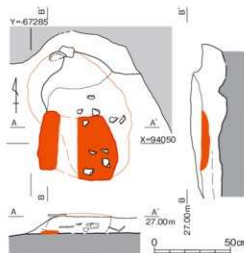


図29 SC-4 カマダ遺構実測図 (縮尺1/25)

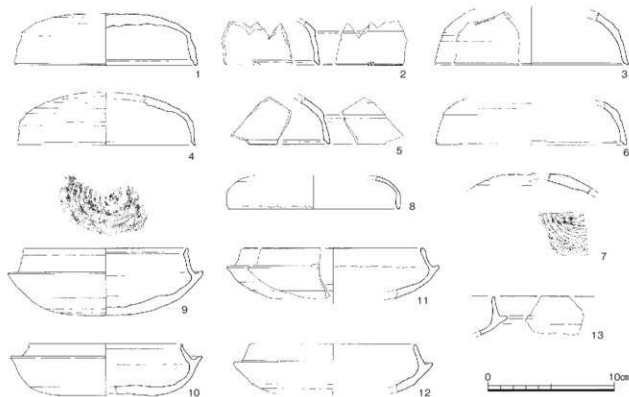


図30 SC-4 出土遺物 (1) (縮尺1/3)

する口縁部で、円筒状突文2単位が残る。36は少し外反する直口壺口縁部。器壁は薄く、外面縦ハケ目を残す。37・38は壺頸部。37は板小口を横方向に2段連続押圧することで突帯状とし、その上に爪形の刻みを施す。38は貝殻によるノ字状刺突文をもつ甕胴部片。植物種子の圧痕らしきものも覗える。39は壺底部。40・41は甕口縁部。40はやや張りのある胴部から緩やかに外反し、端部を横ナデつまみ上げる。41は口縁上端と少し下がった位置に突帯を貼り付けて刻みを施す。このような形態および角閃石を含んだ胎土から、東南部九州系・山ノ口式系の搬入土器である。42は高台状を呈し、やや開き気味ながら、内面にコゲが見られることから大型の甕底部とした。43は小型の高台状で、比較的丁寧な作りと被熱のないことから鉢底部とし

た。44も外面に縦ミガキがみられ、内面は丁寧なデ・オサエが見られ、鉢の可能性が高いとする。45は2段に矢羽根透かしをもつ大型の脚部で台付鉢脚部である。46は高坏坏部。緩やかに内湾して端部を内側にやや突出させる。

47は分銅形土製品の下半部片。両面とも無文で厚みは7～8mmとやや薄い(図版249)。

48～54は石器。48・49は火成岩製の砥石。48は断面台形状で、上面と下面半分を顕著な砥面とし、1側面も砥面としている。目は細かい。現重量3142g(図版251)。49は表裏2面を用い、一部被熱黒変する。現重量4588gを量る(図版252)。50は扁平長楕円形の叩石で片面中央部と両小口面に敲打痕が顕著に残る。粗い砂岩製(図版253)。51は凹石。凸面側の磨

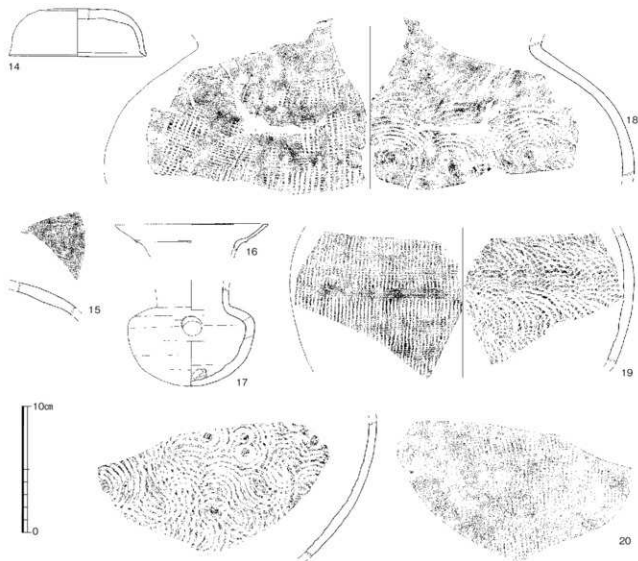


図31 SC-4出土遺物 (2) (縮尺1/3)

面中央が敲打により深さ1cm弱の凹みをなし、凹面側は凹凸を残しながらも全体に磨面としての使用が見られる。砂岩製(図版25-4)。52・53は小型の磨石。52は扁平で匙状をなし(図版25-5)、53は全面が丁寧に磨かれた楕円球状(図版25-6)。54はササキト製平基式打製石鏃。表裏とも主要剥離面大きく残り扁平で、先端を欠損する(図版25-7)。

55は鉄鍔。現長16.3cm、復元長17.6cm、刃部最大幅1.7cm。柄部断面長方形から台形状で刃部5cm程度が反り上がり、反り上がった側の中央部が鑄をなす(図版25-8)。56・57は鉄滓(図版25-9・10)。

SC-4堅穴建物の時期について、使用時を示す可能性が高いのが、床直ないし床面に広がった焼土から出土

した9・17・19、カマドから破片で出土した21・25である。このうち17の須恵器罌や21の土師器甕は古相を示すが、25などのやや新相のものもあり、床面以下の造成土から出土した1・5・6・8・9・14・18・30・31のうち、8のような比較的低下な須恵器坏蓋もあり、6世紀前葉には廻り難い。6世紀中葉前後の時期を想定する。

(8) 14号堅穴建物 (SC-14)

(図36~42、巻頭図版2-1、図版7・8・26・27)

DS29(旧N13)区を中心に、DT28-DT29-DT30区、DU28-DU29区に堅穴建物群が重複していた。遺構検

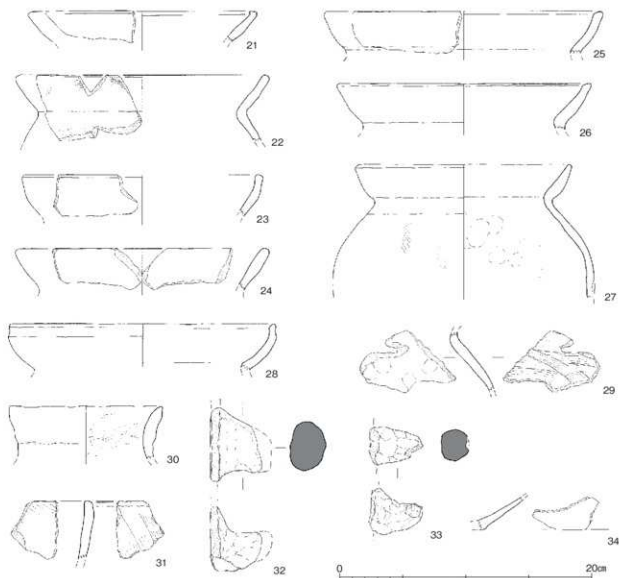


図32 SC-4出土遺物 (3) (縮尺1/3)

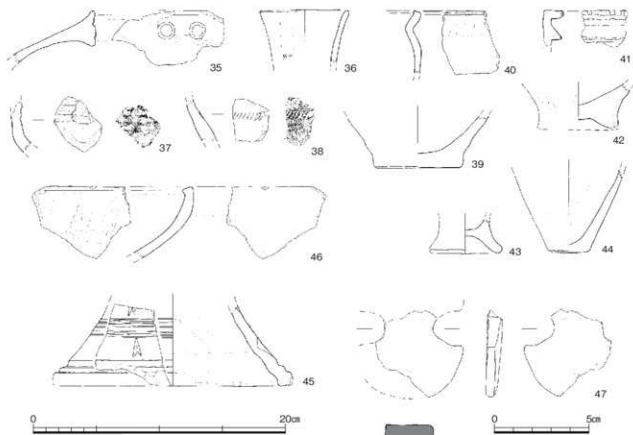


図33 SC-4出土遺物(4) (縮尺1/3, 1/2)

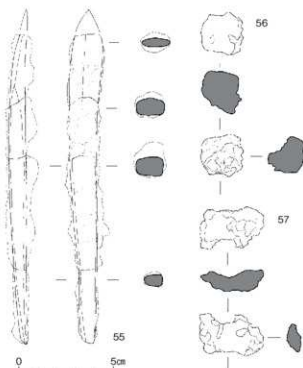


図35 SC-4出土遺物(6) (縮尺1/2)

出段階でSC-14～17の遺構名を一旦は付与したものの、明確な切り合いおよび平面の広がりを見逃し、N13区に重複する建物群ということで、途中からSC-N13群として一括して掘り下げを行った。竪穴建物内の区分けは、北側のカマドを基準に、東西と南北の畔で分割されたそれぞれの区画について、北東部を1区、南東部を2区、南西部を3区、北西部を4区としている。なお、Y=-67285の南北ラインが6次調査B区と14次調査の境界にあたり、14次調査SC-926として調査は別途行ったが、以下では一括して報告する。

調査後に、土層の切り合い関係および平面遺構配置を検討した結果、SC-N13群のうち上層に位置し北辺にカマドを設ける竪穴建物をSC-14(調査時より北辺にカマドを有する竪穴建物にSC-14付与)、下層の西辺にカマドを設ける住居をSC-15(調査時より西辺にカマドを有する竪穴建物にSC-15付与)、これらに切られて南側に広がるSC-16とし、SC-17は廃した。なお、竪穴建物床(底)面出土した柱穴・小穴ほかの遺構は、SC-15～16への帰属が明確でないため、基本的にSC-N13群として調査した際に付与した、通し番号に

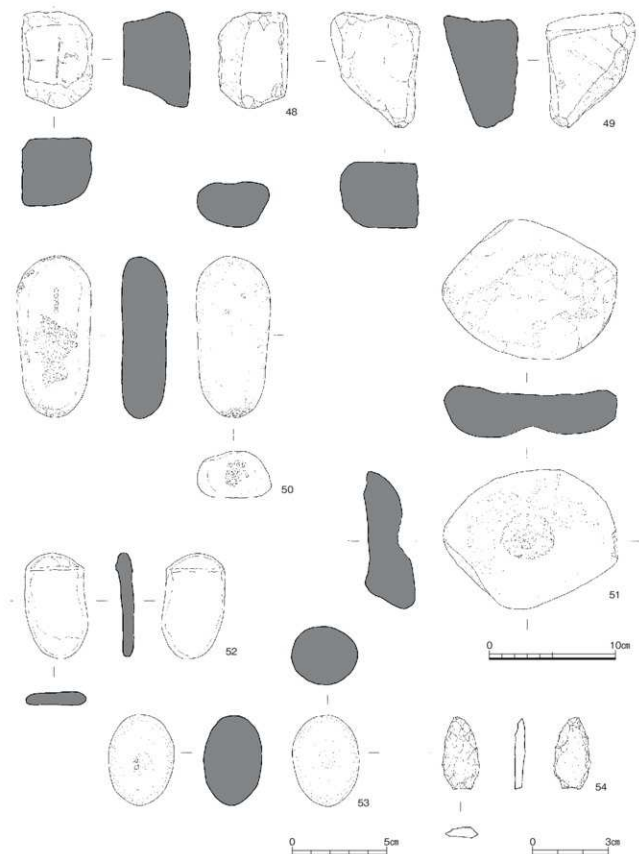


図34 SC-4出土遺物 (5) (縮尺1/3, 1/2, 2/3)

従っている。すなわち、SC-14・15P83やSC-16P60等である。また同様に、出土遺物についても、SC-14とSC-15の帰属を判別できないものも多く、これはSC-14とSC-15の項目と分けて、SC-14・15出土遺物として別途報告する(図36、図版7)。

以上のような経緯の中で再設定したSC-14は、北辺中央にカマドをもつ最上位の堅穴建物で、下部のSC-15を切るとともに、SC-4・SC-16を切る。

平面は南北約6.0m×東西約6.8mを測る大型方形。主柱穴はP15・P73・P7・P86の4本で構成され、柱間は南北3.6m・東西3.8m(図37)。

SC-N13群として4分割して掘り下げを行ったところ、最上層の埋土1層は暗褐色砂質土で、明黄褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土の1cm大の丸いブロックを多く含み、しまりがなかった。10cm前後の堆積で、その下で焼土・炭層(4層)が建物堅穴の北西部に大きく広がり、北辺中央部では4層の上に、やや北に突出して焼土層(3層)が広がった。3層は火熱を受けたカマド上部の焼土崩落土層であり、4層はそのカマドから掻き出された灰や炭、焼土を含んだ層である。4層は、平面的にカマドから堅穴建物北西側1/4程度に広がり、面的広がりが見られない範囲でも、4層の位置で断続的なが上下に埋土が分割できたことから、住居床面に広がった層と理解できる。床面レベルは26.90~26.94mである。そして、埋土1層の広がりを南北畔で観察できたことから、平面的に不明な南辺の位置をおよそ復元提示できている(図36)。

カマドは、上部崩落土の3層を除くと焼土・炭層の4層が続き、さらにその下で再び焼土が現れた。カマド基底の燃焼部であり、北側住居外方へ底面が上昇する。また、東西約85cm・南北約65cmの、逆U字形に南に開く盛り上がりがあり、カマド基底部と認められた。北辺もこれに併せるかのように、わずかながらも外方に膨らむ(図38)。

下にSC-15が続いたため、カマド以外のSC-14に伴う遺構を明確には認識できていない。主柱穴も、埋土を畔等で観察記録できたに留まる。それによると、主柱穴に柱痕跡は見られず、建物廃絶時にすべて柱は抜き取られたと判断できた。

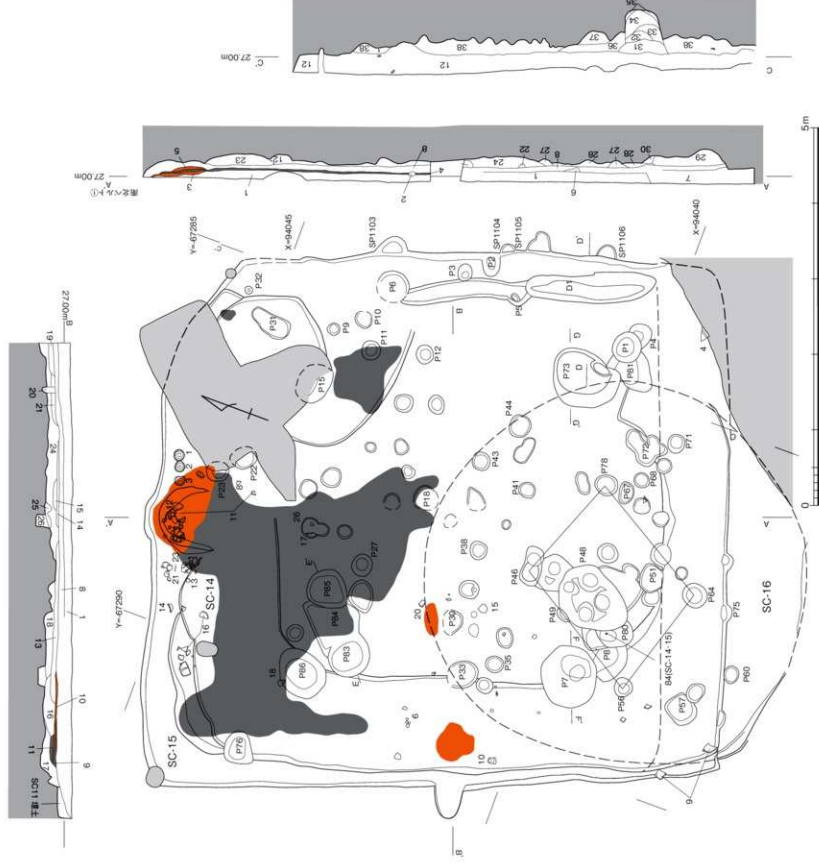
SC-14出土遺物として峻別できるのは、北辺のカマドに直接関わる出土状況がわかるもの、床面に広がった焼土・炭層の4層およびそれ以上の埋土1層出土が明らかなもので、コンテナ3箱分になる。また、カマ

ドおよび焼土・炭層は土壌を採取して水洗選別を行ったところ、多くの炭化物とともに、動物骨片も多く採取することができた。

出土遺物から図化できたのは26点(図39~41、図版26・27)。11はカマドに載せられたものが落下した状態で出土した。調査時には2個体が並列し2基掛のカマドとも見えたが、出土土器を復元しても2個体にはならなかった(図38、巻頭図版2-1、図版8・2・4)。1~3・8・9はカマド東脇床面に固まり、とくに1・2は完形で横に並んで出土した(図38、図版8-1)。西脇床面にも遺物が散在し、13・14・16・21~23が含まれる。また4・7・10はカマドから南西に広がる炭層中から、15は中央部に離れるが、床面付近からの出土である。

1~10は須恵器。1は坏蓋、口縁部から丸みをもって天井部へと移行する(図版26-1)。2~6は坏身。2は出土状況から1とセットの可能性が高い。立ち上がりは1cm程度で内側に厚くやや内傾し、底部は丸みをもち、回転ヘラケズリも1/2程度。焼成が良くない(図版26-2)。3も1・2に並んで出土したが、口縁の一部を欠く。立ち上がりはやはり1cm程度で薄くやや内傾し、回転ヘラケズリの範囲がやや広く、その分底はやや平坦(図版26-3)。4~6は口縁部片であるが、いずれも立ち上がりは1cmに満たずやや内傾する。7~10は壺。口縁部・頸部・胴部の別があるが、焼き上がり・胎土からいずれも別個体である。7は口縁部片。口径12cmと小型で端部を外側に丸く巻き込む。8はやや細みの頸部。趣の可能性もある。9・10は丸底の底部。いずれも底部外面は回転ヘラケズリで、9はその範囲が広い。

11~18は土師器。11~14は甕。11は口縁部が内湾し、上端面はわずかに内傾する。頸は横方向のハケ目調整を施すが屈曲は緩やかで、胴部は斜めから縦方向のハケ目調整が残り、肩もあり張らず長胴化がうかがえる(図版26-4)。12も口縁部はわずかながら内湾気味で、上端面はわずかに内傾する。頸部の屈曲と肩部の張りは11よりやや明瞭。胴部は斜めから縦方向のハケ目調整がなされ、肩部に刺突文が施されている(図版27-1)。13は直線的な口縁部片。14は口縁端部を欠く頸胴部。口縁部は内湾気味で肩部には横方向のハケ目調整が認められる。15~18は甕。15は直線的に外傾する口縁部。外面は斜めから横方向のハケ目調整、内面は横方向のハケ目調整がなされる。16は胴部下半片。胴部



- [illegible]

圖36 SC-14・15・16遺構重複關係實測圖 (縮尺1/50)

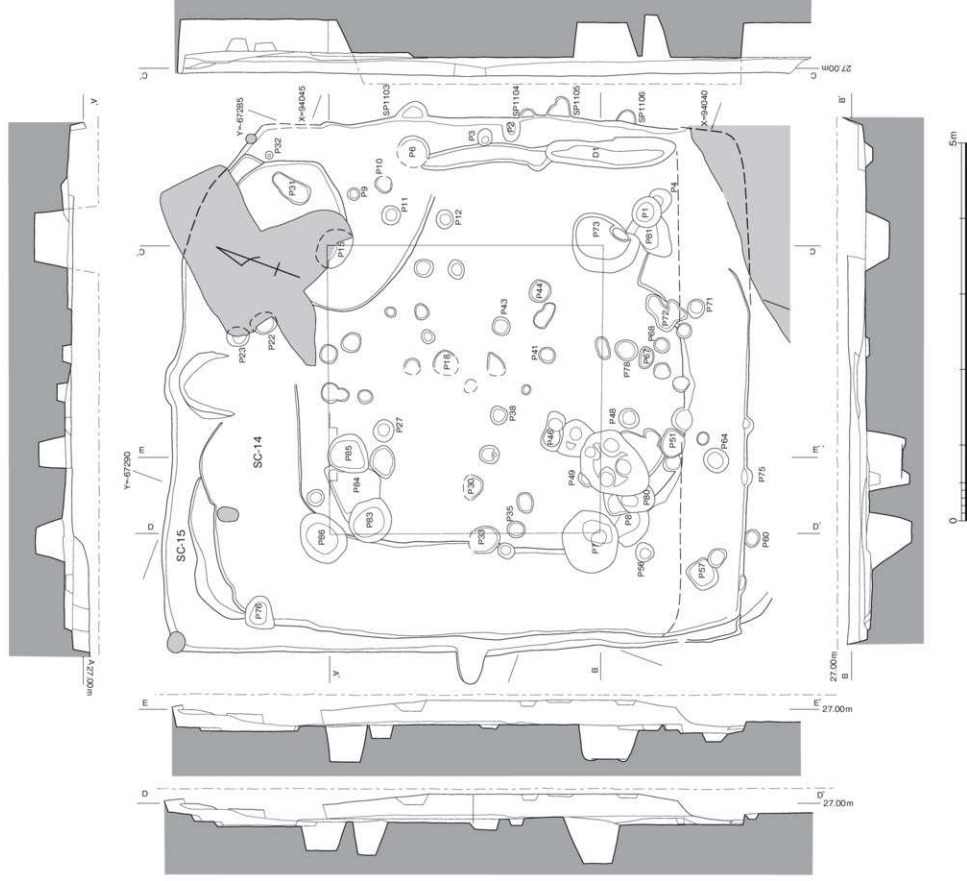


図37 SC-14・15遺構平面図 (縮尺1/50)

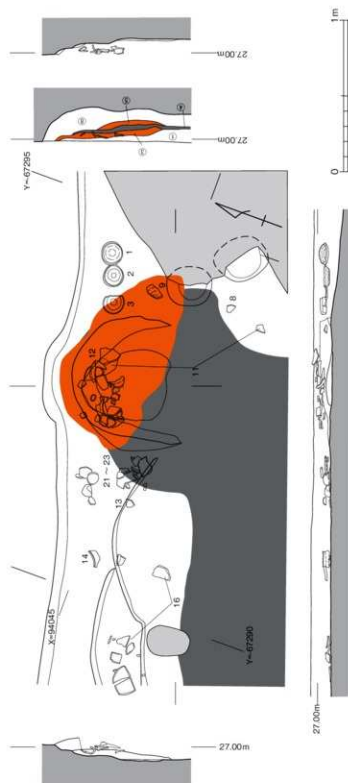


図38 SC-14カマド周辺遺構実測図(縮尺1/25)

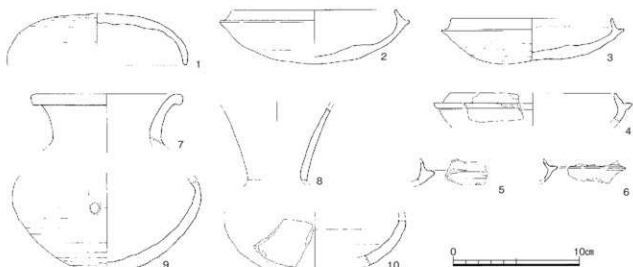


図39 SC-14出土遺物 (1) (縮尺1/3)

中位からやや下よりに、上方向に反り上がった把手が付き、胴部下端に円孔が1孔残る。外面ケズリ後縦方向ナデ、内面は横方向のケズリを施す。把手表面はナデ・オサエによる凹凸が顕著に残る(図版27-2)。17は底部片。胴部へは逆ハの字状にやや大きく開く。底部内面は幅1cm程度で横方向にケズリ調整する。18は把手部。断面は横方向に扁楕円形(図版27-4)。

19・20は弥生土器。19は短頸甕で、肩部に板状工具小口による刺突文を施す。内面はオサエの凹凸を残す。20は底部片。

21~23はカマド西脇でまとまって出土した土製品。21が略碗形で22・23は断片。全面をナデ・オサエにより円盤状に整形する。いずれも明赤褐色から明黄褐色で焼成は良くなく脆い(図版27-5~7)。

24・25は石器。24は粗い砂岩製の磨石の破断片。破断面に被熱痕がみられる。25は丁寧に研磨された面が45°前後の端部すなわち刃部をなす磨製石剣の断片。頁岩製か(図版27-8)。

26は鉄洋。現重量54.2gとやや大型(図版27-9)。

SC-14の時期については、カマドから落下した土師器甕、カマド脇床面や焼土から出土した須恵器・土師器、とりわけカマド東脇床面から並んで出土した完形須恵器杯蓋・坏身のセット(1・2)から、6世紀中葉でも後葉に近い時期に求められる。

(9) 15号竪穴建物 (SC-15)

(図36・37・42、図版7・28)

SC-14の下層で出土した、西辺中央部にカマドを敷設した竪穴建物。SC-14に切れ、SC-4・SC-10・SC-11・SC-12・SC-16・SC-19・SC-20・SC-21を切る(図36、図版7)。

平面は、南北約7.5m×東西約7.0mの方形と、SC-14より一回り以上大きく、西辺中央にカマドをもつ。主柱穴はP15・P73・P7・P86の4本とSC-14と重複し、柱間は南北3.6m・東西3.8m。ただし、西側2基の柱穴は、P7に替わりP48、P86に替わりP85の可能性もある。すると南北柱間は3m程度となる。このように、一回り大きく西側にカマドを敷設したSC-15がまず営まれ、その後一回り小さく床面も上げて、北側にカマドを付け替えたSC-14が造成され、主柱穴は基本的に踏襲されたことと復元できることになる(図37)。

SC-15埋土は、SC-14としては床面を成していた造成土部分に相当する暗褐色砂質土(8層)である。1層との明確な差はなく、分層が明確でない範囲もあるが、にぶい黄褐色砂質土が大量に混じり、しまりがややある。厚さは10cm弱程度。南側でも基本的に同質で、5mm大の丸い明黄褐色砂質土ブロック少し含み、にぶい黄褐色砂質土が全体に混じる暗褐色砂質土(7層)が、検出面から20cm程の厚さで見られる。なお、14次調査段階(畔C-C'ライン)では、SC-14・15の区別を十分認識しないまま一括して12層としている。

西辺中央部付近には、8層の下面上に、カマドから掻き出された焼土・炭屑(10層)が一部薄く広がり、床面を26.86~26.90mとすることができる。10層の上、西側に偏ってはカマド上部の崩落焼土層(9層)があ

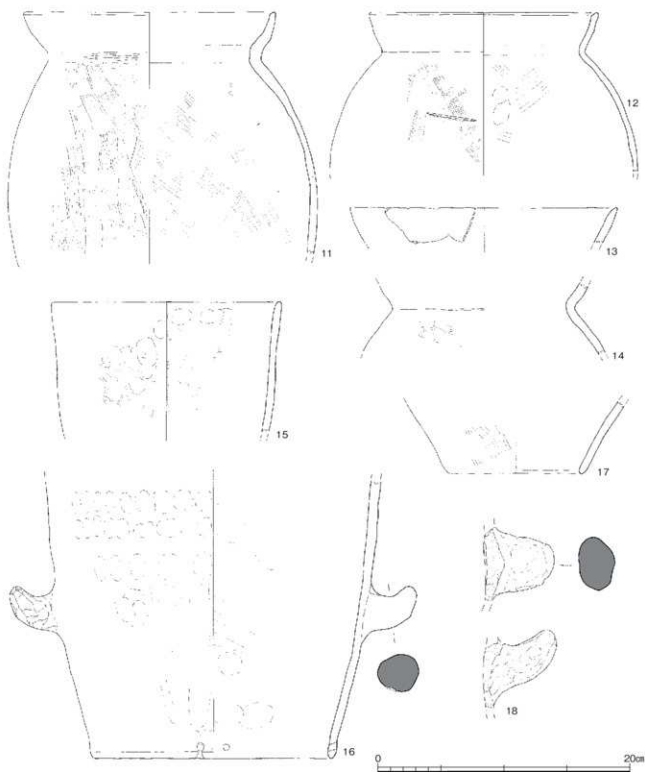


図40 SC-14出土遺物 (2) (縮尺1/3)

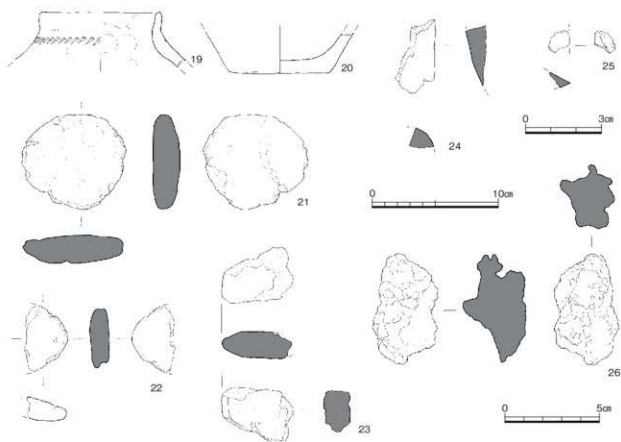


図41 SC-14出土遺物 (3) (縮尺1/3, 1/2, 2/3)

るとともに、10層下面では径50cm程度の不整形な範囲が焼土となり、カマド基底部であったことが窺える。上部にSC-14が造成されたことから、カマド壁基底部は残らず、カマドとしては、建物壁穴から50cmほど西に延びた煙道部が残るのみである（図36）。

SC-15出土を特定できた遺物はコンテナ3箱。SC-14床面より下、あるいは西側と南側のSC-14平面範囲より外側といった条件が確定な遺物である。図化できたのは11点（図42、図版28）。カマド近くの6・10が床面での出土で、とくに後者は完形品である。

1～4は須恵器。1～3は坏身。1・2は立ち上がり1cm弱でやや厚かった。3は立ち上がり全体が断面三角形で低く、口径も12cmと小さい。4は大型甕の口縁部で、端部を外側に拡張し、以下に上下を突帯で区画してカキ目調整した後にヘラミガキ状に文様を施す（図版28-1）。

5～10は土師器。5～8は甕。5はほぼ直線的に外傾する口縁部で、上端面はわずかに内傾する。胴部外面最上段は横方向のハケ目調整が見られるが、以下は斜めから縦方向のハケ目調整である（図版28-2）。6

は緩やかに外反気味に長く伸びる口縁部で、端部は内側に面をもち、胴部外面には斜め方向のハケ目調整が残る（図版28-3）。7は頸部からの屈曲がさらに緩やかで外反する口縁部。内外面摩擦するが、外面には一部横方向のハケ目が残る。8は外面側に肥厚するが直線的に外傾する口縁部片。9は甕。胴部中位やや下よりに、上に反り上がった把手が付く。外面は口縁近くを横方向、他は縦方向のハケ目調整。内面は横方向のケズリを施す。把手表面にはオサエの凹凸が顕著に残る（図版28-4）。10は完形の小型丸底甕。器壁は全体に厚い。外面は口縁部を板ナデ後ナデ調整し、胴部をケズリとオサエにより、底部外面は未調整で、本来の丸底が自重によるのか平底状となっている。内面は口縁部に板状工具を押し当てた痕跡が残り、端部は横ナデ。胴部内面オサエである。全面に赤彩が施されていたとみられる（図版28-5）。

SC-15の時期は埋土から出土した須恵器坏身のうち3や、外反気味に伸びる口縁の土師器甕である6・7など6世紀後葉から末葉まで下がり得る新相もみられる。とりわけ6はカマド付近床面から出土しているが、

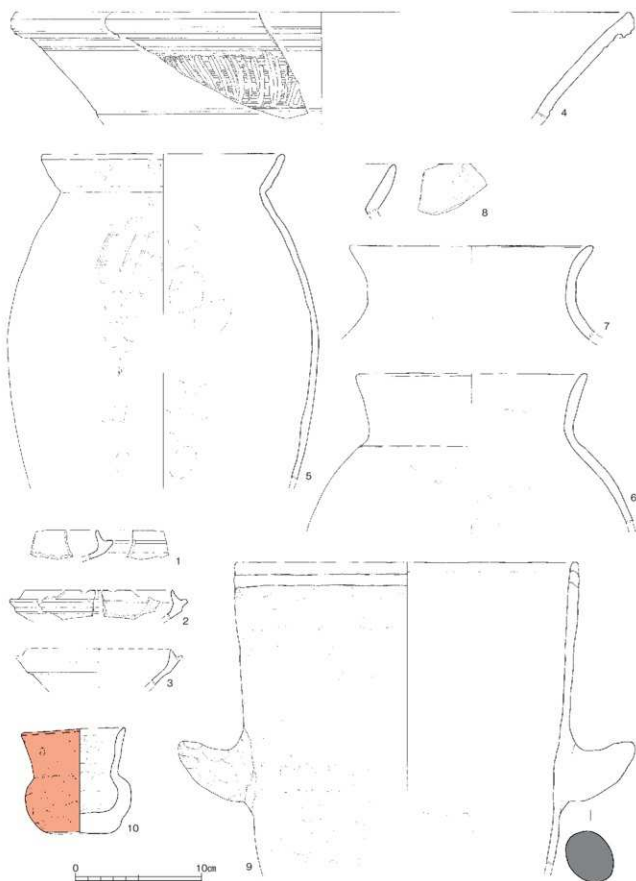


図42 SC-15出土遺物（縮尺1/3）

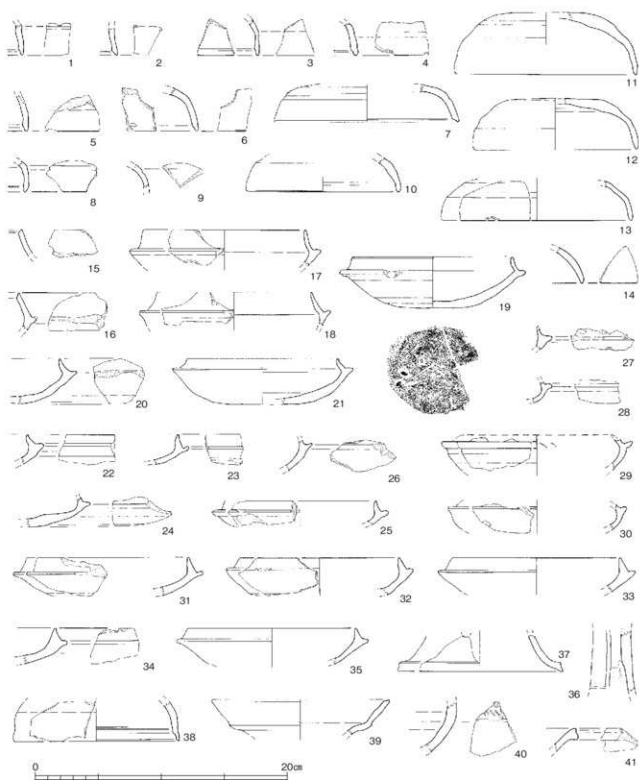


图43 SC-14·15出土遗物 (1) (缩尺1/3)

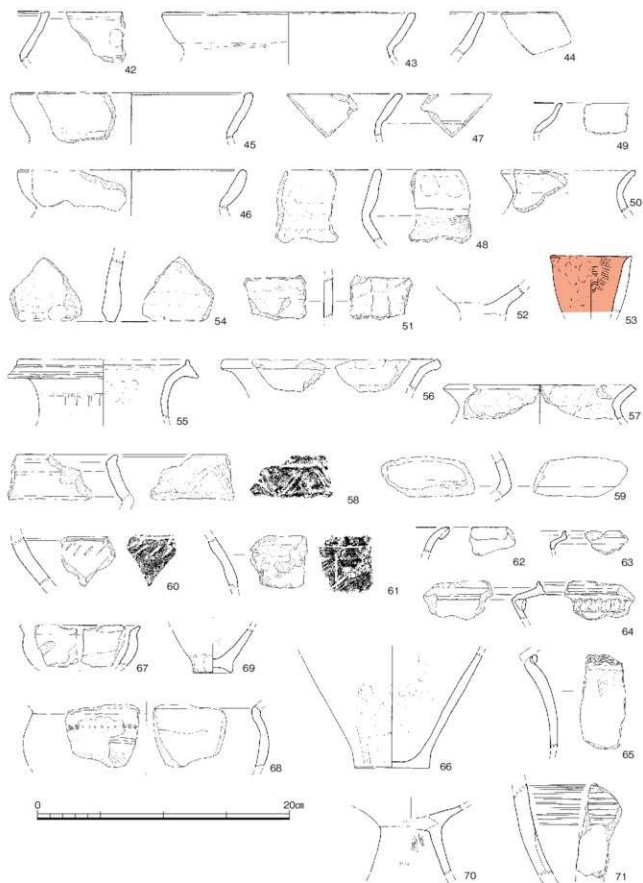


図44 SC-14・15出土遺物 (2) (縮尺1/3)

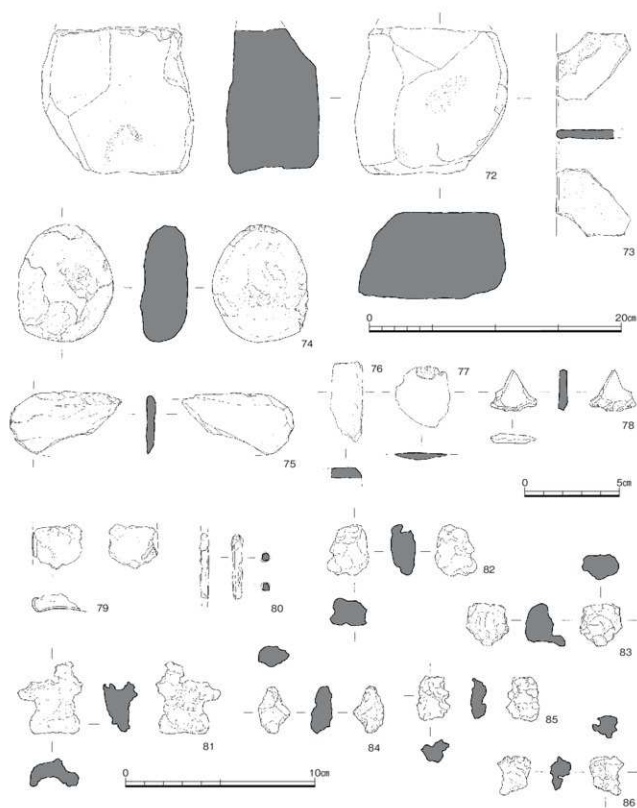


図45 SC-14・15出土遺物 (3) (縮尺1/3, 1/2)

一方で4の須恵器甕や10の土師器小型丸底甕など古相の遺物も認められる。何より、SC-15を切る（カマドおよび床面が確実にSC-15より高い）SC-14が6世紀後葉に近い中葉としたことから、これを遡らなければならない。SC-14・SC-15いずれも、6世紀後葉の中で位置づけるのが適当なようである。

※ SC-14・15出土遺物

SC-14あるいはSC-15出土遺物でありながら、取り上げ時にSC-N13群等として、整理後のSC-14とSC-15への帰属を明確にできない遺物が少なくない。詳細な分層のないまま3区埋土等として取り上げた遺物、他帰属の明らかでないP等出土遺物であり、以下SC-14・15出土遺物として報告する。図化した遺物は86点（図43～45、図版29・30）。

1～41は須恵器。1～14は坯蓋。1～7は口縁端部内面に段をもち、1は口縁部と天井部の境に稜がある。8は口縁端部内面の段が凹線となり、9は外面の稜が凹線化し、口縁部から天井にかけて丸みをもつ。10～14は口縁端部をやや矢羽根状に丸く収め、天井に丸みがある（図版29-1）。15～35は坯身。15は立ち上がりで2cm以上と高く、端部内面に段をもつ。16は高い立ち上がりの端部内側に面をもつ。17・18は2cm弱程度の立ち上がりで端部を丸く収める。19～21は1cm強の立ち上がりで（図版29-3）、19の底部外面には×のヘラ記号が見られる（図版29-2）。22～27は1cm程度の立ち上がりで、内面の屈曲がほとんどなくなり立ち上がり自体が厚みを増す。28～30は受け部の張り出しが小さく、立ち上がりの内傾が大きい。31～35は1cm前後の立ち上がりで、かつ断面三角形形状である。36・37は高坏。36は長脚2段透かし脚部で、透かしは3方向。37は脚部。38は蓋蓋で、口縁端部内面に明瞭な段をもつ（図版38-4）。39・40は趣。39は2段状に大きく開く口縁部で器壁は薄い。40は胴部下半片で、中位の刺突文が残る。41は蓋口縁端部か、下端を回転ナデにより大きくつまみ出す。

42～54は土師器。42～50は甕。42～46は内湾する口縁部で、42は端部を内側につまみ出し、43～45はわずかに内傾した上端面をもち、46は端部を丸く収める。47は直線的に外傾し、上端面をなす。48は直線的に外傾するが、やや立ち気味。肩部外面には横方向のハケ目調整が見られる。49・50は小型。49は内湾して上端面をなす。50は頸部から緩やかに外反する。51は甕胴部片。外面に細かな縦方向のハケ目調整の後、板状工

具による押圧を施す。内面は斜方向のハケ目後に横方向のミガキ（図版29-5）。52は高坏接合部。脚は中実であったとみられる。53は直口蓋口縁部。胴部外面をオサエ後に縦方向のハケ目調整、内面を横方向のハケ目調整し、口縁部内外面を横ナデする。そして、内外面に赤彩を施す（図版29-6）。54は移動式カマドの底部か、あるいは底部の可能性もある。内外面縦方向のハケ目調整の後、端部をナデ・オサエにより調整する。内面から外面端部に被熱が認められる（図版29-7）。

55～71は弥生土器。55～61は壺。55は、上下に拡張した口縁端部に凹線文3条をもつ。56は二段状に大きく開く口縁部。57は短くくの字状に外傾する口縁部。胴部には縦方向のハケ目。58は短くくの字状に外傾する口縁部。胴部には縦方向のハケ目。58はクシ描波状文をもつ複合口縁壺の二次口縁部片。59も複合口縁壺の口縁屈曲部片。60・61は胴部片で、60は肩部に板状工具小口による刺突文を、61はクシ描波状文をもつ。62～66は甕。62は外反する口縁部の端部に接して幅広低平な突帯を貼り付ける。西南四国系。63は端部を上方向につまみ上げる口縁部で、1条の凹線文をもつ。64は口縁端部に上下に拡張して2条の凹線文を施し、頸部には指頭押圧突帯を貼り付ける。65は胴部片で、頸部に布目押圧突帯をもつ。66は底部。内面は縦方向のケズリを施し大型。67～69は鉢。67は短くくの字状に屈曲する口縁部をもつ小型。68は大型で、肩部に刺突文をもつ。69は小型の凹み底。70は坏部に脚を接合する高坏。71は上位に細いヘラ描波線を9条以上もつ脚部片。凹線文の下には矢羽根状とみられる透かしが、破片両側に施される。

72～78は石器。72は表裏と側面を磨面とする台石。片面中央部に敲打痕がやや集中する。花崗岩製（図版30-1）。73は砥石。砥面と側面が残る。砂岩製（図版30-2）。74は叩石。扁平な不整形円球状で表裏両面中央部に敲打痕がよく残る。花崗岩製で風化が進行している（図版30-3）。75は石包丁。外湾刃半月形で刃部の一端が残る。結晶片岩製（図版30-4）。76は柱状片刃石斧か、平滑面は1面のみが残る。緑色片岩製。77は磨石表面の剥離片。安山岩製。78はササカイト製刃器。平面三角形形状で刃部は両面からの交互剥離が見られる（図版30-5）。

79・80は鉄器。79は鐙轡か。折り返し部の一端が確認できる（図版30-6）。80は断面隅丸台形の棒状品。鉄鍍茶部か（図版30-7）。81～86は鉄滓。83には舌状

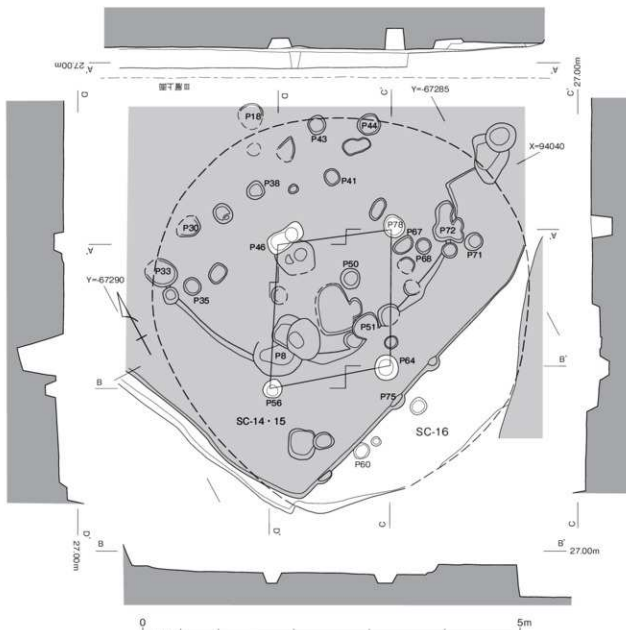


図46 SC-16遺構実測図 (縮尺1/50)

の突部が見られる (図版30-8～13)。

(10) 16号堅穴建物 (SC-16)

(図36・46・47、図版31-1)

DT28区で検出し、本来は北側 DT29区へも広がっていた堅穴建物。SC-14・SC-15・14次調査 SC-947 (16B次 SC-6)・14次調査 SC-950 (16B次 SC-8) に切られ、14次調査 SC-948 (16B次 SC-46) を切る (図36)。

残存するのは三日月状の範囲のみであるが、その円弧から復元すると、径は5m前後。その中心部で、

SC-14・15の下面で出土した柱穴から主柱穴となる候補を探すと、P78・P64・P56・P46の4本となる (図46)。

調査時には、SC-N13群南拡張部として掘り下げており、埋土の詳細は不明ながら、SC-14・15埋土で南側の7層と明確な区別ができていなかったことから、ほぼそれと同質な土層であったとみられる。7層は、5mm大の丸い明黄褐色砂質土ブロック少し含み、にぶい黄橙色砂質土が全体に混じる暗褐色砂質土 (図36)。

出土遺物はコンテナ1箱に満たない。図化できたのは2点 (図47、図版31-1)。1は残存したSC-16の範囲

の底面で検出した P60 出土の弥生土器壺肩部片。ノ字状刺突文が巡る。2 は SC-16 残存範囲の埋土出土の弥生土器壺下半部。球形に近く器壁は薄く、底部外面の仕上げは粗い。出土遺物はすべて弥生土器で、建物の時期は中期後葉に位置づけられる。

(11) 10号堅穴建物 (SC-10)

(図48・49、図版7・31-2~6)

DU28・DU29区に所在する。南北約5m、東西幅0.3~1.0mの台形状の遺構が検出された。そのうち、内側の南北3.6×東西0.1~0.6mの範囲が外側の遺構を切り、内側をSC-10、外側をSC-11とした(図48、図版7)。

SC-15に切られSC-11を切るSC-10は、南北3.6mを測り、東西は0.6m以上の、方形ないし長方形の堅穴建物となる。南北軸は北側で西に17°振る。

埋土の①層は、暗褐色砂質土で明黄褐色砂質土の丸いブロックを少量含む。以下の②層は、1cm程度の丸いブロック状に明黄褐色砂質土を含む暗褐色砂質土で、床造成土とみられる。

遺構底面で小穴P1とP2、そして西辺から少し離れて平行に約2mに及ぶ溝D1が出土した。D1幅は10~25cm、深さ10cm以下。南端にP2がある。

遺物は、出土地点を押さえた一部を除き、多くは取り上げ時にSC-10・11と一括で取り上げおり、コンテナ1箱程度にすぎない。SC-10・11出土遺物として図化できたのは10点でまとめて図示する(図49、図版31-2~6)。

このうち、SC-10に帰属を特定できたのが、3・5~7。3は須恵器筒形器台の口縁部か。沈線1条を挟んで2段に波状文を施し、沈線の上に縦位の浮文が付く。内面に自然釉と付着物が顕著である。浮文をもつ破片がSC-10出土で、接合しないものの明らかに同一個体の大型片は、15m以上離れたDX30区Ⅲ層の出土である(図版31-3)。5は土師器壺の肩部片。6は大きく開く弥生土器壺口縁部。端部を三角形にやや肥厚させる。7は弥生土器壺底部。

SC-10からは、3の6世紀を測る可能性の高い須恵器筒形器台があるが、5の土師器壺に古い要素は見いだせない。後述するSC-10・11いずれかに含まれる遺物中には、時期を明示できる須恵器として1・2の存在から、SC-10を6世紀中葉の早い段階に位置づけることができよう。

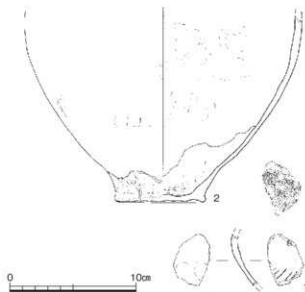


図47 SC-16出土遺物 (縮尺1/3)

(12) 11号堅穴建物 (SC-11)

(図48・49、図版7・31-2~6)

DU28・DU29区、DT28区に所在する、SC-15に東側を大きく切られた南北約5m、東西幅0.3~1.0mの範囲のうち、内側をSC-10に切り入れ、SC-11の底面が残る範囲はさらに狭い。しかし、本来は南北4.9mを測り、東西も推定4.0m前後の長方形に推定復元される。南北軸は北側で西に17°振る。SC-12を切る。遺構底面ではP1と小穴が接続したような不整形の溝D1が出土したのみで、主柱穴などは不明。他、南西隅部で焼土・炭層が見られた(図48、図版7)。

上述したように、SC-10・11で一括取り上げ図示を行った遺物のうち(図49、図版31-2~6)、SC-11帰属を特定できる遺物は9・10の2点のみ。9は円盤状の土製品で断面は算盤玉状に近い。胎土と焼成具合から弥生時代の所産とみられる(図版31-5)。10は砥石。台形柱状で、図示した上面と4側面を砥面として使用し、一部に敲打痕が残る。硅質片岩製か。現重量542g(図版31-6)。

SC-11出土遺物で図示できた中に、明確な古墳時代の遺物はないが、SC-11出土を特定できる遺物に須恵器・土師器を確実に含み、上述したSC-10と同じく、6世紀中葉の早い段階に位置づけしておく。

※ SC-10・11出土遺物

SC-10・11いずれかに帰属を特定できない遺物として、1・2・4・8が残る(図49)。1は須恵器杯蓋

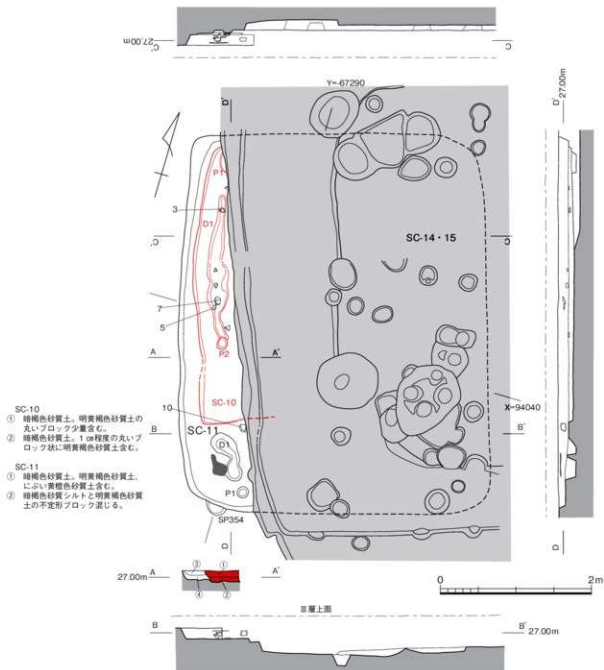


図48 SC-10・11遺構実測図 (縮尺1/50)

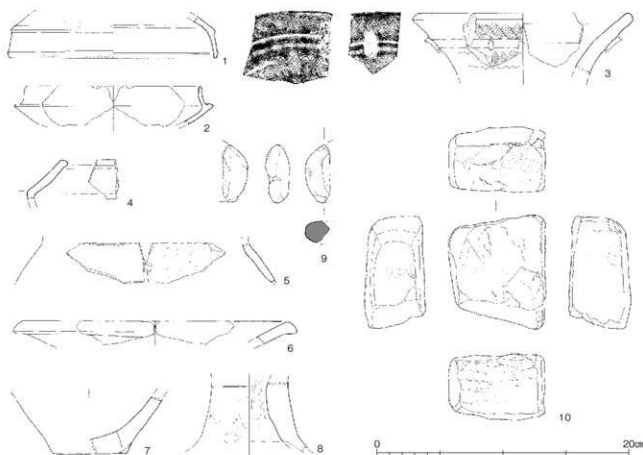


図49 SC-10・11出土遺物（縮尺1/3）

でやや大型。口縁端部内面に凹線、口縁部と天井部の境に突帯をもつ（図版31-2）。2は須恵器坏身。立ち上がりは15cm前後と高いが、端部を丸く収める。4は土師器甕。軽く内湾気味の口縁部で、端部は外傾する上端面をなす。8はやや大型の弥生土器高坏脚部（図版31-4）。

(13) 12号竪穴建物（SC-12）

（図50～52、図版7-1・32）

DU28・DU29区に所在する、北西・南東幅が4.0m、北東・南西幅は推定3.8mとはほぼ方形の竪穴建物。北側で西に40°とほぼ方位に斜交する。SB-1、SC-11・SC-15・SC-21に切られる。P6・P23とSC-14・15のP76と不明のもう1基からなる4本主柱穴とみている（図50、図版7-1）。

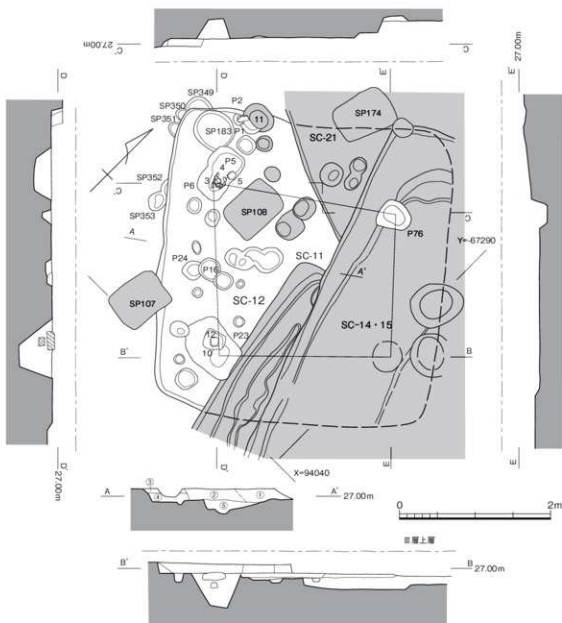
掘り下げは土層観察用畔を挟んで南北に2分して行い、埋土の遺物取り上げも南北の別となっている。埋土は、東側にいぶい黄褐色砂質土が広がり（①・②層）、西辺際50cm幅程度は、上下にいぶい黄褐色砂質シルト

が水平堆積する（③・④層）。そのため、④層上面を床とするSC-12と、それを切り①・②層で埋まるSC-38と別遺構と考えたが、③・④層の広がり追えず、④層下面が①・②層下面と連属することから、一連の遺構の埋没単位の別として、SC-12に統一することとした。

遺構底面では、柱穴・小穴が出土したが、このうち主柱穴を構成する大型の柱穴はP6とP23。柱間は2.3m。対応する東辺の主柱穴を探索したとき、やや位置がずれるが、SC-14・15のP76が候補に挙がり、もう1基は不明となる。

出土遺物は、コンテナ2箱分。古墳時代に降る須恵器・土師器は出土していない。図化できた遺物は弥生土器・石器13点（図51・52、図版32）。遺物は主柱穴を構成するP5・P6とP23から多く出土し、3～5が前者、10・12が後者である。

1～9は弥生土器。1は凹線文をもつ大きく開く壺口縁部。2・3は壺胴部片で、いずれも肩部に列点文を施す。2はやや太めの板状工具小口により、3は同じく板状工具小口を用いながら細めのノ字状を2段で



- ① にぶい黄褐色砂質土。②層に比して若干粘質強い。大きなブロックは認められない。
 ② にぶい黄褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土のブロック状に含む。一部 5 cm 大のブロックが見られる。
 ③ にぶい黄褐色砂質シルト。淡赤褐色砂質土の丸いブロック含む。
 ④ にぶい黄褐色砂質シルト。土質は②層と同じで、淡黄色砂質土を主体に、にぶい黄褐色砂質シルトがブロック状に混じる。炭化物少し含む。
 ⑤ にぶい黄褐色砂質土を主体に、にぶい黄褐色砂質土混じる。

図50 SC-12遺構実測図 (縮尺1/50)

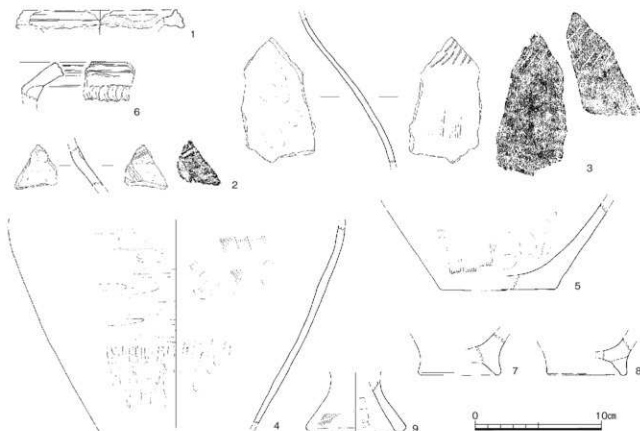


図51 SC-12出土遺物 (1) (縮尺1/3)

ある。4は壺下胴部片、5は壺底部片。6は莞あるいは鉢の可能性もある口縁部片。口縁端部に2条の凹線文をもち、頸部に突帯を貼り付け押圧を施す。7・8は高台状の壺底部。9はハ字状に開く脚台状の底部。

10～13は石器。10は大型の台石でP23の埋土上位、ただし柱穴中心部でなく少し寄った位置で水平に据え付けられたような状況で出土した。平面台形状で上面はやや丸みを残すが、敲打痕を残しつつ磨痕がみられ、磨面として使用している。両長側面も同じように敲打痕・磨痕が残る。砂岩製で現重量17.5kgと大型(図版32.3)。11も台石で、住居北辺際のP1出土。1辺は破断するが、上下面は敲打痕を一部残しつつ磨面としての使用が顕著で磨痕が見られる。破断面と反対の小口面も敲打痕をやや多く残しつつ磨面として使用している。花崗岩製(図版32.4)。12は砥石。P23の台石10の下から出土した。火成岩製で断面不整五角形状。うち120度前後で隣り合う3面が顕著に砥面として使用され、その裏面の一部も砥面として利用されている(図版32.5)。13は柱状片刃石斧片か。わずかに残る上面と側面はほぼ直角をなすが、側面から下面には明確な稜線を挟んで丸みをもって転換していく。緑色岩製か

(図版32.6)。

SC-12出土遺物はいずれも弥生時代で、中でも中期末葉に位置づけることができる。

(14) 19号堅穴建物 (SC-19)

(図53～55、図版9-1・33-1～4)

DU30区を中心に、南東側をSC-15、北側をSC-22、西側をSC-25で切られ、南側のSC-12を切る遺構の重複が認められた。最上部の、焼土ブロックに炭化物細片が若干混じる堆積は、調査段階で明確な範囲を平面的に押さえきれず、整理時に切り合い関係の修正を経て、最上部の堆積単位SX-18とした。以下は、方形ないし長方形の直線的な辺の重なりが認められ、堅穴建物のSC-19・SC-20・SC-21・SC-42が重複する(図53、図版9-1)。

このうちSC-19は、DU30区出土の堅穴建物。SB-1、SC-14・SC-25・SC-42、SX-18に切られ、SC-20・SC-21を切る。北で西に4°前後振る約3.2mの東辺と北東隅部が出土し、埋土の広がりから特定される南辺が、東西3.7m以上に及ぶと復元される、平面長方形の堅穴

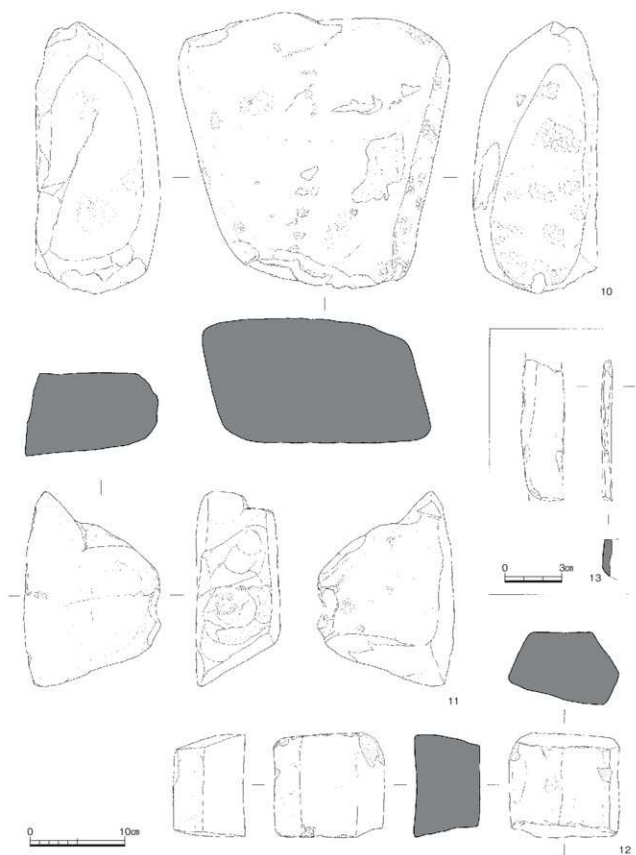
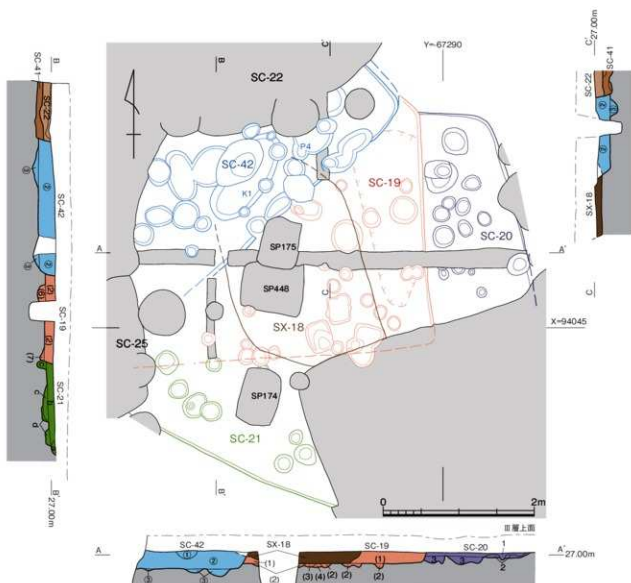


圖52 SC-12出土遺物 (2) (縮尺1/4, 1/2)



SX-18

暗褐色砂質土。焼土ブロックに炭化物断片若干混じり、しまりあり。粘性わずかにあり。

SC-19

- (1) 暗褐色砂質土。N層の砂質土均質に混じり、しまりあり。
- (2) 暗褐色砂質土。(1)層にわずかに炭化物含み、粘性あり。
- (3) 暗褐色砂質土。
- (4) にぶい黄褐色砂質土。N層ラミナ状に混じる。
- (5) にぶい黄褐色砂質土。暗褐色砂質土とN層砂質土斑状に混在。
- (6) 暗褐色砂質土。(1)層に比べ砂質強い。

SC-20

- 1 暗褐色砂質土。N層砂質土均質に混じり、砂質強く、砂粒細かい。(1)層に比べ砂質強い。
- 2 にぶい黄褐色砂質土。1層に比べ、N層小ブロック状に混じり、暗褐色砂質土自体やや粘性あり。
- 3 にぶい黄褐色砂質土。2層に比べ、N層さらに多く混じる。

SC-21

- a 暗褐色砂質土。粘質土含む。
 - b 暗褐色砂質土。(1)層に比べ、砂質土ラミナ状に多く混じり、しまりあり。
 - c 暗褐色砂質土。N層小ブロック状に含む。
 - d 暗褐色砂質土。N層砂質土に暗褐色砂質土斑状に含む。
- SC-42
- ① 暗褐色砂質土。
 - ② 暗褐色砂質土。SC-22埋土に比べて砂質強く均質。砂質土ラミナ状に混じる。
 - ③ 暗褐色砂質土。②層に比べ炭化物の混じりや多く、粘性あり。

図53 SC-19・20・21・42・SX-18遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)

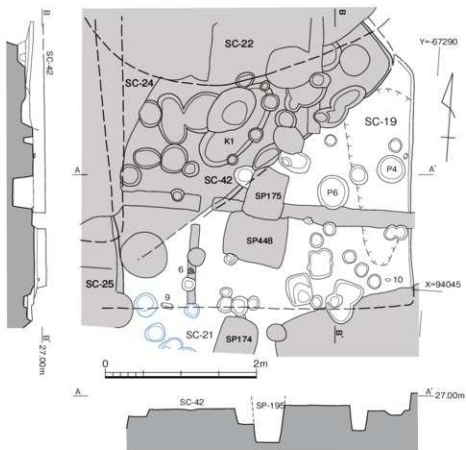


図54 SC-19遺構実測図 (縮尺1/50)

建物である (図54、図版9-1)。

埋土は、IV層黄褐色砂質土が均質に混じり、しまりのある暗褐色砂質土 (1層)。西よりの下部には、わずかに炭化物を含み粘性のある暗褐色砂質土 (2層) があり、上部SX-18との判別に苦慮したところである (図53)。

(1)・(2)層の下面は水平な底 (床) 面をなし、標高26.90m。底 (床) 面において、東辺際は浅く凹み、そのほか柱穴・小穴も認められたが、主柱穴は特定できなかった。比較的大型で深さのあるP4・P6などに可能性が残る (図54)。

SC-19出土遺物は、SX-18と併せてコンテナ1箱程度。SX-18の広がりについて、図上で平面復元できた以外に広がる可能性が残し、SC-19として取り上げた遺物でも、上層部取り上げ遺物中には土師器・須恵器を一部含む。しかし、その他は基本的に弥生時代の遺物に限定できるため、SC-19は弥生時代に遡る遺構と考える。

図化した遺物は10点 (図55、図版33-1~4)。うち8はSX-18とSC-19を通した畔東際での断割出土で、

SC-19への帰属が明確でないが、石器であり、古墳時代に降るSX-18とは別に、SC-19出土遺物として報告する。1~7は弥生土器。1・2は壺で、1は外反する口縁部、2は丸みをもった上胴部。V・1~2様式か。3~6は甕。3は端部を上方に拡張して1条の凹線文をもつ甕口縁部。頸部内面も強く横ナデし、凹線状を呈する。4は比較的張りのある胴部から口縁部が外反する。V・1~2様式か。5は口縁端部と少し下がった位置に2条の断面三角形の刻目貼付突帯をもつ。胎土に角閃石・赤色粒を多く含み粉っぽい、東南部九州系・山ノ口式系の搬入土器である。6は平底底部。外面は縦方向のミガキ仕上げ、内面はヘラケズリの痕跡が残る。7はく字状に短く屈曲する鉢口縁部。V・1~2様式か。8~10は石器。8は棒状の結晶片岩片。側面からの敲打痕があり、片面の一部には磨面が認められ、石器製作途上の素材か (図版33-2)。9は花崗岩製の磨石。表裏両側の4面を敲打後磨面として使用している (図版33-3)。10はサヌカイト製の横長刃器。片面は剥離面のままで、もう1面の剥離面打点とは逆側に細かい剥離で刃部を形成している (図版

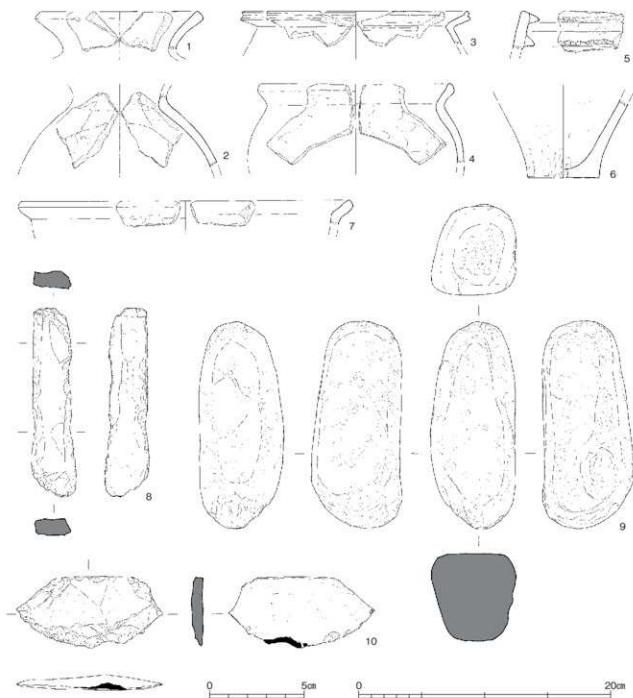


図55 SC-19出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)

33-4)。

2・4のように、V・1～2様式に降る遺物の存在から、SC-19の時期は、後期前葉から中葉とできよう。

(15) 20号堅穴建物 (SC-20)

(図53・56・57、図版9-1・33-5)

DT30・DU30区出土。SC-14・SC-19に切られる。北

で西に6°前後振る、2.2m以上の東辺と北東隅部が出土し、残存範囲から東西1.4m以上を測る方形ないし長方形の堅穴建物である (図53・56、図版9-1)。

埋土は、SC-19埋土(1)層に比べ砂質の強い、暗褐色砂質土(1層)。東壁際に、地山黄褐色砂質土の小ブロックが珓状に混じり、やや粘性のある、にぶい黄褐色砂質土(2層)が部分的にある他は、下面が27.00mでほぼ水平をなす (図53)。この面で柱穴・小穴が出土

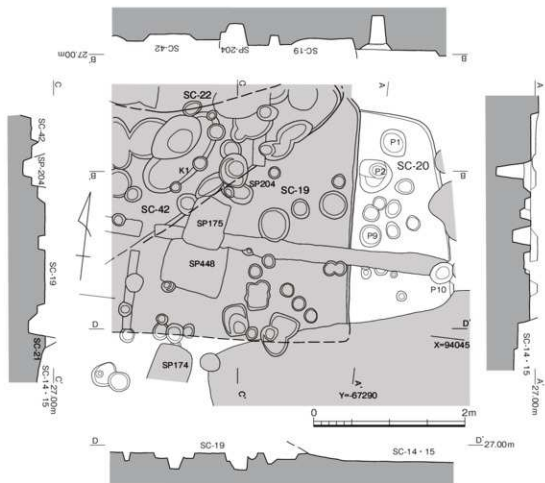


図56 SC-20遺構実測図 (縮尺1/50)

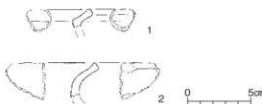


図57 SC-20出土遺物 (縮尺1/3)

したが、P2に主柱穴の可能性があるものの、他の詳細は不明である (図56)。

出土遺物は少量で、1点のみ土師器甕口縁部片がある。他は弥生土器で、SC-19と同じく粉れ込みとみて、弥生時代の遺構と判断している。図化できたのは2点のみ (図57、図版33.5)。いずれも弥生土器甕。1はやや短い字状口縁。2は頸部に内外面とも稜をもたず緩やかに外反する口縁で、端部はわずかに上方に突出する。壺の可能性も残る。胎土に雲母の細粒をやや多く含む。

数少ない遺物であるが、2からSC-20の時期を後期

初頭とする。

(16) 21号堅穴建物 (SC-21)

(図53・58～60、図版9-1・33.6-7)

DU29区 所在。SB-1、SC-14・SC-15・SC-19・SC-25に切れ、SC-12を切る。北東-南西方向 (北で西に65°振る) の3.0m以上の1辺が出土し、残存範囲から南西-北東方向は1.9m以上を測る方形ないし長方形の堅穴建物の一端とみられる (図53・58、図版9-1)。

埋土は、砂質土がラミナ状に多く入り、しまりのある暗褐色砂質土 (b層)。その下面標高26.95m前後が床面をなすらしい (図53)。この面で柱穴・小穴が若干出土し、P5が深さもあり主柱穴の可能性を考えられるが、他の詳細は不明である。むしろ、より上位で検出したSP-199に、主柱穴の可能性が残る (図58)。

出土遺物は、少量のSC-20出土遺物とあわせてコンテナ1箱程度。埋土に一部須恵器片あるいは瓦器片を

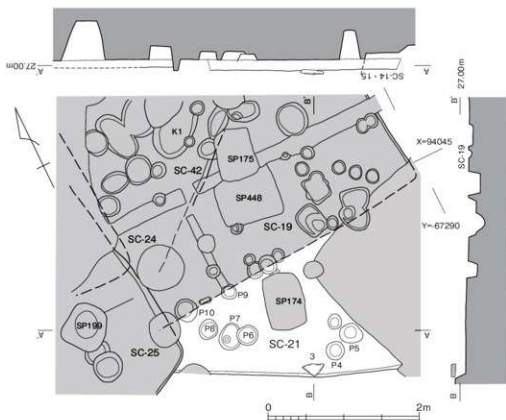


図58 SC-21遺構実測図 (縮尺1/50)

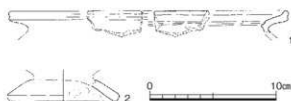


図59 SC-21出土遺物 (1) (縮尺1/3)

含むが、基本的に弥生土器・石器であり、これらは紛れ込みと判断している。図化できたのは3点 (図59・60、図版33・6・7)。1は弥生土器甕。口縁端部を上方に拡張し1条の凹線文を施す。2は弥生土器鉢の脚部か。内外面とも仕上げ調整は粗く、内面にオサエ痕を残す。3は台石。平面的には建物竪穴南辺に接する位置出土であるが、床面より上位の埋土からの出土で、竪穴埋没時のものである。扁平な石材の表面と1側面を最打後に磨面として使用している。残るもう1側面側から被熱し赤変ないし黒変する。粗い砂岩製。現重量4.155 g (図版33・7)。

出土遺物は少ないが、1の弥生土器からSC-21を中期後葉の遺構と位置づける。

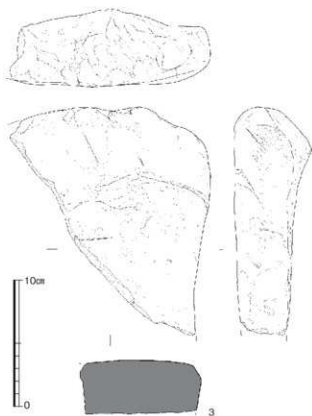


図60 SC-21出土遺物 (2) (縮尺1/4)

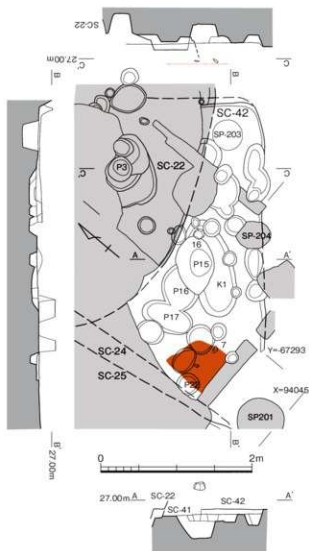


図61 SC-42遺構実測図 (縮尺1/50)

(17) 42号堅穴建物 (SC-42)

(図53・61・62、図版9-1・34)

DU30区に所在。SB-1、SC-22・SC-25・SC-41、SX-18に切られ、SC-19を切る。調査時には、SX-18の堆積を切るとしていたが、前後の切り合い関係や出土遺物から、SC-42がSX-18に切られると、整理段階に訂正した。南西・北東方向(北で東に50°振る)の4.0m以上の1辺と北東隅部が出土し、残存範囲から南東・北西方向は18m以上を測る方形ないし長方形の堅穴建物である(図53・61、図版9-1)。

埋土最上部には、当初SX-18と一連としてしまっていた焼土・炭層の広がりがある。以下の埋土は、砂質土がラミナ状に入り、砂質の強い均質な暗褐色砂質土(②層)。その下で出土した遺構の埋土(③層)は、上

部埋土より炭化物の混じりがやや多く粘性がある(図53)。②層下の床面では、残存範囲はほぼ全面にわたって柱穴・小穴あるいは土壇などが出土したが、残存範囲の狭さもあり、主柱穴の組み合わせを見いだすことは難しい。P15あるいは上位検出のSP-203、さらにはSC22P3に可能性が残るだろうか(図61)。

SC-42出土遺物はコンテナ1箱。SC-42とした出土遺物中にSX-18の遺物が含まれている可能性が残り、実際、SC-42上層部出土遺物に、土師器・須恵器が一部含まれている。しかし、例外的なこれらを除くと、弥生土器・石器であり、SC-42は弥生時代の堅穴建物と考えている。

11点を図化した(図62、図版34)。1～8は弥生土器。1は短く緩やかに外反する壺の口縁部。2は直立気味に緩やかに外反する口縁部。内面にオサエ痕をよく残り脚部の可能性も考えたが、器壁が薄く直立するため、壺口縁部と判断した。3は頸部に貼付押圧突帯をもつ壺胴部。突帯は細めで押圧はやや横長。4は凸状に厚い底部。壺あるいは鉢の底部とみられる(図版34-2)。5は頸部から緩やかに外反する壺口縁部。内外面ともオサエ痕を残す。6は平底の甕底部。外面は縦方向にミガキ仕上げする。7は鉢胴部。外面頸部に横ナデを施し、外反する口縁部に続くと推定される。外面は縦方向、内面は横方向のミガキが丁寧に施されている(図版34-3)。8は高坏脚部。10条以上のヘラ描浅線と矢羽根透かし上端が見られる。

9～11は石器。9は細かい目の砂岩質の砥石。薄い板状の表裏両面と1側面が砥面として使用され、表裏両面には反りがある。また、破断した側面の一部も使用されている。薄いとはいえ、定型化した形状で、古墳時代に降る可能性も残る(図版34-4)。10は結晶片岩製の磨石。残る表面には細かな擦痕が残る(図版34-5)。11は台石。埋土でもかなり上位での出土である。不整な多面体状であるが、やや被熱変化した表面は敲打痕残しながらも平滑な磨面とし、2側面が敲打による凹凸を残しつつも磨面としての使用がみられ、裏面側には平滑な磨面が1面と、凹凸をよく残してわずかに研磨の及ぶ1面が残る。砂岩製で現重量2.280g(図版34-6)。

古墳時代に降る可能性のある遺物をSX-18の混在とみると、IV様式を多く含みながら、5などV・I様式まで降る遺物があり、SC-42の時期は後期初頭に求められる。

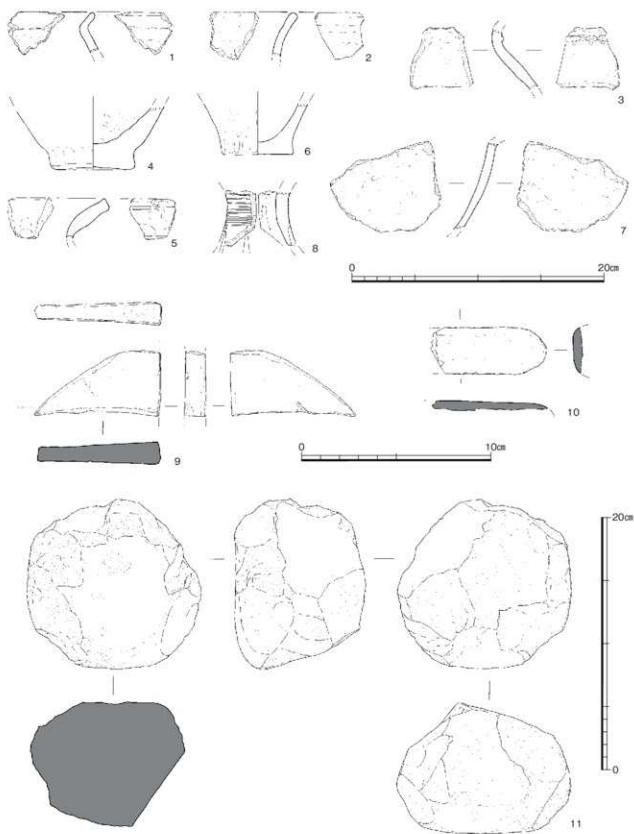


図62 SC-42出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)

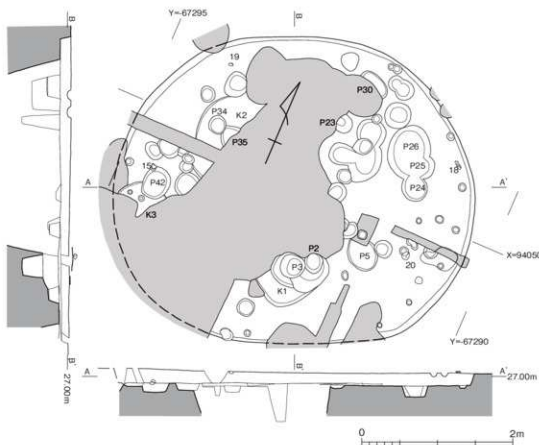


圖64 SC-22遺構實測圖 (縮尺1/50)

平を整えた面が、標高26.92m前後で広がり、SC-22床面と見なすことができる。下にSC-41埋土が続くことから、この面での遺構検出の難しいところもあったが、柱穴・小穴などを検出している。しかし、楕円形堅穴の外形に沿って放射状配置を呈する主柱穴の配置は見いだすことができない。P2・P3など、重複して深い柱穴もあるが、これと対をなす柱穴は見あたらない。やや浅いが、P24・P42の2本主柱穴の可能性も、規模からあり得ないものではなからう。なお、堅穴周壁に沿って枕状の小穴が北西側を除いて出土しており、上屋を支えるには規模が小さいものの、建物の何らかの構造を示している(図64)。

出土遺物は、SC-41とあわせてコンテナ2箱。また、水洗選別した③層からは、多くの炭化材や炭化物を採取している。古墳時代に降る出土遺物はなく、17点の弥生土器と3点の石器を図化した(65・66、図版35-1～7)。

1～6は壺。1は口縁端部に2条の凹線文をもつ。
2・3は比較的短く外傾する口縁部。2は外面をハケ
目調整で終え横ナデがみられない。胎土もやや違和感

があり、搬入土器の可能性が高い。3は口縁外端部に赤褐色の赤彩が一部残る。4は刺突文をもつ頸部小片。5・6は底部。いずれも平底で、下胴部を縦ミガキ仕にすず。7～13は甕。7は口縁端部に強い横ナデが施され、8～10は凹線文をもつ。10は大型で凹線文も深い。11は凹線文をもたず断面三角形形状にやや肥厚する口縁部で、上胴部に二枚貝による刺突文を施し、内面は横方向のケズリ調整が見られる。搬入かどうかは不明ながら、安芸地域の影響下にある外来系土器と位置づけられる。12は底径が小さく、13は逆にやや大きい。立ち上がりへの傾きと外面の煤付着からいずれも甕底部とした。14は緩やかに外反する鉢口縁部。15は小さな脚台をもつ底部で、胴部の開き具合から鉢底部の可能性が高いと判断した（図版35-3）。16・17は高脚坏上部。いずれもやや横置き沈線文をもち、内面は坏底部の円盤充填が剥脱している（図版35-4）。16には矢羽根状の上端が辛うじて残っている。

18~20は石器。18は結晶片岩片で、外周に粗割時の剥離痕と表面凸部に研磨痕が残り、石庖丁製作工程のうち粗割整形段階の未製品とみられる。現重量59.5g

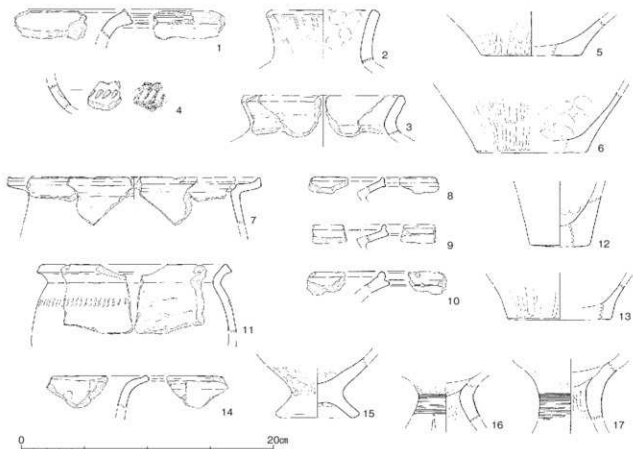


図65 SC-22出土遺物 (1) (縮尺1/3)

(図版35-5)。19は磨石。扁平な円盤で、片側の平坦な面は小さな磨面が重複する。目の細かい砂岩質で現重量33.5g (図版35-6)。20は台石。本来平坦な面をもつ半球状の約1/4に相当するらしい。平坦面および球面に敲打痕が点々と残る。花崗岩製で現重量820g (図版35-7)。

高坏や甕など典型的なIV様式のものが中心を占めるが、2・3など後期に降り、SC-42との切り合い関係からSC-22を後期前葉とみる。

(19) 41号堅穴建物 (SC-41)

(図63・67・68、図版35-8・9)

DU30・31区のSC-22下層で出土した堅穴建物。SB-1、SC-22に切られ、SC-42、SK-34を切る。SC-22に収まり、長軸4.5m・短軸3.9mの楕円形 (図67)。

SC-22と同じく、1～5区に分けて掘り下げを行っている。埋土は、SC-22④層に比べさらに砂質強い暗褐色砂質土 (2層) で、炭化物をわずかに含み、し

まりがある。10～15cm程度の厚さがあり、下面が標高26.80m前後で水平な面となり、これが床面である (図63)。

床面での遺構については、上層からの掘り返しと、さらにこの面からの掘り込みにより煩雑となっているが、上部のSC-22同様、やはり支柱穴を明確には見いだせない。敢えて指摘するなら、P29・P59の2本にその可能性が考えられるだろうか。なお、ちょうど土層確認用畔にかかって、周壁際の床面から立ち上がる、杭状の痕跡 (3層) がみられ、上層のSC-22と同じような構造をもっていたことが窺える (図67)。

上部にSC-22が建て替えられ、出土遺物は多くない。それでも8点を図化した (図68、図版35-8・9)。いずれも弥生土器。1～4は甕。1は外反する口縁の端部に凹線文3条をもち、2はやや内湾気味の口縁部で端部に2条の凹線文をもつ。3は頸部。押圧貼付突起をもつ。4は胴上部に2条1単位の直線文6条以上、下端に連続×字列点文をもち、無頸甕の可能性もある。5・6は甕。5はくの字状に屈曲するとみられる口縁

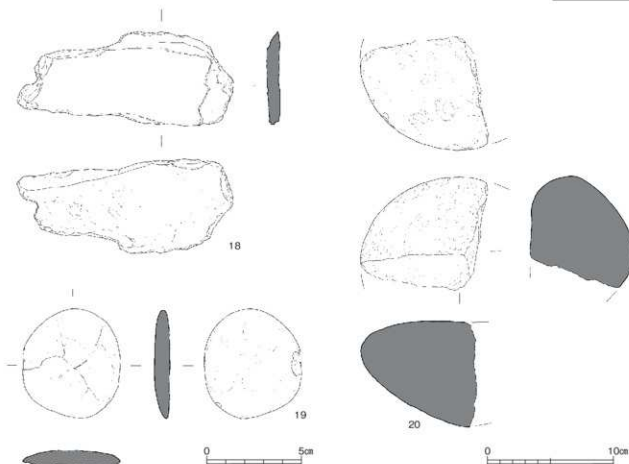


図66 SC-22出土遺物 (2) (縮尺1/3, 1/2)

部。器壁が薄く、土師器の可能性も残る。6は底部。平底で外面は縦ミガキ仕上げする。7は鉢口縁部。器壁が薄く土師器の可能性も考慮したが、器形と口縁部の横ナデから弥生土器と判断した。8は高坏脚部。8条のヘラ描直線文と下部に矢羽根透かしがある。坏底部の円盤充填部は剥脱している。

SC-41出土土器は、基本的にⅣ様式のうちに収まるが、切り合い関係から後期前葉とする。

(20) 23号堅穴建物 (SC-23)

(図69～71、図版10-1・36)

竪塚による掘削が中央を東西に走って南北に分断されるものの、DU29・30区、DV29・30区、DW29・30区にわたって遺構重複が認められた。SB-1を構成する柱穴やSK-50・SK-70、西側のSC-28に切られるが、北側のSK-60、東側のSC-22・SC-42・SC-19・SC-21を切る。遺構の平面検出状況、および断面の土層観察から、SC-23・SC-24・SC-25・SC-26・SC-27・SC-29の6棟の方形を基調とする堅穴建物の重複であること

が明らかとなった(図69)。

このうち、切り合い関係上最上位に位置するのが、DV29・30区に広がるSC-23。SB-1に切られ、SC-24・SC-25・SC-26・SC-27・SC-29を切る。平面は南北約4.1m・東西約4.0mの隅丸方形で、主軸を北側で東に15°振る(図70、図版10-1)。

北東部を1区、南東部を2区、南西部を3区、北西部を4区とし、1・4区は竪塚に伴う掘削で南北別に掘り下げ、遺物取り上げを行っている。埋土は、Ⅲ層に比べ砂粒多く含み砂質の強い暗褐色砂質土(①層)。以下、一部最初期の流入土(②層)・置土等(③～⑤層)があり、以下の26.90mが床面となる(図69)。

床面では、柱穴ほかの遺構が出土するとともに、南西部に幅0.5m前後の段状部が認められた。ベット状遺構とも考えられたが、想定される主柱穴(P9)が一部なりとも重なるため、SC-23と一括する中に、建て替えに伴う南北幅の増減を想定した。段状部の土層を確認していないが、それ以北で、段状部に相当する高さで土層の差を認めていないことから、当初浅い方形の住居を、南辺を北に幅1m程度減じてやや深い長方

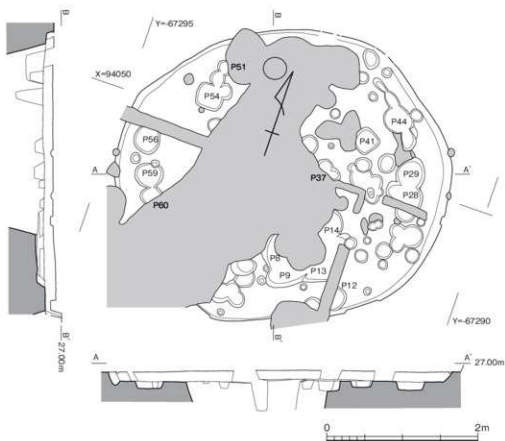


図67 SC-41遺構実測図 (縮尺1/50)

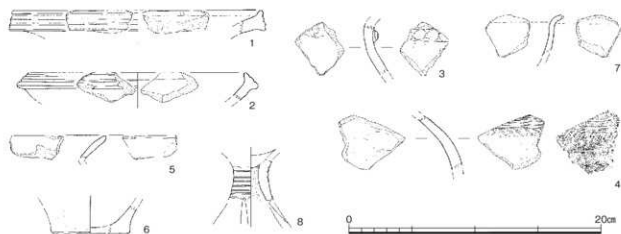
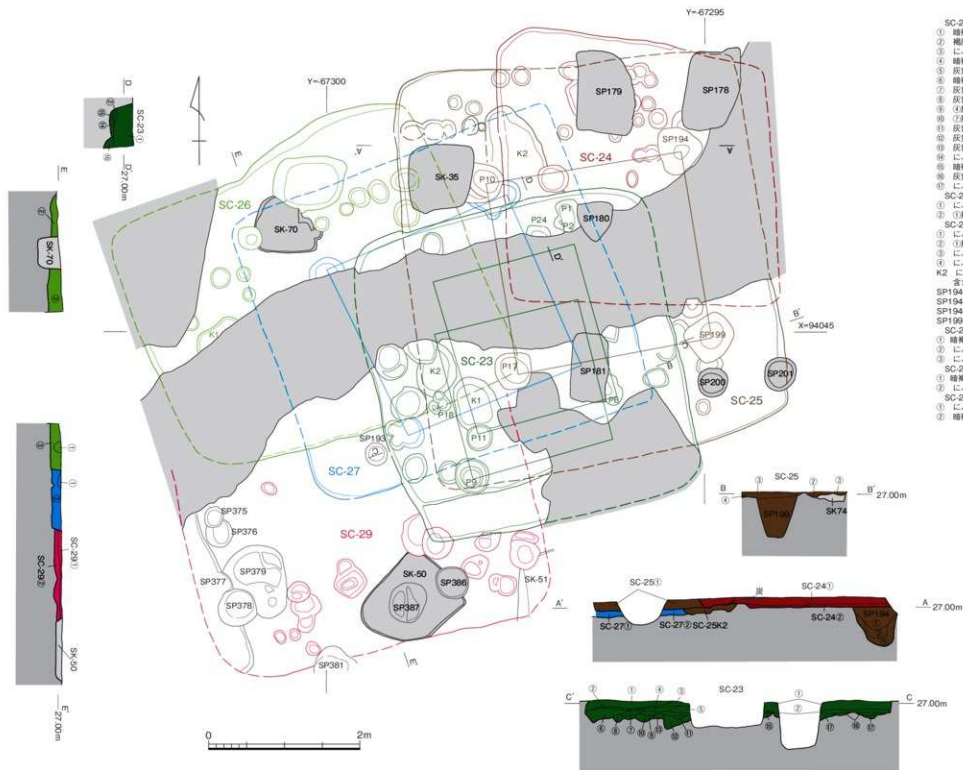


図68 SC-41出土遺物 (縮尺1/3)



SC-23

- ① 暗褐色砂質土。上部は含層（面層）に比べ砂粒多く含み砂質強い。
- ② 褐色砂質土。砂粒ミミズ状に含む。
- ③ 細かい黄褐色砂質土。黄色砂質土とベースに暗褐色砂質土を含む。
- ④ 暗褐色砂質土。炭化物を含み、より粘性あり。
- ⑤ 灰黄褐色砂質土。上層より暗褐色砂質土多く含む。
- ⑥ 暗褐色砂質土。③層にはばねじらなく。暗褐色砂質土のブロックの存在あり。
- ⑦ 灰黄褐色砂質土。暗褐色砂質土とベースに砂粒をブロック状に含む。
- ⑧ 灰黄褐色砂質土。③層よりさらに砂質強く。暗褐色砂質土はブロック状をなさない。
- ⑨ ⑧層にはばねじらなく。
- ⑩ ⑧層にはばねじらなく。
- ⑪ 灰黄褐色砂質土。暗褐色砂質土とベースに砂粒をブロック状に含む。
- ⑫ 灰黄褐色砂質土。ブロック状に含む。
- ⑬ 灰黄褐色砂質土。③層よりさらに砂質強く。暗褐色砂質土はブロック状をなさない。
- ⑭ 細かい黄褐色砂質土。
- ⑮ 暗褐色砂質土。暗褐色砂質土のブロックを含む。
- ⑯ 灰黄褐色砂質土。③層より暗褐色砂質土多い。
- ⑰ 細かい黄褐色砂質土。暗褐色砂質土のブロックを含む。

SC-24

- ① 細かい黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック。白色砂粒を少し含む。炭化物・焼土多く含む。
- ② ①層と構成は同じだが、明黄褐色砂質土を主に、細かい黄褐色砂質土が斑状に入り、炭化物少し含む。

SC-25

- ① 細かい黄褐色砂質土。白色砂粒多く含む。
- ② ①層とは同じで、細かい黄褐色砂質土の凸レンズ状ブロック多く含む。
- ③ 細かい黄褐色砂質土。①層より暗褐色砂質土の凸レンズ状ブロック多く含む。
- ④ 細かい黄褐色砂質土。①層より暗褐色砂質土の凸レンズ状ブロック多く含む。土層は多く含む。
- ⑤ ④層より暗褐色砂質土。少量の明黄褐色砂質土を斑状に含む。炭化物少し含む。白色の砂粒はほとんど含まない。

SP184① 暗褐色砂質土。明黄褐色砂質土の1cm次の円形ブロックを上層に多く含む。炭化物少し含む。

SP194② 暗褐色砂質土。

SP194③ 暗褐色砂質土。明黄褐色砂質土の中に暗褐色砂質土を斑状に含む。かなりしりしり。

SP199 ① 細かい黄褐色砂質土。

SC-26

- ① 暗褐色砂質シルト。白色砂粒多く含む。
- ② ①層より暗褐色砂質シルト。小粒洗木の間隙多く含む。
- ③ 細かい黄褐色砂質シルト。白色砂粒を少量含む。暗褐色砂質土の小さな丸いブロック少し含む。
- ④ 暗褐色砂質シルト。
- ⑤ ①層より暗褐色砂質シルト。白色砂粒と暗褐色砂質土の丸いブロック少し含む。炭化物少し含む。

SC-27

- ① 細かい黄褐色砂質シルト。暗褐色砂質土を斑状に含む。

SC-29

- ① 細かい黄褐色砂質シルト。明黄褐色砂質土の1cm次の丸いブロック多く含む。

図69 SC-23・24・25・26・27・29 重複関係実測図（縮尺1/50）

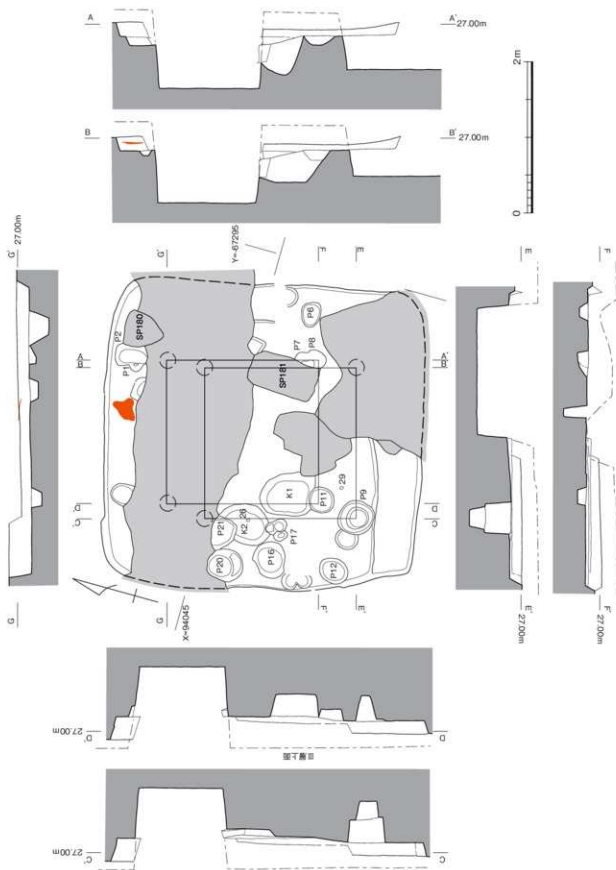


図70 SC-23遺構実測図 (縮尺1/50)

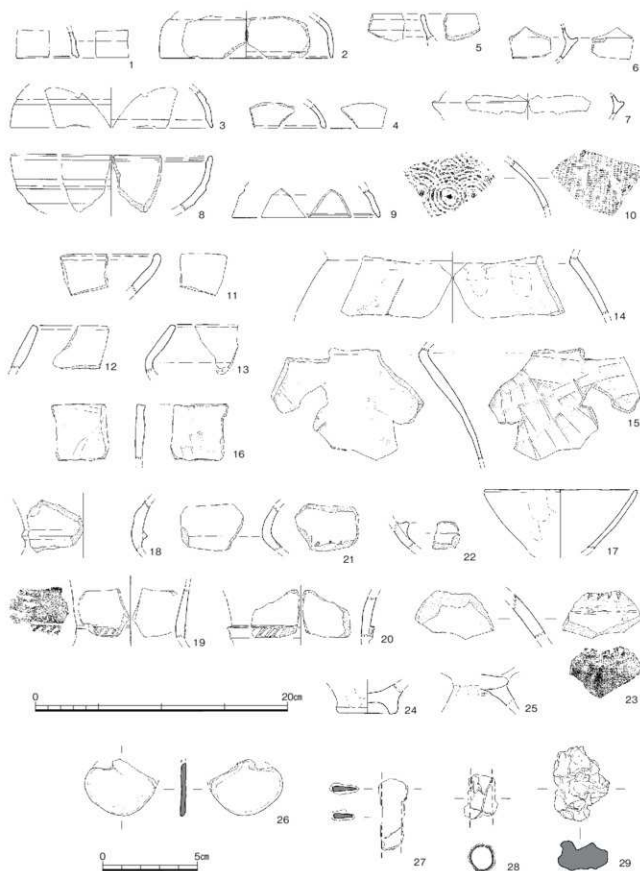


圖71 SC-23出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)

形の竪穴に替えた可能性が高い。建て替え後の建物は、南辺以外を共有した、南北約3.6m・東西約4.0mの隅丸長方形の竪穴建物が想定できる。当初の隅丸長方形建物の主柱穴はP9を南西隅とする4本主柱穴で、他はいずれも掘乱で残存しない。後の長方形建物の主柱穴はP11・P8を南の2本とする4本主柱穴で、北の2基は掘乱で残存しない。柱間は2m弱。なお、建物竪穴北辺の中央やや東寄りには、焼土の広がりが見られ、カマド基底部の可能性を指摘できる（図70）。

SC-23からはコンテナ2箱分の遺物が出土した。うち、29点を提示する（図71、図版36）。

1～10は須恵器。1～4は坏蓋。1は口縁端部内面に段をなす。2も微弱な段をなすが、外面口縁部から天井部へは緩やかに転換する。3は口縁内端部が面をなしやや尖り気味で、外面口縁部と天井部境には凹線が見られる。4は口縁端部を丸く取め、天井もやや低い。5～7は坏身。5は2cm以上の立ち上がりをもつ

が、口縁端部は丸く取まる。6は端部を欠損するが1cm程度の立ち上がりで器壁が薄い。7はさらに立ち上がりが低く、受け部が断面三角形状を呈する。8が深みのある体部で、外面に稜線がみられ、高坏部とした。口縁端部はやや尖り気味。9は小型で蓋蓋。口縁端部内面に段をもち、外面口縁部と天井部境に凹線が巡る。10は壺胴部片。内面青海波文・外面平行タタキ目の後、外面にはカキ目が施される。11～13は壺口縁部。11は内湾して端部を内側に巻き込むように仕上げる。12・13は直線的に外傾する口縁部。端部は面をなす。14・15は壺上胴部片。いずれも外面頸部直下は横方向のハケ目が見られ、以下は斜め方向。そして、やや長手の斜線が記号文状に付されている。16は飯直口口縁端部で、外面縦方向のハケ目仕上げ。17はやや径が小さく、外面調整もオサエ・ナデに留まりやや粗いが、境と考えられる。

18～25は弥生土器。18～20は壺頸部片。18は断面三

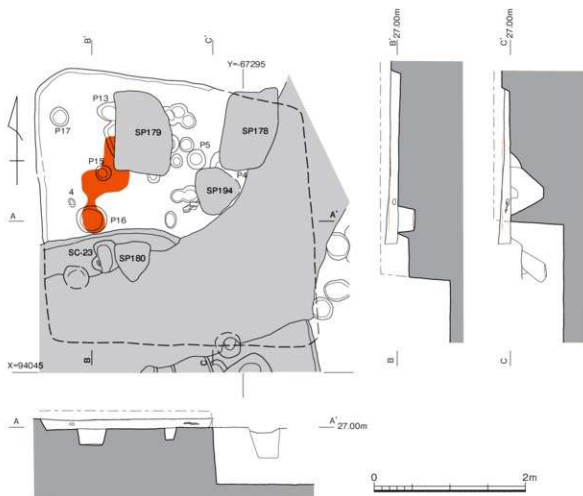


図72 SC-24遺構実測図（縮尺1/50）

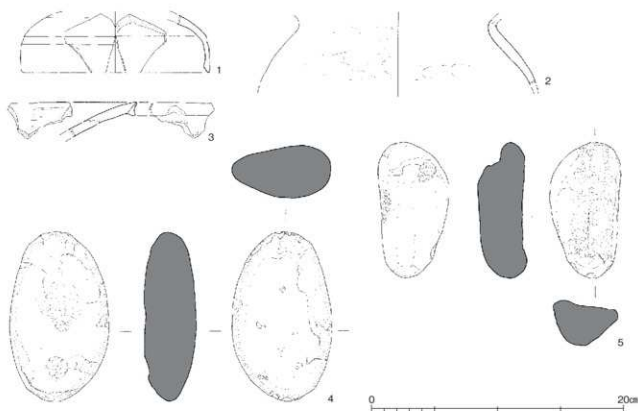


図73 SC-24出土遺物（縮尺1/3）

角形の貼付突帯をもち、21は頸部直下に列点文が巡る。19・20は筒状の頸部で、その下端に、19は上下を沈線で区画した中に列点文を施し、20は低平な貼付突帯に刻みを行う。22は断面三角形の貼付突帯をもつ肩部片。胎土に砂礫を多く含み、前期に遡る可能性が高い。23は列点文をもつ肩部片。24は上げ底の甕底部。25は坏底に脚を接合した高坏。

26は石器素材か。楕円板状の結晶片岩片（図版36-5）。

27・28は鉄器。27は片岡の刀子で、刃部のほとんどと茎下端を欠損している（図版36-6）。28は径13mm前後の環状品で、合わせ目が見られ、袋状の柄をもつ鉄器の一端（図版36-7）。

29は鉄滓。現重量16.9g（図版36-8）。

以上、カマドや床面で原位置を保った出土遺物はなく、いずれも埋土出土となるが、古墳後期の須恵器・土師器を多く含む。口縁部内端部に段を残す坏蓋や肩部横ハケ目をもつ土師器甕など古層を示すものもあるが、7のような須恵器坏身も含まれ、SC-23の埋没は6世紀中葉（第3四半期）以降と判断できる。

（21）24号堅穴建物（SC-24）

（図69・72・73、図版10-1・37-1～3）

DV30区出土の堅穴建物。SB-1、SC-23に切られ、SC-25、SK-60を切る。隅丸でやや鋭角をなす方形ないし長方形の北西部が残るのみ。西辺はほぼ南北で2.3m残、北辺は東で南に約9°振り、約2.5mが残る。攪乱を超えた南東部にも一部広がった可能性があり、東西約3.5m・南北3.1～3.6mの隅丸台形状に復元する（図72、図版10-1）。

攪乱際に東西方向の畔を設定し、この南北に分けて掘り下げを行った。埋土は、にぶい黄褐色砂質土で、明黄褐色砂質土の丸いブロック、白色砂粒を少し含み、炭化物・焼土を多く含む（図69）。とくに埋土の最上部27.10m前後には、炭化物・焼土の面的広がりが認められた。

埋土下面の床面は27.00m強で、柱穴・小穴若干が出土した。このうちP16等に主柱穴の可能性があるので、詳細は不明とせざるを得ない（図72）。

出土遺物はコンテナ1箱弱と多くない。その中から、5点が図化できた（図73、図版37-1～3）。なお、採取

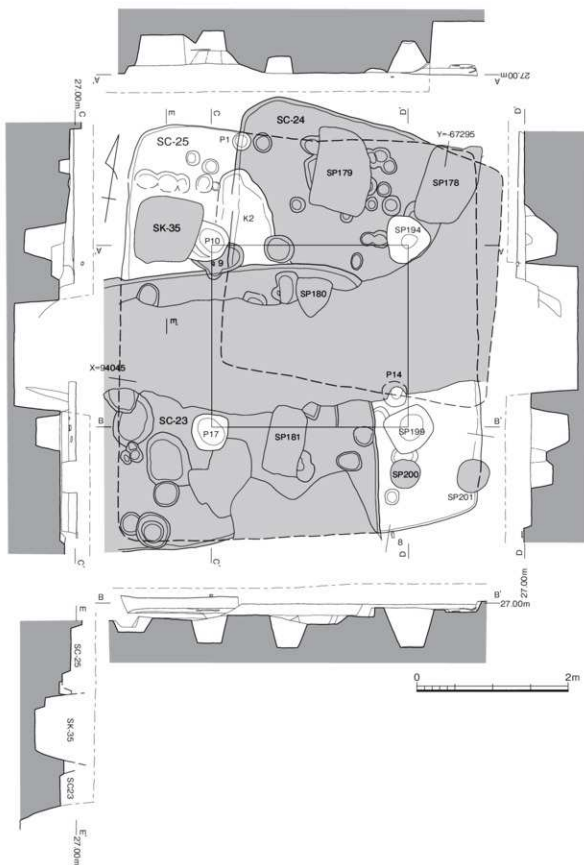


図74 SC-25遺構実測図 (縮尺1/50)

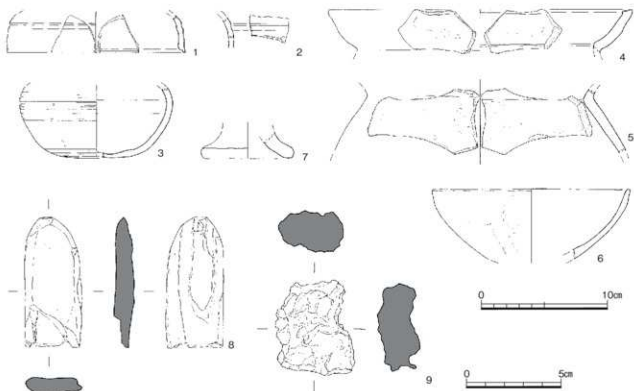


図75 SC-25出土遺物（縮尺1/3、1/2）

した炭化物・焼土層からは、水洗選別により炭化物の他、動物骨片を多く採取している。

1は須恵器坏蓋。口縁内端部が面をなし尖り気味で、外面口縁部と天井部境に凹線をもち天井は高い。2は土師器甕胴部片。頸部下に横方向のハケ目が施されている。3は大きく開く弥生土器壺口縁部片。4は扁平楕円球状の手持ち叩石で、片面の中央部とやや偏った位置、そして両小口に敲打痕が集中する。砂岩製で現重量は551.8g（図版37-4）。5は片面中央に敲打痕を残すが、その面も磨面としており、ちょうど手の中に収まる。花崗岩製。268.3g（図版37-5）。

カマドや床面と住居使用時期を示す出土状況の遺物はないが、1・2から、6世紀前葉（6世紀第2四半期）に住居埋没の時期を求めることができよう。

(22) 25号竪穴建物（SC-25）

（図69・74・75、図版10・15・37・4～9）

DV30区出土。SC-23・SC-24、SK-35に切られ、SC-21・SC-26・SC-27・SC-42、SK-60・SK-74を切る。SC-23とSC-24に中央部を切られ、北西隅部と南東隅部が残り、さらに前者は床面を広くSK-35で切られている。当初は前者のみをSC-25とし、南東側をSC-37としていた

が、整理段階で一連の遺構が分断されたものと判断し、一括してSC-25とした。南北5.5～4.7m、東西4.7mの隅丸台形状に復元でき、東西辺は北で9°西に振る（図74、図版10-1）。

掘り下げは、北西隅部と南東隅部いずれも、土層観察用坪の南北に分けて掘り下げを行っている。埋土は、白色砂粒を多く含む黄褐色砂質土（①層）。この下が床面で、レベルは26.95～27.00m（図69）。床面では、柱穴・小穴や土竈が出土したが、このうち主柱穴を構成するのは、SC27P10・SP194（図版15-4）・SP199・SC25P17の4本。柱間は南北2.4m・東西2.6m。なお、当初はSC-25と別遺構としていた落ち込みSK-36は、SC-25に伴うSC25K2とした。

SC-25出土遺物はコンテナ2箱。その中から図化できた9点を提示する（図75、図版37・4～9）。

1～3は須恵器。1は坏蓋で、口縁端部内面に段をもち外面口縁部と天井部境に凹線を巡らせる。2も同様の凹線部付近の小片。3は甕胴部。外面底部に回転ヘラケズリがなされ、胴中位以上はカキ目が施される。外面から底部に自然釉が付着する（図版37-5）。4～6は土師器。4は内湾する甕口縁部で、わずかに内側に傾斜しつつみ出した上端面をなす。5は甕上胴部片で内外面斜め方向のハケ目が見られ、外面頸部下は横

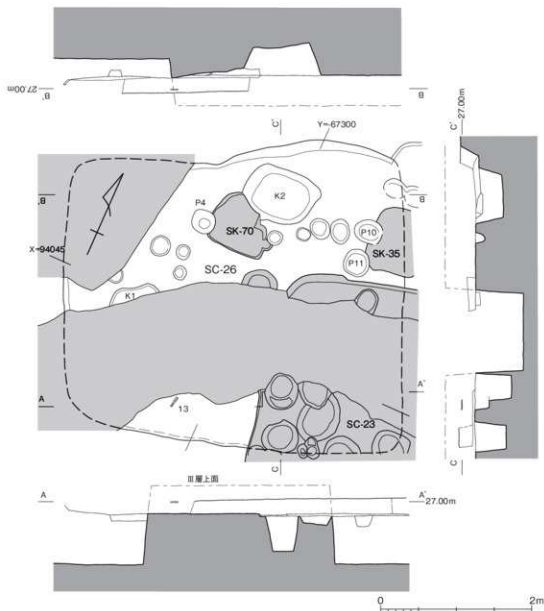


図76 SC-26遺構実測図 (縮尺1/50)

方向のハケ目が残る。6は丸みのある体部の境。口縁はやや面をなす。外面ハケ目調整の後、下部に縦方向のミガキそして口縁部付近を横方向にミガキ仕上げる(図版37-7)。7は小型の凹み底で、弥生土器鉢の底部とみられる。8は扁平棒状の磨石。片面が微弱ながら匙面状を呈す磨面となっており、もう片面は自然面を残す。結晶片岩製(図版37-8)。9はやや大型の鉄滓で現重量56.1gを量る(図版37-9)。

遺構は北西部と南東部(旧SC-37)に分断されるが、いずれからも古墳時代に降る須恵器・土師器が出土している。やはりカマドや床面など出土位置を明確にできる遺物はないが、提示した1～6の須恵器・土師器

はいずれも6世紀前葉から中葉(6世紀第2四半期)に遡る。1点、埋土出土遺物に白磁碗があるが、紛れ込みとして別途報告する。これ以外は、上述した遺物からなり、SC-25の埋没は、6世紀前葉から中葉に求めることができる。

(23) 26号堅穴建物(SC-26)

(図69・76・77、図版10-1・38-1～4)

DW29・DW30区、DV30区に広がる堅穴建物。SC-23・SC-25、SK-70に切られ、SC-27・SC-29を切る。中央を攪乱で分断され、西側にも攪乱が及ぶ。断続的に

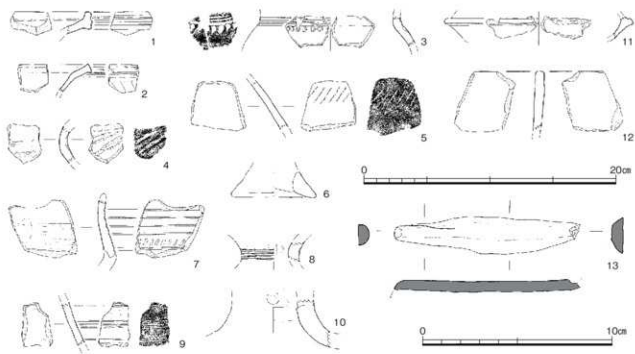


図77 SC-26出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)

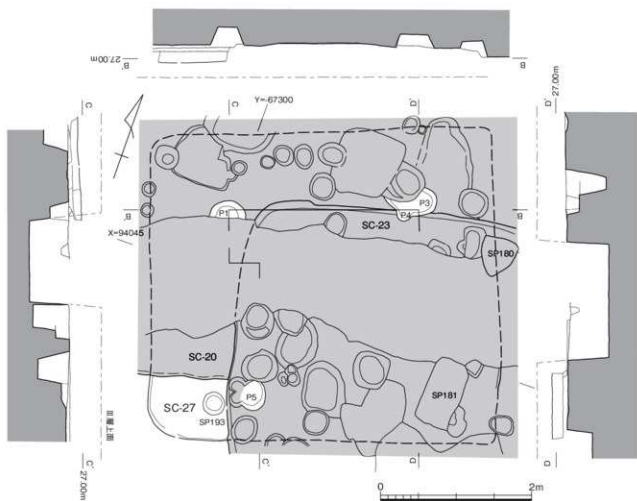


図78 SC-27遺構実測図 (縮尺1/50)

残る各辺から、南北幅3.5～4.0m・東西幅4.5mの隅丸台形状に復元できる。東西軸は東で南に24°振る（図76、図版10-1）。

竪塚による攪乱を超えて土層観察用畔を南北に通して設定しているが、SC-26として掘り下げを行えたのは、ほとんどが攪乱北側で、南側はわずかな範囲。畔により東西に二分して掘り下げを行った。埋土は、にぶい黄褐色砂質シルト（②・③層）。床面レベルは26.90m前後（図69）。攪乱北側では床面において柱穴・小穴、土壌が出土している。ただし、上屋を支える主柱穴などは不明（図76）。

SC-26出土遺物は、コンテナ1箱弱程度。そのなか



図79 SC-27出土遺物（縮尺1/3）

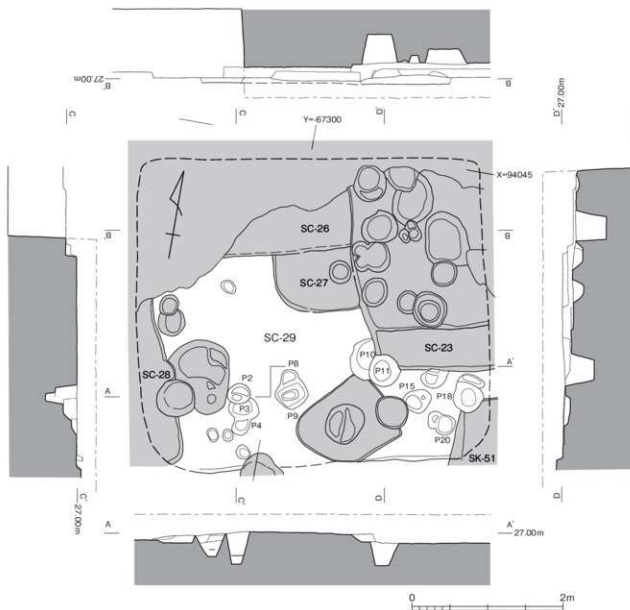


図80 SC-29遺構実測図（縮尺1/50）

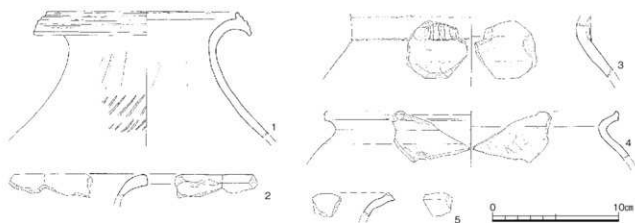


図81 SC-29出土遺物 (縮尺1/3)

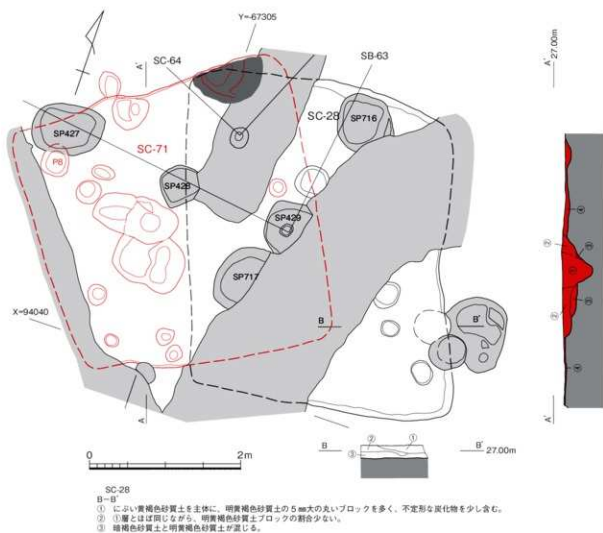


図82 SC-28・71遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)

ら13点を図化した(図77、図版38-1~4)。

1~10は弥生土器。1は2条の凹線文を施す壺口縁部。2は短く緩やかに外反する、器壁の薄い壺口縁部片。3・4は壺頸部片。3は頸部下端に沈線3条を巡らせ、その直下の肩部に刺突文をもつ。4は緩やかに湾曲する頸部に板状工具小口による刺突文を施す。5は壺肩部で、ノ字状刺突文が巡る。6はわずかに凹み底の甕底部。7は緩やかに内傾外湾する口縁部で、著しく摩滅しながら上から4条の沈線・刺突文・1条の沈線が残り、大型の台付鉢口縁部である。8~10は高

坏で、8は脚最上部で円板充填部が剥脱している。外面には細い沈線が5条巡る。9は脚中位の破片で、1条以上・3条・1条以上と間隔を開けた沈線帯がある。10は脚裾へ広がる部位で、径1cm弱の円形透かしをもつ。

11は須恵器坏身。立ち上がりを欠くが、受け部が小さく断面が厚い。12は土師器甕の直口口縁部片。

13は棒状の磨石で半身を欠損する。結晶片岩製(図版38-4)。

SC-26出土遺物は基本的に弥生土器・石器の出土に

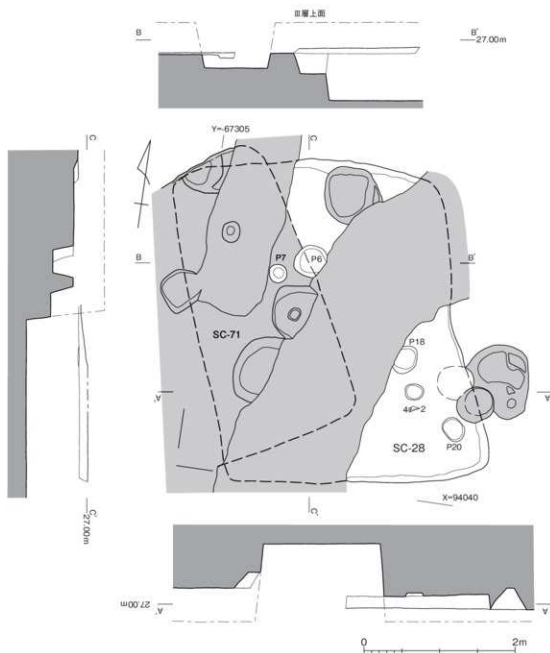


図83 SC-28遺構実測図(縮尺1/50)

限られ、古墳時代に降る遺物は、攪乱北側の畔東側の、SK-35との混在も否定できない状況から須恵器1点(11)と、攪乱北側西部出土の土師器甕の可能性のある破片1点(12)である。遺構の切り合い関係においては、弥生時代に遡るSK-70に切られていることから、提示した須恵器・土師器は紛れ込みと判断し、SC-26を弥生時代の遺構とする。時期は、2～4・10から、後期初頭から前葉に位置づける。

(24) 27号竪穴建物 (SC-27)

(図69・78・79、図版10-1・38-5)

DV29・DV30区、DW29・DW30区出土。SC-23・SC-24・SC-25・SC-26に切られ、SC-29を切る。中央に攪乱が大きく及び、断片的に残る南西隅部と東辺南端付近から、南北幅4.0～4.2m・東西幅4.0～4.6mの不

整隅丸方形に復元した。南北軸は、北で西に20°振る(図78、図版10-1)。

埋土(②層)は、白色砂粒と橙色砂質土の丸いブロックを少し含む、にぶい黄褐色砂質シルト。炭化物も少し含む(図69)。

調査時にSC-27の床面で遺構として認識できたものはないが、整理段階で他の遺構床面あるいはその下で出土した柱穴から、SC-27に関わる可能性が高いとしたのが、P1(Ⅱ SC26P12)・P3・4(Ⅱ SC25P11)・?(攪乱内)・P5(Ⅱ SC23P13)である。並びはやや不整で台形状をなし、柱間は2.0～2.5m(図78)。

出土遺物はコンテナ1箱弱で、いずれも弥生土器に限られる。図化できた遺物は1点のみ(図79、図版38-5)。1は弥生土器壺口縁部片。口縁部は内面に稜線をもつて、くの字状に短く屈曲する。V-1～2様式。

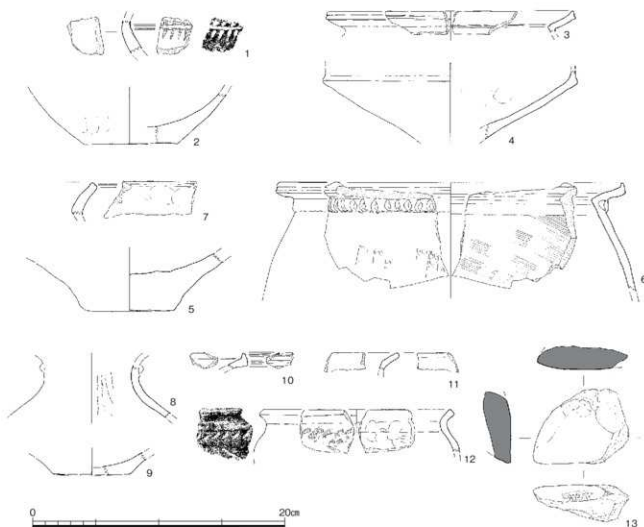


図84 SC-28・71出土遺物実測図(縮尺1/3)

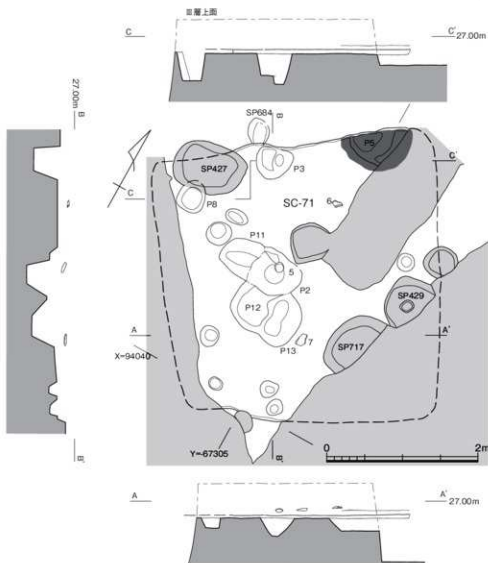


図85 SC-71遺物実測図(縮尺1/50)

少ない遺物と切り合い関係から、SC-27は後期初頭から前葉の建物とできる。

(25) 29号堅穴建物 (SC-29)

(図69・80・81、図版10-1・38-6・7)

DV29・DW29区に広がる。SC-23・SC-26・SC-27・SC-28・SC-30、SK-50・SK-51に切られる。南辺を残すのみで、土層や平面的な周辺遺構との重複関係から、南北4.0m・東西約4.5mの隅丸方形に復元した。南北軸は北で西に10°振る(図80、図版10-1)。

土層観察用畔の東西に分けて掘り下げを行っている。埋土は、上部に一部にぶい黄褐色砂質シルト(①層)を含むが、明黄褐色砂質土の1cm大の丸いブロックを多く含む暗褐色砂質シルト(②層)が主体をなす

(図69)。

床面レベルは26.95m前後で、床面で柱穴・小穴が若干出土し、P2・P3・P4の重なり、あるいはP11に主柱穴の可能性を考えられるが、特定にいたらない(図80)。

SC-29出土遺物はコンテナ1箱弱。いずれも弥生土器で、その中から5点を図化した(図81、図版38-6・7)。

1は口縁部を上下に拡張して4条の凹線文をもち、肩部には2段のノ字状刺突文をもつ壺(図版38-6)。2は短く外反する壺口縁部。3は低平な貼付押圧突帯をもつ壺頸胴部片。4は短く外反して端部を上につまみ上げる甕。胴部は内外面にハケ目が残る。5も同様に端部をつまみ上げる口縁部片。

1は明らかにIV様式に遡るが、2・4・5はV・I

様式に降るため、SC-29は後期初頭に埋没を求めることができる。

(26) 28号竪穴建物 (SC-28)

(図82～84、図版39)

DW28・DW29区、DX28・DX29区においては、やや東西に長めの長方形竪穴建物が所在するとして、これをSC-28として調査した。しかし、平面形が不整であったことから、2棟の方形竪穴建物が重複していたと判断し、西側をSC-71としてSC-28から分離することとした(図82)。

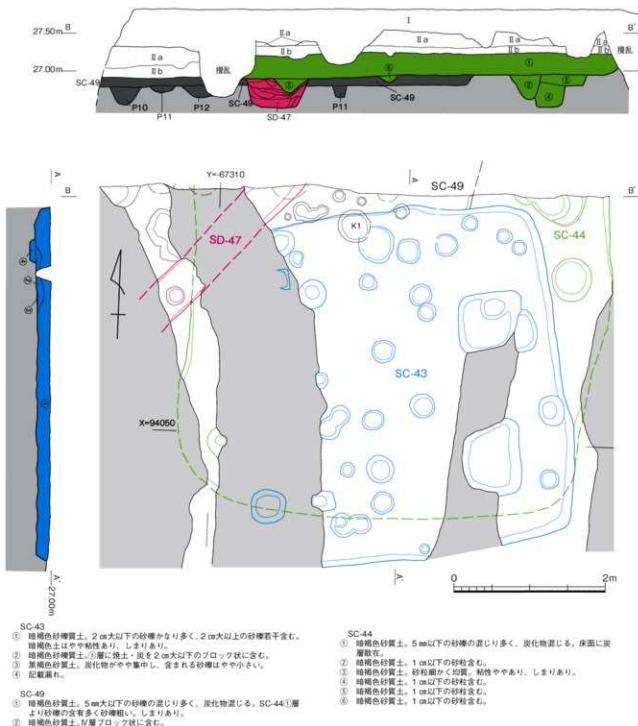


図86 SC-43・44・49・SD-47遺構重複関係実測図 (縮尺1/50)

SC-28は東側部分。SB-63、SC-64・SC-71・SC-30に切られ、SC-29を切る。攪乱を受け、大きく3ブロックに分かれ、外形は北辺東半・南辺東半・東辺南半のコーナーを確認したに留まる。西辺はSC-71との関係から想定復元した。南東コーナーは80°前後の鋭角をなし、全体平面形は平行四辺形。南北幅4.2m、東西幅復元3.4m、南北軸は北で西に9°振る(図83)。

当初、SC-71と一体と理解して設定した土層観察用畔により、北東側を1区、南東側を2区、南西側を3区、北西側を4区として掘り下げを行った。

埋土は、明黄褐色砂質土や不定形炭化物を含むにぶい黄褐色砂質土(①・②層)で、27.00m前後で床面

となる(図82)。上位で検出した柱穴および床面出土の柱穴・小穴があるが、その中に主柱穴を特定できない。

出土遺物は、SC-28・71出土遺物としてコンテナ2箱。既に述べたように、当初SC-28と一括して掘り下げ、および取り上げを行っていたため、SC-28とSC-71への帰属を明確にできないものが多い。以下でも、確実にSC-28出土とできるもの、SC-71出土とできるもの、SC-28かSC-71かを判別できない3者の別に報告しなければならない。さらに、いずれからも古代・中世の遺物が散見され、これは別途まとめて報告する。

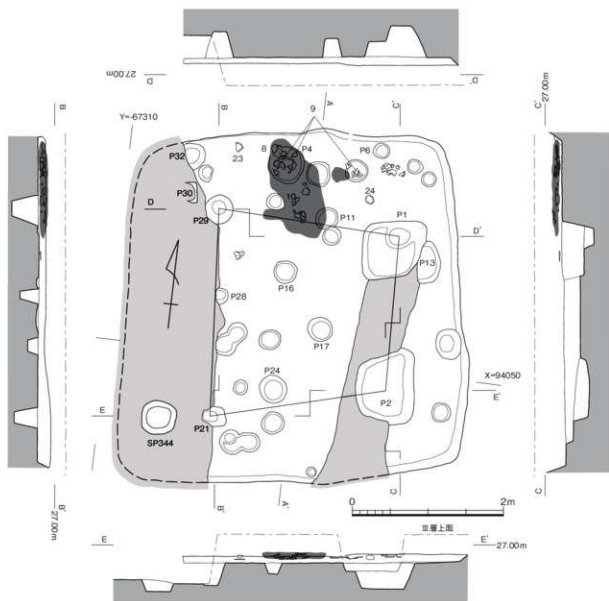


図87 SC-43遺構実測図(縮尺1/50)

SC-28出土を確定できるものは4点(図84)。いずれも弥生土器。1は壺肩部片で、沈線1条を挟んで上下に刺突文を重ねる。2は壺底部。3は端部に微弱な凹線文を1条もつ壺口縁部片。4は高坏部。口縁部は坏部から真っ直ぐ立ち上がり、外面に横ナデを施し、内面は縦方向にミガキ仕上げされている(図版39-2)。

遺構の時期については、後のSC-71の記述に一括する。

(27) 71号堅穴建物(SC-71)

(図82・84・85、図版39)

上述したように、SC-28と一括していた範囲から、西側をSC-71として分離した。SB-63、SC-64に切られ、SC-28を切る(図82)。北辺と南辺の一部を認めたのみで、西辺は攪乱を受け不明。東辺はSC-28との切り合いで認識できず、位置を想定復元した。南北幅3.5~3.8m、東西幅復元3.5~3.8mの不整形。南北軸は北で西に30°振る(図85)。

掘り下げは、SC-28と一括しており、区分けは既に記した通り。ただし、埋土の詳細については記録を十分残していない。SC-28埋土に大きくは変わらなかったと推量される。

辛うじて記録したP2周埋土から、造成土(④層)が残り、床面は26.90m前後とみられる。床面出土の柱穴のうち、中央部で重複するP2・P11・P12・P13は中央土礫ともみられるが、埋土に焼土・炭化物がみられず(①・②層)、柱穴の可能性も残る。これらも含めて、主柱穴は不明である(図85)。

SC-28と一括して取り上げた遺物のうち、SC-71帰属を明確に復元でき、提示できる遺物は3点の、いずれも弥生土器(図84)。5は壺底部で突状に厚く、胎土に多くの雲母を含み搬入品である。6は壺上半部で、口縁端部に凹線文1条をもち、頸部に突帯を貼り付け押圧を施す(図版39-3)。7はやや立ち気味にくの字状に外傾する壺口縁部片(図版39-4)。

これ以外に、SC-28とSC-71のいずれに帰属するかを特定できないながら実測図を提示できたのが、弥生土器5点と石器1点である(図84)。8は壺頸部で貼付突帯の剥落痕が認められる。9は壺底部。10・11は壺口縁部。10は2条の凹線文をもち、11は緩やかに外傾する。12は頸部直下に板状工具小口による刺突文とクシ描波状文をもつ鉢(図版39-5)。13は砂岩製磨石片。

表面と鋭角をなす1側面が残り、側面には敲打痕が見られる(図版39-6)。

SC-28も含めて遺構の時期については、遺構の切り合いからSC-28をSC-71が切ることが認識できたものの、少ない出土遺物からは明確な時期差を読み取りがたい。4・7・11など確実にV様式に降り、SC-30やSC-29との切り合い関係を考慮すると、SC-28・SC-71とも後期初頭に収まる可能性が高い。

(28) 43号堅穴建物(SC-43)

(図86~89、図版11・14・40・41-1~5)

DW31区からDX30・DX31区、DY30・DY31区に堅穴建物2棟の重複を確認し、SC-43とSC-44として遺構番号を与えた。ただし当初は、切り合い関係の詳細が十分明らかにできず、埋土上層部分は、一括してSC-43・44として掘り下げおよび遺物取り上げを行った。その後、SC-43とSC-44の平面的広がりと切り合い関係を明らかとし、それぞれ個別に調査を行った(図86、図版11-4)。

このうちSC-43は、SC-44・SC-49、SK-56、SD-47(16次調査A区SD-520)を切る、最上層の堅穴建物。西辺は攪乱により不明であるが、想定した主柱穴配置から、南北幅4.6m、東西幅4.5m前後の方形で復元する。南北軸は北で西に7°振る(図87)。

南北の土層観察用畔を挟んで、東西に二分して掘り下げを行っている。埋土は、周辺基盤層自体が砂礫質のため砂礫をかなり多く含む暗褐色砂礫質土(①層)。北側床面付近に、焼土・炭を含んだ土層(②・③層)が部分的に認められ、平面的には認識できなかったが、カマドが存在した可能性がある(図86)。床面は26.85m前後で、柱穴・小穴が出土している。このうち、主柱穴を構成するとみられるのが、やや不整な並びながら、P1・P2・P29・P21の4基(図87)。

SC-43とSC-44に関する遺物はコンテナ3箱に及ぶ。当初SC-43・44を一括して掘り下げ、SC-43・44として遺物を取り上げた。その後SC-43とSC-44を別個に認識し、遺物取り上げを分けたが、SC-43に切られたSC-44のみが広がる範囲は狭く、取り上げ遺物も少なく、図化できた遺物が少ない。以下、SC-43とSC-43・44として取り上げた遺物から図化できたものを、SC-43・44出土遺物として一括提示する。図化できた遺物は27点(図88・89、図版40・41-1~5)。このうち、2・

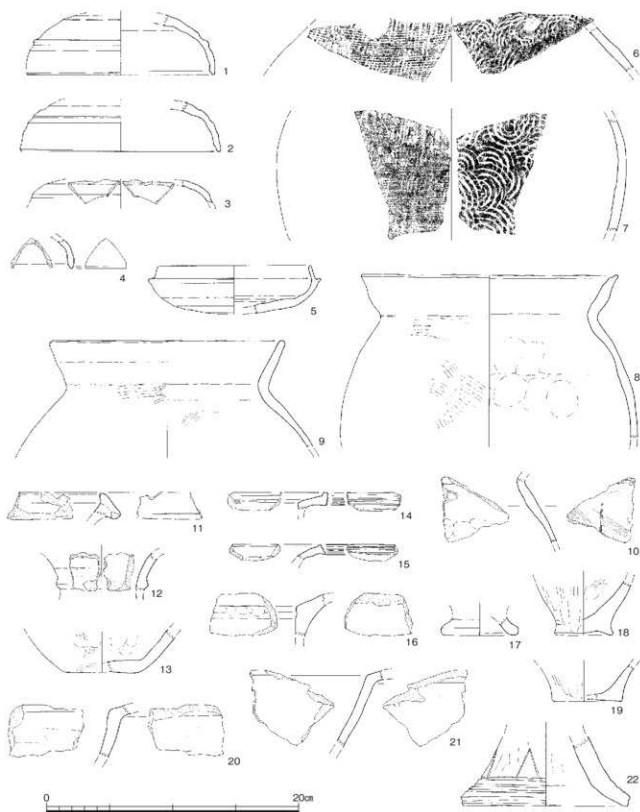


図88 SC-43・44出土遺物 (1) (縮尺1/3)

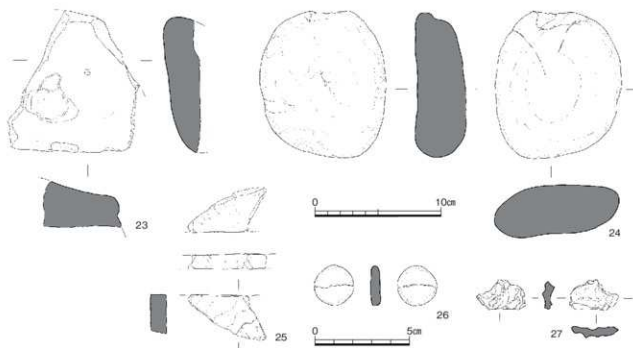


図89 SC-43・44出土遺物(2) (縮尺1/3, 1/2)

6・11・15・25がSC-43・44として取り上げた遺物で、他はSC-43出土である。さらにそのうち、8～10は住居北辺際のカマドの存在が想定される焼土・炭層からの出土である(図版11-1)。なお、SC-43・44取り上げの遺物中に、古代から中世に降る土師器と瓦器が認められた。周辺にSK-45等の古代以降の遺構が認められ、SC-43・44として掘り下げた最上部に、同様の遺構が存在した可能性があろう。これらの遺物については、別途報告する。

1～7は須恵器。1～4は坏蓋。1は口縁端面内面に段をもち、外面口縁部と丸みをもった天井部との境上下を強く凹線状に回転ナデが突帯状となっている(図版40-1)。2は口縁内端面が面をなし、外面口縁部と天井部境が凹線状(図版40-2)。3も同様の凹線状の部位である。4は端部を丸く収める口縁部。5は坏身で、立ち上がりは1.5cm前後で端部を丸く収める(図版40-3)。6・7は甕胴部で、いずれも外面平行タタキの後カキ目を施し、内面は青海波文が残る。

8～10は土師器甕。8は外側に肥厚してわずかに内湾気味の口縁部で、端部はやや尖り気味。胴部は肩部に横方向のハケ目、以下斜めのハケ目、内面はオサエ痕を残す(図版40-4)。9は直線的に外傾する口縁部で、端部は丸く収める。肩部外面に横ハケ目、内面にも一部ハケ目が残る(図版40-5)。10は記号状のヘラ描沈線をもつ肩部片。

11～22は弥生土器。11は複合口縁状の口縁部片。12は頸部に断面三角形の貼付突帯をもつ壺。13は壺底部。14～19は甕。14・15は端部に凹線文をもつ口縁部片。16は内面に稜をしながら外面は緩やかに口縁部へいたる頸部片。雲母を特に多く含み、形態的特徴も一致し、東南部九州系・山ノ口系系の搬入品。17～19は底部。17は小型の凹み底、18もわずかながら凹み底。これらは鉢の可能性も残る。19は平底の底部。20・21は鉢胴部片。20は16と同じく雲母を多く含み、同様の搬入品の可能性が高い。21は外面のナデが粗い。22は大型の高坏で器壁も厚い。脚裾には端部に1条の凹線文をもち、その上に3条の沈線、そして逆V字状の沈線文が、三角形透かしあるいは矢羽根透かしの代替に施されている。

23～26は石器。23は台石で、上面が顕著な磨面となっている。火成岩製(図版41-1)。24は扁平格円球様の磨石で、表裏両面を使用する。砂岩製で現重量714.0g(図版41-2)。25は扁平板状の砥石。表裏・1側面を残すが、砥石としての使用頻度は高くない。チャート製か(図版41-3)。26は扁平な円盤状の磨石。砂岩製。現重量3.1g(図版41-4)。

29は鉄斧。現重量2.3g(図版41-5)。

住居使用時のカマドに伴う可能性の高い8～10の土師器甕、そして須恵器から、SC-43の時期を6世紀中葉(第3四半期)に求めることができよう。

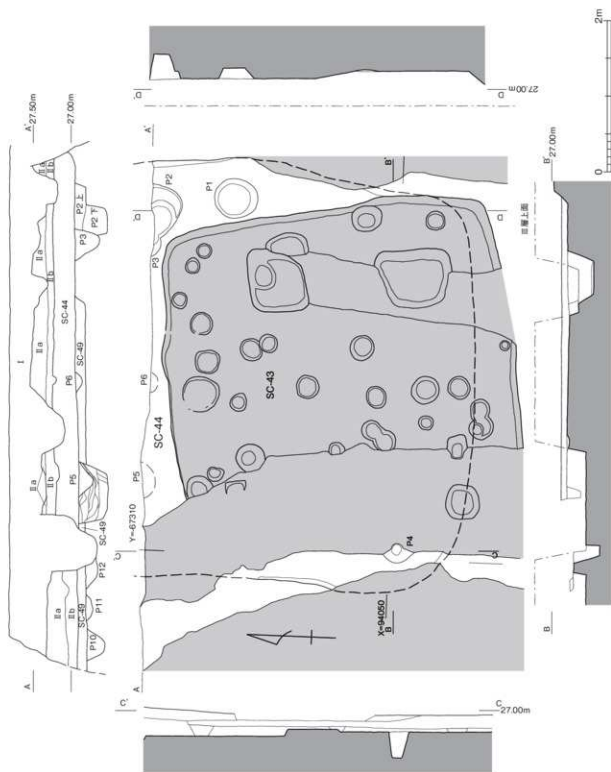


図90 SC-44遺構実測図 (縮尺1/50)

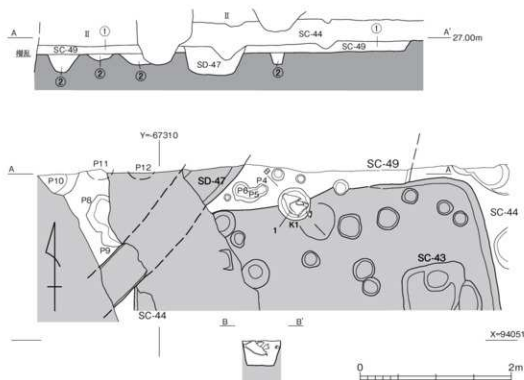


図91 SC-49遺構実測図 (縮尺1/50)

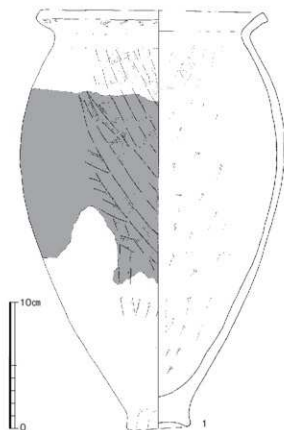


図92 SC-49出土遺物 (縮尺1/3)

(29) 44号竪穴建物 (SC-44)

(図86・88～90、図版40・41-1～5)

DW31区、DX30・DX31区、DY30・DY31区に広がる竪穴建物。SC-43に切られ、SC-49、SD-47 (16次調査A区SD-520) を切る。南部の広い範囲をSC-43に切られ、調査区北壁際と西辺・東辺の狭い範囲が残るのみ。東西幅5.5m前後、南北想定4.2m以上。南北軸は北で西にわずかに2°振る (図88、図版11-4)。

調査区北壁で確認した埋土 (①層) は、暗褐色砂質土で5mm以下の砂礫の混じりが多く、炭化物が混じる (図86)。

床面は26.95m前後で出土し、炭層の散在が調査区北壁で確認できた。狭い範囲で柱穴等が若干出土し、P2ないしP3とP4に主柱穴の可能性を考えられるが、SC-43による攪乱が大きく詳細は不明 (図86)。

出土遺物については、SC-43で述べたように、SC-44出土を特定できた遺物は少なく、実測図として提示できるものはない。図化できなかったものの、SC-44遺物には弥生土器の他に古墳時代の土師器・須恵器が確実に混在する。6世紀中葉 (第3四半期) に想定したSC-43を大きく廻る状況は見いだせず、SC-44についても、同じ6世紀中葉 (第3四半期) としておくのが適

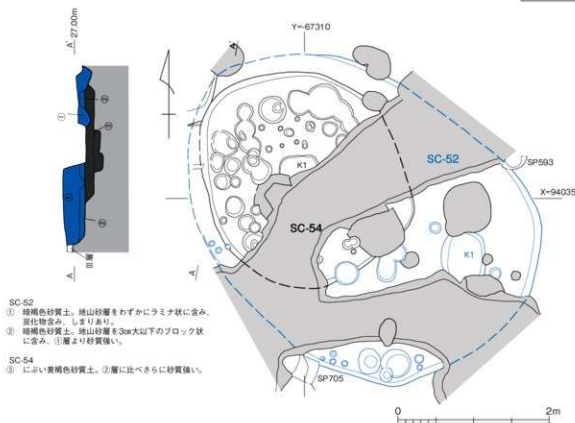


図93 SC-52・54遺構重複関係測図 (縮尺1/50)

当であらう。

(30) 49号堅穴建物 (SC-49)

(図86・91・92、図版11-2～4・41-6)

DX31・DY31区の調査区北壁際で出土した堅穴建物。SC-43・SC-44、SD-47 (16次調査A区SD-520) に切られる。南側をSC-43・SC-44で大きく切れ、調査区北壁際で南北最大1m幅程度、東西約5mに渡って出土した (図86)。平面形は、東側のわずかな範囲で堅穴の立ち上がりを確認のみで、外形は不明 (図91、図版11-4)。

埋土は暗褐色砂質土 (①層)。5mm以下の砂礫の混じりが多く、炭化物が混じる。上層のSC-44埋土より砂礫の含有が多く粗い (図91)。

床面は26.85m前後。狭い範囲ながら、柱穴・小穴と土壌が出土し、土壌K1には弥生土器甕が横倒しに収められた状況で出土した (図91、図版11-2・3)。

範囲も狭く、SC-49として取り上げられた遺物はきわめて少ない。その中には、P4-5・6で土師器とも考えられる遺物があり、K1からも土師器が出土しているが、K1からは本来完形で埋置された甕が出土して

おり、土師器は上位遺構からの紛れ込み・掘り残しの可能性が高い。甕を埋置した土壌をもつ弥生時代の堅穴建物とする。

図化できた遺物はK1出土の甕1点のみ (図92、図版41-6)。口縁部内外面に横ナデを施すが、端部に凹線文をもたず、底部が若干凹み底となった在地系の甕。胴部外面には縦～斜め方向のハケ目が全面に残り、内面には最大径部あたりまで縦ケズリの痕跡を顕著に残し、以上は斜ハケ目とナデ仕上げがなされている。外面中位全面に煤が付着し、内面は外面煤付着より下にオコゲの付着が認められる。V・I様式に降る可能性もあるが、IV様式に位置づけておく。

したがって、SC-49は中期後葉の建物と位置づけることができる。

(31) 52号堅穴建物 (SC-52)

(図93～95、巻頭図版2-2、図版10-2・42-1～3)

DX27・DX28区からDY27・DY28区出土の堅穴建物。SP-441・582・583・587・591・593・595・622・623・719に切られ、SC-53 (16次調査A区SC-78)、SC-54を切る。攪乱により大きく3分割され、当初は一部をSC-61とし

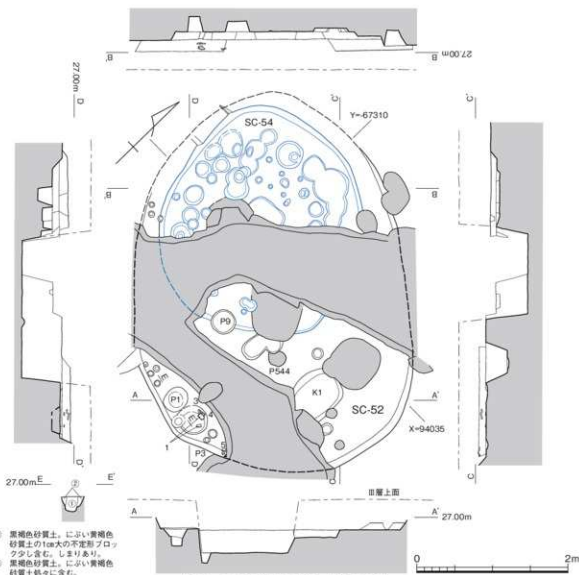


図94 SC-52遺構実測図 (縮尺1/50)

て別遺構と判断したが、SC-52に統一し、長軸約5.0m・短軸3.6mの長円形に復元した。長軸は北で西に46°振る (図94、図版10-2)。

土層は調査区西壁で確認し、埋土は暗褐色砂質土 (①層)。地山砂層をわずかにラミナ状に含み、炭化物を含んでしまりがあふ。床面は26.90m強で、以下に造成土とみられる、より砂質の強い暗褐色砂質土 (②層) がある (図93)。

以下のSC-54と掘り下げ、柱穴・小穴をあわせて検出したために、竈壕等による擾乱で大きく三分されたこともあり、主柱穴等は不明。ただし、P1に柱痕が認めらるとともに、堅穴南西部の壁際に、小穴の配列が認められる (図94)。

出土遺物は、SC-54とあわせてコンテナ1箱程度。SC-52出土遺物として、6点が図化できた。いずれも

弥生土器 (図95、巻頭図版2-2、図版42-1~3)。

1は床面出土口縁部片と上位埋土出土破片が接合した絵画を有する甕。口縁部内外面を2段に横ナデする。胴部はナデ調整ながら、絵画部分とはとくに丁寧なナデを行う。内面はオサエ痕跡がよく残る。絵画は向かって右方向を向いたシカを、焼成前に線刻する。長い頸部をはば平行する2線で表し、その後方の線の上端を底辺に、頭部を三角形に表現する。ちょうど破断接合面にあたると、辛うじて頭部先端の三角形頂点部が残る。頭部上側の線はそのまま後方に延長され、先端はY字状となり鹿角を表現している。下側も、頭部の内側の線から後方に、頭部下側の線延長にY字状の鹿角が表現されており、詳細には、Y字以上の分岐も見られるようである。胴部は、頭部の後方に背側は頭部後方の線より後ろに、腹側は頭部両線の下側を画す線がやは

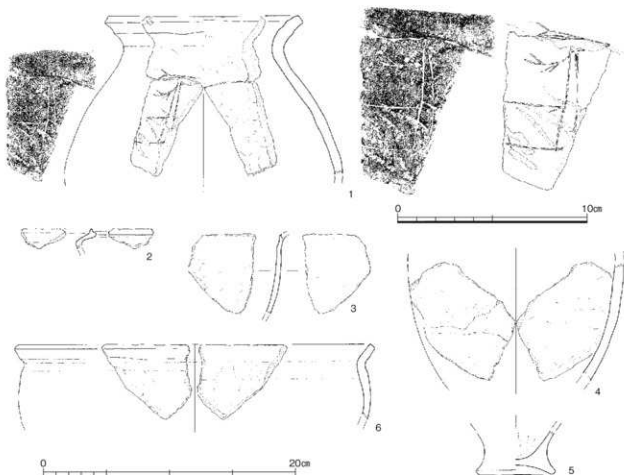


図95 SC-52出土遺物 (縮尺1/2, 1/3)

り後方に伸び、四角形に表現されている。なお残存範囲で前後肢の表現は見あたらない。形態的にV・I様式の壺である(巻頭図版2・2、図版42・1)。2～5は甕。2は口縁端部を上方につまみ上げ1条の凹線文をもつ。3は口縁屈曲部がわずかに残る上胴部片。下半に煤が顕著に付着する。4は外面縦ミガキ、内面ナデ調整の胴部片で、下半は被熱赤変が著しく、その上位には顕著に煤が付着する。5は脚台状の上げ底底部。内面は縦方向のケズリ痕跡が見られる。6は鉢。口縁部は横ナデ調整し、内面はオサエ痕跡がよく残る。煤の付着がなく大型のため、甕ではなく鉢とした(図版42・3)。

1・6から、SC-52を後期初頭の建物と位置づける。

(32) 54号竪穴建物 (SC-54)

(図93・96・97、図版10・2・42・4～7)

DX27・DX28区からDY27・DY28区のSC-52下層で出土した小型竪穴建物。SC-54、SP-595・719・722に切

られ、とくにSC-52内部にすっぽり収まった格好である。攪乱により大きく2分割されるが、長径約3.0m・短径約2.7mの不整形円形。小型ながら、底面は平坦で竪穴建物の可能性を考慮した。なお、16次調査A区ではSK-571として調査され、それも含んで以下報告する(図96、図版10・2)。

土層は調査区西壁で確認し、埋土はにぶい黄褐色砂質土(③層)。上部のSC-52造成土の②層よりさらに砂質が強い(図93)。

床面は26.75m前後。多くの柱穴・小穴、土壌が出土したが、主柱穴等は不明(図96)。

SC-54出土遺物からは弥生土器6点と石器1点を図化した(図97、図版42・4～7)。1・2は壺。いずれも胴部片で、1は頸部外面に横ナデが見られ、以下は縦方向のミガキが施されている(図版42・4)。2は胴部外面縦方向のハケ目調整の後、肩部にノ字状列点文を施す。3は甕口縁部。やや摩滅するが、端部を上方にやや拡張する。4・5は鉢(図版42・5)。4は口縁部がわずかに残る程度で、図化した傾きが異なる可能性

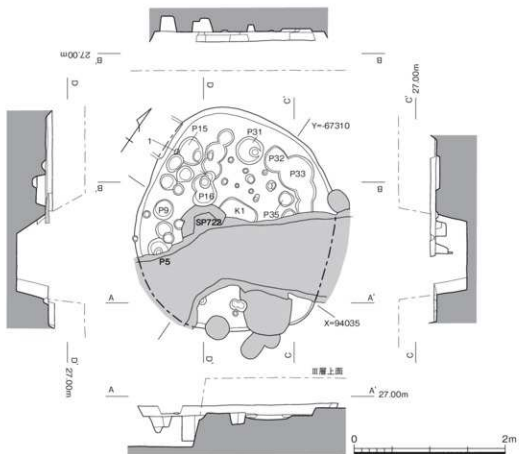


図96 SC-54遺構実測図 (縮尺1/50)

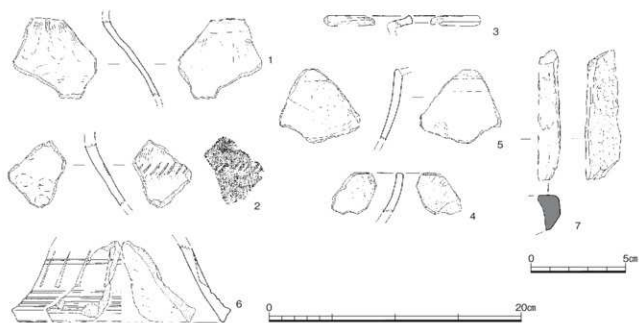


図97 SC-54出土遺物 (縮尺1/3, 1/2)

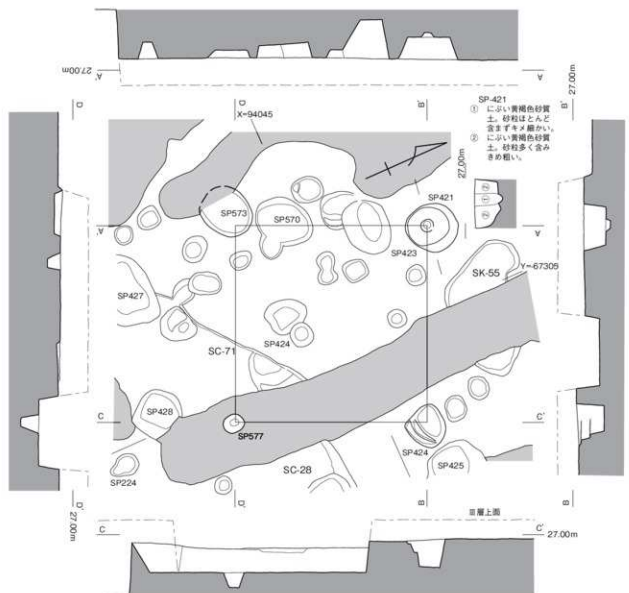


図98 SC-64遺構実測図 (縮尺1/50)



図99 SC-64出土遺物 (縮尺1/3)

もある。口縁端部は平坦面をもち、外面は斜方向にミガキ仕上げする。5は胴部で、横ナデを施す頸部と水平方向に伸びる口縁上面の一部が残る。外面は縦～斜め、内面は斜め～横のミガキが施されている。6はやや大型の高杯脚部。脚裾部に4条の凹線文をもち、その上位にヘラ描沈線文2条を越えて矢羽根透かしが聞けられる。透かしは10単位を越えて巡っていたとみられる。内面は横右方向のケズリ痕を残す(図版42-6)。7は柱状の結晶片岩素材。隣り合う2面に研磨等の調整痕が見られる(図版42-7)。

出土弥生土器はいずれも第Ⅳ様式に位置づけられ、SC-54を中期後葉の建物と位置づけられる。

(33) 64号堅穴建物(SC-64)

(図98・99、図版15・5・43-1)

2 掘立柱建物

柱穴の規則的並びから、掘立柱建物を復元できたのは2棟(図7)。

(1) 1号掘立柱建物(SB-1)

(図100～102、巻頭図版1-2、図版12～14・43-2～6)

DU28・DU29・DU30区、DV28・DV29・DV30区に位置する掘立柱建物。SC-12・SC-21・SC-22・SC-23・SC-24・SC-25・SC-41・SC-73、SK-51、SX-18を切る。

SP101～111、SP174～181で構成され、3間×6間。桁行4.3m、梁行11.1mを測り、主軸は真北から約5°西に振る。1間の間隔は、桁行約1.4m・梁行約1.85mと梁行間が長い(図100、巻頭図版1-2、図版12)。

各柱穴は、基本的に平面隅丸長方形を呈し、規模は、短辺40～75cm・長辺60～105cm、深さは検出面から最大で75cm。各柱穴は、基本的に梁行側に長軸をとるが、北西以外のコーナー柱穴(SP-101・105・176)は、桁行方向に主軸を向ける。柱痕が残存する場合は、柱径15～20cmを測り、柱は柱穴底を一段掘り下げて柱を据え付け、暗褐色のやや粘性のある砂質土とに黄褐色から灰黄褐色の砂質土で、柱穴全体を互層状に埋め戻す場合が多い。

各柱穴の詳細は以下の通り(図101)。

DW29・DW30区からDX29・DX30区。外形は不明ながら、SP-421・424・573・577からなる柱間2.6m四方の四本主柱穴並びから、堅穴掘り込みを削平された堅穴建物の存在を復元した。主柱穴内側に中央土壌の痕跡は窺えない。これらの柱穴のうち、SP-421には柱痕(①層)を確認でき(図版15-5)、SP-424は黄褐色の砂粒が多く混じる、にぶい暗褐色砂質土を埋土とする(図98)。

出土遺物については、SP-421から須恵器、SP-424から土師器が出土しており、SP-421出土須恵器2点を図化できた(図99、図版43-1)。1は坏蓋天井部で外面に回転ヘラケズリの痕跡が見られる。径の詳細は不明。2は甕胴部片。下半は平行タタキ目が残る、上半はそれを切ったカキ目が施されている。

時期特定は難しいが、SC-64は明らかに古墳時代後期の建物である。

南西コーナーにあたるSP-101は、南北60cm・東西70cm以上の、梁行に長軸を向ける隅丸長方形で、深さ65cm。SC-73を切る。径約15cmの黒褐色土の柱痕(①層)が一段掘り凹められた底から残り、周囲は極暗褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土で互層状に埋め戻されている。

南辺、西から2番目のSP-102は、東西40cm・南北70cmと、桁行より若干北で西に主軸を振る隅丸長方形、深さ70cm。径15cm強のにぶい黄褐色砂質土の柱痕(①層)が、最下部の灰黄褐色砂質土(⑨層)より上にあり、以上をにぶい黄褐色砂質土・暗褐色砂質土・灰黄褐色砂質土(②～⑧層)で互層状に埋積する(図版13-1-2)。

南辺、東から2番目のSP-103は、東西50cm・南北67cmで、SP-102とはほぼ平行に、桁行より若干北で西に主軸を振る隅丸長方形。残存深さ約55cm。径15cm弱のにぶい黄褐色砂質土の柱痕(①層)が、一段掘り凹められた底から残り、周囲は暗褐色砂質土や灰黄褐色砂質土(②～⑨層)で互層状に埋積されている(図版13-3-4)。

南東コーナーのSP-105は、南北45cm・東西75cmの、梁行から東で若干北に長軸を振る、すなわちSP-102・103とは長軸をほぼ直交させる、隅丸長方形の柱

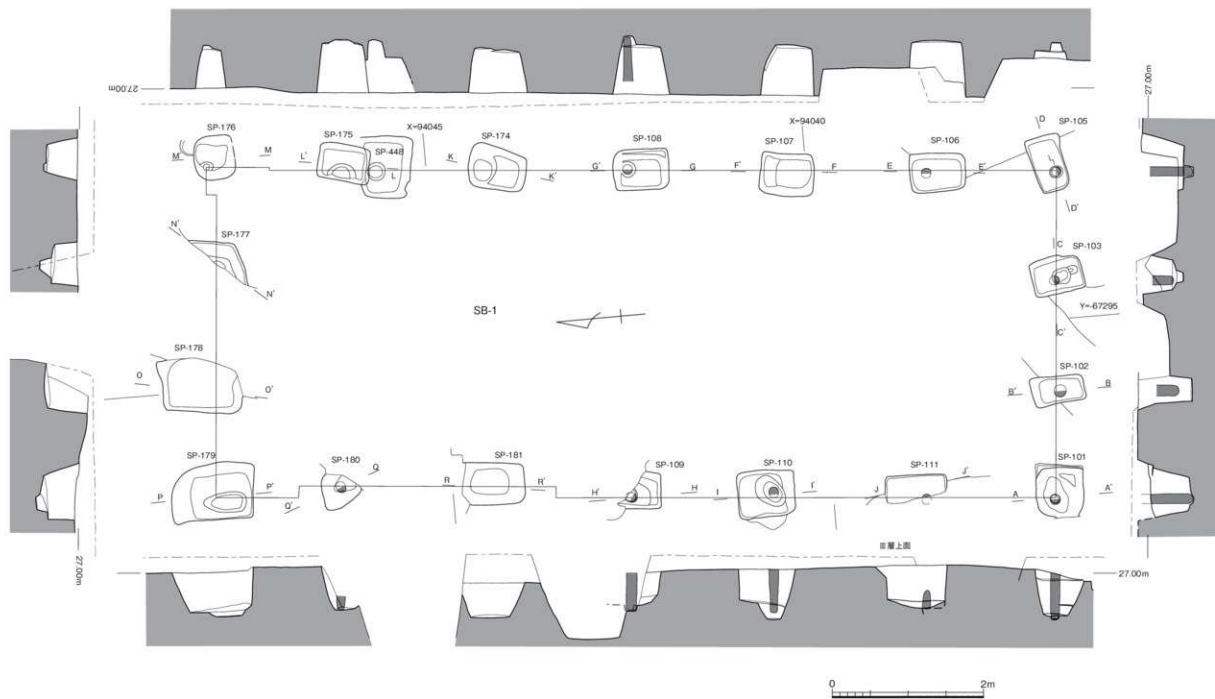
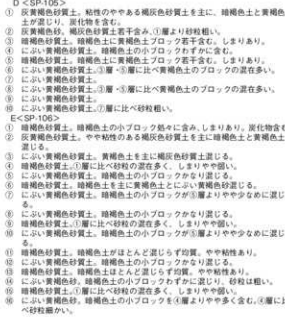


図100 SB-1遺構実測図 (縮尺1/50)

[illegible]

- ① 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土が多く、まばらに約1.5mの深さの層を占める。
- ② 繊維色は紺色土。黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ③ 主に黄褐色砂土。砂質で、微細な砂粒に多い。
- ④ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑤ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土に多い。面、塊状が多い。
- ⑥ 主に黄褐色砂土。土質は不均一で粘りや粘りがややある。粘りや面、塊状が多い。
- ⑦ 繊維色は紺色土。土質は不均一で粘りや粘りがややある。面、塊状が多い。
- ⑧ 繊維色は紺色土。まばらに約1.5mの深さの層に、1mmの角の微粒化層が互に並ぶ。
- ⑨ 繊維色は紺色土。まばらに約1.5mの深さの層に、1mmの角の微粒化層が互に並ぶ。
- ⑩ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑪ 繊維色は紺色土。まばらに塊状に多い。
- ⑫ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑬ 繊維色は紺色土。まばらに塊状に多い。
- ⑭ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑮ 主に黄褐色砂土。繊維砂土のブロックに多い。
- ⑯ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑰ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑱ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑲ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ⑳ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉑ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉒ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉓ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉔ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉕ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉖ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉗ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉘ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉙ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉚ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉛ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉜ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉝ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉞ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㉟ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊱ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊲ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊳ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊴ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊵ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊶ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊷ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊸ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊹ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊺ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊻ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊼ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊽ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊾ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。
- ㊿ 繊維色は紺色土。主に黄褐色砂土・ロク土の塊状に多い。

[illegible][illegible]

① 緑褐色砂質土。黒褐色砂質土の不定形ブロック多量を含み、2～3mm大の炭化物粒時々含む。

② 暗褐色砂質土。灰黄褐色砂質土多量を含み、炭化物含まない。

③ 暗褐色砂質土。灰黄褐色砂質土多量を含み、炭化物少し含む。

④ 暗褐色砂質シルト。灰黄褐色砂質土と炭化物わずかに含む。

⑤ 灰黄褐色砂質土。暗褐色砂質シルトの不定形ブロック散在する。

- ① 暗褐色色砂質土。5mmの砂粒多く含む。5mmの炭化植物質に含む。
- ② ぶい黄色色砂質土。暗褐色色砂質土多く混在。
- ③ 黒褐色色砂質土。砂粒少し混じり。微細な粘性あり。
- ④ ぶい黄色色砂質土。暗褐色色砂質土多く混在。
- ⑤ 暗褐色色砂質土。炭化植物質に混在し。粘性あり。
- ⑥ ぶい黄色色砂質土。暗褐色色砂質土多く混在。
- ⑦ 暗褐色色砂質土。炭化植物質に混在し。粘性顯著よりあり。
- ⑧ ぶい黄色色砂質土。暗褐色色砂質土と暗褐色粘質土の不定形ブロック多く含む。

M<SP-176>

- ① 褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土の5mm大の円形ブロック殻々を含む。1～2mm大の砂粒多く、炭化物わずかに含む
- ② にぶい黄褐色砂質土。
- ③ にぶい黄褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土多く混じる。
- ④ 暗褐色砂質土。黄褐色砂質土の不定形ブロック殻々を含む。炭化物わずかに含む。粘性あり。
- ⑤ 灰黄色砂質土。暗褐色砂質土わずかに混じる。
- ⑥ 暗褐色砂質土。砂粒混じり、粘性弱い。
- ⑦ 褐色砂質土。砂粒混じり、粘性弱い。

- ① 灰褐色砂質土。～2mm大の砂粒多く、炭化物わずかに含む。
- ② 灰褐色砂質土。褐斑状炭質土多く混じる。1mm大の砂粒多く、5mm大の砂粒わずかに含む。炭化物微かに含む。
- ③ 灰褐色砂質土。灰黄褐色砂質土の不定形ブロック微かに含む。しまりあり。
- ④ 黒褐色砂質土。灰黄褐色砂質土の1～5cm大の積層構相ブロック多く含む。
- ⑤ 1mm大の砂粒微かに、炭化物わずかに含む。
- ⑥ 灰黄褐色砂質土。灰黄褐色砂質土の不定形ブロック微かに含む。炭化物わずかに含む。しまりあり。

① 暗褐色砂質土。黒褐色砂質土の不定形ブロック多く含む。1mm大の砂粒、2〜3mm大の炭化物と焼土のわずかに含む。
② 暗褐色砂質土。黒褐色砂質土の不定形ブロックを①層より多く含む。1mm大の炭化物少し含む。
③ 暗褐色砂質土。灰黄色砂質土主に、黒褐色砂質土の不定形ブロックを①層より多く含む。1mm大の炭化物少し含む。
④ 暗褐色砂質土。黒褐色砂質土の不定形ブロック大量に含む。1mm大の炭化物少し含む。

⑦ 暗褐色砂質土と黒褐色砂質土の複層に入ブロック状を含む。1層目の砂粒多く含む。
⑧ 暗褐色砂質土。灰黒褐色砂質土多く、黒褐色砂質土の複層大ブロック状を含む。1層目の砂粒多く含む。
⑨ 暗褐色砂質土。
⑩ 暗褐色砂質土と黒褐色砂質土互在。
⑪ 暗褐色砂質土と主に黒褐色砂質土互在。
⑫ 灰状の暗褐色砂質土と黒褐色砂質土互在。
⑬ 鉄質砂質土。結核と赤鉄質土。

- ① 黒褐色砂質土。黄色砂質土の円形ブロック結々に含む。1mm大の砂粒多く、5mm大の炭化物質わずかに含む。
- ② 黒褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土多量に含む。3mm大の炭化物質わずかに含む。
- ③ 黒褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土厚状に多く含む。5mm大の砂粒と3mm大の炭化物質結々に含む。強い粘性あり。
- ④ にぶい黄褐色砂質土。黒褐色砂質土の5mm大の円形ブロック結々に含む。しまりあり。
- ⑤ 黒褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土厚状に多く含む。5mm大の砂粒と3mm大

⑥ によい黄褐色砂土。黒褐色砂質土の不定形ブロック多く含む。強い粘性あり。
Q<SP-180>
⑦ 暗褐色砂土。黒褐色砂質土の不定形ブロック多く含む。1mm大の砂粒多く、1cm大の砂礫わずかに、2mm大の炭化物粒々を含む。含む。
⑧ 暗褐色砂土。反黄褐色砂質土多く混じる。1cm大の礫わずかに、炭化物粒々を含む。
⑨ 暗褐色砂質土。きめ細かく、5mm大の炭化物粒々を含む。

① 暗褐色砂質土。1～2mm大の砂粒多量を含む。
② 暗褐色砂質土。灰黄色砂質土ブロック状々に含む。きめ細かい。
③ 暗褐色砂質土。灰黄色砂質土ブロックに結々に含む。1mm大の砂粒わずかに。炭化物多量を含む。
④ 暗褐色砂質土。灰黄色砂質土ブロック結々に含む。きめ細かい。しまりややわかい。

⑥ 暗褐色砂質土。有機物等に含む。
⑦ 灰黄褐色砂質土。暗褐色砂質土ブロック多く含む。砂質強い。しまりやや強い。
⑧ 暗褐色砂質土。灰黄褐色砂質土多く混じる。
⑨ 灰黄褐色砂質土。暗褐色砂質土ブロック多く含む。砂質強い。しまりやや強い。

穴。深さ70cmを測る。径15cm弱の灰黄褐色砂質土の柱痕(①層)が、一段掘り凹められた底から約20cmの立ち上がりを確認でき、上部に大きく攪乱を受けているものの、灰黄褐色砂や暗褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土(②~⑩層)で互層状の埋積されている(図版135)。

東辺、南から2番目のSP-106は、東西50cm・南北75cmと、建物桁行に長軸が揃う隅丸長方形で、深さ75cmを測る。最上部に上位包含層に等しい暗褐色砂質土(①層)があるが、その下で径15cm弱の灰黄褐色砂質土(②層)とにぶい黄褐色砂質土(③層)が底面まで続き、周囲を暗褐色砂質土やにぶい黄褐色砂質土、にぶい黄褐色砂(④~⑩層)で互層状に埋積する(図版136・7)。

東辺、南から3番目のSP-107は、東西55cm・南北70cmと、桁行にほぼ平行、北でわずかに東に長軸を振る隅丸長方形の柱穴。深さ65cmを測る。SC-12を切る。柱痕は認められず、暗褐色砂質土やにぶい黄褐色砂質土(①~⑦層)が、三日月状に堆積する。

東辺中央、南から4番目のSP-108は、東西55cm・南北73cmと、建物桁行に長軸が揃う隅丸長方形で、深さ75cm。SC-12を切る。最上部に暗褐色砂質土が20cm弱レンズ状に堆積し(①層)、以下に径10cm強の暗褐色砂質土あるいはにぶい黄褐色砂質土の柱痕(②~④層)が、一段掘り凹められた底部まで続く。周囲はきめ細かい。にぶい黄褐色砂質土と暗褐色砂質土(⑤~⑧層)で互層状に埋積されているが、最下層の⑧層は厚さ25cmを超え、丁寧な版築状とは言いえない(図版138)。

東辺、北から3番目のSP-174は、東西55cm・南北78cm、建物桁行より北で東に10°程度長軸を振る隅丸長方形の柱穴。SC-12・SC-21を切る。深さ約55cmで北側にわずかながら段状に深い。埋土は、暗褐色砂質土や暗褐色砂質シルト、灰黄褐色砂質土(①~⑤層)がそれぞれやや厚めの三日月状に堆積する(図版145)。

東辺、北から2番目のSP-175は、東西50cm弱・南北67cm、桁行から北でわずかに東に長軸を振る隅丸長方形。深さは70cmを測る。SC-19・SC-42、SX-18、SP-448を切る。埋土は、最上部の暗褐色砂質土(①層)が15~20cm、最下層のにぶい黄褐色砂質土(⑧層)が15cm前後と厚みのある他は、にぶい黄褐色砂質土と暗褐色砂質土・黒褐色砂質土(②~⑦層)が薄い三日月状に互層状に堆積する。

なお、このSP-175に切られた柱穴で、南北65cm・東西80cmと主軸を直交させる柱穴SP-448がある。埋土の記録を漏らしているが、検出面から45cmの深さがあり、さらに径20cm弱が約20cm深さを増し、ほぼSP-175底面と同じ高さに達している。

SP-176は建物北東コーナーの柱穴。南北53cm・東西60cmの隅丸方形で、深さ55cmを測る。SC-22・SC-41・SC-42を切る。埋土は、褐色砂質土や暗褐色砂質土などが水平基調に堆積し(①~⑦層)、底面は北西隅部がわずかながら凹みをなす。

北辺、東から2番目のSP-177は、柱穴北西側を攪乱され、南東部が残るのみ。長軸は南北に向けるとみられ、東辺残存60cmと南辺残存55cmが110°前後の鈍角をなす。深さは検出面から35cm前後を測り、そこからさらに15cm程の落ち込みをもつ。SC-22・SC-41・SC-42を切る。埋土は、灰黄褐色砂質土(②層)を主体に、底面片隅に灰黄褐色砂質土と黒褐色砂質土(③・④層)が流れ込んだような堆積をなす。灰黄褐色砂質土の1~5cm大の横長楕円形ブロックを多く含む。1mm大の砂粒を処々に、炭化物をわずかに含む。

北辺、西から2番目のSP-178は、東側を攪乱で欠くが、東西約80cm・南北約105cmの隅丸長方形に復元できる。深さは55cmを測る。SC-22・SC-24・SC-25・SC-41を切る。埋土は、暗褐色砂質土と黒褐色砂質土(①~⑧層)が水平基調に互層状に堆積する(図版146)。

建物北西コーナーの柱穴はSP-179。東西75cm・南北105cmの隅丸長方形で、桁行より北でわずかに西に長軸を振る。深さは約60cm。SC-24・SC-25を切る。埋土は、暗褐色砂質土・黒褐色砂質土・にぶい黄褐色砂質土(①~⑥層)が水平基調の三日月状に堆積する(図版147)。

西辺、北から2番目の柱穴SP-180は、柱穴北西隅部が鋭角をなす隅丸三角形に、北辺・西辺約50cmが残る。底面も一部ながら残り、深さ60cmを確認できる。SC-23を切る。埋土は、上部に暗褐色砂質土(①・②層)が厚く堆積する下に、径10cm強の柱痕とみられる、きめの細かい暗褐色砂質土(③層)が底面までみられる。その周囲を黒褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土(④~⑥層)で互層状に埋積している(図版148)。

西辺、北から3番目の柱穴SP-181は、東西55cm北側を塹壕による攪乱で切られ、南北は80cm以上。桁行に長軸をあわせた隅丸長方形で、深さは45cmを確認している。SC-23を切る。埋土は、暗褐色砂質土と灰黄

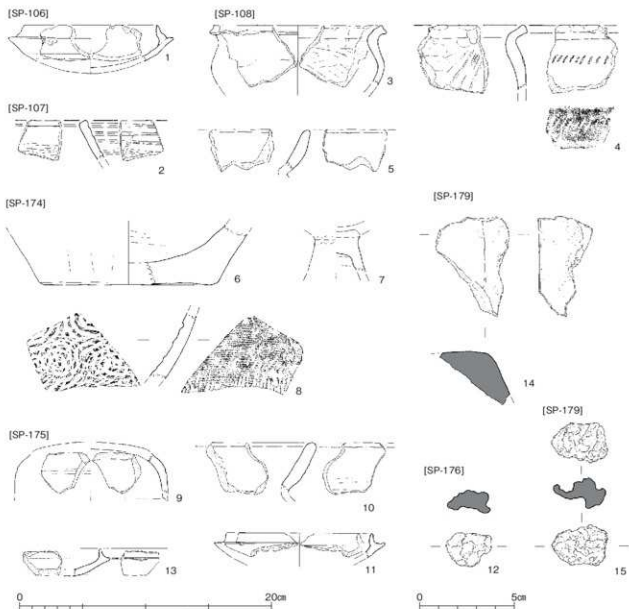


図102 SB-1出土遺物（縮尺1/3, 1/2）

褐色砂質土（①～⑨層）が、薄い三日月状に堆積している。

西辺中央、南から4番目のSP-109は、東西50cm、北側を壁壕による攪乱に欠いて南北は57cm以上を測る、長軸を桁行に平行させた隅丸長方形の柱穴。深さ50cm。SC-23を切る。復元径15cm弱の灰黄褐色砂質土の柱痕（①層）が、一段掘り凹められた底面にまで及び、周囲を暗褐色砂質土や灰黄褐色砂質土、にぶい黄褐色砂、にぶい黄褐色砂質土（②～⑥層）で、互層状に埋積する（図版14-1）。

西辺、南から3番目のSP-110は、東西62cm・南北75cmを測り、桁行からわずかに北で西に長軸を振る隅丸長方形の柱穴。深さ65cm。SK-51を切る。径10cm強

の黒褐色砂質土（①・②層）が、一段掘り凹められた底部にまで残り、周囲を暗褐色砂質土やにぶい黄褐色砂質土等（③～⑤層）で互層状に埋積する（図版14-2）。

西辺、南から2番目のSP-111は、西半に大きく攪乱を受け東側が残るのみ。東西35cm以上・南北80cmの、桁行からわずかに北で西に長軸を振る隅丸長方形に復元できる。深さ55cm。①～③層の黒褐色砂質土は本来別柱穴の埋土で、攪乱により斜めに切られた壁面で底面に接して立ち上がって見える褐色砂質土（⑤層）が、径10cm強の柱痕と考えられる。その周囲を、褐色砂質土や暗褐色砂質土（④～⑥層）が互層状に堆積する（図版14-3・4）。

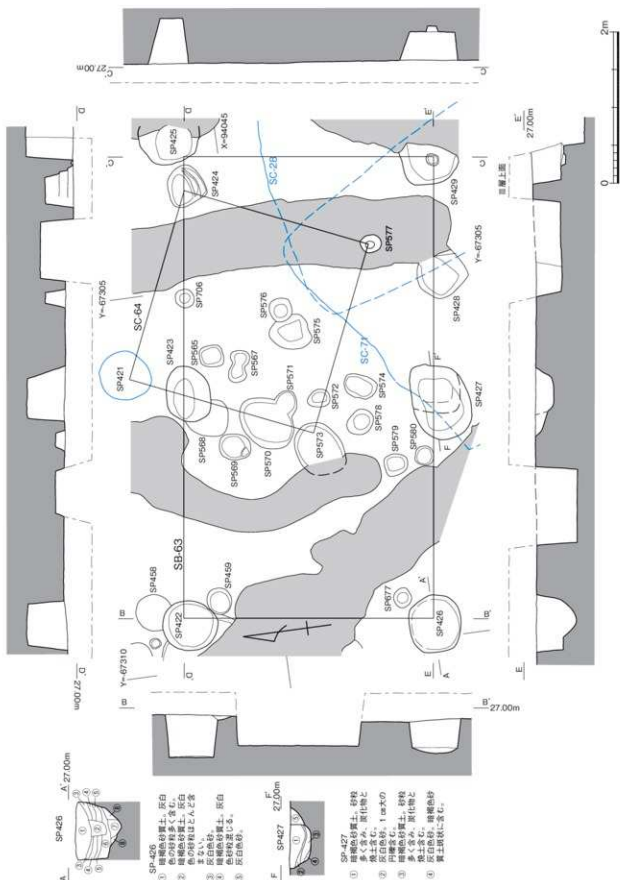


圖103 SB-63遺構實測圖（縮尺1/50）

以上のように、南半の柱穴（SP-101～103・105～111）は、SP-107を除いて柱痕を残し、柱穴の掘形の平面形も整っている。対して、北半の柱穴（SP-174～181）は、SP-180を除いて柱痕跡が窺えず、埋土も柱抜き取り後に埋没したような状況を示し、掘形平面形もやや不整形である。当初、南半だけで完結する建物とも考えたが、SP-108～109間に該当する柱穴は存在せず、建物解体にあたり、北半は柱が抜き取られ、南半は少なくとも柱下部がそのまま柱穴に埋置されたままであったことが窺える。

SB-1を構成する各柱穴から遺物が出土しており、コンテナ半箱ほどに達する。しかし、図化できる遺物は少なく、ほとんどが小片ないし細片である。その中でも遺物の主体は弥生土器が占めるものの、古墳時代後期の須恵器および土師器も多く、鉄滓も含む。したがって、古墳時代後期以降の遺構であることはまちがいない。唯一、SP-110からは瓦器碗体部細片が出土している。一見瓦質に焼き上がった須恵器細片とも見えるが、内外面が残って厚3mm弱と極端に薄く、須恵器とは考えがたい。ただし、これ以外古墳時代後期を降る出土遺物は見られない。

図化した遺物は15点（図102、図版43-2～6）。1はSP-106出土の須恵器坏身。立ち上がりはなお高いが口径14cm前後と小型で6世紀後葉。2はSP-107出土の弥生土器無頸壺口縁部片。1条単位の凹線文が4条以上残る。3～5はSP-108出土。3は弥生土器甕。口縁部を強く横ナデし、端部がやや凸状。後期前葉。4は胴部に二枚貝によるノ字状刺突文を施す甕。文様は瀬戸内海北岸地域の影響か。5はやや内湾気味の土師器口縁部。6世紀代か。6～8はSP-174出土。6は弥生土器壺底部。7は坏底に天井部のある脚を接合する高坏片。8は須恵器甕胴部下破片。9はSP-175出土須恵器坏蓋後部片。6世紀中葉。10～12はSP-176出土。10はやや内湾気味の土師器口縁部。6世紀代。11は須恵器坏身。6世紀後葉。12は鉄滓。表面になだらかな凹凸がある（図版43-5）。13～15はSP-179出土。13は須恵器坏身片。立ち上がり・受け部ともかなり矮小化が進んでいる。6世紀後葉。14は磨石。上面が平滑に磨き上げられ、側面にも研磨及ぶが、敲打による微細な凹凸が斑状に残る（図版43-4）。15は鉄滓。片面側にスアナが集中する（図版43-6）。

以上、出土遺物からは、SP-110の瓦器碗を紛れ込み

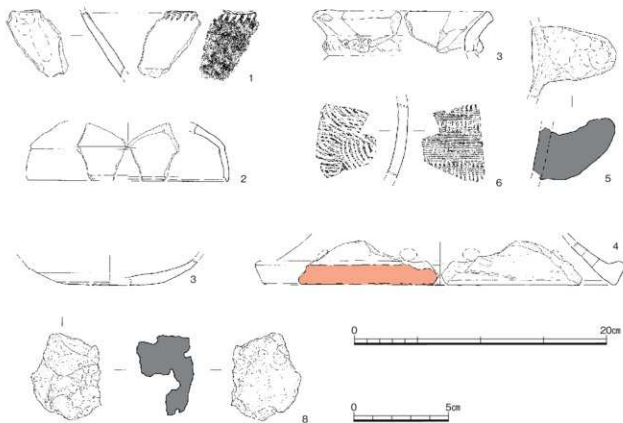


図104 SB-63出土遺物（縮尺1/3, 1/2）

とすると、古墳時代後期以降としかSB-1の時期を限定できない。ただし、出土遺構の切り合い関係において最上層に位置し、隅丸方形の柱掘形と互層状の埋め戻しという柱穴遺構の特徴を、近在の松山市久米官衙遺跡群の調査成果と比較した場合、古代前半に位置づけられる可能性が高い。

(2) 63号掘立柱建物 (SB-63)

(図103・104、図版15-1・43-7~10)

DW29・DW30区とDX29・DX30区にまたがって所在する掘立柱建物。SC-28・SC-71を切り、SC-64を切ることで推定される。

SP-422・423・425・426・427・429で構成され、1間×2間。桁行3.3m・梁行6.1mを測り、主軸は東西から西で南に約7°振る(図103、図版15-1)。

柱穴は径70cm前後の円形から、長軸100cmを測る不整形円で、柱穴底面深さは南側柱穴がやや浅いのもの、26.30~26.40mで揃う。

北西コーナーのSP-422は、東西65cm・南北70cmの略円形で、深さは55cm。埋土は、白色の砂粒を上層に多く含む暗褐色砂質土。

北辺中央のSP-423は、南北57cm・東西75cmを測る楕円形で、深さは50cm。埋土は、灰白色砂および親指大の円礫を縦状に含む暗褐色砂質土。

北東コーナーのSP-425は、東半に攪乱を受け、南北75cm・東西45cmの半円形状に残る。本来径80cm前後の円形か。深さは62cm。埋土は、白色砂粒を多く、小指先大の砂礫を少し含む暗褐色砂質土。上層に炭化物を少し含む。

南西コーナーのSP-426は、南北70cm・東西75cmの略円形、深さは55cmを測る。埋土は最上部に暗褐色砂質土(①層)がレンズ状に20cm弱堆積し、その下に径20cm強の柱痕として砂粒ほとんど含まない暗褐色砂

質土(②層)が認められ、その周囲を灰白色砂と暗褐色砂質土で互層状に埋積する(③~⑥層)。さらにその下には、先行する柱痕とみられる砂粒をほとんど含まない暗褐色砂質土(⑦層)とその埋土の暗褐色砂質土が塊状に混じった灰白色砂(⑧層)が認められた。

南辺中央のSP-427は、西側の先行する柱穴を一部含んで一括してしまっており、本来は東西58cm・南北65cmの不整隅丸長方形に復元される。深さは30cmを測る。埋土は最上部の暗褐色砂質土(①層)が厚く、以下に灰白色砂と暗褐色砂質土がレンズ状に埋積する(②~④層)。西側に先行した柱穴埋土は暗褐色砂質土(⑤層)。

南東コーナーのSP-429は、東半に攪乱を受け、南北75cm・東西55cmの不整半円形状に残る。本来は径80cm前後の不整形円形か。深さは37cmで、中央に径10cm強・深さ8cmの小円坑がある。埋土は、白色から灰白色の砂粒を大量に含む暗褐色砂質土で、かなりしみがあ

る。SB-63を構成する各柱穴から遺物が出土している。図化できる遺物は多くなく、主体は弥生土器であるが、古墳時代後期の土師器・須恵器を含み、鉄滓も見られ、8点を図化した(図104、図版43-7~10)。

1・2はSP-422出土。1は弥生土器壺肩部片。1列の列点文の上に1条の沈線が残る。後期前葉。2は須恵器坏蓋。外面縁部があまりいながらも残り、口縁内端部は凹線状をなす。6世紀中葉。3~4はSP-425出土。3は短い口縁部をもつ弥生土器壺で、頸部に突帯を貼り付けた後、布目圧痕を施す。4は弥生土器の脚部。端部外面と上面に赤彩を施すとともに、脚部下端付近には1周8単位前後の円孔が開けられる(図版43-8)。5は土師器甕の把手部(図版43-9)。6は須恵器甕の胴部片。7・8はSP-427出土。7は須恵器坏身底部片。8は鉄滓(図版43-10)。

3 土 壙

土壙として遺構番号を与えたのは17基。以下、遺構毎に詳細を報告する（図7）。

(1) 34号土壙（SK-34）

（図105・106、図版44-1・2）

DU30区 所在。SC-22・SC-41、SP-249・250・277～

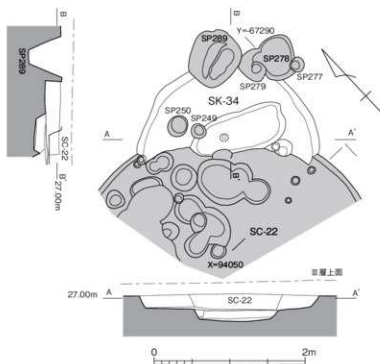


図105 SK-34遺構実測図（縮尺1/50）

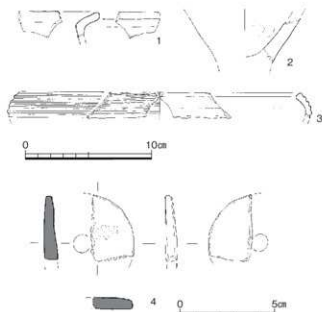


図106 SK-34出土遺物（縮尺1/3, 1/2）

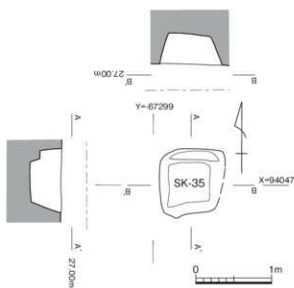


図107 SK-35遺構実測図（縮尺1/50）

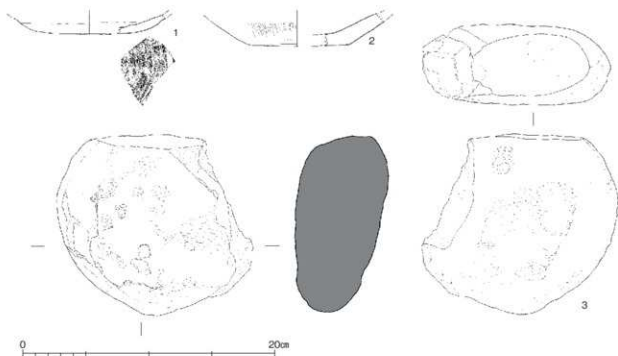


図108 SK-35出土遺物 (縮尺1/3)

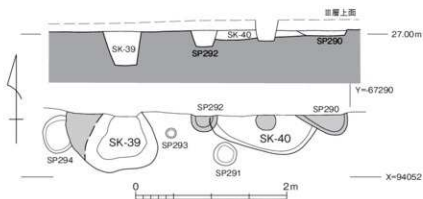


図109 SK-39・40遺構実測図 (縮尺1/50)

279・289に切られる。南東側をSC-22・SC-41に大きく切られ、北西側が径24cm前後の半月状に残る。底部は中央部の深い皿状で深さ20cm前後。さらに中央部に南北約1.35m・東西幅約0.5m・深さ15cm程度の落ち込みがある。埋土は、にぶい黄褐色砂質土を主体とし、少量の明黄褐色砂質土が斑状に混じる。白色の砂粒はほとんど含まず、炭化物を少し含む (図105)。

出土遺物は弥生土器・石器があり、このうちから図化できたのは4点 (図106、図版44-1・2)。1～3は弥生土器。1はく字状に屈曲する甕口縁部で、内外の稜はあまい。2は鉢下胴部か。底部は凸状を呈するとみられる。3は高坏。内湾する口縁部外面に5条以上の凹線文をもつ。4は石製紡錘車。中央孔から外周の

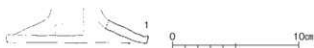


図110 SK-39遺物実測図 (縮尺1/3)

ほぼ1/4が残り、復元径5.4cm・中央孔径1.0cm、現重量6.8g。中央孔部が6mm前後と厚く周縁は4mm前後、外側は平滑に仕上げられている。片面孔脇に敲打痕が見られる。角閃石製安山岩製で防府産か (図版44-2)。

少ない出土遺物ではあるが、1の甕口縁部片に若干新しい特徴をみることもできるものの、3の高坏口縁部から、SK-34は中期後葉に位置づけられる。

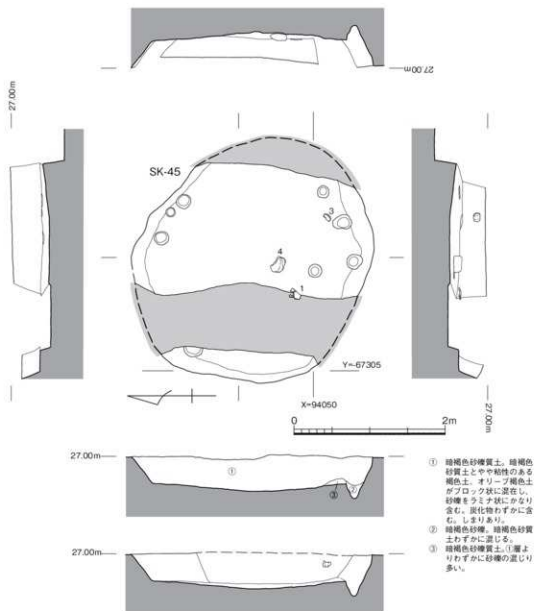


図111 SK-45遺構実測図（縮尺1/50）

（2）35号土坑（SK-35）

（図107・108、図版44-3・4）

DV30区出土。SC-25を切る。南北・東西とも0.9m前後の不整形方形。深さは45cm前後ながら、北側のみ深さ30cm前後で段をなす。柱穴の可能性も残るが、土坑として位置づけた。埋土は、にぶい黄褐色砂質土で、明黄褐色砂質土の不定形ブロックをごく少量含む。白色砂粒を多く含む（図107）。

出土遺物は弥生土器・須恵器・土師器・石器があり、このうちから図化できたのは3点（図108、図版44-3・4）。1は回転ヘラケズリを施す須恵器坏身底部ない

しは坏蓋天井部。2は弥生土器壺底部。外面は底部近くまで縦方向のハケ目調整が残り、煤が付着する。3は石器の台石。表裏両面に敲打痕を残すとともに、1側面が磨面として平滑に磨き出されている。花崗岩製で現重量2200gを量る（図版44-4）。

須恵器・土師器を確実に伴い、古墳時代後期に降ることは間違いない。ただ図化できた1の須恵器から詳細な時期特定は難しい。6世紀第2四半期としたSC-25を切ることからそれ以降、6世紀第3四半期までの幅の中には収まるとみられる。

- ① 暗褐色砂礫質土。暗褐色砂質土とやや粘性のある褐色土。オリブ褐色土がブロック状に混在し、砂礫をうみ状にかなり含む。炭化物わずかに含む。しまりあり。
- ② 暗褐色砂礫。暗褐色砂質土わずかに混在。
- ③ 暗褐色砂礫質土。①層よりわずかに砂礫の混入が多い。

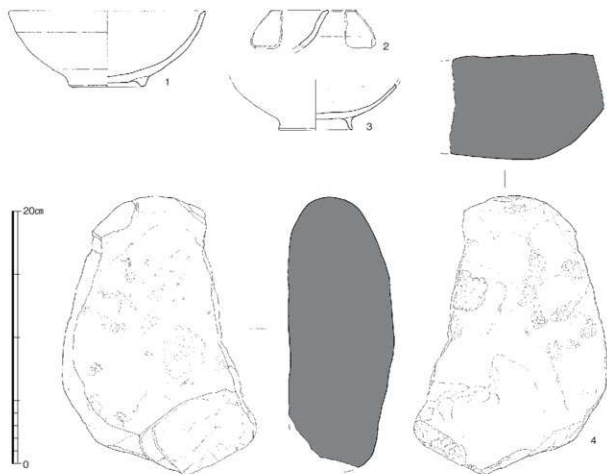


図112 SK-45出土遺物 (縮尺1/3)

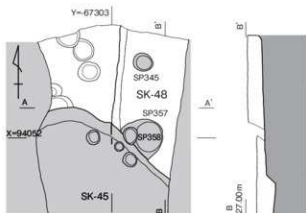


図113 SK-48遺構実測図 (縮尺1/50)



図114 SK-48出土遺物 (縮尺1/3)

(3) 39号土坑 (SK-39) (図109・110、図版44-5)

DU3I区の北壁際で出土し、北端は調査区外へと続く。1辺1m前後の不整隅丸三角形状で、深さ45cmを測る。埋土の詳細は記録していない(図109)。

SK-39出土遺物には弥生土器と土師器があり、この中から図化できたのは1点のみ(図110、図版44-5)。1は土師器高坏脚部。脚部から屈曲して開く脚部部で端部は面をなす。

(4) 40号土坑 (SK-40) (図109)

DU3I区の北壁際で出土し、北端は調査区外へと続

く。SP・290・292に切られる。調査区北壁にやや斜交し、長さ1.3m前後・幅0.6m前後が確認できたのみ。深さは最大でも13cm程度。埋土の詳細は記録していない(図109)。

出土遺物はないが、弥生時代の柱穴 SP・290に切られることから、弥生時代の遺構。

(5) 45号土坑 (SK-45)

(図111・112・156、図版446～8)

DW30・DW31区そしてDX31区にまたがる大型土坑。SC-44、SK-48、SP・358・372を切る。攪乱により東端を欠くとともに、別の攪乱により大きく遺構西部を欠いて、西端がわずかに残るのみ。約45°傾いて、北西-南東方向の長軸3.5m・北東-南西方向の短軸2.4mを測る、楕円形に全形が復元される。深さは約45cm

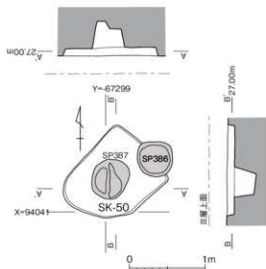


図115 SK-50遺構実測図 (縮尺1/50)

(図111)。

埋土は暗褐色砂礫質土で、暗褐色砂質土とやや粘性のある褐色土、オリブ褐色土がブロック状に混在し、砂礫をラミナ状にかなり含む(①層)。土坑底面で、南北の壁際に沿うように、暗褐色砂礫(②層)で埋まる小穴状の落ち込みが認められる(図111)。

出土遺物は、大型土坑ながら多くない。しかし、いずれの取上単位でも中世土師器の小片が見られるとともに、比較的大型の土器片は出土時から中世土師器と認識でき、遺構が中世に降ることを明確に認識できた。大型の土器片は、土坑底面よりかなり高い位置で出土し、大型石器の底面近くでの出土である。

図化できた遺物は、1～3の土師器3点と台石1点(図112、図版446～8)。1～3の土師器はいずれも埴。1は全形が復元でき、内湾する体部から口縁は横ナデによりわずかに外反する。底部は断面台形状の貼付高

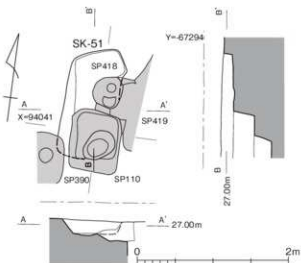


図116 SK-51遺構実測図 (縮尺1/50)

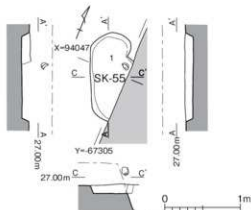


図117 SK-55遺構実測図 (縮尺1/50)



図118 SK-55出土遺物 (縮尺1/3)

台がつき、内側には板目圧痕が残る（図版44-6）。2は口縁部で、1より横ナデによる外反が強い。3は下半部で、体部外面は磨滅するが、内面に横ミガキが残る。底部は高く細長い貼付高台で、端部は外反気味である（図版44-7）。1・3は内外面灰白色と白い土師器である。4は台石で、表裏面とも敲打痕を一部残しつつ磨面として使用されている。花崗岩製で現重量3.665gを量る（図版44-8）。

遺構の時期であるが、18・25次調査において出土した中世土師器の分類に従えば、1はHWW②、3がHWW⑤にあたる。両者が共存するのは、Ⅱ・2・⑥層の下層水田開田耕作段階からⅡ・2・④層の中層水田開田耕作段階までの、11世紀後半から12世紀末葉である。ただし、SK-45出土遺物中に、瓦器片は見ることができない。したがって、瓦器が出現普及する以前として、SK-45の時期を11世紀後半から12世紀前半に位置づける。

（6）48号土坑（SK-48）（図113・114、図版44-9）

DW31区。SK-45、SP-345・357・358に切られる。南

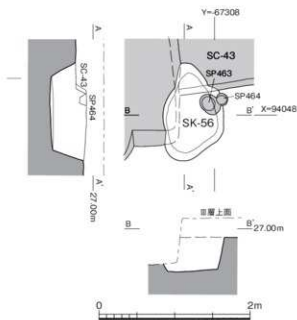


図119 SK-56遺構実測図（縮尺1/50）

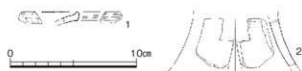


図120 SK-56出土遺物（縮尺1/3）

側をSK-45、東側は掘乱で切られ、北は調査区外へと続き、出土したのは西辺13m、東西幅0.9mの台形状の範囲のみ。深さは約20cm。埋土は、暗褐色土が砂礫中にブロック状に混在する暗褐色砂礫質土で、しまりがある（図113）。

少ないが出土遺物は弥生土器で、図化できたのは1点のみ（図114、図版44-9）。1は胴部から緩やかに外

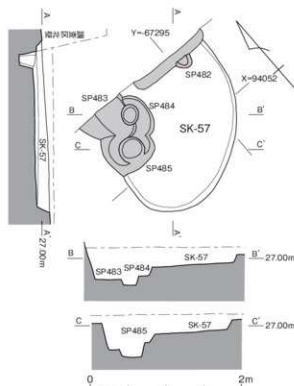


図121 SK-57遺構実測図（縮尺1/50）

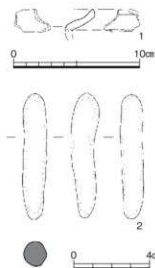


図122 SK-57出土遺物（縮尺1/3, 1/2）

反する弥生土器甕口縁部片。胴部外面には平行タキ目を残し、内面はハケ目調整。後期後葉に降り、松山平野外からの搬入品とみられる。

(7) 50号土坑 (SK-50) (図115)

DV29区出土。SP-386・387に切られ、SC-29を切る。北東-南西方向最大1.2m、北西-南東方向0.9~1.0mの不整形台形状で、深さ約10cmが残る。SP-387はSK-50中央に位置し、SP-386は北東辺を切る。埋土の詳細は記録していない(図115)。

出土遺物がなく時期詳細は不明。ただし、SK-50を切るSP-387からは須恵器が出土しており、古墳時代に降る可能性が考えられる。

(8) 51号土坑 (SK-51) (図116)

DV29区出土。南東側をSP-110・390・418・419に切られ、遺構北側が残るのみで、SC-29を切る。残存範囲は東西幅0.7m前後、南北長1.2m。埋土の詳細は記録していない(図116)。

出土遺物はないが、SK-51が切るSC-29が弥生後期前葉。切られるSP-110は古代前半に降るSB-Iを構成する柱穴であるが、同じく切られるSP-390・418からは弥生土器しか出土していない、弥生時代の遺構である可能性が高い。

(9) 55号土坑 (SK-55) (図117・118、図版45-1)

DX30区。東側を攪乱で切られるが、本来は長軸1.2m前後、幅0.5m前後の長楕円形。深さは10cm程度が残るのみで、確認した遺構面よりかなり上位で弥生土器鉢(1)が出土した。埋土の詳細は記録していない(図117)。

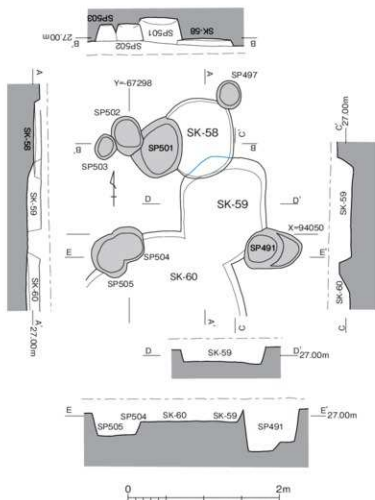


図123 SK-58・59遺構実測図 (縮尺1/50)

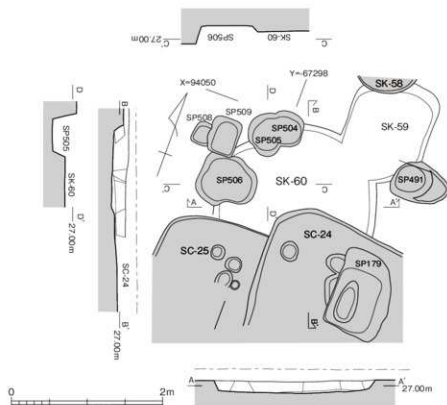


図124 SK-60遺構実測図 (縮尺1/50)

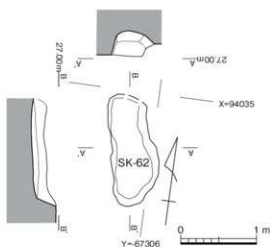


図125 SK-62遺構実測図 (縮尺1/50)

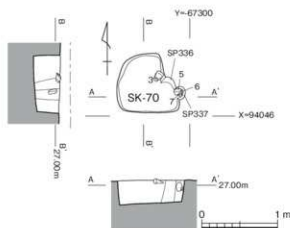


図126 SK-70・SP-337・338遺構実測図 (縮尺1/50)

出土遺物は、出土状況の明らかな図化した1点も含め、すべて弥生土器。1は弥生土器鉢。丸みのある体部から、口縁部は内傾外反し、薄い端部はわずかに外方につまみ出すらしい。底部はやや凸状。類例が乏しいが、口縁部を横ナデして端部をつまみ出すあり方は、Ⅳ～Ⅴ-I様式の範疇か(図118、図版45-1)。したがって、SK-55は弥生時代中期後葉から後期初頭の遺構と位置づけることができる。

(10) 56号土坑 (SK-56) (図119・120、図版45-2)

DX30区出土。SC-43、SP-436・464に切れ、西端を攪乱で切られるが、底面は本来の形状を残す。長軸1.3m・短軸0.8mの隅丸の不整三角形形状を呈し、深さは45cmを測り深い。埋土の詳細は記録していない(図119)。

出土遺物に一部瓦器碗片が見られるが、この遺構を

切る SP-463が中世の柱穴で、同じく SK-56を切る SC-43が古墳時代に遡る堅穴建物であり、SC-43出土遺物にも中世以降の遺物が多く紛れ込んでいたことから、SK-56出土の中世以降の遺物は紛れ込みと判断する。図化できた2点はいずれも弥生土器(図120、図版45-2)。1は2条の凹線文をもつ甕口縁端部小片。2は高环脚部片で、貫通する透かし長辺が残る。これらから、SK-56の時期は弥生時代に遡り、中期後葉から後期初頭か。

(11) 57号土壙 (SK-57) (図121・122、図版45-3)

DV31・DV31区の調査区北壁際で出土した土壙で、遺構北西部が調査区外へと続く。SP-482~485に切られる。本来は長軸2.5m前後、短軸1.5m前後の楕円形。深さは20cm弱を測る。埋土の詳細は記録していない(図121)。

SK-57出土遺物には、弥生土器・土師器・石器の他、古代中世の土師器環の可能性が高い小片があるが、これは紛れ込みとみる。このうち図化できたのは弥生土器1点と石器1点(図122)。1はわずかながら内湾する甕口縁部片。2は棒状の砂岩製磨石。現重量は17.3g(図版45-3)。図化できなかった遺物に古墳時代土

師器があり、SK-57は古墳時代の遺構とすることができる。

(12) 58号土壙 (SK-58) (図123)

DV31区所在。SP-497・501に切られ、SK-59を切る。本来、長軸約1.1m、短軸約0.9mの不整形、深さ15cm前後を測る。埋土の詳細は記録していない(図123)。

出土遺物はない。ただし、SK-58が切る後述のSK-59が古墳時代に降ることから、SK-58も古墳時代後期の土壙である可能性が高い。

(13) 59号土壙 (SK-59) (図123)

DV31区所在で、SK-58、SP-491に切られ、SK-60と切り合う。本来、南北約1.5m、東西約1.1mの隅丸長方形、深さ10cm弱を測る。埋土の詳細は記録していない(図123)。

出土遺物は図化できないが、弥生土器と土師器があり、古墳時代後期以降に降る。

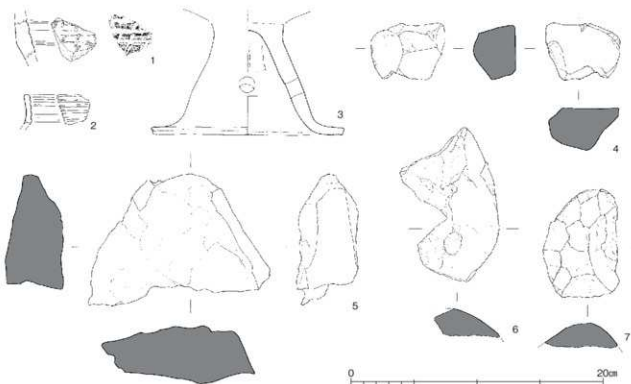


図127 SK-70・SP-337・337出土遺物(縮尺1/3)

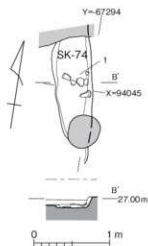


図128 SK-74遺構実測図 (縮尺1/50)

(14) 60号土坑 (SK-60) (図124)

DV30・DV31区に広がり、SC-24・SC-25、SP-504～506・509に切られ、SK-59と切り合う。南側をSC-24・SC-25で大きく切られ、本来は径2.0m前後の円形と推定され、深さは15cm前後が残る。埋土の詳細は記録していない(図124)。

出土遺物は図化提示できるものがないが、弥生土器と須恵器からなり、SK-60は古墳時代後期に降る。

(15) 62号土坑 (SK-62) (図125)

DX27区。SC-13に切られる。南北1.45m・東西0.5～0.65mの不整な長楕円形状。深さは最大35cmが残る。埋土は暗褐色砂質シルトで、明黄褐色砂質土の2cm大の円形ブロック、褐灰色砂質土の10cm大ブロックを含み、炭化物を少量含む(図125)。

出土遺物は弥生土器に限られ、弥生時代後期前葉のSC-13に切られることから、それ以前に位置づけられる。

(16) 70号土坑 (SK-70)

(図126・127、図版45-4～9)

DW30区出土。SP-336・337と切り合い、SC-26を切る。ただし、SP-336・337は深さも等しく、一連の遺構である可能性もあり、遺物取り上げも同じ単位で行った。SK-70は南北約0.8m・東西約0.5mの不整長方形で、深さ30～35cm。西側に南辺と底面を共有して張り出し、

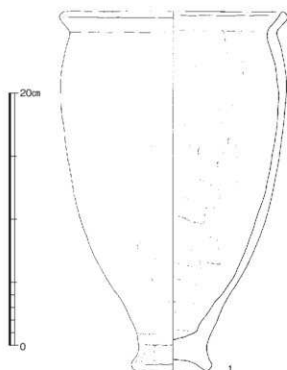


図129 SK-74出土遺物 (縮尺1/3)

これをSP-336とした。さらに径15cm程度の小穴が東側に付随し、これがSP-337であり、遺物がままとってみられた。埋土の詳細は記録していない(図126)。

SK-70はSP-337・338と一連で掘り下げており、これらの出土遺物を一括して報告する。出土遺物は弥生土器と石器(図127、図版45-4～9)。弥生土器3点と石器4点を図化した。1は壺頸部。3条の沈線施文後間に列点文を施す。2は凹線文4条もつ高環口縁部。3は脚上面に環部が載っていた高環脚部で、脚中位の4方向に円形透かしをもつ(図版45-5)。4～7は石器。4はあまり使用頻度が高くないが、磨面が4面残る磨石。石英片岩製か(図版45-6)。5は台石で側面に磨面が残るが、被熱黒変し表面の爆裂状の剥落が多い。火成岩製か。現重量631.3g(図版45-7)。6は粗い砂岩製の台石。一部敲打痕があるが、丸みのある磨面をもつ。現重量175.2g(図版45-8)。7は残核状を呈する素材か。雲母を含む安山岩片で、紡錘車の素材に近似する。現重量100.4g(図版45-9)。

3の高環から、SK-70は弥生時代後期前葉～中葉とみられる。

(17) 74号土坑 (SK-74)

(図128・129、図版45-10)

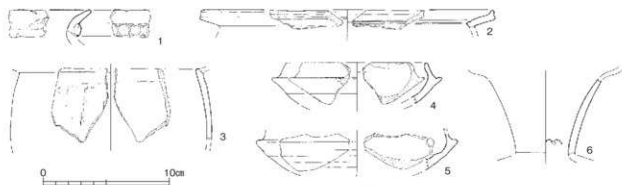


図130 SX-18出土遺物（縮尺1/3）

DU29・DU30区出土。当初、SC25K1としたが、古墳時代後期以降のSC-25にあって、大型の弥生土器破片ががままとって出土し、他の遺物にも古墳時代に降るものがないことから、SC-25に伴う遺構でなく、先行する遺構と判断し、別の遺構名を与え、SK-74とした。SC-25、SP-201に切られ、北側を塹壕により攪乱を受けている。東西幅約0.5m、南北長約1.25mが残る。本来は長さ1.5m強の長楕円形か。深さはSC-25掘形

検出レベルから約15cm、SC-25床面下では5cm強が残ったのみ（図128）。

図化できた出土遺物は、全形を復元できた1の甕のみ（図129、図版45-10）。口縁部は緩やかにくの字状に屈曲し、端部はやや丸みを帯びた面をなす。胴部は外面縦方向のナデで、内面は縦方向のヘラケズリ後にナデがなされる。底部は上げ底。弥生時代後期初頭に位置づけられる。

4 その他の遺構

明確な掘形をもつ遺構として認識できなかったが、堆積の一単位とできるまとまりを、SXとして報告する。

（1）SX-18（図53・130、図版45-11）

DU30区出土。SB-1、SC-14・SC-15に切られ、SC-19・SC-42を切る。SC-19上部の堆積単位で、焼土と炭化物を多く含む（図53）。

焼土・炭層を採取して水洗選別したところ、炭化物のほか、動物骨小片を多く採取している。土器他の出土遺物については、北および西のSC-42・SC-19上位に広がる可能性もあるが、土層から確実な範囲の広がりのみをSX-18出土遺物とした。須恵器・土師器を確実に伴う。

図化した遺物は6点（図130、図版45-11）。うち5はSX-18とSC-19を通した畔東際での断割出土で、SX-18への帰属が明確でないが、須恵器であり、弥生時代に遡るSC-19とは別に、SX-18出土遺物として報告する。1～3は弥生土器。1は頸部に貼付押圧突帯をもち短く外反する壺口縁部。端部は細く尖り気味。2は端部を上方に拡張して1条の凹線文をもつ甕口縁部。頸部内面も強く横ナデし、凹線状を呈する。3は甕上胴部。縦方向のハケ目の後、頸部直下に強い横ナデを施し、口縁部にも凹線文をもっていた可能性が高い。4～6は須恵器。4・5は坏身。4は口径が小さく立ち上がりも高いが、口縁端部は丸く収めたまま。5は口縁を欠くが、底部外面の回転ヘラケズリの範囲は比較的広い。6は壺頸部で文様はもたない。須恵器は6世紀中葉に位置づけられる。

5 柱穴・小穴

出土遺構には、建物・土城・溝などの大型遺構、これらの底面で検出した落ち込み・柱穴の他、単独出土の柱穴がある。SP-101から順次番号を与え、欠番

を挟みつつもSP-683まで及び、さらに整理段階でSP-701～723を加えた（図131）。しかし、建物を構成する以外のほとんどの柱穴においては、埋土の記録を遺

漏れてしまっている。遺構実測図を提示できるのは、SP-118とSP-420（図132、図版15-2）、SP-223・224（図139、図版15-6）に過ぎない。その他の柱穴・小穴の記録した詳細（位置・形状・出土遺物）については、遺構一覧表である表2を参照されたい。

出土した柱穴・小穴には、遺物を伴うものとそうでないものがあり、後者が多い。少ない前者の中には、弥生時代遺物のみからなるもの、古墳時代に降る遺物を含むもの、さらに古代後半から中世に降る遺物を含むものがある。このような出土遺物から、弥生時代と古墳時代、そして古代後半から中世の柱穴・小穴に分けて、以下柱穴出土遺物を報告する。

（1）弥生時代の柱穴出土遺物

（図133～135、図版46・47）

古墳時代以降に降る遺物を伴わない柱穴・小穴から出土した遺物で図化できたのは、54点。

SP-118 1は弥生土器壺肩部片。刺突文を巡らす、水平に一直線とならず乱れがある。2は弥生土器甕口縁部片。端部を断面三角形に肥厚させ、太めの凹線文を1条施す（図版46-1）。Ⅳ様式。

SP-119 3は大型の弥生土器高坏环部。外面口縁下に2条の沈線が巡り、内面はこれに対応する位置に横ナデが施される（図版46-2）。Ⅳ様式。

SP-185 4は壺ないし鉢の直口口縁部。胎土に雲母を多く含む（図版46-3）。

SP-190 5は弥生土器甕口縁部。内外面に横ナデが施される。

SP-193 6は弥生土器壺口縁部。端部を上下に拡張し3条の凹線文を施す（図版46-4）。Ⅳ様式。

SP-197 7は弥生土器甕口縁部。横ナデにより端部を上下にわずかながらつまみ出す。Ⅴ様式。

SP-199 8・9はいずれも弥生土器甕。8は内外面横ナデを施す口縁部小片。9は頸部に突帯を貼り付け、布目押圧を施す。

SP-206・207 10は弥生土器壺口縁部で、上下に拡張して外傾する口縁端部に4条の凹線文をもつ（図版46-5）。Ⅳ様式。

SP-237 11は外面に縦方向にミガキが施され、弥生土器高坏の脚部部とした。

SP-240 12は弥生土器壺下胴部。13はサスカイト残核か。両側長辺がシャープに打割られ、短辺側表裏に

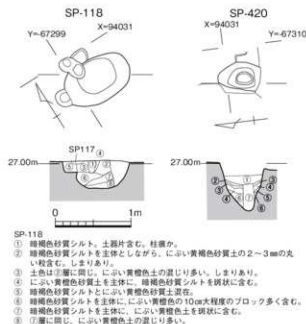


図132 SP-118・SP-420遺物実測図（縮尺1/50）

は細かい剥離が見られる。現重量5.1g（図版46-6）。

SP-289 14は弥生土器壺口縁部か。外面に縦方向のハケ目調整が残り、内面には横ナデが施される（図版46-7）。

SP-290 15は弥生土器高坏脚部。柱部外面に縦方向のハケ目、裾部内面に横方向のハケ目が残る（図版46-8）。Ⅴ様式。

SP-314 16は台石。表裏と1側面が残り、断面平行四辺形状を呈する。破断面を含めて被熱黒変する。花崗岩製で795.7gを量る（図版46-9）。

SP-376 17は弥生土器壺口縁部細片。端部を拡張し2条の凹線文を施す。Ⅳ様式。

SP-377 18は弥生土器壺底部で上げ底。底径は小さく、Ⅳ～Ⅴ-1様式。

SP-378 19は弥生土器複合口縁壺の口縁屈曲部。頸部には縦方向のハケ目調整が残る。

SP-382 20は弥生土器壺底部。

SP-390 21は弥生土器壺口縁部。端部に2条の擬凹線文をもつ。Ⅴ-1様式。

SP-403 22は弥生土器壺口縁部。端部を上方に拡張

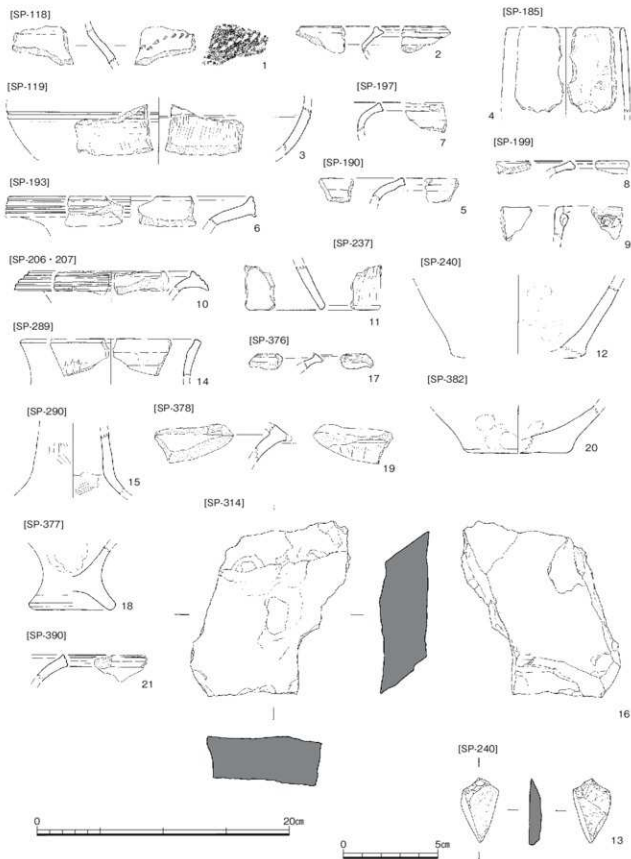


図133 弥生時代柱穴出土遺物 (1) (縮尺1/3, 1/2)

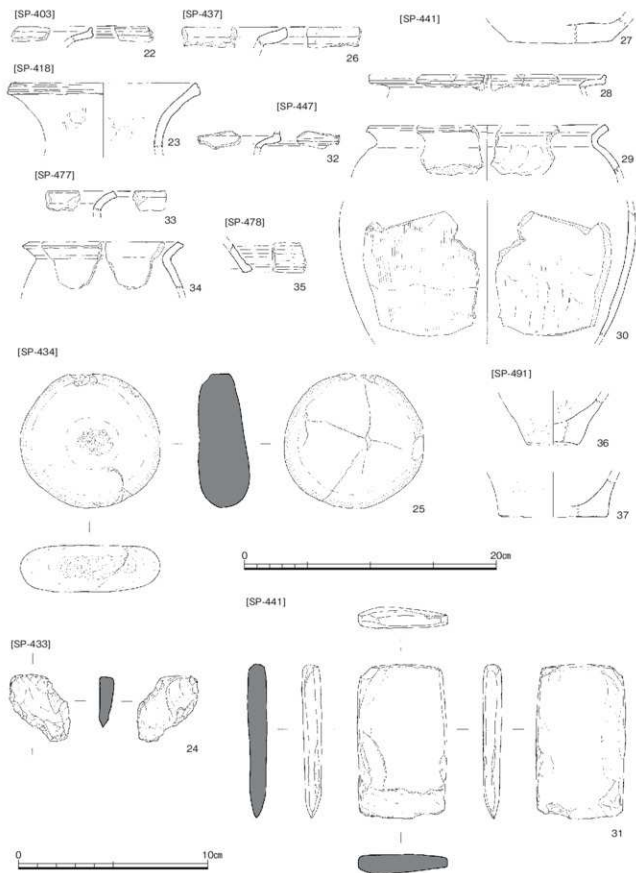


図134 弥生時代柱穴出土遺物 (2) (縮尺1/3, 1/2)

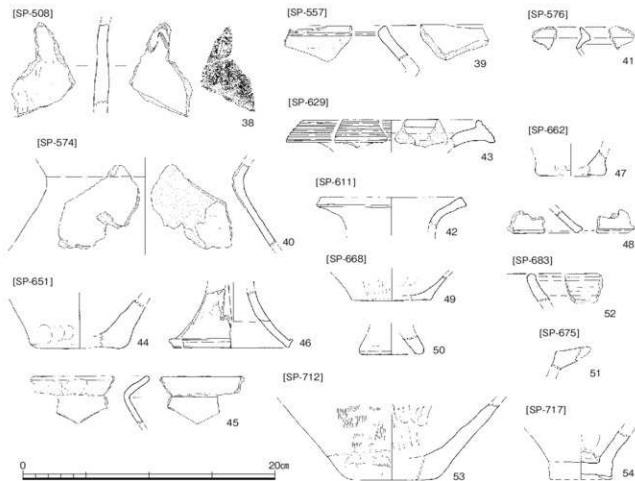


図135 弥生時代柱穴出土遺物 (3) (縮尺1/3)

し、1条のやや太めの凹線文をもつ。Ⅳ様式。

SP-418 23は弥生土器壺口縁部。やや肥厚した端部に2条の凹線文を施す(図版47-1)。Ⅴ-1様式。

SP-433 24は赤色頁岩の残核か。小口に自然面が残る。現重量8.0g(図版47-2)。

SP-434 25は円盤状の叩石。平滑な表裏両面中央と側面の一端に敲打痕が集中する。砂岩製で現重量は685.1g(図版47-3)。

SP-437 26は弥生土器鉢口縁部。厚みからしてやや大型。

SP-441 27は弥生土器壺底部。28~30は弥生土器甕(図版47-4)。28は端部を上方に拡張し1条の凹線文を施す口縁部。また内面頭屈曲部上面にも強い横ナデが施され、凹線状を呈する。29は丸みをもった胴部。幅広い強い横ナデを施す頭部から短くくの字状に口縁が外反する。端部には微弱的凹線文が1条施される。30は下胴部片で、外面は縦ハケ目が残り下半部に顕著に煤が付着する。内面は縦方向のケズリがなされ、破片

上端部ではその痕跡がナデ消されている。28・30はⅣ様式に遡るが、29はⅤ-1様式に降る。31は扁平片刃石斧の完形品。結晶片岩製で節理は表裏方向に走る。前主面・後主面・両側面・基部面とも平滑面を磨き出しているが不徹底で、平面・横断面・縦断面とも胴張状を呈し、とりわけ横断面で顕著となる。現重量は86.4g(図版47-5)。

SP-447 32は弥生土器甕口縁部片。端部を上方に大きくつまみ上げる。

SP-477 33・34とも弥生土器甕口縁部(図版47-6)。33は端部が横ナデによりわずかに凹む。34は緩やかにくの字状に屈曲する口縁部。いずれもⅤ-1~2様式か。

SP-478 35は弥生土器高坏脚部で3条の凹線文が残る。Ⅳ様式。

SP-491 36・37はいずれも弥生土器甕底部。36は底径がやや小さく厚みがあり、37は底径が大きく胴部外面には縦方向のミガキが施されている。

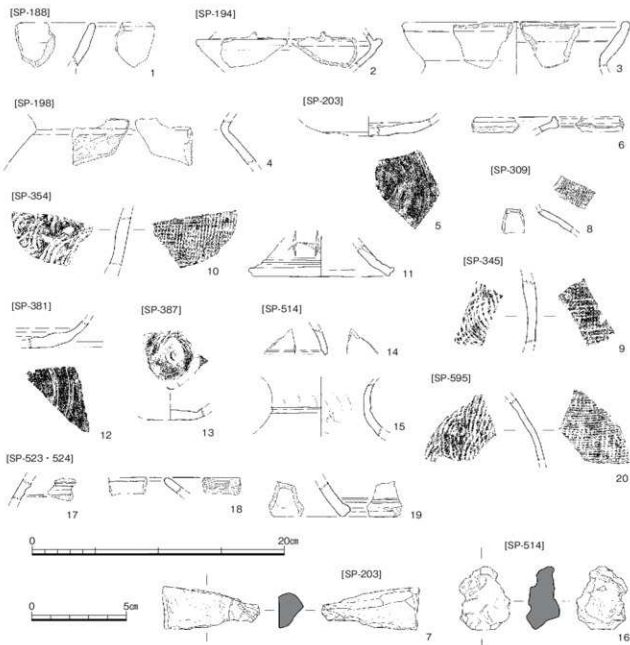


図136 古墳時代柱穴出土遺物 (1) (縮尺1/3, 1/2)

SP-508 38は弥生土器壺胴部片。傾きの詳細不明ながら、クシ描波状文が2段残る(図版47-7)。

SP-557 39は弥生土器複合口縁部の口縁部。口縁外面は無文。

SP-574 40は弥生土器壺胴部片。頸部から緩やかに口縁部へと外反していくとみられる。

SP-576 41は弥生土器甕口縁部小片。複合口縁状を呈する。

SP-611 42は弥生土器壺口縁部。大きくラッパ状に開き、端部は横ナデによりわずかに凹む。

SP-629 43は弥生土器壺口縁部で、上下に拡張して外傾する口縁端部に5条の凹線文をもつ(図版47-8)。IV様式。

SP-651 44は弥生土器壺底部。45は弥生土器甕口縁部。胴部からくの字状に口縁部が屈曲する。器壁は薄い。46は弥生土器高坏脚裾部。裾端部は横ナデにより上方につまみ上げ、脚部には貫通する矢羽根状の透かしをもち、縦方向にミガキ仕上げされている(図版47-9)。IV様式。

SP-662 47は弥生土器甕底部。小型の平底である。

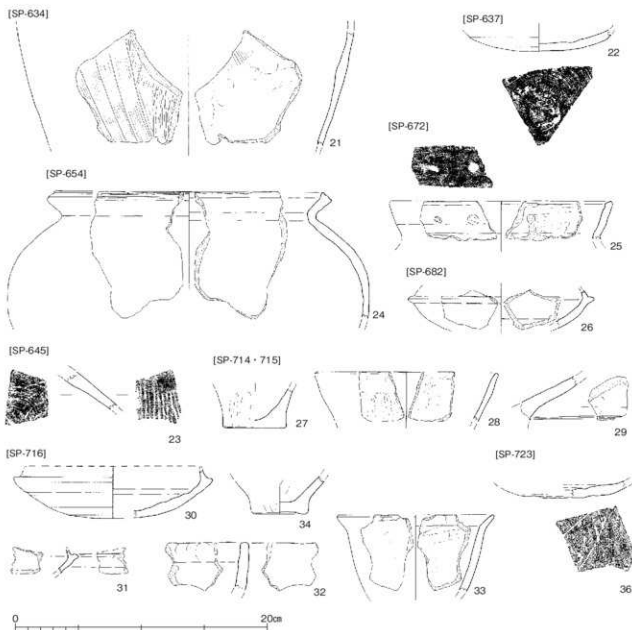


図137 古墳時代柱穴出土遺物 (2) (縮尺1/3)

48は弥生土器高坏脚裾部。脚端部に1条の凹線文をもつ。

SP-668 49は弥生土器壺底部。胴部外面は縦方向にミガキ仕上げされている。50は弥生土器甕の小型上げ底の底部片。

SP-675 51は弥生土器甕の断面三角形の口縁部片。とくに外面は胴部から口縁部へと連続的に横ナデが施される。雲母を多く含み、形體的にも東南部九州系・山ノ口式系の搬入品である。

SP-683 52は弥生土器台付鉢口縁部片。摩滅により明確でないが、3条の凹線文が施される。Ⅳ様式。

SP-712 53は弥生土器壺底部。外面に縦方向のハケ目を残し、内面はケズリ状の粗いナデが施される。

SP-717 54は弥生土器甕底部。わずかに凹み底になるとみられる。

(2) 古墳時代の柱穴出土遺物

(図136～138、図版48・49-1～5)

柱穴出土遺物に土師器・須恵器など、確かに古墳時代の遺物を伴った柱穴出土遺物のうち、図化できた36点を報告する。なお、出土品には土師器・須恵器があ

[SP-716]

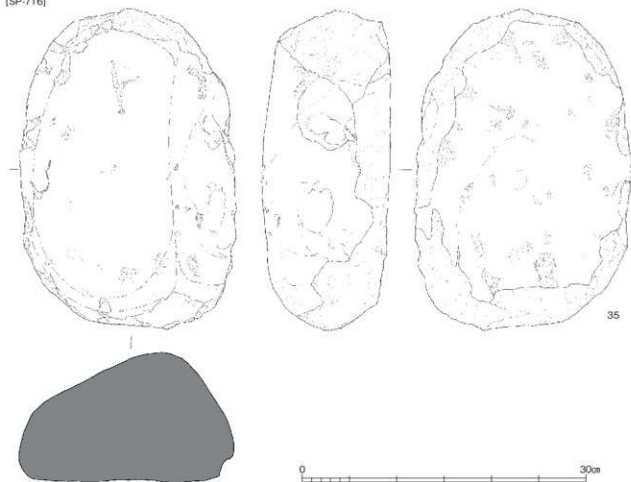


図138 古墳時代柱穴出土遺物 (3) (縮尺1/4)

りながら、図化できた遺物が弥生土器のみの場合もあることを、予め断っておく。

SP-188 1は土師器甕口縁部。わずかに内湾し、端部はやや尖り気味ながら丸く収める。

SP-194 2は須恵器坏身。口縁立ち上がりを欠くが、受け部が分厚く、底部の回転ヘラケズリ範囲も広くなく、6世紀後葉以降。3は土師器甕口縁部。内湾して端部は丸く収める (図版48-1)。

SP-198 4は土師器甕胴部片。外面頸部に強い横ナデが施され、胴部には頸部際に横方向のハケ目調整が一部見られ、以下は斜め方向となる。

SP-203 5は須恵器坏身底部。外面に回転ヘラケズリを施すが、範囲は広くない。6世紀後葉か。6は弥生土器甕口縁部片。端部を上方向に拡張して、凹線文2条をもつ。Ⅳ様式。7はサヌカイト製残核。側面に自然風化面を残す。現重量167g (図版48-2)。

SP-309 8は須恵器短頸壺上胴部片。外面にはカキ目が施され、自然軸が付着する (図版48-3)。

SP-345 9は須恵器甕胴部片。外面にタタキによる格子目、内面に当て具による青海波文が残る。

SP-354 10も須恵器甕胴部片。外面にタタキによる格子目、内面に当て具による青海波文が残る。11は弥生土器高坏脚裾部。脚部に3条、裾端部に1条の凹線文をもち、脚部には矢羽根透かし2単位が残存する。

SP-381 12は須恵器坏身底部。外面回転ヘラケズリの範囲は広くない。

SP-387 13は須恵器坏身底部。内面に当て具による

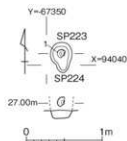


図139 SP-223・224遺構実測図 (縮尺1/50)

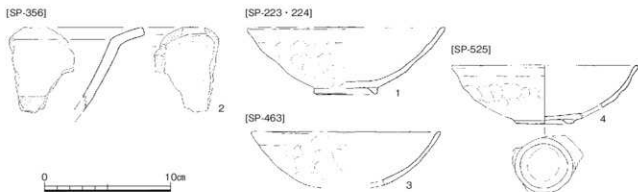


図140 古代後半・中世の柱穴出土遺物 (縮尺1/3)

青海波文が一部残る (図版48-4)。

SP-514 14は須恵器壺蓋口縁部片。端部内面がわずかに凹む。15は弥生土器壺頸部。胴部から太い凹線状の沈線1条を介して直立気味に外反する (図版48-5)。16は鉄滓。現重量16.7gを量る (図版48-6)。

SP-523・524 17は須恵器壺頸部細片。回転ナデにより2段の稜が形成されている。18は外面に横ハケ目調整し内傾する口縁部細片で、弥生土器無頸壺か。19は弥生土器高坏脚裾部。外面に2条の凹線文をもつ (図版48-7)。

SP-595 20は須恵器甕胴部片。外面は平行タタキ目をカキ目が切り、内面には当て具による青海波文をそのまま残す。

SP-634 21は土師器甕胴部片。直線的に開く胴部で、外面は縦方向のハケ目調整を残し、内面は一部ハケ目調整が施されるが、基本的にオサエ・ナデによっている (図版48-8)。

SP-637 22は須恵器坏身底部。外面は残存する全域に回転ヘラケズリが及び、その範囲は広い。

SP-645 23は須恵器壺胴部片。外面は平行タタキ目をカキ目が切り、内面は当て具による青海波文がそのまま残る。

SP-654 24は弥生土器甕上半部。大きく張る胴部からくの字状に外傾する口縁部には、端部に2条の擬凹線文が施される (図版48-9)。V・1様式か。

SP-672 25は土師器甕口縁部。直立内湾気味の口縁部で外面に記号状の刺突文が2単位見られる (図版48-10)。

SP-682 26は須恵器坏身。立ち上がりを欠くが、受け部はやや厚く、底部回転ヘラケズリの範囲は狭い。6世紀後葉か。

SP-714・715 27は弥生土器甕底部片。外面に縦方向のミガキが施される。28は弥生土器鉢か。直線的に外

傾する口縁部で、外面は粗いながら縦方向のミガキ仕上げがなされている (図版49-1)。29は内外面が丁寧にナデ仕上げられ、外面下端に1条の沈線が残ることから、弥生土器高坏の坏部とした。

SP-716 30・31は須恵器坏身。30は底部外面回転ヘラケズリの範囲こそ狭くないが、受け部が厚く、立ち上がりもあり高くは復元できない (図版49-2)。31は小片であるが、口縁立ち上がりは薄く、やはりあまり高くはならない。いずれも6世紀後葉。32は土師器甕口縁部。33は弥生土器鉢。胴部は外面に縦ミガキが施され、内面に横方向のケズリがなされ、口縁部はその胴部から緩やかに外反する (図版49-3)。34は弥生土器鉢底部。35は枕状の台石。断面は偏三角形で、その3面をいずれも磨面とする。花崗岩製で現重量160kgを量る (図版49-4)。

SP-723 36は須恵器坏身底部。外面回転ヘラケズリ後に、ヘラ記号が施され、その2条の沈線が残る (図版49-5)。

(3) 古代後半・中世の柱穴出土遺物

(図140、図版49-6～9)

出土遺物から、明らかに古代～中世に降ると判断できた柱穴は、SP-223・224・293・356・463・465・516・525で (図131)、それら柱穴出土遺物で図化できたのは4点 (図140)。

1はSP-223・224から柱穴に全形を大きく残す形で出土した瓦器塊。直線的であまり深みのない体部は、外面にオサエ痕を顕著に残し、口縁部を横ナデ仕上げする。貼付高台は端部を外方にややつまみ出して台形状。和泉型で12世紀後半 (図版49-6)。

2はSP-356出土鍋。胴部からくの字状に口縁部が屈曲する。内外面被熱によりにぶい赤褐色を呈し、外

面に煤、内面にコゲが付着する(図版49.7)。

3はSP-463出土瓦器碗。やや丸みのある体部は外面にオサエ痕が残り、口縁部に横ナデが施される。和泉型で12世紀末～13世紀(図版49.8)。

4はSP-525出土瓦器碗。丸みを残すがやや浅くなっ

た体部は、外面にオサエ痕を顕著に残し、口縁部の横ナデ幅はやや狭い。底部貼付高台は平面不整形円で、断面も低平な台形状。和泉型で12世紀末から13世紀(図版49.9)。

6 Ⅲ層出土遺物

Ⅲ層出土遺物については、重機掘削後、手作業で残余のⅠ・Ⅱ層を掘り下げた後、そこで遺構検出に到らないため、検出可能な面まで水平基調に掘り下げを行い、Ⅲ層出土遺物として取り上げを行った。その際、出土地点については、城北団地区割に基づく1m包含を、基本的に単位としている。ただし、まさに遺構検出作業段階で遊離した遺物など、5m包含あるいはそれ以上の区割とならざるを得なかったものも少なくない。とくに遺構検出作業時の出土遺物は、出土層位自体、「Ⅲ層下」として取り上げを行った。これらを含め、Ⅰ・Ⅱ層除去後、遺構検出までに取り上げた遺物について、以下報告する。なお、古代・中世に位置づけられる遺物については、後に項目を改めて報告する。

Ⅲ層出土遺物は、コンテナ総数19箱、取り上げ単位として約530に及ぶ。このうち、古墳時代以前の遺物で図化できたのは、縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土製品・石器・鉄滓の209点である(図141～155、図版50～57)。

(1) 縄文土器(図141、図版50.1)

1は縄文土器。晩期の壺で、屈曲部に1条の凹線をもち、外面はナデ・ミガキ調整、内面はケズリ状に横方向にナデが施される。胎土に石英・長石・雲母を多く含む(図版50.1)。

(2) 弥生土器

(図142～147、図版50.2～9・51・52)

2～12は弥生土器。

2～9は口縁端部に凹線文をもたない壺口縁部(図版50.2)。2は頸部に断面三角形の突帯を貼り付ける。3は大きく開く口縁部で、頸部に1条の沈線をもつ。この沈線施文時に粘土のはみ出しはなく、前期には淵

らない。4は短く外反する。5は大きく開き端部を上方に肥厚させる。6は口縁端部に1条の沈線をもち、端部を上方内側にやや突出させる。屈曲の強い頸部には、胴部からナデ上げてきた際の板状工具痕が刺突文様に残る。7・8は大きく開く口縁部で、端部を横ナデにより下方につまみ出す。8は内面が平坦でかなり的大型とみられる。9は、強い横ナデにより端部を上方につまみ出すとともに、外端面が凹面状をなす。

10～25は口縁端部に凹線文ないし擬凹線文をもつ壺口縁部。10は一旦立ち上がった頸部から屈曲部をもって内湾気味に広がる口縁部で、端部に1条の凹線文をもつ。11は大きく開く口縁部で、上下に幅をやや広げた端部に2条の凹線文をもつ。頸部には粘土紐の継ぎ目が残る。12は短く直立して外反する口縁部で、端部に太めの凹線文を2条をもつ。13は端部に太い1条の凹線文をもつ。14は外湾する口縁端部に2条の凹線文をもつ。15は直線的に外傾する口縁部で端部を上下にやや拡張して2条の凹線文を施す。16は口縁端部を上下に肥厚させ3条の凹線文をもつ。17は端部を上方に大きく拡張して3条の凹線文をもつ。18は直線気味に外反する大型の口縁部で端部に3条の凹線文をもつ(図版50.4)。19・20は外反する口縁部で、端部を断面三角形形状に肥厚させ、ともに3条の凹線文をもつ。21も外反して端部を断面三角形形状に肥厚させ5条の凹線文をもつが、さらに垂下クシ描文を約3cm間隔で加えている(図版50.5)。22は大きく外反する口縁部で端部を斜め下方へ拡張してへの字状とし、端部に4条の凹線文をもつ(図版50.5)。23も同じように大きく外

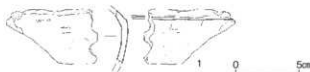


図141 Ⅲ層出土遺物 (1) (縮尺1/3)

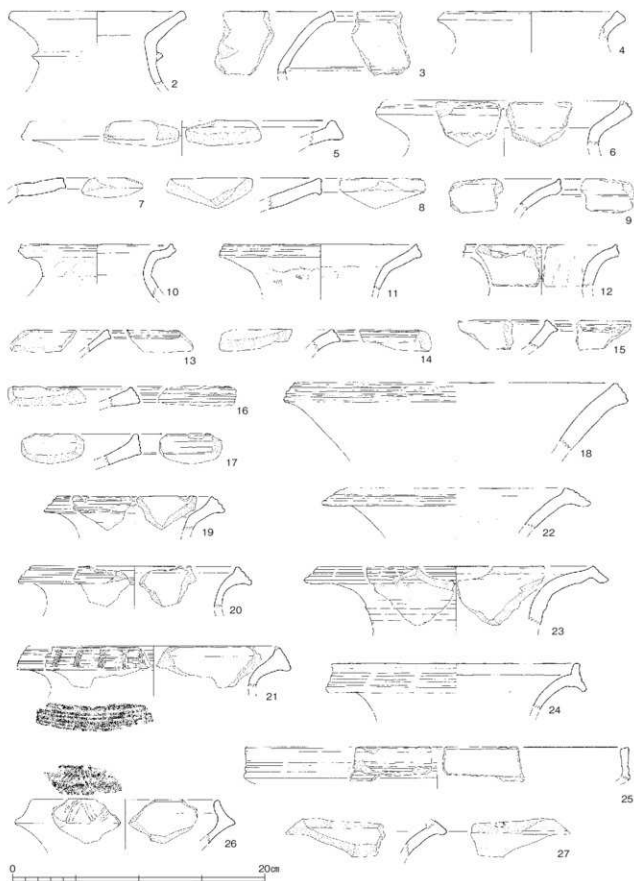


图142 III層出土遺物 (2) (縮尺1/3)

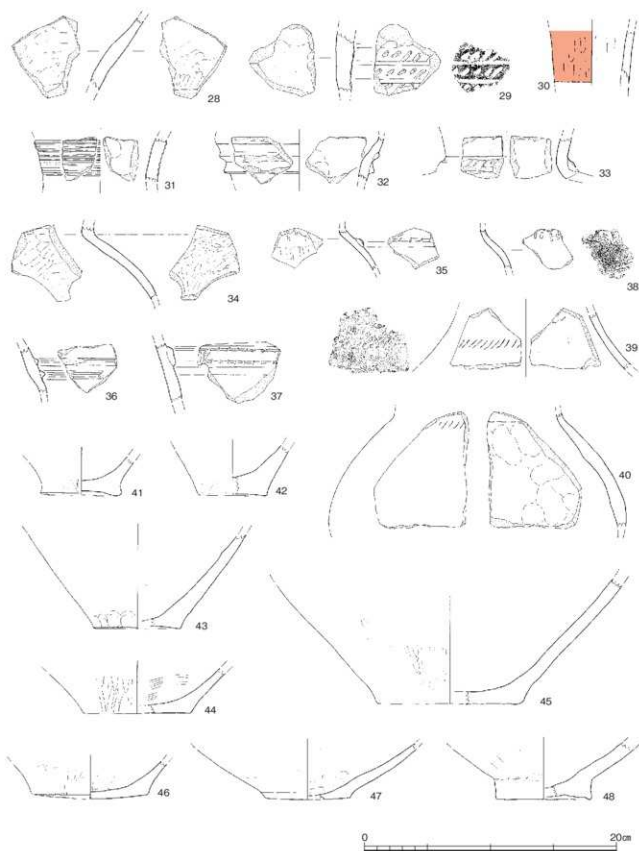


図143 III層出土遺物 (3) (縮尺1/3)

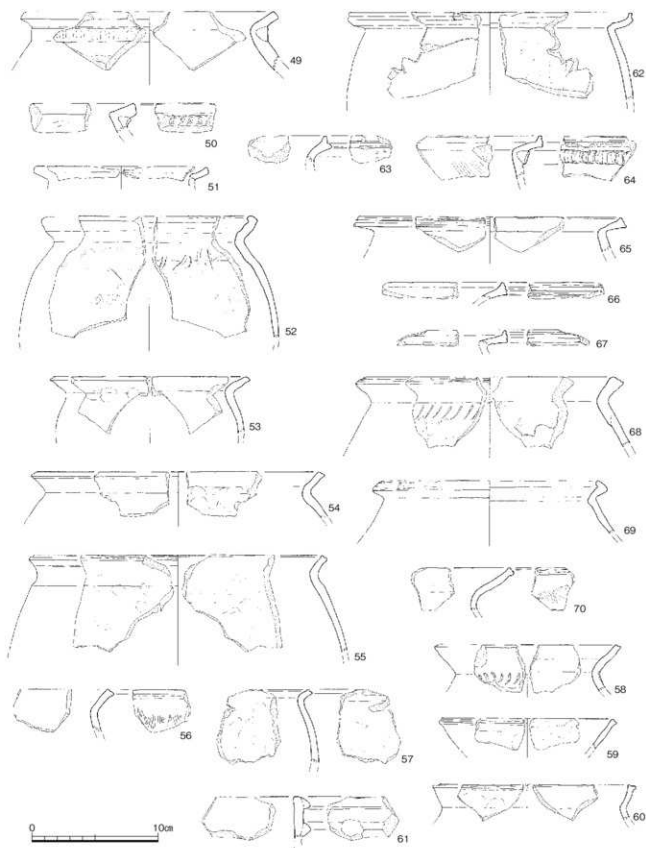


图144 Ⅲ層出土遺物 (4) (縮尺1/3)

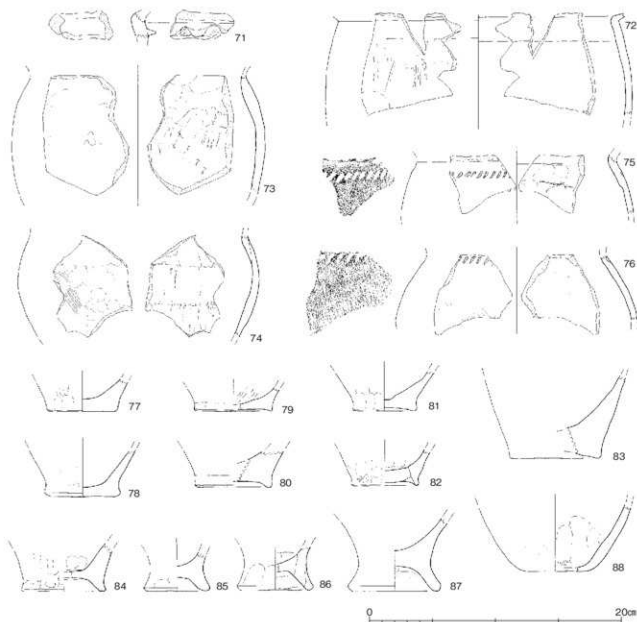


図145 III層出土物 (5) (縮尺1/3)

反して斜め下方へ端部を拡張して3条の凹線文をもつが、さらに頸部に強い横ナデによって突帯状とした凹線文C種を有する。胎土に石英・長石・雲母・角四石・赤色粒含み、形態・胎土から中部瀬戸内地域からの搬入品とみられる(図版50-6)。24は下垂するまでに外反させた口縁部にさらに直立部を加えた二重口縁状で、その端部に3条の凹線文をもつ(図版50-7)。25も二重口縁の2段部とみられ、端面に複数条の浅い沈線ないし凹線がみられる(図版50-8)。

26・27が複合口縁壺。26は複合口縁部に3条単位のクシ描山形文がみられる(図版50-8)。27は複合口縁

部上部を欠失するが、剥落面に円形浮文の痕跡が覗える。

28~40は壺頸部。28は頸部上半部片で、外面は縦方向のハケ目調整の後、頸部にミガキがなされ、内面も横方向のミガキ仕上げされている(図版50-9)。29は、直立に近いとみられるが傾き不明の頸部片。3条の沈線間に刺突文が施される。30は外面に縦方向のミガキ仕上げがなされ、内面は縦方向に粗いナデ。高坏脚の可能性も考えたが、破片下端に屈曲点が窺えることや内面調整から壺頸部と判断した。外面にはいび橙色に赤彩されている。31はやや外傾する頸部で、全面に沈

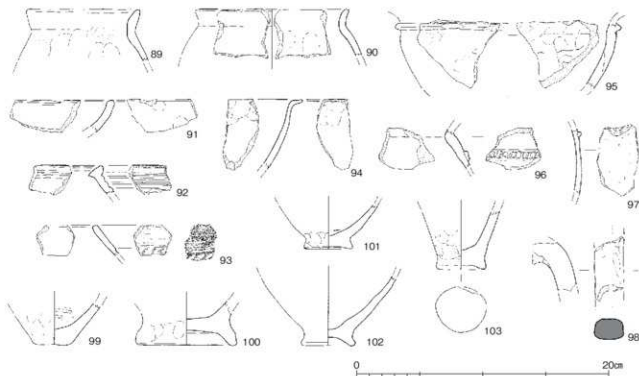


図146 III層出土遺物 (6) (縮尺1/3)

線が施され、9条以上に及ぶ。32はやや外反気味の頸部に貼付突帯2条をもつ。33は丸みのある胴部から頸部がまっ直立し、頸胴部境に突帯を貼り付け上面を斜め方向に鋭く刻む。34は上胴部から頸屈曲部の破片であるが、内外面とも丁寧にミガキ仕上げされている。35も上胴部片で断面台形状の突帯を貼り付け、上面に刻みが施される。34・35については、前期に遡る可能性がある。36は、やや間隔を空けて断面三角形突帯2条を貼り付ける上胴部片。37も上胴部片で、約2cmと幅広で低平な断面台形状の突帯をもち、突帯上面上下端を刻む。38~40は頸部に刺突文をもつ。38は米粒状の刺突文で、39・40は二枚貝腹縁によるノ字状の刺突文 (図版51-3・4)。

41~48は壺底部。41は若干上げ底状で、42・43はわずかに凹み底状、他は基本的に平底。48は突状を呈し、大型の鉢底部の可能性も残す。

49~61は壺口縁部で、端部に凹線文をもたないもの。49・50は張りのある胴部からくの字状に屈曲する口縁部で、頸部に突帯を貼り付け、押圧を施す。その際、50は布目を残す (図版51-5)。51は小型のやや内湾気味の口縁部。52は張りのある胴部からやや緩やかにくの字状に屈曲し、端部を内側に突出させる (図版51-6)。53~55はくの字状に口縁部が屈曲するが、内外面

ともに稜線が明瞭でなく、緩やかな屈曲である。54は横ナデにより口縁端部を外方に、55は上方につまみ出す (図版51-7)。56・57はさらに緩やかに外反する口縁部。57は強い横ナデにより口縁端面が凹状を呈する。58は頸部にノ字状刺突文をもち、くの字状に長く屈曲する口縁部をもち、端部に強い横ナデが施される。59も端部に強い横ナデを施す、直線的に外傾する口縁部。58・59はいずれも小型。60はやや直立気味ながら、くの字状の口縁で上端面をなすように強く横ナデされている。61は口縁上端に接してと、それから少し間隔を開けて下がった位置にもう1条と、2条の断面三角形突帯を貼り付ける口縁部。形態および胎土から、東南部九州系・山ノ口式系の搬入品である。

62~70は口縁端部に凹線文をもつ壺。62は口縁端部を上方に拡張し、1条の太い凹線文をもつ。頸部内面屈曲部も凹線状を呈する (図版51-9)。63は外反する口縁端部に1条の太く鋭い凹線文をもつ (図版51-9)。64は上方に拡張した口縁端部にやや浅い2条の凹線文をもち、頸部に押圧貼付突帯を施す。65~67も、拡張した口縁端部に、やや浅めの2ないし3条の凹線文をもつ。67には一部赤彩が残る。68はくの字形に外反する口縁端部を三角形に肥厚させ、凹線文2条を施すとともに、頸部にノ字状文をもち、在地系ではない (図

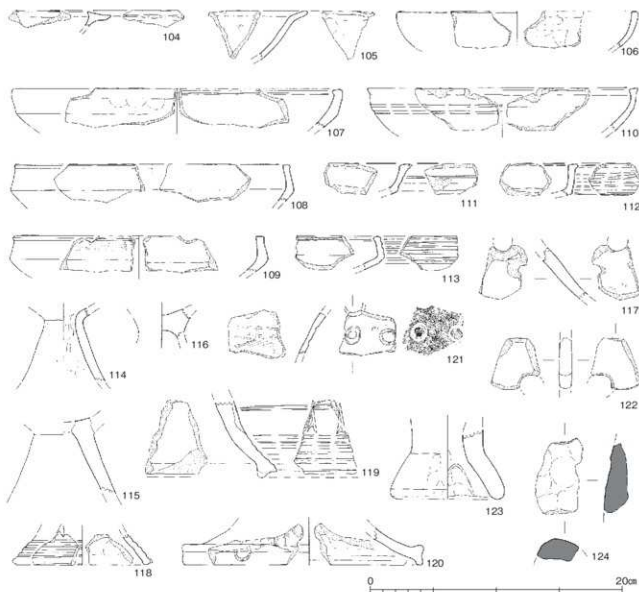


図147 Ⅲ層出土遺物 (7) (縮尺1/3)

版51-10)。69は口縁を内側に逆くの字状に屈曲させて複合口縁状とし、複合口縁端部に3条の凹線文をもつ。胎土も在地と異なり、中部瀬戸内地域からの搬入品である(図版51-11)。70は長く薄く外反する口縁端部に、2条の微弱な擬凹線文をもち、頸部に縦ハケ目を残す。V-1様式。

71~76は甕頸胴部。71は頸部に断面三角形の高い突帯を貼り付け、布目押圧を施す。72は胴最上部に幅広の横ナデを施す。73・74は張りのある胴部で内面下半は縦方向にヘラケズリを施す(図版52-1)。75・76は胴上部に短いノ字状の刺突文をもつ(図版52-2)。

77~88は甕底部。77・78は平底で、79~83は凹み底。これらは口縁端部に凹線文をもつ可能性が高い。82の

外面には布目を伴うオサエ調整がなされている。84~87は高台状の上げ底で、口縁端部には凹線文をもたない在地系。88は大型で底部に影らみがあり、形態的には甕ないし鉢の可能性が高いが、外面に顕著な被熱痕跡があり、甕の範疇に位置づけた。

89~103は鉢。89・90は、丸みのある胴部から直立気味にくの字状に短く屈曲する口縁をもつ。91は碗状の鉢口縁部。92は内傾する口縁端部が逆L字状を呈する。口縁上端面にはクシ描直線文、口縁端部刻目、口縁下に2条以上の沈線を施す。93も内傾する口縁部で、クシ描直線文2帯の下に刺突文をもつ。94は、深みのある体部から緩やかに短くくの字状に口縁部が屈曲する。95も碗状の体部から頸部に断面三角形の突帯を貼

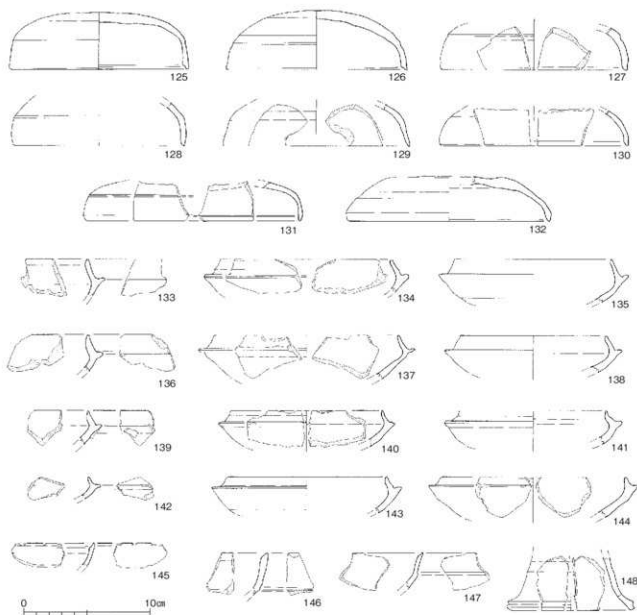


図148 Ⅲ層出土遺物 (8) (縮尺1/3)

り付け、口縁は本来緩やかに外反していたとみられる。96は胴上部に刻目貼付突起をもつ。97は傾き不明ながら、外面に縦方向のミガキを施し、内面は丁寧にナデ仕上げする。そして、外面には、本来環状を呈したであろうか、下端部の残る浮文がみられ、鉢体部片とみた(図版52-4)。また、98は鉢でない壺に縦位にとりつく把手部片(図版52-5)。

99~103は鉢底部。99は狭い底部で甕の可能性も考えたが、被熱痕跡がなく鉢とした。100は高台状の上げ底で、胴部は底部から大きく開くらしい。101・102は丸く張る胴部に小さな底部がつき、101は厚みがあり若干の凹み底、102は高台状の上げ底(図版52-6)。

103は立ち上がり急ながら、小型で被熱痕跡がなく不整形なことから、小型の鉢とした(図版52-7)。

104~113は高坏口縁部(図版52-8-9)。104は口縁上端を少し突出させて水平方向に大きく引き出す、鋤先状口縁。105は浅い坏部から緩やかに短く外反する口縁をもつ。106は外面に後縁・凹線をもたず内湾する口縁部。107~113は口縁部が屈曲して内外面に後縁をもつ口縁部。107は口縁端部が肥厚し上端面がやや内傾する。108は口縁端部を外面側にわずかながら突出させる。109は口縁屈曲部の内外面に横方向のハケ目を残す。110は端部を内外に拡張し、外面に横ナデによる2条の浅い凹線をもつ。111は口縁の屈曲部から

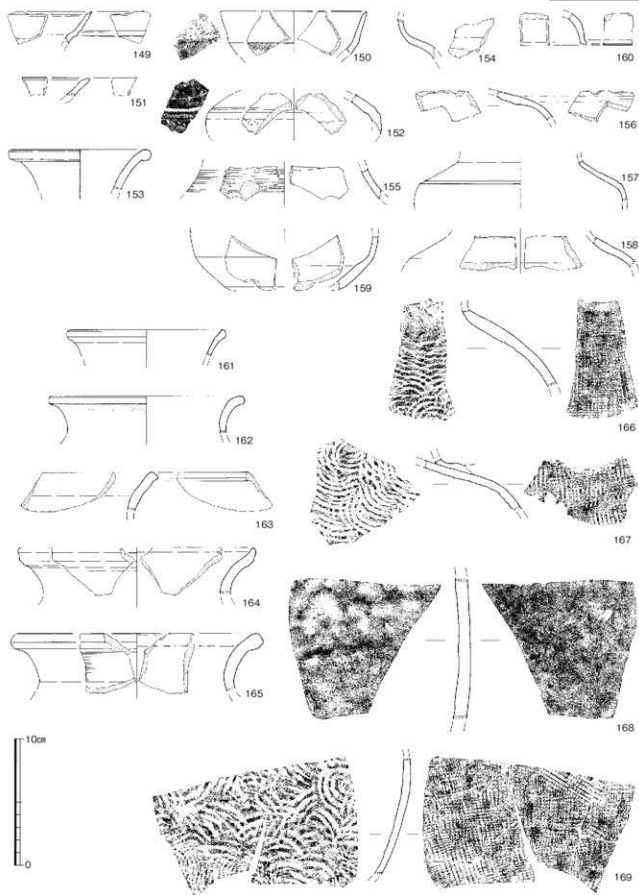


図149 III層出土遺物 (9) (縮尺1/3)

外反して端部はさらに外方へ突出する。口縁部外面に浅いながらも凹線文がみられる。112は屈曲してほぼ直立する口縁部に5条の凹線文が施され、端部は外方へ突出する。113は緩やかに内湾する口縁部で、4条の凹線文をもつ。

114~120は高坏脚部。114は外面に縦方向のミガキがなされ、内面は上部に絞り目がみられる。坏底部は円板充填に拠つたとみられるが、脱落している。115は脚部径がやや大型で、坏底部に脚上面が接合されている。116も、同じく脚が坏底部に接合する。117は脚中位の断片で、径15cm前後の円形透かしがみられる。118~120は裾部。118は裾部に4条・端部に1条

の凹線文をもち、脚部には矢羽根透かしの下端が残る。119も裾部6条・端部1条の凹線文、脚中位に2条以上の沈線をもち、その間に未貫通矢羽根透かしをもち、破片では透かし2単位が残る。120は壺口縁の可能性も考えられるが、端面の自重によるかの潰れと、内面調整の粗さから脚とした。脚端部は下方に突出し、下端面には1条の沈線がめぐる。脚端面には、半環状の刺突文が見られる(図版52-10)。

121は外反する部位の破片で、外面縦方向のハケ目調整の後に円管刺突文が施され、内面は横方向のハケ目調整がなされる。さらに径1cm程度の円形透かしがあり、器台ないし装飾高坏の外反する口縁部片の可能

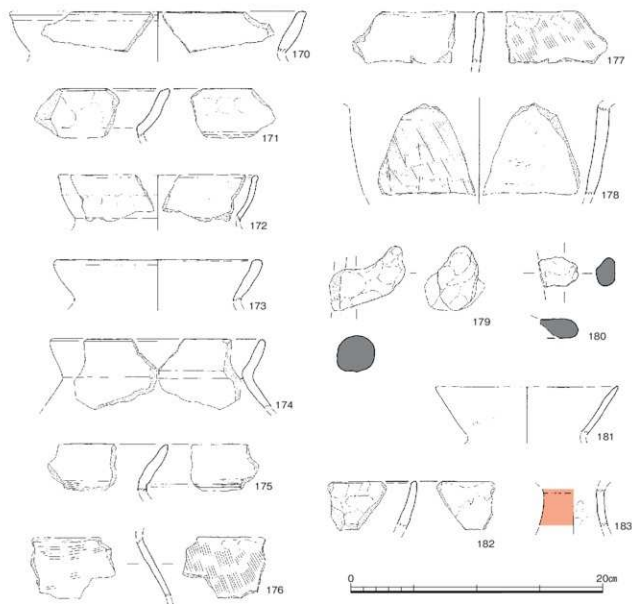


図150 Ⅲ層出土遺物 (10) (縮尺1/3)

性が考えられる(図版52-11)。122も円形透かしをもつが、傾き不明。厚手で透かし径も2cmに及ぶ大型で、器台の可能性が高い。

123・124は支脚の破片か。123はハの字状の下端から中空のまま直立する脚部となる。調整も粗い。124は中実部の一部表が残る破片で、その表面にはオサエ痕を顕著に残し、支脚の一端である可能性が高い。

(3) 須恵器(図148・149、図版53)

125~169は須恵器。

125~132は坏蓋。125・126は口縁端部内面に段をもち、外面口縁部と天井部境には凹線が巡る(図版53-1・2)。127は口縁端部を丸く収め、口縁部と天井部境に凹線が巡る。128~130は口縁端部がやや尖り気味に丸く、口縁部と天井部の境も弱い稜となり、体部が丸みをもつ。131は復元口径17cmを超えやや大型で、口縁部から天井部への屈曲が大きく、かつ器高が低い。口縁端部内面に細い沈線が走り、口縁部と天井部境も細い凹線状。132も口径16cmを超えやや大型で、口縁部は外端部が1cm強立ち上がったあと、そのまま内傾して体部へ移行する。天井部は外面に回転ヘラケズリ後にナデが施され平坦化している(図版53-3)。

133~144は坏身(図版53-4)。133は口縁部立ち上がり1.5cmを超え、端部内側に面をもつ。134~138は1cm強程度の立ち上がりで、134を除いて口縁端部を丸く収める。137の受け部には坏蓋を重ね焼きした際の坏蓋口縁端部片がそのまま付着してしまっている。139~141は立ち上がり高1cm程度で、139の外面に焼成時の別個体付着片がある。142~144は口縁部立ち上がり1cm未満で、144は立ち上がりと受け部が断面三角形形状。

145は内湾する碗口縁部か。口縁端部内面に微弱な段をもつ(図版53-5)。

146・147は高坏口縁部(図版53-5)。146は坏体部外面に凹線を巡らせ、口縁はそこから外反し、端部はやや厚く丸く収める。147は坏体部外面の段から外反して口縁部となり、内側端部に段をもつ。148は高坏脚部。脚部端部は凹線状となり、脚部に縦長の方形透かしをもつ(図版53-5)。

149~152は甕(図版53-6)。149~151は口縁部。149は頸部から段および凹線を介して大きく外反する口縁部。内端部は段をなす。150は外反する頸部から稜を

挟んでやや立ち気味に開く口縁部。稜直下にはクシ描波状文が巡る。151は大きく外反する口縁部で、端部は丸く収める。152は上胴部片。やや大型で、肩部に凹線を巡らせ、その下に列点文とクシ描直線文を施す。

153は瓶口縁部。ラッパ状に外反し、端部を丸く肥厚させる。大型の提瓶か(図版53-7)。

154~159は壺胴部片(図版53-8)。154は肩部から頸部片。155は外面にカキ目を施す頸部片。156も肩部で、回転ヘラケズリが施されている。157・158はいずれも短頸壺上胴部片。159は壺下胴部片で、底部には回転ヘラケズリがなされる。

160は壺蓋。口縁部から天井部へと緩やかに連続し、口縁端部は外側につまみ出され、内側に面をもつ。

161~165は甕。161~165は口縁部(図版53-9)。164はやや内湾気味の口縁端部をなし、165は頸部にカキ

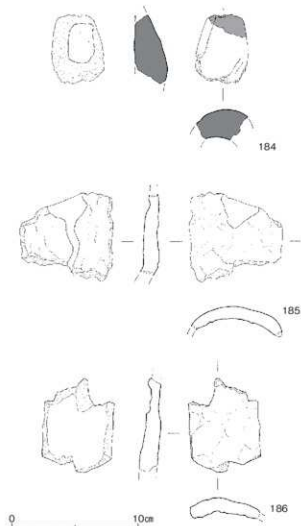


図151 Ⅲ層出土遺物(11)(縮尺1/3)

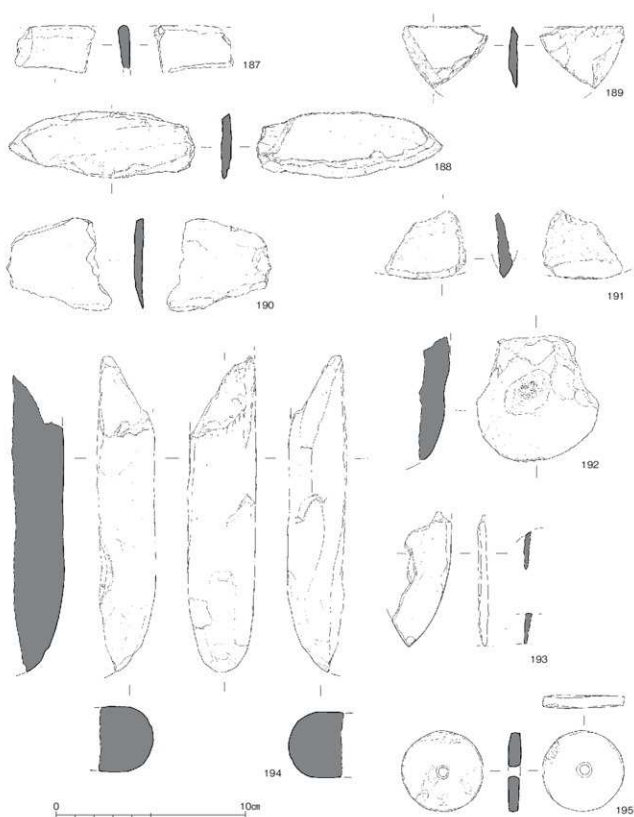


圖152 III層出土遺物 (12) (縮尺1/2)

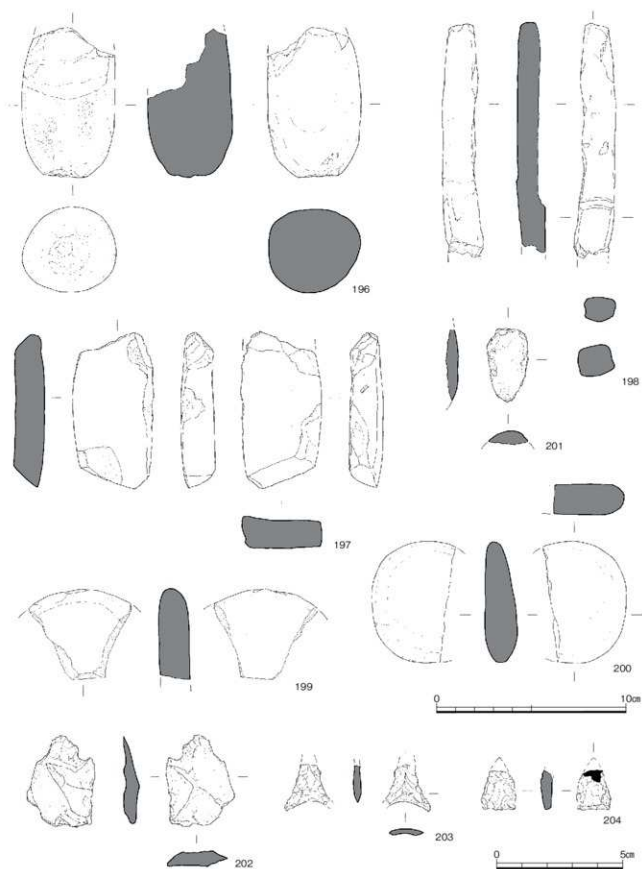


図153 Ⅲ層出土遺物 (13) (縮尺1/2, 2/3)

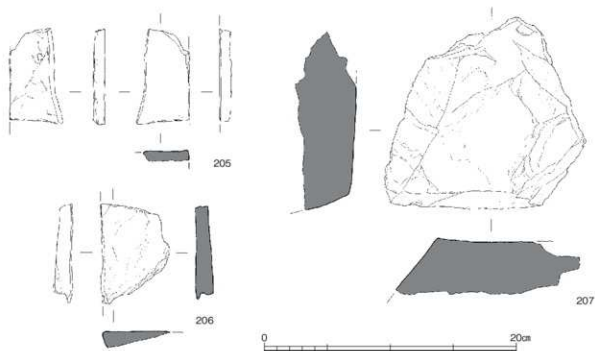


図154 Ⅲ層出土遺物 (14) (縮尺1/3)

目をもつ。166～169は胴部片。166は外面平行タタキ後カキ目を施し、内面に青海波文を残す上胴部片。167も上胴部片で、外面格子タタキ後にカキ目を施し、外面に重ね焼き時の坯底部が溶着している（図版53・10）。168は傾き不明ながら内外面の調整を丁寧にナデ消す。169は、外面に格子目タタキ、内面に青海波文をそのまま残す。

(4) 土師器 (図150、図版54・1～8)

170～183は土師器。

170～175は甕口縁部（図版54・1）。170は直線的に外傾し、口縁上端に面をもつ。171は内湾する口縁部で口縁上端に面をもつ。172は内湾する薄い口縁部で、端部は内外面に弱い稜をもちながらも丸く収める。173・174は幾分内湾気味で端部は丸い。175はやや外反気味で、胴最上部に横方向のハケ目が残る。176は甕上胴部片。外面に斜め方向、内面に横方向のハケ目を残す。

177は甕の直口口縁部。外面上端はオサエ痕を残し、以下は縦方向のハケ目調整（図版54・2）。178は甕胴部片。外面は縦から斜め方向のハケ目が全面に残り、内面はやや粗い横方向のナデが施される（図版54・3）。179・180は甕ないし甕の把手部。179は角状、180は小

型扁平の棒状。いずれも表面オサエ仕上げの凹凸を顕著に残す（図版54・5）。

181は大きくハの字状に開く壺口縁部。端部は薄く尖り気味（図版54・6）。182は内湾する口縁部片で、内外面ともオサエ痕を残し、ナデも粗い。甕口縁部の可能性も考えたが、全体の内湾が強く、椀状の縁とした（図版54・7）。183は高杯脚部。外面赤彩により明赤褐色を呈する（図版54・8）。

(5) 土製品 (図151、図版54・9～11)

184～186は土製品。184はフイゴ送風管の羽口部断片。内外面磨減するが、内面が一部残り、内径3cm強とみられる。外面は被熱により一部にぶい橙色を呈する。胎土は粗い（図版54・9）。184・185は、外面オサエ仕上げで内面に絞り目をもつ不整形な管状品。内径は10cm程度とみられるが、その大きさに比べ器壁は1cm内外と薄い（図版54・10・11）。

(6) 石器 (図152～154、図版55・56・57・1～6)

187～207は石器。

187は磨製石庖丁の背部断片。表裏とも平滑に研磨されている。結晶片岩製（図版55・1）。188は石庖丁未

製品。片(右)面は剥離面のままながら、外形は調整剥離がなされ、もう1(左)面には一部研磨が及んでいる。結晶片岩製(図版55-2)。189も石廬丁未製品で、外湾刃の角部片。刃部側に剥離調整があるが、表裏面は未調整。結晶片岩製(図版55-3)。190は結晶片岩製の石包丁素材か。片面に研磨痕が一部ある(図版55-4)。

191は蛤刃石斧の刃部片。蛤刃先端と両面がわずかに残り、刃部表面には縦方向の擦痕が見える。火成岩製(図版55-5)。192も磨製石斧の平滑な表面が剥離した破片。叩石転用により磨面を切る敲打痕集中部がある。火成岩製(図版55-6)。193は柱状片刃石斧。縦方向にとった節理に沿って刃部と前後主面が細長く残る。結晶片岩製(図版55-7)。194は大型の柱状片刃石斧未製品か。表裏両面には丁寧な研磨が及び、平滑な面が広がっている。結晶片岩製(図版55-8)。

195は石製紡錘車の完形品。全体径42~43mm、厚みは5~7mmで若干中膨らみ。表裏面と側面が丁寧に磨き上げられ、両面穿孔の中央孔は径約5mm。緻密な砂岩製か。現重量19.8gを量る(図版56-1)。

196は叩石。円柱状で、側面は敲打痕を一部残すが磨き上げられ、小口に敲打痕が集中する。砂岩製(図版56-2)。197は砥石。平面的形状で、表裏面は緩やかな凹面・凸面をなして全体に反り上がったような形状。表裏両面と3側面を砥面として使用する。陶石製(図版56-3)。198~200は小型の磨石。198は棒べら状で、一段厚くなった下部以外の表裏2面を使用する。結晶片岩製(図版56-4)。199・200は扁平な円盤状でともに両面を使用している。199は砂岩製(図版56-5)、200は砥石と同じ陶石製(図版56-6)。201は磨石表面

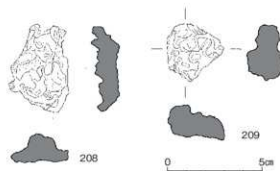


図155 Ⅲ層出土遺物(15)(縮尺1/2)

の剥離片。安山岩製か。

202~204は打製石器。202は節理のある赤色頁岩の残核(図版57-1)。203・204はサヌカイト製打製石鏃。203は逆刺の大きい凹基式で、鏃と片側逆刺を欠損する。現重量0.8g(図版57-2)。204は鏃を欠損する平基式。現重量1.3g(図版57-3)。

205~207は大型石器。205・206は大型の磨石ないし台石の断片。205は磨面に一部使用された1面と側面がわずかに残り。砂岩製(図版57-4)。206はやはり平滑な1面と側面がわずかに残り。なお磨面と側面は鋭角をなす。節理の発達した片岩製(図版57-5)。207は台石。鋭角をなす角部が残り、その両側面は粗く削り出されている。表裏面および両側面が被熱し、一部赤変ないし黒変する。火成岩製(図版57-6)。

(7) 鉄滓(図155、図版57-7・8)

208・209は鉄滓。208は扁平な底面をなし現重量20.3g(図版57-7)。209は小型ながら厚みがあり現重量21.4g(図版57-8)。

7 古代後半・中世の出土遺物

城北団地基本層序において、Ⅱ層は大学敷地造成以前の耕作土として、重機で表土と一括して掘削し、残余も調査前に手作業で除いた。そして、Ⅲ層を遺構検出可能な深さまで、弥生時代から古墳時代の遺物包含層として、掘り下げた。その間、古墳時代を降る遺物を調査段階で認識することはほとんどなかったが、弥生時代から古墳時代の遺構として検出した中に、実際掘り下げてみると、明らかな中世遺物を出土する遺構の存在を認識できた。大型の土壌SK-45と、SP-

223・224等の柱穴若干であり、既に詳細は報告した。さらに、出土後の遺物整理で、古代後半から中世の遺物を含む柱穴が追加されるとともに、Ⅲ層として取り上げた遺物中や、弥生・古墳時代の遺構埋土出土遺物中に、明らかに古代後半から中世に降る遺物も見つかった。以下これらについて報告する。

Ⅲ層出土遺物の内に、若干の古代後半・中世の遺物を見いだせるとともに、弥生・古墳時代の遺構埋土として取り上げた遺物の中にも、古代中世の遺物が紛れ

込んだ場合がある。古代中世遺物を紛れ込みと判断した遺構は以下の通り。SC-4・SC-21・SC-25・SK-39・SC-43・SC-44・SK-48・SK-56・SK-57（図156）。これらの中から、22点を図化提示する（図158・図版58）。

1～9は土師器。1は鍋。胴部外面に横方向のハケ目調整、内面は粗いナデを施し、器壁が厚く胎土も粗い（図版58-1）。2は器形的には壺底部とも考えられたが、外面体部ににぶい赤褐色に赤彩され胎土の特徴から古代土師器の坏底部とした（図版58-2）。3・4は埴口縁部。3は横ナデにより口縁部がわずかながら外反する（図版58-3）。5は埴下半部。底部の貼付高台は断面三角形で外にしっかりと踏ん張っている（図版58-3）。6・7は小皿口縁端部片。8・9は小皿ないし坏の底部片で、ともに底面に回転糸切り痕が見られる。

10～18は瓦器、いずれも和泉型。10～15は埴。10は口縁部小片ながら、口縁部内外面を横ナデし、体部内外面は横方向にミガキ仕上げされている。11は全形を

復元でき、外面にオサエ痕を残し深みのある体部から、口縁部は横ナデによりわずかながらも外反する。底部の貼付高台は丸みを帯びた台形状（図版58-4）。12～14は上半部。いずれも体部はオサエ痕を顕著に残し、口縁部のみ横ナデ仕上げされる（図版58-5・6）。15は貼付高台部片。高台は高く細い。16～18は小皿。埴と同じく体（底）部にオサエ痕を残し、口縁部のみ横ナデ仕上げされる。16は横ナデがやや丁寧で端部がわずかながら外反する（図版58-7）。

19～22は陶磁器。19は白磁玉縁口縁の碗。磁胎は灰白色で、釉薬も灰白色（図版58-8）。20は須恵質のにぶい黄褐色の胎土に、内外面灰オリーブ色の釉がかかる施釉陶器の碗か。外面下半は露胎。21は、灰白色の胎土に、内外面浅黄色の釉がかかる施釉陶器碗の高台をもつ底部片。高台内側の底部は露胎。22は、灰白色のやや軟質の胎土に浅黄色の釉がかかる施釉陶器。外面に釉のかからない露胎部分が一部覗く。小型で湾曲が強く、小壺の胴部片か。

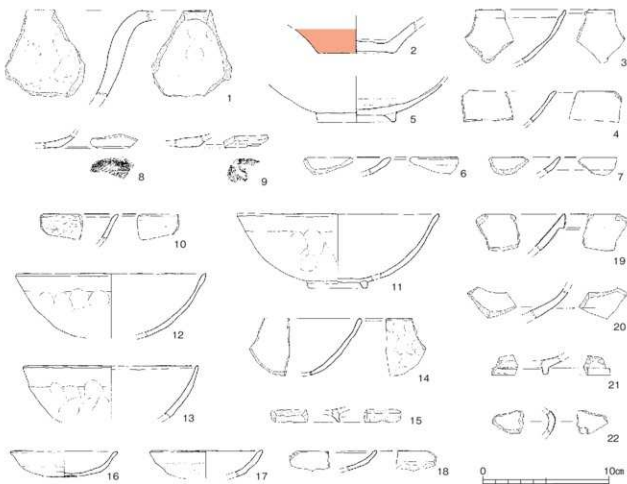


図157 古代後半・中世の出土遺物（縮尺1/3）

III 調査のまとめ－遺構の変遷－

文京遺跡16次調査B区においては、一部縄文時代の遺物もあるが、遺構・遺物としては弥生時代から中世に及ぶ出土があった。12次調査区、14次調査区、そして16次調査A区と、これらの成果を総括してまとめと考察を今後行うことになるため、ここでは16次調査B区における遺構変遷についてのみ、簡単に、まとめを行っておく(図158・159)。

(1) 弥生時代の遺構 (図158-1)

概要でも述べたように、弥生時代の主要遺構は竪穴建物22棟と土壇9基を数える。北西部で一見稀薄さを窺えるが、断片的ながら竪穴建物SC-49が、ほぼ調査区内全域の居住空間としての利用が窺える。

時期は、中期後葉から後期中葉(後葉)にすべて収まり、比較的短期間に建物の建て替えが繰り返されている。詳細な変遷図提示はより広範囲でとするが、現時点で細別時期に基づく遺構の所属時期を列記すると、以下ようになる。

弥生Ⅳ様式期

SC-73・SC-3・SC-16・SC-12・SC-20・SC-21・SC-49・SC-54・SK-34

弥生Ⅳ～Ⅴ-1様式期

SK-55・SK-56

弥生Ⅴ-1様式期

SC-72・SC-42・SC-29・SC-28・SC-71・SC-52・SK-74

弥生Ⅴ-1～2様式期

SC-19・SC-26・SC-27

弥生Ⅴ-2様式期

SC-13・SC-30・SC-22・SC-41・SK-70

弥生Ⅴ-2・3様式期

SC-2

弥生Ⅴ-3・4様式期

SK-48

詳細不明

SK-40・SK-51・SK-62

遺構の重複単位としては、中期後葉のSC-3・SC-73から後期初頭のSC-72、後期前葉のSC-13・SC-30、後期中葉のSC-2という重複と、中期後葉のSC-16・SC-

12・SC-20・SC-21から、後期初頭から前葉のSC-19・SC-42、後期前葉のSC-22・SC-41という重複、そしてその間に後期初頭のSC-29・SC-28・SC-71から、後期初頭から前葉のSC-26・SC-27という3単位があり、その他に中期後葉のSC-54と後期初頭のSC-52の重複、そして中期後葉のSC-49である。

(2) 古墳時代の遺構 (図158-2)

古墳時代の主要遺構は、竪穴建物11棟と掘立柱建物1棟、土壇9基、不明遺構1基である。弥生時代遺構と変わって、調査区南部に遺構の空白域がある。掘立柱が顕著であることもあるが、包含層として掘り下げを行った城北団地基本層序Ⅲ層においても、南部は須恵器・土師器など古墳時代遺物の少ない傾向が明らかにある。古墳時代に調査区南部は、竪穴建物が設けられるなどの積極的利用はなされず、その傾向は南側の16次調査A区へ広がる。

時期は、古墳時代後期、6世紀代にすべて収まり、やはり比較的短期間に建物の建て替えが行われている。詳細な変遷図提示は、やはりより広範囲での報告を終えてとなるが、現時点で細別時期に基づく遺構の所属時期を列記しておくと、以下ようになる。

6世紀第2四半期

SC-4・SC-10・SC-11・SC-24・SC-25・SB-63

6世紀第2～3四半期

SX-18

6世紀第3四半期

SC-14・SC-15・SC-23・SC-43・SC-44

詳細不明(古墳時代後期)

SC-64・SK-35・SK-39・SK-50・SK-57・SK-58・SK-59・SK-60

遺構の重複単位としては、6世紀第2四半期のSC-4・SC-10・SC-11から6世紀第3四半期のSC-14・SC-15と、6世紀第2四半期のSC-24・SC-25から6世紀第3四半期のSC-23、そして6世紀第2四半期のSB-63、6世紀第3四半期のSC-43・SC-44の単位を見ることができる。

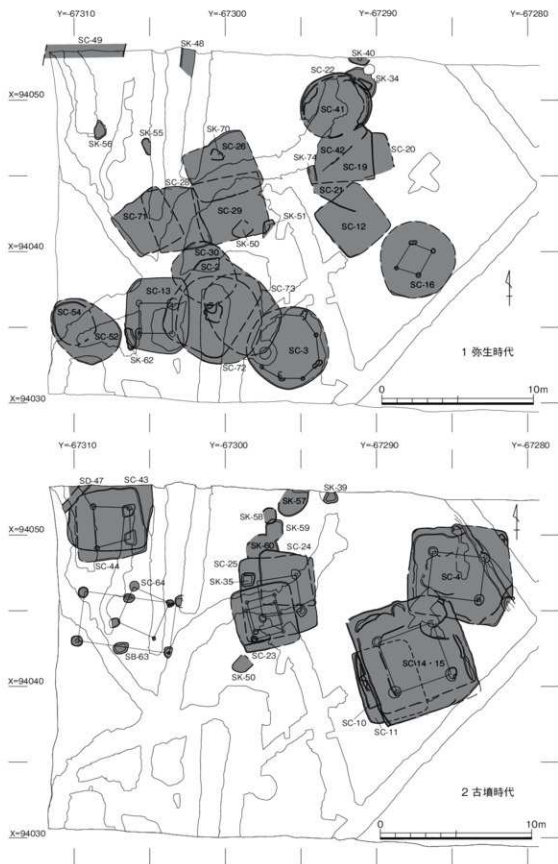


図158 文京遺跡16次調査B区遺構変遷図 (1) (縮尺1/250)

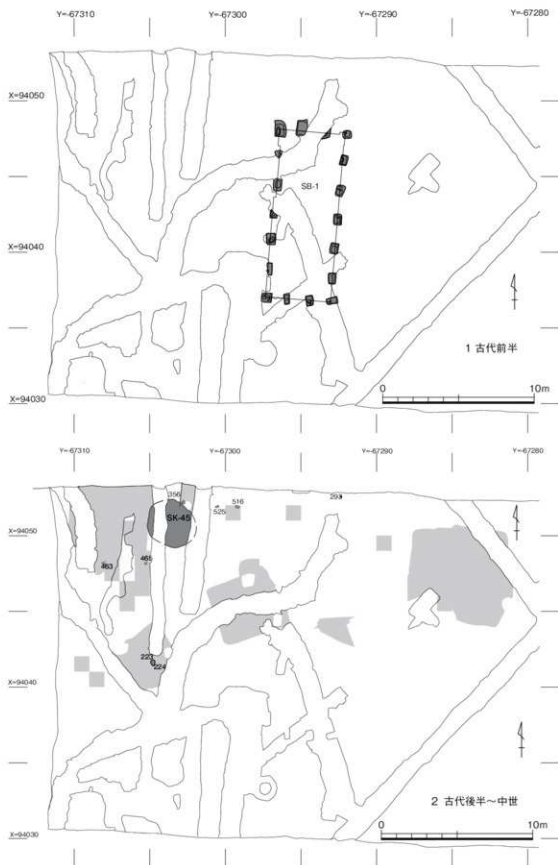


図159 文京遺跡16次調査B区遺構変遷図 (2) (縮尺1/250)

(3) 古代前半の遺構 (図159-1)

出土遺物は古墳時代後期以前しか伴っていないが、遺構の特徴から、掘立柱建物SB-1を古代前半に位置づけた。3間×6間で桁行4.3m、梁行11.1mと大型の建物で、柱穴は平面隅丸長方形を呈し、互層状の埋土で、径15～20cmの柱を埋め戻している。

これ以外に、古代前半に遡る、あるいは遡ることが想定される遺構は調査区内では出土していない。16次調査北側および西部に関連する遺構出土の可能性も想定されるが、既往調査範囲内において見いだすことはできず、現時点ではSB-1単体での存在しか確認できない。

それでも、25次調査報告で既に指摘しているように、道後城北地区一帯に古代官衙関連施設あるいは古代寺院の存在が想定でき、実際に25次調査自然流路内からは関連遺物の出土も少なくない。そのような脈絡の中にSB-1を位置づけ、古代前半の遺跡の広がりを想定するところである。

(4) 古代後半～中世の遺構 (図159-2)

圧倒的多数の弥生時代から古墳時代の遺構・遺物に混じって、古代後半から中世に降る遺構・遺物の存在を確認している。遺構としては、本来城北団地基本層序のⅢ層を切り込んでいたとみられるが、認識できずにⅣ層上面で検出したもの、出土遺物から後に時期を特定したものなどであり、土壇 (SK-45) 1基と柱穴・小穴26基を数える。さらにこれ以外に、Ⅲ層上面検出時に、Ⅰ・Ⅱ層の残存つまり攪乱として掘り下げてしまった中にも、この時期の遺構とすべきものが含まれていた可能性もある。

該当遺構は、調査区内北半に位置し、古代後半から中世に降る遺物の混在が認められた遺構およびⅢ層の範囲も、同様に北半に偏る。したがって、古代後半から中世の遺跡は、16次調査B区より北に広がり、南側へ残存して広がる可能性は低い。北側には18・25次調査区における同時期の水田遺構が確認されており、この水田域に近接する範囲に、関連する同時期の遺構が展開すると考えられる。

表2 文京遺跡16次調査B区出土遺構一覧

探検 番号	遺構 番号	施設	遺構・平面形状・付属遺構・切取関係等	遺物		時期			
				国	内容				
SC	2	DV27-DV28- DW27-DW28	6.2×4.9mの隅丸長方形。主柱穴等不明。SC-13・30・72・73を切る。14次SC-1。	8・9	5	弥生土器・石器	10-12	16	弥生
SC	72	DV27-DV28- DW27-DW28	SC22より分岐。径5.5m前後の円形。主柱穴不明。中央土壇K1。SC21に切られ。SC23を切ると思定される。	8・13	5	弥生土器・石器	14・15	17	弥生
SC	73	DV27-DV28- DW27-DW28	SC22より分岐。長軸5.5m・短軸4.5m前後の長方形。主柱穴等不明。SC2。SB1に切られ。SK42を切り。SC30・72と重複が想定される。	8・16	5	弥生土器・石器	17・18	18	弥生
SC	13	DW27-DW28	約4.9×4.1mの隅丸長方形。4本主柱穴「P1・7・P6（旧SC299）・P7（旧SC291）」。	19	-	弥生土器・石器	20	19	弥生
SC	30	DW28-DW29	約4.3×3.6mの隅形。主柱穴等不明。SC21に切られ。SC28・29を切り。SC-13・72・73と重複が想定される。	21	-	弥生土器・石器	22・23	20	弥生
SC	3	DC27-DC28- DV27-DV28	径4.5m前後の円形。主柱穴39本「P2・P11・P28・P34・K2内柱穴内2箇所・7・7・7」と推定。SC73に切られ。SC72と重複が想定される。14次SC2。	24	6	弥生土器・石器	25・27	21・22	弥生
SC	4	DS29-DS30- DS31-DT29- DT30-DT31	南北6.0m・東西6.8m前後の長方形。4本主柱穴「P1・不明・P27・14次SD953内柱穴4つ」。北側にカマド。SC14・15・14次SD953（166次SD30・146次SK941）に切られ。14次SC141（166次SC30・146次SC955（166次SC31）を切る。14次SC927。	28・29	7・4	弥生器・土師器・弥生土器・分銅土製品・石器・鉄器・鉄滓	30-35	23-25	古墳
SC	5	DT30-DT31	14次SC928として報告。	-	-	-	-	-	-
SC	6	DT28-DT29- DT30-DC28- DC29	SC14・17を旧区画名で一括していたが呼称廃止。14次SC926。	-	-	-	-	-	-
SC	14	DT28-DT29- DT30-DC28- DC29	南北約6.0m×東西約6.8mの方形。4本主柱穴「P15・P73・P7・P86」。北端中央にカマド。下部のSC15。SC4・16。SX-18を切る。SC-N13の土壇（西カマド）。	36-38	7・8	弥生器・土師器・土製品・弥生土器・石器・鉄器・鉄滓	39-41・43-45	26・27・29・30	古墳
SC	15	DS29-DT28- DT29	南北約7.5m×東西約7.0mの方形。4本主柱穴「P15・P73・P79・P86・P89（SK）」。西端中央にカマド。上部のSC141に切られ。SC4・10・11・12・16・19・20・21を切る。SC-N13の下層（西カマド）。	36・37	7	弥生器・土師器・弥生土器・石器・鉄器・鉄滓	42-45	28-30	古墳
SC	16	DS29-DT28- DT29	径5.5m前後の円形。4本主柱穴「P78・P94・P56・P46」。SC14・15。14次SC947（166次SC60）。146次SC60（166次SC48）に切られ。14次SC948（166次SC46）を切る。SC-N13のうち南端部分。	36・46	-	弥生土器	47	31-1	弥生
SC	17	DS29-DT28- DT29	SC-N13を分解整理し。流石遺構名として呼称廃止。	-	-	-	-	-	-
SC	10	DC28-DC29	南北3.6m×東西6.0m以上の方形ないし長方形。主柱穴不明。SC15に切られ。SC11を切る。	48	7	弥生器・土師器・弥生土器・土製品・石器	49	31-2・6	古墳
SC	11	DC28-DC29	南北4.9m×東西6.4mの長方形。主柱穴不明。SC10・15に切られ。SC12を切る。	48	7	弥生器・土師器・弥生土器・土製品・石器	49	31-2・6	古墳
SC	12	DC29	北西・南東幅が4.0m×北東・南西幅は4.8m。4本主柱穴「P6・P23・SC14-15P76・77」。SC11・15・21。SB1に切られる。	50	7・4	弥生土器・石器	51・52	32	弥生
SC	38	DC29	SC12に統合。	-	-	-	-	-	-
SC	18	DU30	SC19上部の埋蔵単位。SB4。SC14に切られ。SC19・42を切る。	53	-	弥生器・土師器・弥生土器・石器	130	-	古墳
SC	19	DU30	約3.2m×3.7m以上の長方形。主柱穴詳細不明。SC14・25・42。SB1・SX-181に切られ。SC20・22を切る。	53・54	9・4	弥生土器・石器	55	33-1・4	弥生
SC	20	DT30-DU30	2.2m以上・1.4m以上の方形ないし長方形。P2主柱穴の可能性あり。SC14・19Cに切られる。	53・56	9・4	弥生土器	57	33-5	弥生
SC	21	DU29	3.0m以上・1.9m以上の方形ないし長方形。主柱穴不明。SC14・13・19・25。SB1に切られ。SC12を切る。	53・58	9・4	弥生土器・石器（・瓦器）	59・60	33-6・7	弥生
SC	42	DU30	4.0m以上・1.8m以上の方形ないし長方形。主柱穴不明。SC22・25・41。SB4。SX-181に切られ。SC19を切る。	53・61	9・4	弥生土器・石器	62	34	弥生
SC	22	DU30-DU31	長軸4.8m・短軸4.0mの長方形。2本主柱穴「P24・P22」を。SB11に切られ。SC41・42。SK34を切る。	63・64	9・2	弥生土器・石器	65・66	35-1・7	弥生
SC	41	DU30-DU31	長軸4.5m・短軸3.9mの長方形。2本主柱穴「P29・P99」を。SC22。SB1に切られ。SC42。SK34を切る。	67	9・2	弥生土器	68	35-8・9	弥生
SC	23	DV29-DV30	南北約4.1m・東西約4.0mの隅丸長方形。4本主柱穴「P9・7・7・7」。南に南を軸とした南北約3.6m・東西約4.0mの隅丸長方形。4本主柱穴「P11・P8・7・7」。SB1に切られ。SC24・25・26・27・29を切る。	69・70	10・4	弥生器・土師器・弥生土器・石器・鉄器・鉄滓（・銅器）	71	36	古墳
SC	24	DV30	東西約3.5m・南北3.1-3.6mの隅丸長方形。主柱穴不明。SC23。SB1に切られ。SC25。SK60を切る。	69・72	10・4	弥生器・土師器・弥生土器・石器	73	37-1・3	古墳
SC	25	DC29-DC30- DV29-DV30	南北5.3・4.7m。東西4.7mの隅丸長方形。4本主柱穴「SC27P10・SP104・SP109・SC27P17」。SC23・24。SK35に切られ。SC21・28・27・42。SK60・74を切る。	69・74	10・4	弥生器・土師器・弥生土器・石器・鉄器・鉄滓（・銅器）	75	37-4・9	古墳
SC	39	DC29-DC30- DV29-DV30	SC25に統合。	-	-	-	-	-	-
SC	26	DW29-DW30- DV30	南北3.5-4.0m・東西4.5mの隅丸長方形。主柱穴不明。SC23・25。SK70に切られ。SC27・29を切る。	69・76	10・4	弥生土器・石器	77	38-1・4	弥生
SC	27	DV29-DW29	南北4.0-4.2m・東西約4.6mの不整形隅丸長方形。4本主柱穴「P1（SC26 P12）・SC25P11・7・SC29P13」。SC23・24・25・26に切られ。SC29を切る。	69・78	10・4	弥生土器	79	38-5	弥生
SC	29	DV29-DW29	南北2.8m以上・東西約4.5mの隅丸長方形。主柱穴不明。SC23・26・27・28・30。SK50・51に切られる。	69・80	10・4	弥生土器	81	38-6・7	弥生
SC	28	DW28-DW29- DX28-DX29	南北4.2m・東西約5.34mの平行四辺形。主柱穴不明。SC64・71・30。SB40に切られ。SC29を切る。	82・83	-	弥生土器・石器	84	39	弥生

種別	番号	遺構		遺物		時期
		地区	規模、平面形状、付属遺構、切欠関係等	国	内容	
SC	71	DW28-DW29-DX28-DX29	南北35～38m、東西45mの長方形。主柱穴不明。SC-28より9分、SC-64、SB-63に切られ、SC-28を切る。	82・85	-	弥生
SC	43	DX30-DX31	南北46m、東西45m前後の方形に覆元。4本主柱穴〔P1・P2・P9・P21〕、SC-44・49、SK-66、SD-47〔16A次SD-520〕を切る。	86・87	11・14	古墳
SC	44	DW31-DX30-DX31-DY30-DY31	南北55m前後、南北想定42m以上。主柱穴〔P2ないしP4〕に可能性あり。SC-43に切られ、SC-49、SD-47〔16A次SD-520〕を切る。	86・90	11・14	古墳
SC	49	DX31-DY31	東西50m以上。1/4詳細不明。SC-43・44、SD-47〔16A次SD-520〕に切られる。	86・91	11・14	弥生
SD	47	DX31-DY31	16A次SD-520として報告。	86	-	-
SC	52	DX27-DX28-DY27-DY28	長軸約50m、短軸約60mの長方形。主柱穴不明。SP-441・502・503・587・591・596・622・623・719に切られ、SC-33〔16A次SC-73〕を切る。	90・94	10・12	弥生
SC	54	DX27-DY27	長径約30m、短径約27mの不等円形。小型ながら底面平坦。主柱穴等不明。SC-52、SP-596・719・722に切られる。16A次SK-571。	90・96	10・12	弥生
SC	64	DX27-DX28-DY27-DY28	SC-52に統合。	-	-	-
SC	66	DX27	16A次SC-78として報告。	-	-	-
SC	64	DW29-DW30-DX29-DX30	方形か、規模不明。主柱穴〔SP-421・424・573・577〕から覆元推出。	98	-	弥生
SB	1	DX28-DY28-DX29-DY29-DY30-DY30	SP108・111・SP174・181で構成。3間×4間。軒行43m、梁行111m。SC-12・19・21・22・23・24・25・41・42・73、SK-51を切る。	100・101	12・14	弥生
SB	63	DW29-DW30-DX29-DX30	SP422・423・425・426・427・429で構成。1間×2間。軒行33m、梁行61m。SC-28・71を切り、SC-64を切る。想定される。	103	15・1	弥生
SK	34	DX30	約24m前後の半月状。深さ20cm前後で中央部に南北135m前後、東西幅0.5m前後、深さ15cm程度の溝がある。SC-22・41、SP-249・250・277・279・280に切られる。	105	-	弥生
SK	35	DY30	南北・東西とも0.9m前後の不等方形。深45cm前後。SC-25を切る。	107	-	弥生
SK	36	DY30	SC-25に統合。	-	-	-
SK	39	DX31	1辺1m前後の不等腰直角三角形。深45cm。	109	-	弥生
SK	40	DX31	長13cm前後、幅9cm前後。深13cm程度が残るのみ。SP-290・292に切られる。	109	-	弥生
SK	45	DW30-DW31-DX30-DX31	長軸35cm、短軸24mの楕円形。深約45cm。SC-44、SK-48、SP-358・372を切る。	111	-	中世
SK	48	DW31	東西13m、東西幅9mの台形状の範囲が残るのみ。深20cm前後。SK-45、SP-345・357・358に切られる。	113	-	弥生
SK	50	DY29	北東・南西方向最大12m、北西・南東方向約9・10mの不等台形状。深約10cm。SP-386・387に切られ、SC-29を切る。	115	-	古墳?
SK	51	DY29	東西幅0.7m前後、南北長12mが残るのみ。SP-110・300・418・419に切られ、SC-29を切る。	116	-	弥生
SK	55	DY30	長軸12m前後、幅0.5m前後の長楕円形。深10cm程度。	117	-	弥生
SK	56	DX30	長軸13m、短軸0.8mの狭い不等三角形。深45cm。SC-43、SP-436・464に切られる。	119	-	弥生
SK	57	DX31-DY31	長軸25m前後、短軸15m前後の楕円形。深20cm前後。SP-482・483に切られる。	121	-	古墳
SK	58	DY31	長軸約1.1m、短軸約0.9mの不等円形。深10cm前後。SP-497・501に切られ、SK-49を切る。	123	-	古墳?
SK	59	DY31	南北約1.5m、東西約1.1mの狭長長方形。深10cm前後。SK-58、SP-491に切られ、SK-40と切り合う。	123	-	古墳
SK	60	DY30-DY31	約20m前後の円形と推定。深15cm前後。SC-24・25、SP-504・506・509に切られ、SK-39と切り合う。	124	-	古墳
SK	62	DX27	南北1.65m、東西0.5～0.65mの不等長台形状。深46cm。SC-13に切られる。	125	-	弥生
SK	70	DW30	南北約0.8m、東西約0.5mの不等長方形で、深30～35cm。SC-36を切り、SP-386・387と切り合う。	126	-	弥生
SK	74	DY29-DY30	東西5m、南北長125m、本来は長15mの長楕円形か。深15cm。SC-25、SP-291に切られる。	128	-	弥生
SD	4	DT28	14次SC-947として報告。	-	-	-
SD	7	DT28	14次SC-951として報告。	-	-	-
SD	8	DT28	14次SC-950として報告。	-	-	-
SD	9	DT28	14次SC-167として報告。	-	-	-
SD	46	DT27-DT28	14次SC-948として報告。	-	-	-
SD	31	DS31-DT31	14次SC-955として報告。	-	-	-
SD	30	DS31-DT31	14次SC-141として報告。	-	-	-
SD	33	DS31-DT31	14次SC-953として報告。	-	-	-
SP	101	DY28	SB-1を構成。60×70cm以上の狭長長方形。深65cm。柱重あり。互角状の残骸。SC-73を切る。14次SP-201。	100・101	-	古墳?
SP	102	DY28	SB-1を構成。40×70cmの狭長長方形。深70cm。柱重あり。互角状の残骸。SC-73を切る。14次SP-201。	100・101	13・12	古墳?

種別	番号	地区	遺構	遺物			時期
				国	国	国	
SP	103	DC28	SB-1を構成、50×67cmの隅丸長方形、深55cm。柱礎あり。互層状の層相。	100-101	13.3・4	銅器・土師器・弥生土器	古代?
SP	104	DC28	25以上×60cmの隅丸長方形、深33cm。SP-103に切られる。		13.3・4	土師器・弥生土器	
SP	105	DC28	SB-1を構成、45×75cmの隅丸長方形、深70cm。柱礎あり。互層状の層相。	100-101	13.5	土師器・弥生土器	古代?
SP	106	DC28	SB-1を構成、50×75cmの隅丸長方形、深70cm。柱礎あり。互層状の層相。	100-101	13.6	銅器・土師器・弥生土器	102 43.2 古代?
SP	107	DC28-DC29	SB-1を構成、55×73cmの隅丸長方形、深65cm。SC-12を切る。	100-101	13.7	銅器・土師器・弥生土器	102 - 古代?
SP	108	DC29	SB-1を構成、55×73cmの隅丸長方形、深70cm。柱礎あり。互層状の層相。SC-12を切る。	100-101	13.8	銅器・土師器・弥生土器	102 43.3 古代?
SP	109	DV29	SB-1を構成、50×57cm以上の隅丸長方形、深50cm。柱礎あり。互層状の層相。	100-101	14.1	銅器・土師器・弥生土器	- - 古代?
SP	110	DV29	SB-1を構成、62×75cmの隅丸長方形、深65cm。柱礎あり。互層状の層相。SK-51を切る。	100-101	14.2	銅器・土師器・弥生土器	- - 古代?
SP	111	DV28	SB-1を構成、35以上×80cmの隅丸長方形、深55cm。柱礎あり。互層状の層相。	100-101	14.3・4	銅器・土師器・弥生土器	- - 古代?
SP	112	DV27	20×35cmの地円形、深10.7cm。	131	-	なし	- - ?
SP	113	DV27	37×63cmの不整形形、深20cm。	131	-	なし	- - ?
SP	114	DV27	25cm、深10.3cm。	131	-	なし	- - ?
SP	115	DV27	22cm、深9.4cm。SP-116・117に切られる。	131	-	なし	- - ?
SP	116	DV27	22cm、深14.9cm。SP-115・118を切る。	131	-	なし	- - ?
SP	117	DV27	18.1cm、深6cm。SP-116と切り合う。SP-118を切る。	131	-	なし	- - ?
SP	118	DV27	52×33cm、深28cm。SP-117に切られる。SP-115を切る。	132	15-2	弥生土器	133 46.4 弥生
SP	119	DV27	15.5cm、深15.2cm。SP-120・121と切り合う。	131	-	弥生土器	133 46.2 弥生
SP	120	DV27	12.5cm、深12.3cm。SP-119・121と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	121	DV27	15.5cm、深13.7cm。SP-119・120と切り合う。	131	-	弥生土器	- - 弥生
SP	122	DV27	15.5cm、深20cm。	131	-	なし	- - ?
SP	123	DV27	15.1cm、深5.8cm。	131	-	なし	- - ?
SP	124	DV27	12.4cm、深5.2cm。	131	-	なし	- - ?
SP	125	DV27	12.6cm、深10.5cm。	131	-	なし	- - ?
SP	126	DV27	12.6cm、深21.9cm。	131	-	弥生土器	- - 弥生
SP	127	DV27	15.1cm、深20.5cm。	131	-	土師器?・弥生土器	- - 古墳?
SP	128	DV27	15.3cm、深9.2cm。	131	-	弥生土器	- - 弥生
SP	129	DV27	15.2cm、深15.5cm。	131	-	なし	- - ?
SP	130	DV27	23×30cmの地円形、深12.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	131	DV27	15.2cm、深6.6cm。	131	-	なし	- - ?
SP	132	DV27	12.2cm、深9.8cm。	131	-	なし	- - ?
SP	133	DV27	12.2cm、深16.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	134	DV27	15.2cm、深14.4cm。SP-135に切られる。	131	-	なし	- - ?
SP	135	DV27	15.1cm、深19.2cm。SP-134を切る。	131	-	なし	- - ?
SP	136	DV27	15.3cm、深11.7cm。	131	-	なし	- - ?
SP	137	DV27	12.2cm、深9.5cm。SP-136と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	138	DV27	12.2cm、深9.4cm。SP-137と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	139	DT27-DV27	22×27cmの地円形、深13.6cm。	131	-	なし	- - ?
SP	140	DV27	15.1cm、深10.6cm。	131	-	なし	- - ?
SP	141	DV27	15.2cm、深12.6cm。	131	-	なし	- - ?
SP	142	DV27	15.3cm、深20cm。	131	-	なし	- - ?
SP	143	DV27	15.2cm、深13.4cm。礎石の可能性あり。	131	-	なし	- - ?
SP	144	DV27	15.2cm、深11cm。SP-145と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	145	DV27	15.2cm、深9.4cm。SP-144と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	146	DV27	15.2cm、深12.3cm。	131	-	なし	- - ?
SP	147	DV27	15.2cm、深13.9cm。	131	-	なし	- - ?
SP	148	DV27	15.2cm、深26.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	149	DC28	15.2cm、深16.8cm。SP-150と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	150	DC28	15.2cm、深15.4cm。SP-149と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	151	DC28	24×28cmの地円形、深4cm。	131	-	なし	- - ?
SP	152	DC28	15.2cm、深28.9cm。	131	-	なし	- - ?
SP	153	DC28	15.1cm、深16.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	154	DC28	15.2cm、深9.3cm。	131	-	なし	- - ?
SP	155		欠番				
SP	156	DC27	32×38cmの隅丸長方形、深15.4cm。	131	-	なし	- - ?
SP	157	DC27	15.2cm、深6.7cm。	131	-	なし	- - ?
SP	158	DC27	15.2cm、深15.8cm。	131	-	なし	- - ?
SP	159	DC27	15.2cm、深12.2cm。	131	-	なし	- - ?
SP	160	DC27	19×24cmの地円形、深15cm。	131	-	なし	- - ?
SP	161	DT27-DV27	42×50cmの隅丸長方形、深15.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	162	DC27	15.2cm、深24.5cm。SP-163と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	163	DC27	26×30cmの地円形、深6.9cm。SP-162・164と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	164	DC27	15.2cm、深16.3cm。SP-163と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	165	DT27-DV27	15.1cm、深13.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	166	DT27	15.2cm、深6.6cm。SP-167と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	167	DT27-DV28	23×30cmの地円形、深11.5cm。SP-166と切り合う。	131	-	なし	- - ?
SP	168	DC28	15.1cm、深7.3cm。	131	-	なし	- - ?
SP	169	DT28-DV28	15.2cm、深7.5cm。礎石の可能性あり。	131	-	なし	- - ?
SP	170	DT28	15.2cm、深6.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	171	DV27	15.2cm、深14.7cm。礎石の可能性あり。	131	-	なし	- - ?
SP	172	DV27	15.3cm、深14.1cm。	131	-	なし	- - ?
SP	173		欠番 (16A表において報告)				

種別	番号	地区	遺構	遺構		内容	遺物		時期	
				規模・平面形状・付属遺構・切欠関係等	周		周	周		
SP	174	DC29	SB-1を構成、55×78cmの隅丸長方形、深50cm、SC-12・21を切る。	100	101	13.5	堀込部・土師器・弥生土層	102	43-2	古代?
SP	175	DC30	SB-1を構成、65×80cmの隅丸長方形、深70cm、SX-18・SC-19・42・SP-448を切る。	100	101	-	堀込部・土師器・弥生土層	102	43-2	古代?
SP	176	DC30	SB-1を構成、53×60cmの隅丸長方形、深71cm、SC-22・41・42を切る。	100	101	-	堀込部・土師器・弥生土層・鉄滓	102	43-5	古代?
SP	177	DC30	SB-1を構成、東辺60cm以上・南辺55cm以上、深50cm、SC-22・41・42を切る。	100	101	-	堀込部・土師器・弥生土層	-	-	古代?
SP	178	DC30-DV30	SB-1を構成、確定80×105cmの隅丸長方形、深55cm、SC-22・24・25・41を切る。	100	101	13.6	堀込部・土師器・弥生土層	-	-	古代?
SP	179	DV30	SB-1を構成、75×105cmの隅丸長方形、深60cm、SC-24を切る。	100	101	13.7	堀込部・土師器・弥生土層・石段・鉄滓	102	43-4・6	古代?
SP	180	DV30	SB-1を構成、北辺・西辺約50cmの隅丸三角形状に現れるのみ、深60cm、柱礎あり、互角柱の残存、SC-23を切る。	100	101	13.8	堀込部・土師器・弥生土層	-	-	古代?
SP	181	DV29	SB-1を構成、55×80cmの隅丸長方形、深45cm、SC-23を切る。	100	101	-	堀込部・土師器・弥生土層	-	-	古代?
SP	182	?	位置不明	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生?
SP	183	DC29	50×55cmの楕円形、深12cm、SC-184と切り合う。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	184	DC29	34×47cmの楕円形、深7.6cm、SP-183と切り合う。HSC13.8%。	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生
SP	185	DC29	32×42cmの楕円形、深29.7cm、SC12P1・2と切り合う。	131	-	-	弥生土層	133	46-3	弥生
SP	186	DC29	径22cm、深24.6cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	187	DC29	19×22cmの楕円形、深8.1cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	188	DC29	径33cm、深11.8cm、HSC12P10。	131	-	-	弥生土層	136	-	古墳?
SP	189	DC29	径36cm、深6.5cm、HSC12P9。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	190	DC29	径48cm、深8.5cm、HSC21P4。	131	-	-	弥生土層	133	-	弥生
SP	191	DC29	径22cm、深38.1cm、HSC21P5。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	192	DC29	径30cm、深7cm、HSC21P3。	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生
SP	193	DC29	径33cm、深43.1cm。	131	-	-	弥生土層	133	46-4	弥生
SP	194	DV30	SC25の主柱穴を構成、径69.4cm、深43cm。	131	15.4	-	堀込部・土師器・弥生土層	136	48-1	古墳
SP	195	DC31	径54×72cm、深51.7cm、SC-22を切る。	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生
SP	196	DC31	72×50cmの楕円形、深64.7cm、SC-22を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	197	DC31	径58cm、深42.5cm。	131	-	-	弥生土層	133	-	弥生
SP	198	DC30	楕円形の幅22cm・長さ55cm残存、深35.4cm、SC-22を切る。	131	-	-	土師器・弥生土層	136	-	古墳
SP	199	DC29-DV30-DV29-DV30	SC25の主柱穴を構成、径66.5cm、深52.1cm、覆土に古い黄褐色砂質土。	131	-	-	弥生土層	133	-	弥生
SP	200	DC29-DV29	径40cm、深38.3cm、覆土砂質土の強い暗褐色土。	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生
SP	201	DC29	42×45cmの楕円形、深25.3cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	202	DC29-DV30	56×67cmの楕円形、深34.3cm。	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生
SP	203	DC30	径40cm、深36.5cm。	131	-	-	堀込部・弥生土層・石段	136	48-2	古墳
SP	204	DC30	39×46cmの楕円形、深29.3cm。	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生
SP	205	DT30	径16cm、深5.5cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	206	DT30	20×25cmの楕円形、深11.4cm、SP-207と切り合う。	131	-	-	弥生土層	133	46-5	弥生
SP	207	DT30	径30cm、深8.1cm、SP-206と切り合う。	131	-	-	弥生土層	133	46-5	弥生
SP	208	DT30	径35cm、深13.8cm、SP-210と切り合う、SP-209と切り合う。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	209	DT30	径30cm、深12.3cm、SP-210と切り合う、SP-208と切り合う。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	210	DT30	30×40cmの楕円形、深52.8cm、SP-208・209を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	211	DT30	32×40cmの楕円形、深24.1cm、HSC20P10。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	212	DT30	径35cm、深11.1cm、SP-213を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	213	DT30	36×50cmの楕円形、深30.8cm、SP-212と切り合う。	131	-	-	土師器?・弥生土層	-	-	古墳?
SP	214	DT30	径40cm、深15.3cm、SP-215を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	215	DT30	67×73cmの楕円形、深8.3cm、SP-214と切り合う。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	216	DT30	径35cm、深5.6cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	217	DT30	45×50cmの楕円形、深39.1cm、SC-4と切り合う。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	218	DT30	28×30cmの隅丸長方形、深14.7cm。	131	-	-	弥生土層	-	-	弥生
SP	219	DT30	15×30cmの楕円形、深7.6cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	220	DT30	径36cm、深6.9cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	221	DT30	径18cm、深5.4cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	222	DT30	径27cm、深11.9cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	223	DW29	径54cm、深22cm。	139	15.6	-	瓦葺	140	49-6	中世
SP	224	DW29	径30cm、深22cm。	139	15.6	-	瓦葺	140	49-6	中世
SP	225	DC30	径23cm、深7.1cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	226	DT30-DV30	径42cm、深10.5cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	227	DT30	径50cm、深13.9cm、SP-714を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	228	DT30	径25cm、深5.9cm、SP-715を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	229	DT30	径56cm、深7.3cm、SC-41と切り合う、SP-230を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	230	DT30	径7cm、深4.4cm、SC-4、SP-229Cと切り合う。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	231	DT30	径43cm、深9.4cm、SC-41と切り合う、SP-232を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	232	DT30	径43cm、深8.5cm、SP-231Cと切り合う、SP-234と切り合う。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	233	DT30	径33cm、深5.5cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	234	DT30	径23cm、深11.3cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	235	DT30	径23cm、深28.8cm、SP-714を切る。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	236	DT30-DV30	径30cm、深11cm。	131	-	-	なし	-	-	?
SP	237	DT30-DV30	42×53cmの楕円形、深15.3cm、SP-240を切る。	131	-	-	弥生土層	133	-	弥生

種別	番号	遺構		遺物		時期
		地区	規模・平面形状・付属遺構・切欠関係等	内容	図	
SP	238	DT30-DT31-DU30-DU31	併36m、深14.5cm。	なし。	なし	?
SP	239	DT30	35×30cmの楕円形。深20cm。SP-240・241・243を切る。	なし	なし	?
SP	240	DT30	60×72cmの楕円形。深21.5cm。SP-237・239に切られる。	陶土器・石器	133	弥生
SP	241	DT30	併50cm、深8.2cm。SP-240・243に切られる。	なし	なし	?
SP	242	DT30-DT31	併43cm、深15.5cm。SP-243に切られる。	なし	なし	?
SP	243	DT30	60×86cmの不整形。深12.5cm。SP-239に切られ、SP-242を切る。	なし	なし	?
SP	244	DT30	4.5×5.4cmの楕円形。深8.7cm。SP-243・242と切り合う。	なし	なし	?
SP	245	DT30	併18cm、深5.8cm。SP-243に切られる。	なし	なし	?
SP	246	DT30	併32cm、深8cm。SP-247と切り合う。	土製紡輪土塊	なし	?
SP	247	DT30	併53cm、深10cm。SP-246と切り合う。	なし	なし	?
SP	248	DT30-DT31	併36cm、深5.9cm。	なし	なし	?
SP	249	DU31	併22cm、深32cm。	なし	なし	?
SP	250	DU31	併30cm、深39.5cm。亀裂の可能性あり。	なし	なし	?
SP	251	DT31	併20cm、深7.4cm。	なし	なし	?
SP	252	DT31	併33cm、深25.7cm。	なし	なし	?
SP	253	DT31-DU31	併30cm、深12cm。	なし	なし	?
SP	254	DT31	併32cm、深9.8cm。	なし	なし	?
SP	255	DT31	併30cm、深14.8cm。SP-256を切る。	なし	陶土器	弥生
SP	256	DT31	60×83cmの楕円形。深36.1cm。SP-255に切られ、SP-258・259を切る。	なし	なし	?
SP	257	DT31	併7cm、深14.7cm。SP-255・256に切られ、SP-278と切り合う。	なし	なし	?
SP	258	DT31	併7cm、深1cm。SP-255・256に切られ、SP-277と切り合う。	なし	なし	?
SP	259	DT31	30×42cmの楕円形。深11.5cm。SP-256・258と切り合う。	なし	なし	?
SP	260	DT31	併17cm、深15.9cm。SP-261を切る。	なし	なし	?
SP	261	DT31	併30cm、深10.9cm。SP-260に切られる。	なし	なし	?
SP	262	DT31	併3cm、深7.5cm。SP-261に切られる。	なし	なし	?
SP	263	DT31	併3cm、深13.8cm。SP-264と切り合う。SP-262を切る。	なし	陶土器	弥生
SP	264	DT31	併3cm、深10.3cm。SP-263と切り合う。	なし	陶土器	弥生
SP	265	DT31	32×60cm、深12.8cm。	なし	なし	?
SP	266	DT31	併5cm、深2.3cm。	なし	なし	?
SP	267	DT31	15×22cmの楕円形。深20.2cm。	なし	なし	?
SP	268	DT31	併52cm、深5.3cm。	なし	なし	?
SP	269	DT31	併38cm、深12.1cm。	なし	なし	?
SP	270	DT31	48×60cmの楕円形。深10.8cm。	なし	なし	?
SP	271	DT31	60×53cm、深25.5cm。	なし	なし	?
SP	272	DT31	45×58cm、深13cm。	なし	なし	?
SP	273	DT31	併25cm、深13.5cm。SP-274を切る。	なし	陶土器	弥生
SP	274	DT31	併38cm、深13.3cm。SP-273に切られる。	なし	なし	?
SP	275	DT31	併7cm、深12cm。SP-272・274・276に切られる。	なし	なし	?
SP	276	DT31	48×65cmの楕円形。深37cm。SP-274・275に切られる。	なし	なし	?
SP	277	DT31	併30cm、深25.5cm。SP-279を切る。	なし	なし	?
SP	278	DT31-DU31	45×65cm、深20.8cm。SP-277に切られ、SP-279と切り合う。	なし	なし	?
SP	279	DU31	併43cmの不整形。深33cm。SP-278に切られる。	なし	なし	?
SP	280	DT31	23×30cmの楕円形。深5cm。	なし	なし	?
SP	281	DT31	併23cm、深11cm。	なし	なし	?
SP	282	DT31	併30cm、深17.4cm。SP-283と切り合う。	なし	なし	?
SP	283	DT31	25×45cmの楕円形。併14.1cm。SP-282と切り合う。	なし	なし	?
SP	284	DT31	併30cm、深7.5cm。SP-283に切られる。	なし	なし	?
SP	285	DT31	42×7cm、深19cm。SP-283・284を切る。	なし	なし	?
SP	286	DT31-DU31	併33cm、深7cm。SP-287・288と切り合う。	なし	なし	?
SP	287	DT31-DU31	併35cm、深8.1cm。SP-286・287と切り合う。	なし	なし	?
SP	288	DU31	併30cm、深11.2cm。SP-286・287と切り合う。	なし	なし	?
SP	289	DU31	74×67cmの不整形。深44cm。SP-286・288と切り合う。	なし	陶土器	弥生
SP	290	DU31	併50cm、深8.1cm。SK-40を切る。	なし	陶土器	弥生
SP	291	DU31	併30cm、深23.6cm。	なし	なし	?
SP	292	DU31	併35cm、深22cm。SK-40と切り合う。	なし	なし	?
SP	293	DU31	併15cm、深16.6cm。	なし	中世土師器・弥生土器	中世
SP	294	DU31	併50cm、深7.8cm。SK-38に切られる。	なし	弥生土器?	弥生
SP	295	DU28	併25cm、深25cm。	なし	なし	?
SP	296	DU28	併24cm、深28.4cm。	なし	なし	?
SP	297	DU28-DU28	併33cm、深28cm。	なし	なし	?
SP	298	DU28	併20cm、深7.4cm。	なし	なし	?
SP	299	DU28	併34cm、深22.4cm。	なし	なし	?
SP	300	DU28	併28cm、深15cm。SP-301と切り合う。	なし	陶土器	弥生
SP	301	DU28	併24cm、深9.2cm。SP-300と切り合う。	なし	なし	?
SP	302	DU28	25×34cmの楕円形。深12.2cm。	なし	なし	?
SP	303	DU28	併23cm、深8.2cm。	なし	なし	?
SP	304	DU28	併28cm、深8.3cm。	なし	なし	?
SP	305	DU28	併13cm、深9cm。	なし	なし	?
SP	306	DU28	併22cm、深14.4cm。	なし	なし	?
SP	307	DU28	併18cm、深6.4cm。	なし	なし	?

種別	番号	地区	遺構		遺物		時期
			規模・平面形状・付属遺構・切合関係等	国	内容	国	
SP	308	DC28	33×40cmの不整形。深17.2cm。	131	なし	—	?
SP	309	DC29	40×50cmの不整形。深10.5cm。	131	須恵器・土師器?・弥生土器	136	古墳
SP	310	DC29	径36cm。深8.6cm。	131	なし	—	?
SP	311	DC29	径23cm。深8cm。	131	なし	—	?
SP	312	DC29	28×7cmの隅丸方形。深14.9cm。	131	なし	—	?
SP	313	DC29	13×15cmの楕円形。深6.5cm。	131	なし	—	?
SP	314	DC29	35×38cmの楕円形。深34.4cm。	131	石器	133	弥生?
SP	315	DC29	径29cm。深8.9cm。	131	なし	—	?
SP	316	DC29	19×22cmの不整形。深3.4cm。	131	弥生土器?	—	弥生?
SP	317	DC29	径23cm。深10.4cm。	131	なし	—	?
SP	318	DC29	12×15cmの楕円形。深8.2cm。	131	なし	—	?
SP	319	DC28	25×7cmの楕円形。深5.5cm。	131	なし	—	?
SP	320	DC28	径38cm。深6.5cm。	131	なし	—	?
SP	321	DC28	径28cm。深7.4cm。	131	なし	—	?
SP	322	DC28	径49cm。深24.5cm。SC-12と切り合う。	131	なし	—	?
SP	323	DC28	径22cm。深30.3cm。機瓦の可能性あり。	131	なし	—	?
SP	324	DC28	径30cm。深16.9cm。	131	弥生土器	—	弥生?
SP	325	DC28	径29cm。深15.8cm。	131	なし	—	?
SP	326	DC28	18×23cmの楕円形。深17.1cm。	131	なし	—	?
SP	327	DC28	30×32cmの楕円形。深9.9cm。	131	なし	—	?
SP	328	DC28	径58cm。深66cm。SP-329と切り合う。	131	なし	—	?
SP	329	DC28	70×83cmの隅丸方形。深30.2cm。SP-328に切り合う。	131	なし	—	?
SP	330	DC28	径53cm。深29.4cm。SP-331・332と切り合う。	131	なし	—	?
SP	331	DC28	径49cm。深34.8cm。SP-330・332と切り合う。	131	弥生土器	—	弥生?
SP	332	DC28	径59cm。深8.6cm。SP-331・333・334と切り合う。	131	なし	—	?
SP	333	DC28	径45cm。深44cm。SP-332・334と切り合う。	131	なし	—	?
SP	334	DC28	径17cm。深9.1cm。SP-333と切り合う。	131	なし	—	?
SP	335	DC28	欠番				
SP	336	DW30	径39cm。深27.3cm。SC-70。SP-337と切り合う。	126	弥生土器・石器	127	45-4-7
SP	337	DW30	径17cm。深20.9cm。SC-70。SP-336と切り合う。	126	弥生土器・石器	127	45-4-8
SP	338	DC29	径24cm。深6.4cm。	131	なし	—	?
SP	339	DC29	径39cm。深31.1cm。SP-340と切り合う。	131	なし	—	?
SP	340	DC29	径24cm。深32cm。SP-339・339と切り合う。	131	なし	—	?
SP	341	DC29	径34cm。深30cm。SP-339・342と切り合う。	131	なし	—	?
SP	342	DC29	径45cm。深15.5cm。SP-339・341と切り合う。	131	なし	—	?
SP	343	DC30・DY31	65×7cm。深7.9cm。	131	なし	—	?
SP	344	DC30	548×438cmの隅丸方形。深10cm。H SC-43P3。	131	弥生土器	—	弥生?
SP	345	DC30	径46cm。深34.9cm。SP-402と切り合う。	131	須恵器・土師器・弥生土器	136	古墳
SP	346	DC30-DY30	径55cm。深22.2cm。SP-343と切り合う。	131	弥生土器	—	弥生?
SP	347	DC30-DY30	37×40cmの隅丸方形。深25.9cm。SP-348・450・451と切り合う。	131	弥生土器	—	弥生?
SP	348	DY30	径60cm。深32.5cm。SP-347と切り合う。	131	なし	—	?
SP	349	DC29	径34cm。深3.6cm。SP-348と切り合う。	131	なし	—	?
SP	350	DC29	径15cm。深8.9cm。SP-346・347に切り合う。	131	なし	—	?
SP	351	DC29	径18cm。深7.1cm。SC-121に切り合う。	131	なし	—	?
SP	352	DC29	径27cm。深10.8cm。SC-121に切り合う。SP-353と切り合う。	131	なし	—	?
SP	353	DC29	径23cm。深18.3cm。SP-352と切り合う。	131	なし	—	?
SP	354	DY28-DY28	径30cm。深6.9cm。SC-111に切り合う。	131	須恵器・弥生土器	136	古墳
SP	355	DW31	径30cm。深22.9cm。	131	なし	—	?
SP	356	DW31	径36cm。深17.2cm。SP-357・358と切り合う。	131	古代土師器	140	49-7
SP	357	DW31	径63cm。深36.8cm。SP-356・358と切り合う。	131	なし	—	?
SP	358	DW31	径25cm。深43.6cm。SP-356・357と切り合う。	131	なし	—	?
SP	359	DW31	径30cm。深12.3cm。	131	なし	—	?
SP	360	DW31	径29cm。深3cm。SP-370Xに切り合う。	131	なし	—	?
SP	361		欠番				
SP	362		欠番				
SP	363		欠番				
SP	364		欠番				
SP	365		欠番				
SP	366		欠番				
SP	367		欠番				
SP	368		欠番				
SP	369		欠番				
SP	370	DW31	径31cm。深6.1cm。SP-360と切り合う。	131	なし	—	?
SP	371	DW31	径30cm。深7.8cm。SP-372と切り合う。	131	なし	—	?
SP	372	DW31	径30cm。深10.8cm。SP-371と切り合う。	131	なし	—	?
SP	373	DW30	径38cm。深25.9cm。	131	なし	—	?
SP	374	DY31	径25cm。深5cm。	131	弥生土器	—	弥生?
SP	375	DW29	径28cm。深16.8cm。SP-376と切り合う。	131	なし	—	?
SP	376	DW29	径37cm。深25.5cm。SP-375と切り合う。	131	弥生土器	133	弥生?
SP	377	DW29	径50cm。深12.7cm。SP-376に切り合う。SP-379と切り合う。	131	弥生土器?	133	弥生?

種別	番号	遺構		遺物		時期
		地区	規模、平面形状、付属遺構、切欠関係等	内容	国	国
SP	378	DW29	伊52cm、深25cm、SP377・379と切合う。	131	～	～
SP	379	DW29	75×100cmの不整形、深206cm、SP378・379と切合う。	131	～	～
SP	380	DW28・DW29	伊36cm、深36cm。	131	～	～
SP	381	DW・DW28	伊52cm、深148cm。	131	～	～
SP	382	DW29	伊45cm、深73cm。	131	～	～
SP	383	DW29	26×33cmの楕円形、深114cm。	131	～	～
SP	384	DW29	33×43cmの楕円形、深178cm、SP385と切合う。	131	～	～
SP	385	DW29	伊22cm、深113cm、SP384に切られる。	131	～	～
SP	386	DW29	伊47cm、深173cm。	131	～	～
SP	387	DW29	伊53cm、深265cm、棟上砂質の強い暗褐色土。	131	～	～
SP	388	DW29	22×40cmの不整形、深88cm、SP378と切合う。	131	～	～
SP	389	DW29・DW29	30×7cm、深47cm。	131	～	～
SP	390	DW29	63×75cmの竪入方形、深72.5cm、SP391と切合う。	131	～	～
SP	391	DW28・DW29	72×7cmの不整形、深278cm、SP390・392と切合う。	131	～	～
SP	392	DW28	50×7cmの不整形、深142cm、SP391と切合う。	131	～	～
SP	393	DW28	35×66cmの不整形、深245cm、SP394と切合う。	131	～	～
SP	394	DW28	伊30cm、深117cm、SP393に切られる、SP280と切合う。	131	～	～
SP	395	DW28	28×35cmの竪入方形、深227cm、SP394と切合う。	131	～	～
SP	396	DW28	25×33cmの楕円形、深216cm。	131	～	～
SP	397	DW28	26×35cmの不整形、深214cm。	131	～	～
SP	398	DW28	45×62cmの竪入方形、深312cm。	131	～	～
SP	399	DW28	35×45cmの不整形、深238cm。	131	～	～
SP	400	DW28	28×30cmの不整形、深102cm。	131	～	～
SP	401	DW28	伊23cm、深102cm。	131	～	～
SP	402	DW28	伊23cm、深99cm。	131	～	～
SP	403	DW28	伊23cm、深148cm。	131	～	～
SP	404	DW28	伊23cm、深169cm。	131	～	～
SP	405	DW28	伊17cm、深166cm。	131	～	～
SP	406	DW28	伊23cm、深75cm、SP409と切合う。	131	～	～
SP	407	DW28	伊23cm、深68cm、SP409と切合う。	131	～	～
SP	408	DW28	伊23cm、深116cm、SP409と切合う。	131	～	～
SP	409	DW28・DW28	83×90cmの不整形、深432cm、SP406・407・408と切合う。	131	～	～
SP	410	DW28	伊48cm、深28cm。	131	～	～
SP	411	DW29	伊28cm、深44cm、SP412と切合う。	131	～	～
SP	412	DW29	58×70cmの竪入方形、深353cm、SP411と切合う。	131	～	～
SP	413	DW29	伊30cm、深368cm、SP412と切合う。	131	～	～
SP	414	DW29	伊28cm、深53cm、SP415に切られる。	131	～	～
SP	415	DW29	伊31cm、深34cm、SP414・417と切合う。	131	～	～
SP	416	DW29	伊32cm、深405cm。	131	～	～
SP	417	DW29	33×7cm、深63cm、SP415に切られる。	131	～	～
SP	418	DW29	伊48cm、深293cm、SP419と切合う。棟上砂質の強い暗褐色土に黄褐色砂質土が混じる。	131	～	～
SP	419	DW29	55×7cm、深141cm、SP418に切られる。	131	～	～
SP	420	DW27	伊609cm、深36cm。	132	15-3	～
SP	421	DX30	SC64の土柱式を構成、伊693cm、深373cm。	131	15-4	～
SP	422	DX30	SB40を構成、65×70cmの楕円形、深55cm、白色の砂粒を上層に多く含む暗褐色砂質土。SP426・428と切合う。	103	～	～
SP	423	DX30	SB40を構成、57×75cmの楕円形、深50cm、灰白色砂および黄褐色の円礫を構成に含む暗褐色砂質土。SP568と切合う。	103	～	～
SP	424	DW30	SC64の土柱式を構成、伊54cm、深393cm。	131	～	～
SP	425	DW30	SB40を構成、75×45cmの円形に片、本家伊80cmの円形が、深62cm、白色砂粒を多く、小指先大の円礫を少し含む暗褐色砂質土。上層に炭化物を少し含む。	103	～	～
SP	426	DX29・DW29	SB40を構成、70×75cmの楕円形、深55cm、柱根あり、互換式の屋根。	103	～	～
SP	427	DX29	SB40を構成、東西58cm・南北63cmの不整形竪入方形に復元、深55cm、暗褐色砂質土と灰白色砂がランダムに混在、SC71と切合う。	103	～	～
SP	428	DX29	一辺60cmの竪入方形、深387cm。	131	～	～
SP	429	DW29	SB40を構成、75×55cmの不整形円形に片、本家伊80cmの不整形円形が、深45cm、白色から灰白色の砂粒を大量に含む暗褐色砂質土。SC71と切合う。	103	～	～
SP	430	DX27	伊30cm、深213cm。	131	～	～
SP	431	DX27	25×30cmの不整形、深196cm。	131	～	～
SP	432	DX27・DX27	伊23cm、深121cm。	131	～	～
SP	433	DX27	伊30cm、深73cm。	131	～	～
SP	434	DX27・DX27	伊70cm、深382cm。	131	～	～
SP	435	DX27	30×23cmの楕円形、深178cm。	131	～	～
SP	436	DX27	32×43cmの不整形、深236cm。	131	～	～
SP	437	DX27	25×33cmの竪入方形、深243cm。	131	～	～
SP	438	DX27	伊30cm、深175cm。	131	～	～
439			欠番（16A次SB-56を構成）。			
SP	440	DX27	伊68cm、深42cm、SP439に切られる。	131	～	～
SP	441	DX27	21×32cmの楕円形、深457cm。	131	～	～

種別	番号	遺構		国	国境	遺物		時期
		地区	規模、平面形状、付属遺構、切合関係等			内容	国	
SP	442	DX27	48×50cmの楕円形、深44.5cm。			弥生土器	—	弥生
	443		欠番（16A表SP-54砂を構成）。				—	—
SP	444	DX27	21×25cmの隅丸方形、深21.2cm。			なし	—	?
SP	445	DW27	径14cm、深6.6cm。			なし	—	?
SP	446	DW27	径13cm、深8.9cm。			なし	—	?
SP	447	?	位置不明			弥生土器	B4	弥生
SP	448	DX30	65×80cmの隅丸長方形、深65cm、SP-175に切られる。			弥生土器	—	弥生
SP	449	DY30	径17cm、深24.2cm、SP-346に切られる。			弥生土器	—	弥生
SP	450	DY30	径21cm、深23.6cm、SP-346・347に切られる。			なし	—	?
SP	451	DY30	径15cm、深22.5cm、SP-347に切られる。			なし	—	?
SP	452	DY30	径7cm、深35.5cm、SP-348・454・453に切られる。			なし	—	?
SP	453	DX30	径20cm、深44.7cm、SP-452・455と切り合う。			なし	—	?
SP	454	DX30-DY30	径70cm、深27.3cm、SP-455と切り合う。			なし	—	?
SP	455	DX30	径45cm、深27.3cm、SP-454と切り合う。			なし	—	?
SP	456	DX30	47×7cm、深17.1cm、SP-422に切られる。			なし	—	?
SP	457	DX30	径15cm、深18.9cm。			なし	—	?
SP	458	DX30	径47cm、深13.1cm、SP-422に切られる。			なし	—	?
SP	459	DX30	径33cm、深28cm。			なし	—	?
SP	460	DX30	径18cm、深21.6cm。			なし	—	?
SP	461	DX30	径16cm、深25.2cm。			なし	—	?
SP	462	DX30	径7cm、深22.1cm、SP-345・346に切られる。			なし	—	?
SP	463	DX30	23×31cmの楕円形、深20.3cm。			瓦器・中世土師器・甕罎器・土師器・弥生土器	B4	中世
SP	464	DX30	径17cm、深16.8cm。			なし	—	?
SP	465	DX30	径23cm、深19.5cm、SP-466を切る。			中世土師器	—	中世
SP	466	DX30	径21cm、深5.6cm、SP-465に切られる。			なし	—	?
SP	467	DX30	径25cm、深15.7cm。			なし	—	?
SP	468	DW30-DY30	径20cm、深46.3cm。			なし	—	?
SP	469	DX30	径20cm、深21.6cm、SP-472を切る。			弥生土器	—	弥生
SP	470	DX30	径20cm、深13.5cm。			なし	—	?
SP	471	DW30	径33cm、深25.3cm、SP-472を切る。			なし	—	?
SP	472	DW30	40×7cm、深24.4cm、SP-469・471に切られる。			なし	—	?
SP	473	DW30	径21cm、深15.2cm。			なし	—	?
SP	474	DW30	径62cm、深19.9cm。			土師器	—	古墳
SP	475	DW30	径28cm、深9.7cm。			なし	—	?
SP	476	DW30	33×30cm、深11.2cm。			なし	—	?
SP	477	DW29	35×40cmの楕円形、深12cm、SK-36を切る。			弥生土器	B4	弥生
SP	478	DX31	43×57cmの楕円形、深20.8cm。			弥生土器	B4	弥生
SP	479	DX31	33×40cmの不整形、深9.5cm。			弥生土器	—	弥生
SP	480	DX31	径35cm、深54.9cm、SP-197・481と切り合う。			なし	—	?
SP	481	DX31	径7cm、深14.1cm、SP-197・480と切り合う。			なし	—	?
SP	482	DX31	径23cm、深15.6cm、甕丸の可能性あり。			なし	—	?
SP	483	DY31	径50cm、深26.7cm、SP-484・485と切り合う。			なし	—	?
SP	484	DY31	径62cm、深11.7cm、SP-483・485と切り合う。			なし	—	?
SP	485	DY31	径66cm、深30.3cm。			なし	—	?
SP	486	DY31	23×25cmの不整形、深29.4cm。			なし	—	?
SP	487	DY31	径53cm、深13.1cm、SP-486に切られる。			なし	—	?
SP	488	DY31	径38cm、深24.6cm、SP-487を切る。			なし	—	?
SP	489	DY31	径38cm、深15.6cm。			なし	—	?
SP	490	DY30	42×77cmの隅丸方形、深33.2cm、甕丸は砂質強い暗褐色砂質土、SP-491と切り合う。			弥生土器	—	弥生
SP	491	DY30-DY31	33×74cmの不整形、深56.2cm、甕丸は砂質強い暗褐色砂質土、SP-490と切り合う。			弥生土器	B4	弥生
SP	492	DY30	径25cm、深10.5cm、SP-492と切り合う。甕丸の可能性あり。			なし	—	?
SP	493	DY30	径45cm、深13.2cm、SP-492と切り合う。甕丸の可能性あり。			なし	—	?
SP	494	DY31	径50cm、深15.3cm、SP-495と切り合う。			なし	—	?
SP	495	DY31	径63cm、深11.6cm、SP-494と切り合う。			なし	—	?
SP	496	DY31	35×40cmの不整形、深27.5cm。			弥生土器	—	弥生
SP	497	DY31	33×38cmの楕円形、深30cm、SK-58と切り合う。			なし	—	?
SP	498	DY31	径24cm、深19.5cm。			なし	—	?
SP	499	DY31	径20cm、深11.1cm。			なし	—	?
SP	500	DY31	径20cm、深11.6cm。			なし	—	?
SP	501	DY31	70×80cmの不整形、深42cm、SP-502と切り合う。			土師器?・弥生土器	—	古墳?
SP	502	DY31	39×54cmの不整形、深22.4cm、SP-501・503と切り合う。			なし	—	?
SP	503	DY31	28×35cmの楕円形、深22.5cm、SP-502と切り合う。			なし	—	?
SP	504	DY30-DY31	径48cm、深18.7cm、SP-505と切り合う。			なし	—	?
SP	505	DY30	径55cm、深32.7cm、SP-504と切り合う。			なし	—	?
SP	506	DY30	63×80cmの不整形、深24.2cm、SP-505に切られる。			なし	—	?
SP	507	DY30	40×50cmの隅丸方形、深27.1cm、SP-506を切る。甕丸の可能性あり。			なし	—	?
SP	508	DY30	32×7cmの隅丸方形、深11.1cm、甕丸の可能性あり。			弥生土器	B5	弥生
SP	509	DX30	70×7cm、深31.1cm。			土師器?・弥生土器	—	古墳?
SP	510	DX30	径16cm、深17.3cm。			土師器?	—	古墳?

種別	番号	地区	遺構 屋根、平面形状、付属遺構、切欠関係等	遺物		時期
				内容	図	図
SP	511	DX27	径85cm、深29.1cm、SP-439・440に切り合う。	なし	—	—
SP	512	DX27	径23cm、深7cm。	なし	—	—
SP	513	DV31	27×30cmの楕円形、深18.9cm。	なし	—	—
SP	514	DV31	70×80cmの不整形、深38.9cm、SP-515・516と切り合う。	灰土器、土師器・弥生土器、鉄器	136	48.5・6
SP	515	DV31	径32cm、深17.9cm、SP-514と切り合う。	なし	—	—
SP	516	DV31	径32cm、深20.1cm、SP-514と切り合う。	中世土師器、土師器・弥生土器	—	—
SP	517	DV31	径14cm、深12.3cm。	なし	—	—
SP	518	DV31	径19cm、深14.3cm。	なし	—	—
SP	519	DV31	径23cm、深12.6cm。	なし	—	—
SP	520	DV31-DW31	径28cm、深25.9cm、SP-521と切り合う。	土師器?	—	—
SP	521	DV31-DW31	35×53cmの楕円形、深19cm、SP-520と切り合う。	土師器?	—	—
SP	522	DV31	75×7cmの不整形、深14cm。	なし	—	—
SP	523	DW31	径48cm、深36cm、SP-522と切り合う、SP-524と切り合う。	灰土器、土師器・弥生土器	136	48.7
SP	524	DW31	径33cm、深36cm、SP-523と切り合う、SP-525を切る。	灰土器、土師器・弥生土器	136	48.7
SP	525	DW31	径23cm、深23.3cm、SP-522・524に切り合う。	瓦器、中世土師器	140	49.9
SP	526	DV31-DW31	径36cm、深37.9cm。	なし	—	—
SP	527	DV31	径18cm、深17cm。	なし	—	—
SP	528	DV31	径27cm、深14.8cm。	なし	—	—
SP	529	DV31	径33cm、深20.1cm。	なし	—	—
SP	530	DW31	径22cm、深13.1cm。	なし	—	—
SP	531	DW31	23×26cmの楕円形、深11.9cm。	なし	—	—
SP	532	DW31	径23cm、深16.3cm。	なし	—	—
SP	533	DW31	径23cm、深14.9cm。	なし	—	—
SP	534	DV31	径44cm、深22.4cm、SP-535・706と切り合う。	土師器?・弥生土器	—	—
SP	535	DV31	径36cm、深17.3cm、SP-534・706と切り合う。	なし	—	—
536	欠番					
SP	537	DV31-DW31	45×50cmの楕円形、深17.8cm、SP-706と切り合う。	—	—	—
SP	538	DV30-DV31	径45cm、深37.4cm。	弥生土器・石器	—	—
SP	539	DW31	径25cm、深17cm、SP-540を切る。	なし	—	—
SP	540	DW30-DW31	径23cm、深19.8cm、SP-539に切り合う。	なし	—	—
SP	541	DW30-DW31	径21cm、深10.6cm。	なし	—	—
SP	542	DW30	径23cm、深9cm、SP-543と切り合う。	なし	—	—
SP	543	DW30	径38cm、深18.8cm、SP-542と切り合う。	なし	—	—
SP	544	DV30-DW30	径31cm、深21.4cm。	なし	—	—
SP	545	DV30	径31cm、深11.2cm。	なし	—	—
SP	546	DV30	径13cm、深8.8cm。	なし	—	—
SP	547	DV30	径18cm、深14.4cm。	なし	—	—
SP	548	DV30	径14cm、深11.4cm。	なし	—	—
SP	549	DW30	径22cm、深6.9cm。	なし	—	—
SP	550	DV30-DW30	径17cm、深13cm。	なし	—	—
SP	551	DV30	径23cm、深20.7cm。	なし	—	—
552	欠番					
SP	553	DW30	径45cm、深13.3cm。	なし	—	—
SP	554	DW30	径36cm、深20.1cm、SP-555・556と切り合う。	なし	—	—
SP	555	DW30	径28cm、深16.7cm、SP-554と切り合う。	なし	—	—
SP	556	DW30	径24cm、深12.7cm、SP-554と切り合う。	なし	—	—
SP	557	DV30-DW30	径33cm、深16.6cm、SP-558を切る。	弥生土器?	135	弥生?
SP	558	DV30-DW30	径25cm、深12.6cm、SP-557・559に切り合う。	なし	—	—
SP	559	DV30-DW30	径30cm、深24cm、SP-558を切る。	なし	—	—
SP	560	DW30	径24cm、深18.4cm、SP-561と切り合う。	なし	—	—
SP	561	DW30	径43cm、深18.6cm、SP-560と切り合う。	なし	—	—
SP	562	DW30	径15cm、深11.8cm。	なし	—	—
SP	563	DW30	径23cm、深17cm。	なし	—	—
564	欠番					
SP	565	DW30	径30cmの隅丸方形、深26.9cm。	なし	—	—
SP	566	DX29-DX30	径22cm、深20.2cm、SP-567と切り合う。	なし	—	—
SP	567	DW30	径20cm、深16.4cm、SP-566と切り合う。	なし	—	—
SP	568	DW30	径48cm、深24.5cm。	弥生土器	—	—
SP	569	DW30	35×43cmの楕円形、深21.5cm。	なし	—	—
SP	570	DX29-DX30	60×80cmの楕円形、深20.8cm、SP-571と切り合う。	なし	—	—
SP	571	DX29	径31cm、深8.8cm、SP-570と切り合う。	なし	—	—
SP	572	DX29	24×30cmの楕円形、深17.2cm。	なし	—	—
SP	573	DX29	SC-64の土柱式を構成、54号×40号を構成、深9.5cm。	なし	—	—
SP	574	DX29	30×45cmの楕円形、深16.4cm。	弥生土器	135	弥生?
SP	575	DX29	45×53cmの不整形、深17.4cm、SP-576と切り合う。	なし	—	—
SP	576	DX29	径22cm、深10.8cm、SP-575と切り合う。	弥生土器	135	弥生?
SP	577	DW29	SC-64の土柱式を構成、径27.8×23.2cmの楕円形、深30.5cm。	弥生土器	—	—
SP	578	DX29	径31cm、深30cm。	なし	—	—
SP	579	DX29	28×30cmの楕円形、深22.5cm。	なし	—	—

種別	番号	地区	遺構		国	国境	遺物			時期
			規模・平面形状・付属遺構・切関係等				内容	国	国境	
SP	580	DX29	径28cm、深16cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	581	DX27	31×25cmの残存、深9cm。周土暗褐色砂質土、明褐色砂質土の3cm前後のゾナ少量含み、砂粒混じる。		131	-	土師器・弥生土器	-	-	古墳
SP	582	DX27	23×29cmの地円形、深10cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	583	DX27	60×7cm、深47.5cm。		131	-	弥生土器	-	-	弥生
SP	584	DX27	径15cm、深5.1cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	585	DX27	35×38cmの隅丸方形、深19.8cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	586	DX27	径38cm、深8.6cm、SP-567に切られる。		131	-	なし	-	-	?
SP	587	DX27	径26cm、深13.3cm、SP-570に切られる。		131	-	なし	-	-	?
SP	588	DX27	径33cm、深15.3cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	589	DX27	径30cm、深11.7cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	590	DX27	径28cm、深26.6cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	591	DX27-DX28	63×66cmの隅丸方形、深8.9cm。周土は暗褐色砂質土に灰白色砂質土が混在し混じる。		131	-	土師器?・弥生土器	-	-	古墳?
SP	592	DX28	径33cm、深9.6cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	593	DX28	径25cm、深17cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	594	DX27	径16cm、深17.4cm。		131	-	土師器?・弥生土器	-	-	古墳?
SP	595	DX27	70×7cmの隅丸方形、深28.2cm。周土は暗褐色砂質土に灰白色砂質土が混在し混じる。16A表35-74を構成。		131	-	須恵器・土師器・弥生土器	136	-	古墳
SP	596	?	位置不明。周土暗褐色砂質土に明褐色砂質土の子粒大の夾いゾナ・炭化物混入。		131	-	弥生土器	-	-	弥生
SP	597	DX27	径26cm、深8.7cm、SP-598と切り合う。		131	-	なし	-	-	?
SP	598	DX27	径24cm、深7.3cm、SP-597と切り合う。		131	-	なし	-	-	?
SP	599	DX27	19×23cmの地円形、深15.8cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	600	DX27	径21cm、深11cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	601	DX27	径23cm、深10.9cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	602	DX27	径23cm、深5.4cm。		131	-	なし	-	-	?
	603		欠番							
SP	604	DX27	22×24cmの不整形、深11.6cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	605	DX27	径28cm、深13.7cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	606	DX27	径19cm、深13.8cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	607	DX27	26×30cmの不整形、深24cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	608	DX27	径25cm、深15.1cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	609	DX27	径33cm、深13.5cm、SP-611に切られる。		131	-	なし	-	-	?
SP	610	DX27	径24cm、深14cm、SP-611に切られる。		131	-	なし	-	-	?
SP	611	DX27	径63cm、深34.6cm、SP-609・610と切り合う。		131	-	弥生土器	135	-	弥生
SP	612	DX27	径33cm、深17.1cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	613	DX27	17×20cmの地円形、深7.6cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	614	DX27	径23cm、深11.5cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	615	DX27	径25cm、深14.2cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	616	DX27	径22cm、深6.3cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	617	DX27	径72cm、深34.7cm。		131	-	土師器?・弥生土器	-	-	古墳?
SP	618	DX27	38.5×22.4cm残存、深?cm。周土暗褐色砂質土、黄褐色砂質土が多く混じり粘性やあり。		131	-	なし	-	-	?
SP	619	DX27	径25cm、深10.4cm。		131	-	弥生土器	-	-	弥生
SP	620	DX27	径25cm、深10.8cm。		131	-	弥生土器	-	-	弥生
SP	621	DX28	60×69cmの不整形、深15.1cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	622	DX28	径40cm、深22.2cm、SP-623と切り合う。		131	-	なし	-	-	?
SP	623	DX28	径28cm、深20.4cm、SP-622と切り合う。		131	-	なし	-	-	?
SP	624	DX28	径43cm、深37.6cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	625	DX29	32×37cmの地円形、深13.4cm。		131	-	土師器・弥生土器	-	-	古墳
SP	626	DX29	45×70cmの地円形、深9.4cm。		131	-	弥生土器	-	-	弥生
SP	627	DX29	57×67cmの不整形、深40.7cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	628	DX29	77×80cmの不整形、深21.3cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	629	DX29	径38cm、深30.2cm。		131	-	弥生土器	135	47-8	弥生
SP	630	DX28-DX29	30×43cmの地円形、深23.1cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	631	DX28-DX29	38×44cmの地円形、深9cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	632	DX29	径36cm、深16.9cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	633	DX29	径26cm、深26.6cm。		131	-	弥生土器?	-	-	弥生?
SP	634	DX28	33×50cmの地円形、深18.2cm、SP-635と切り合う。		131	-	土師器・真砂	137	48-8	古墳
SP	635	DX28	径35cm、深51.1cm、SP-634と切り合う。		131	-	なし	-	-	?
SP	636	DX28	径44cm、深14.4cm、SP-637と切り合う。		131	-	なし	-	-	?
SP	637	DX28	60×84cmの隅丸方形、深31.3cm、SP-636と切り合う。		131	-	土師器・弥生土器・真砂	137	-	古墳
SP	638	DX28	37×60cm、深49.1cm。		131	-	弥生土器	-	-	弥生
SP	639	DX28	径22cm、深6.5cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	640	DX28	径43cm、深6.5cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	641	DX28	径25cm、深6.6cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	642	DX28	径28cm、深14.5cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	643	DX28	2.3×2.5cmの隅丸方形、深16.3cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	644	DX28	30×36cmの地円形、深23.9cm。		131	-	なし	-	-	?
SP	645	DX28	径26cm、深27.3cm。		131	-	須恵器・土師器・弥生土器	137	-	古墳
SP	646	DX28	径43cm、深13.8cm。		131	-	なし	-	-	?

種別	番号	地区	遺構 規模・平面形状・付属遺構・切関係等	遺物		時期
				内容	図	
SP	647	DX28	径32cm、深17.2cm。	なし	—	?
SP	648	DX28	37×56cmの不整形、深24.7cm。	なし	—	?
SP	649	DX28	35×43cmの不整形、深21.1cm。SP-650と切り合う。	土師器?・弥生土器	—	古墳?
SP	650	DX28	径38cmの楕円形、深18.7cm。SP-649・652・653と切り合う。	なし	—	?
SP	651	DX28	46×63cmの不整形、深41.6cm。層土は暗褐色砂質土に褐色色砂が混じる。	弥生土器	135	47-9 弥生
SP	652	DX28	径48cm、深40.5cm。SP-650・653と切り合う。	土師器?・弥生土器	—	古墳?
SP	653	DX28	径37cm、深17.1cm。SP-660と切り合う。	なし	—	?
SP	654	DX28	50×53cmの不整形、深23.3cm。	土師器・弥生土器	137	48-9 古墳
SP	655	DX28-DY28	25×30cmの楕円形、深24.5cm。	弥生土器	—	弥生
SP	656	DY28	径6.7cm、深16.8cm。	なし	—	?
SP	657	DX28	75×58cmの楕円方形、深33cm。層土は濃い黄褐色砂質土、きめ粗く、にぶい黄褐色砂質土の多いブロックを数個に含む。	弥生土器	—	弥生
SP	658	DX28	22×28cmの楕円形、深17.6cm。	なし	—	?
SP	659	DX28	径46cm、深11.5cm。	弥生土器	—	弥生
SP	660	DX28-DY28	径23cm、深10.1cm。SP-661と切り合う。	なし	—	?
SP	661	DY28	径32cm、深29.2cm。SP-660と切り合う。	なし	—	?
SP	662	DY28	50×64cmの不整形、深30.7cm。	弥生土器	135	弥生
SP	663	DY28	径43cm、深4.1cm。	なし	—	?
SP	664	DY28	径31cm、深16.2cm。	なし	—	?
SP	665	DX28	径38cm、深22.1cm。	なし	—	?
SP	666	DX28	径48cm、深19cm。SP-667と切り合う。	なし	—	?
SP	667	DX28	径38cm、深19.2cm。SP-666と切り合う。	なし	—	?
SP	668	DY29	42×46cmの楕円形、深11.3cm。SP-669と切り合う。	弥生土器	135	弥生
SP	669	DY29	径50cm、深6.3cm。SP-668・670と切り合う。	なし	—	?
SP	670	DY29	径46cm、深25.4cm。SP-669と切り合う。	なし	—	?
SP	671	DY29	径53cm、深22cm。SP-670・672と切り合う。	なし	—	?
SP	672	DY29	35×40cmの不整形、深22.9cm。SP-671と切り合う。	土師器	137	48-10 古墳
SP	673	DY29	径30cm、深26.5cm。	なし	—	?
SP	674	DX28-DY29	38×45cmの楕円形、深17.1cm。SP-681に切られる。	なし	—	?
SP	675	DY29	径45cm、深26.7cm。	弥生土器	135	弥生
SP	676	DY29	50×55cmの方形、深18.4cm。	土師器	—	古墳
SP	677	DX29	径25cm、深34.9cm。	なし	—	?
SP	678	DY29	55×59cmの不整形、深25.5cm。SP-679に切られる。	なし	—	?
SP	679	DY29	30×32cm、SP-678を切る。	銅器部・土師器	—	古墳
SP	680	DX29-DY29	66×77cm、深35.3cm。SP-682と切り合う。	弥生土器	—	弥生
SP	681	DY29	40×48cmの楕円方形、深19.9cm。SP-682と切り合う。	なし	—	?
SP	682	DY29	径43cm、深15.8cm。SP-680・681と切り合う。	銅器部・土師器	137	古墳
SP	683	DY28-DY29	径35cm、深20.6cm。	弥生土器	135	弥生
SP	684	DX29	27×35cm、深11.2cm。	なし	—	?
SP	685	DW27	22.5×18.6cm、深6cm。SC-72に切られる。	なし	—	?
SP	686	DY27	径140cm、深6.7cm。	なし	—	?
SP	701	DW31	径48cm、深37.3cm。	なし	—	?
SP	702	DY31-DW31	径46cm、深14.2cm。	なし	—	?
SP	703	DY31	径27cm、深22.2cm。SP-534・535・537と切り合う。	なし	—	?
SP	704	DW30	径48cm、深11.9cm。	なし	—	?
SP	705	DX27	欠番 (16A表SP-74を構成)。	—	—	?
SP	706	DX30	径36cm、深25.7cm。	土師器?	—	古墳?
SP	707	DX28	24×27cmの不整形、深25cm。	なし	—	?
SP	708	DY29	29×77cm、深7.7cm。SP-388に切られる。	なし	—	?
SP	709	DX30	径14cm、深9.6cm。	なし	—	?
SP	710	DX30	径11cm、深8.4cm。	なし	—	?
SP	711	DX30	径23cm、深8.1cm。SP-712と切り合う。	なし	—	?
SP	712	DX30-DX30	径35cm、深7.3cm。SP-711と切り合う。	弥生土器	135	弥生
SP	713	DX30	21×24cmの楕円方形、深6.6cm。	なし	—	?
SP	714	DX30	径6.5cm、深9.5cm。SP-227・236に切られる。SP-715と切り合う。	銅器部・弥生土器	137	49-1 古墳
SP	715	DX30	径28cm、深48.3cm。	銅器部・弥生土器	137	49-1 古墳
SP	716	DW29	70×78cmの楕円方形、深7cm。層土は暗褐色砂質土と砂層が互層状。	銅器部・土師器・弥生土器	137・138	49-2-4 古墳
SP	717	DW29	94×47cmの楕円、深28.3cm。旧SC20P4。	なし	135	—
SP	718	DX27	38.5×22.4cm、深34.1cm。	なし	—	?
SP	719	DX28	28×32cmの楕円形、深7cm。SK-54を切る。	なし	—	?
SP	720	DX31	径30cm、深7cm。	なし	—	?
SP	721	DX29	径33cm、深10.9cm。SP-628と切り合う。	なし	—	?
SP	722	DY27	74×30cm、深30.4cm。	なし	—	?
SP	723	DW28	50×25cm、深16cm。層土は黄褐色砂質土。旧SC20P2。	銅器部・弥生土器	137	49-5 古墳

表3 文京遺跡16次調査B区出土遺物観察表

産物番号		取上状況		産物の内容			文様・調整・色調・粘土等の特徴		図号番号
図	産物	取上	製法・造機	種類	器種	部位			
図10-11 S-C-2出土産物									
9	R30049	R3048	SC2 (2区西-3区東側)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部4条の溝文様。口縁部外面横ナナ。甕部外面ナナ。甕部内面横ハケ目。外面に赤い褐色。内面に赤い黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	3	
9	R30052	R234	SC2	粘土土器	甕	口縁部	口縁部1条の溝文様の内面ナナ。外面ナナ。内面横ミダナ。内外面褐色。石黄・長石・雲母含む。	3	
9	R30057	R3049	SC2 (2区西側土)	粘土土器	甕	口縁部	内外面横ナナ。内外面ハケ目後横ナナ。内外面褐色。口縁部面赤筋。石黄・長石・雲母や多く含む。	3	
9	R30054	R250	SC2	粘土土器	甕	口縁部	口縁部外面横ナナ。甕部外面横ハケ目。内面オセ・ナナ。内外面に赤い黄褐色。外面に横面筋部赤褐色の赤筋。石黄・長石・雲母含む。	3	
7	R30054	R3057	SC2 (1-4区西側)	粘土土器	甕	口縁部	集合口縁・1条の溝文様の外面にクサケ横文様。内外面ナナ。内外面褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	3	
7	R30054	R3057	SC2 (造成土中)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部外面横ハケ目長内外面横ナナ。甕部外面ナナ。甕部内面オセ・ナナ。内面横面筋部赤ハケ目。内外面に赤い黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	3	
8	R30044	R3040 R3044 R3049 R3073 R3076 R3077 R3072 R3064 R3031	SC1 (1-4区西側) SC1 (1区南造成土) SC1 (1区南造成土) SC1 (4区東側) SC2 (3区東土) SC2 (3区東土) SC2 (3区東土) SK39 DW27 (DW27周辺)	粘土土器	甕	胴部	胴土半部内面横ミダナ。底部外面横ナナ。胴部内面横ハケ目。胴土半部・底部内面オセ・ナナ。内外面褐色。石黄・長石含む。	3	
9	R30042	R271	SC2	粘土土器	甕	底部	外面面筋部・内面面筋部・気眼。石黄・長石多く含む。	3	
10	R30052	R3053	SC2 (1区東造成土)	粘土土器	甕	口縁部	外面面筋部下横文ナ。クサケ横文様。口縁部内外面横ナナ。甕部内面ナナ。外面褐色。内面に赤い褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒や多く含む。外来土(磁器系)土器。	3	
11	R30059	R3058	SC2	粘土土器	甕	口縁部	口縁部内外面横ナナ。甕部外面横ナナ。甕部内面横ナナ。外面横赤褐色。内面に赤い赤褐色。石黄・長石含む。とくに雲母多く含む。甕土器。	3	
12	R30051	R3063 R3060 R3061	SC2P8 SC2P8 SC2 (2区東土)	粘土土器	甕	上半部	口縁部内面横ハケ目長内外面横ナナ。甕部外面横ハケ目。胴部内面横ナナ。外面横ハケ目。石黄・長石・雲母や多く含む。	3	
13	R30043	R276	SC2	粘土土器	甕	胴土半部	胴部外面横ナナ。甕部外面横ハケ目。甕部内面オセ・ナナ。胴部内面横ナナ。内外面に赤い褐色。外面面筋部。石黄・長石多く含む。	3	
14	R30033	R247	SC2	粘土土器	甕	底部	外面面筋ナナ。内面面筋部。内外面に赤い褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	3	
15	R30045	R3043	SC2 (4区西造成土)	粘土土器	甕	底部	胴部外面横ナナ。底部外面横ナナ。内面横ナナ。内外面に赤い褐色。石黄・長石・雲母含む。	3	
16	R30066	R3078	SC2P2	粘土土器	甕	下半部	胴部外面横ハケ目。底部外面ナナ。胴部内面横ナナ。外面に赤い褐色。中位以下横文様。内面褐色。一部オセ・ナナ。石黄・長石・雲母や多く含む。	3	
17	R30057	R256	SC2	粘土土器	甕	底部	外面面筋部ナナ。内面横ハケ目。外面横褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	3	
18	R30052	R245 R258	SC2	粘土土器	甕	底部	外面面筋ハケ目。底部ナナ。外面横褐色。石黄・長石・雲母含む。	3	
19	R30058	R3043 R3064 R3073 R3063 R204 R239 R3017	SC2 (4区西造成土) SC2P9 SC2 (4区東側) SC2 (1区西造成土) 4区西側 DW26 (DW26-1) DW26 (DW26-4) DW28 (DW28-2)	粘土土器	鉢	上半部	口縁部内外面横ナナ。内外面面筋部直下オセ・ナナ。内面面筋部横ハケ目。外面赤褐色。内面に赤い褐色。石黄・長石・雲母や多く含む。	4	
20	R30047	R237	SC2 (4区北造成土)	粘土土器	鉢	底部	内外面ナナ。内外面に赤い黄褐色。石黄・長石・雲母や多く含む。	4	
21	R30025	R228	SC2	粘土土器	鉢	底部	外面オセ・ナナ。内面オセ・ナナ。内外面赤褐色。石黄・長石・雲母や多く含む。	4	
22	R30029	R236	SC2	粘土土器	高坏	底部	外面オセ・ナナ。外面横ナナ。内外面ナナ。内外面褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	4	
23	R30048	R3047	SC2 (4区北造成土)	粘土土器	高坏	胴部	内外面ナナ。胴部内面横ナナ。胴部内面横ハケ目。外面褐色。内面に赤い褐色。石黄・長石・雲母含む。	4	
24	R30060	R3049	SC2 (1区北造成土)	粘土土器	高坏?	胴部?	注のaの円孔あり。内外面褐色。石黄・長石含む。	4	
25	R30058	R3099	SC2 (2区西側土)	粘土土器	高坏	胴部	6条以上の縦文様・円孔。外面横ハケ目。内面オセ・ナナ。外面褐色。内面に赤い褐色。石黄・長石・雲母含む。	4	
26	R30055	R3070	SC2 (2区東土)	粘土土器	高坏	胴部	胴部矢羽文様。4条の外側文様。胴部に1条の外側文様。外面横ナナ。内面面筋部横ミダナ。内面赤褐色。石黄・長石・雲母含む。	4	
27	R30040	R249	SC2	粘土土器	高坏?	胴部	胴部外面横ナナ。胴部外面横ハケ目。胴部内面オセ・ナナ。甕部内面横ハケ目。内外面褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	4	
28	R30030	R229	SC2	粘土土器	高坏?	胴部	内外面横ナナ。内外面褐色。石黄・長石・雲母の多い含む。	4	
29	R30059	R3072	SC2 (1区東側土)	縄文土器	深鉢	口縁部	浅沢口縁。口縁部部に横目。口縁部がた位置に横目斜付突起。内外面ナナ。内外面に赤い黄褐色。石黄・長石・雲母や多く含む。	4	
30	R30053	R3055	SC2 (3区西造成土)	発見土塊			横断面形状は多角形。一部に木材等の炭化の付着面あり。灰青褐色。1mm以下の石黄・長石を含む。 破片存在。破片・骨質を中心に縦・横方向の溝状一部残存。身は横方向の面が全磨削。断面も残存。結晶片散在。重量34.6g。	4	
31	R30041	R275	SC2	石器	磨製石槌丁				
32	R30028	R235	SC2	石器	柱状片岩片	胴部	方形片岩断面部にて。断面長方形の一部残存。結晶片岩製。重量27.2g。	4	
33	R30046	R3046	SC2 (4区南造成土)	石器	砥石	横断面	横断面を半表裏2面。砥石目跡あり。粒状岩質。重量101.6g。	4	
34	R30006	R255	SC2	石器	磨石	横断面	扁平な隅角の一側断面に磨面を有する断面あり。花崗岩製。重量228.1g。	4	
35	R30025	R251	SC2	石器	磨石	横断面	1面と横面の一部に磨面。風化により面積減少。花崗岩製。重量277.5g。	4	
36	R30061	R3070	SC2 (1・4区南)	石器	打製石鏃	横断面	四角断面。両側面は鋭角の両側面を中央に及び身がない。オセ・ナナ製。重量80.3g。	4	
37	R30062	R3093	SC2 (3区東土)	石器	刮削	横断面	片岩製。重量60.6g。	4	

遺物番号			出土状況		遺物の内容			文様・調整・色調・貼上等の特徴		収納番号
図	実照	取上	部位・遺構	種類	器種	部位				
図14-15 SC-72出土遺物										
1	R3002	R3000	SC72K1西	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条門線文。内外面線ナシ。外面面線ナシ。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	7		
2	R3009	R3058	SC72K1	粘土土器	甕	胴部	断面三角和貼付発着。変形ナシ。外面面線ナシ。内面面線ナシ。石黄・長石・赤色粒を含む。雲母母に多く含む。東南部九州系・山ノ口式系の輸入土器。	7		
		R29	SC72							
		R41	SC72							
3	R3003	R3006	SC2 (4区(南流成土))	粘土土器	高杯	杯部	内外面面線。内外面面線発着。石黄・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	7		
		R3047	SC2 (4区(北流成土))							
		R3062	SC2 (1区(西陵土))							
4	R3006	R43	SC72	石器	砥石		1個面を4面に分けて使用。火成岩製。重量296.0g。	7		
5	R3005	R42	SC72	石器	磨石		表面と側面の一部使用。変形ナシ。重量681.2g。	7		
6	R3008	R3000	SC72K1西	石器	砥石		砥石目や多い。火成岩製。重量105.0g。	7		
7	R3004	R40	SC72	石器	砥石・磨石		表面面・1個面と側面の一部を砥石に使用。側面側面に縦打痕跡に残る。砂岩製。重量185.5g。	7		
8	R3070	R3071	SC72K1	石器	打石		縦打の火成岩製。上面に縦打痕。重量230.3g。	7		
図17-18 SC-73出土遺物										
1	R3056	R215	SC73	粘土土器	甕	胴部	胴部外面線ナシ。胴部内面線ナシ。内外面面線ナシ。石黄・長石・雲母多く含む。	8		
2	R3071	R297	SC73	粘土土器	甕	底部	外面線ナシ。内面線ナシ。外面面線ナシ。内面面線ナシ。石黄・長石・雲母を含む。	8		
3	R3073	R212	SC73	粘土土器	甕	上半部	口縁部1条門線文。口縁部内外面線ナシ。胴部外面線ナシ。内面線ナシ。外面線ハナ後ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母を含む。	8		
		R214	SC73							
		R221	SC73							
		R264	SC73							
4	R3075	R3000	SC72K1西	粘土土器	甕	上半部	口縁部1条門線文。口縁部内外面線ナシ。胴部外面線ナシ。下半部ナシ。胴部内面ナシ。ナシ。ナシ。下半部。胴部外面線ナシ。外面面線ナシ。石黄・長石・雲母を含む。	9		
		R2701	SC2 (2区(東陵土))							
		R2709	SC2 (2区(東陵土))							
5	R3080	R225	SC73	粘土土器	甕	上半部	口縁部1条門線文。口縁部内外面線ナシ。胴部内面線ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母の割合や多く含む。	8		
6	R3077	R217	SC73	粘土土器	甕	胴部	外面面線ナシ。胴部外面線。胴部内面線ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母を含む。	8		
7	R3078	R218	SC73	粘土土器	鉢	口縁部	口縁部部目。口縁部下4条門線文と斜交クシ文刺突文。口縁部ナシ。内面ナシ。ナシ。ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母を含む。	8		
		R298	SC73							
		R299	SC73							
8	R3072	R210	SC73	粘土土器	高杯	杯部	口縁部1条門線文。内外面線ナシ。外面線ナシ。外面面線。石黄・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	8		
		R2049	SC2 (1区(北流成土))							
		R2053	SC2 (1区(北流成土))							
		R2722	SC2 (1区(東陵土))							
9	R3074	R213	SC73	粘土土器	高杯	口縁部	口縁部6条門線文。外面線ナシ。内面面線。外面面線ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	8		
		R3070	SC2 (2区(東陵土))							
10	R3082	R255	SC73	粘土土器	高杯	杯部	外面線ナシ。外面線ナシ。外面線ナシ。外面面線ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母の割合を含む。	8		
		R215	SC73							
11	R3083	R3068	SC73P1-P2	粘土土器	高杯	脚部	縦断面線ナシ。外面線ナシ。最下段線ハナ目。内面面線ナシ。外面面線ナシ。内面面線ナシ。石黄・長石・雲母多く含む。	8		
12	R3081	R226	SC73	石器	磨石		全面磨面で1面に顕著な磨面。1個面部に縦打痕。縦打砂岩製。重量425.6g。	8		
13	R3079	R222	SC73	石器	磨石		サマカイト製。重量13.5g。	8		
図20 SC-13出土遺物										
		R166	SC13							
		R245	SC2							
		R243	SC2 (4区(西流成土))	粘土土器	甕	口縁部	口縁部4条門線文。胴部縦打押圧変形ナシ。外面面線ナシ。胴部縦打。内面面線ナシ。胴部ナシ。ナシ。ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母を含む。赤色粒多く含む。	10		
		R296	重層下 (DW宮島状部)							
1	R3007	R187	SC13	粘土土器	甕	口縁部	口縁部内外面線ナシ。胴部外面線ハナ目。胴部内面線ハナ目。内面面線ナシ。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	10		
		R2012	SHSP108							
2	R3006	R3034	SC13西土	粘土土器	甕	胴部	外面面線ハナ目。下部線ナシ。内面面線ナシ。内面面線ナシ。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	10		
3	R3010	R3036	SC13西土 (東)	粘土土器	甕	底部	内外面面線。外面面線ナシ。内面面線。石黄・長石・雲母を含む。	10		
		R160	SC13							
		R169	SC13							
5	R3084	R285	重層 (DX27-17)	粘土土器	甕	底部	外面面線方向の強いナシ。内面面線ナシ。外面面線ナシ。石黄・長石・雲母や多く含む。	10		
		R290	重層 (DX27-22)							
6	R3094	R3038	SC13西土 (南西)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部部目。口縁部内外面線ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	10		
7	R3009	R3036	SC13西土 (東)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条門線文。外面面線。内面面線。石黄・長石・雲母を含む。	10		
8	R3005	R3030	SC13西土 (南西)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部断面三角和貼付発着。変形ナシ。外面面線。外面面線。内面面線。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。東南部九州系・山ノ口式系の輸入土器。	10		
9	R3003	R3039	SC13西土 (北西)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部内外面線ナシ。外面面線。内面面線。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	10		
10	R3008	R3036	SC13西土 (東)	粘土土器	甕	口縁部	外面面線ハナ目。口縁部外面線ハナ目。内面面線。内外面面線。石黄・長石・雲母を含む。	10		
11	R3007	R3035	SC13西土	粘土土器	鉢	口縁部	口縁部4条門線文。外面面線。内面面線。石黄・長石・雲母を含む。	10		
12	R3009	R3039	SC13西土 (北西)	粘土土器	鉢	口縁部	内外面ナシ。内面面線。石黄・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	10		
13	R3006	R167	SC13	粘土土器	鉢	全形	小型。口縁部に1cm程度の2カ所の凹部に突起を有する。外面面線ナシ。下半は強い縦方向のナシ。内面口縁部ナシ。ナシ。ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母や多く含む。	10		
		R171	SC13							
14	R3008	R169	SC13	粘土土器	鉢	全形	外面面線ハナ目。内面面線ハナ目。口縁部内外面線ナシ。内面面線ナシ。下半は強い縦方向のナシ。内面口縁部ナシ。ナシ。ナシ。内外面面線。石黄・長石・雲母を含む。	10		
15	R3092	R3039	SC13西土 (北西)	粘土土器	鉢	上半部	胴部外面線ナシ。胴部外面面線。口縁部内面ナシ。内面面線。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。保存。内面面線。石黄・長石・雲母や多く含む。	10		
16	R3090	R3034	SC13P1	石器	砥石		1個と1個面が縦。縦打痕一部残る。縦打。砂岩製。重量541.3g。			
17	R3089	R209	SC13	石器	打石		平式。サマカイト製。重量16.6g。			

遺物番号		出土状況		遺物の内容			文様・調整・色調・粘土等の特徴		収納番号
図	実照	取上	層位・遺構	種類	器種	部位			
図22-23 SC-30出土遺物									
1	R30105	R3538	SC30	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。口縁部内外面無ナ。胴部内面縦ハケ目。外面浅黄褐色。内面褐色。石黄・長石・雲母含む。		11
2	R30104	R269	SC30	粘土土器	甕	胴部	胴上部2条以上の浅黄褐色に多少凹線状文。外面斜ハケ目。内面ササニ。外面褐色。内面に白い褐色。石黄・長石・雲母含む。		11
3	R30111	R3546	SC30	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無ナ。内外面に白い褐色。石黄・長石・雲母含む。		11
4	R30106	R3538	SC30	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。口縁部内外面無ナ。胴部内面ササニ。内外面に白い褐色。石黄・長石含む。雲母や多く含む。輸入品。		11
5	R30102	R282	SC20	粘土土器	鉢	上半部	胴上部に三角刺突文。口縁部内外面無ナ。胴部外面斜ハケ目。胴部内面横ナズリ模ナ。外面に白い褐色。内面に白い褐色。石黄・長石・雲母含む。		11
		R283	SC30						
		R285	SC30						
		R287	SC30						
		R3524	SC28呼南						
	R3525	SC28呼南 (砂り重)							
	R3664	SK59							
6	R30108	R3539	SC30	粘土土器	鉢	口縁部	内外面無ナ。内外面灰黄褐色。石黄・長石・雲母含む。		11
7	R30109	R3542	SC30	粘土土器	鉢	底部	外面ササニ模ナ。外底面ナ。内面ナ。外面に白い褐色。内面褐色。石黄・長石・雲母含む。		11
8	R30107	R3538	SC30	粘土土器	高杯	口縁部	外面斜ハケ目。内面に白い褐色。石黄・長石・雲母含む。		11
9	R30110	R3546	SC30	粘土土器	高杯	胴部	外面3条の凹線文。胴面1条の凹線文。内外面無ナ。内外面に白い褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。		11
10	R30101	R278	SC30	石器	砥石		扁平な砂岩片若の両面および1側面を使用。片面には、雲母細片が砥面に圧着。現重量2030g。		11
11	R30103	R288	SC30	石器	杵石		表裏両面に全磨面を、磨研後に磨面として使用。砂岩質。現重量2290g。		11
図25-27 SC-3出土遺物									
1	R30123	R26	SC3	粘土土器	甕	上半部	胴部押付付文。外面黄褐色。内面口縁部無ナ。底部無ナ。外面に白い黄褐色。内面灰黄色。石黄・長石・角閃石・赤色粒含む。		12
2	R30145	R3090	SC3 (3区東上)	粘土土器	甕	上半部	胴部押付付文。外面縦ハケ目後ナ。内面横ナ。内外面に白い褐色。石黄・長石・赤色粒ごく少量含む。		12
3	R30116	R16	SC3	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。外面一部褐色。内面褐色。石黄・長石含む。		12
4	R30124	R28	SC3	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。外面2条の凹線文。内外面無ナ。内外面に白い褐色。石黄・長石含む。		12
		R30120	R28	SC3K1	粘土土器	甕	胴部	右肩押付付文。外面無ナ。内面黄褐色。外面口縁部無ナ。石黄・長石含む。	
5	R30131	R211	SC3	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無ナ。内面横ナ。外面に白い褐色。内面に白い褐色。石黄・長石・雲母ごく少量含む。		12
6	R30142	R3088	SC3 (1区東上)	粘土土器	甕	上半部	口縁部2条の凹線文。外面縦ハケ目後ナ。内面丁字ナ。内面黒色。外面黄褐色。石黄・長石・雲母ごく少量含む。		12
7	R30132	R3066	SC3P15	粘土土器	甕	胴部	胴部右肩押付付文。外面横ナ。内面ナ。外面灰黄褐色。内面に白い褐色。石黄・長石・角閃石含む。		12
8	R30137	R3086	SC3 (3区東上)	粘土土器	甕	底部	外面縦ハケ目。内面に白い黄褐色。底面黄褐色。内面灰黄褐色。1～3mm大の石黄・長石多く含む。底面横紋。		12
9	R30134	R3083	SC3 (3区東上)	粘土土器	甕	底部	外面ナ。内面ササニ。ナ。内外面に白い黄褐色。石黄・長石・雲母含む。		12
10	R30144	R3089	SC3 (1区東上)	粘土土器	鉢	口縁部	内外面縦ハケ目後ナ。外面黄褐色。内面に白い褐色。石黄・長石ごく少量含む。		12
11	R30139	R3087	SC3 (1区東上)	粘土土器	付付鉢?	底部	内外面ナ。外面に白い褐色。内面黒褐色。石黄・長石ごく少量含む。		12
12	R30129	R36	SC3	粘土土器	高杯	口縁部	口縁部外面5条の凹線文。内外面無ナ。内面ミギ。外面に白い褐色。内面に白い黄褐色。長石・石黄・赤色粒含む。		12
13	R30133	R10	SC3	粘土土器	高杯	胴部	胴部外面ミギ。胴面ミギ1条の凹線文。胴部灰付付文。内面横ナ後ササニ。外面に白い黄褐色。内面に白い褐色。長石・石黄・赤色粒含む。		12
14	R30135	R3071	SC3K1	粘土土器	高杯	脚部?	径約1.5cmの焼成面凹孔。外面灰黄色。内面灰色。長石・石黄含む。		12
15	R30118	R29	SC3	粘土土器	甕	上半部	口縁部無ナ。胴部右肩押付付文。外面縦ハケ目。ササニ。内面上部縦ハケ目・横ナ。下部ササニ・ナ。縦ミギ。外面灰黄褐色。内面に白い褐色。口縁部灰黄褐色。石黄・長石・雲母・角閃石含む。		13
16	R30146	R3090	SC3 (3区東上)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部内外面無ナ。内外面に白い褐色。石黄・長石・赤色粒わずかに含む。		13
17	R30125	R29	SC3	粘土土器	甕	口縁部	口縁部内外面無ナ。外面斜ハケ目・ナ。内面斜ミギ。外面に白い褐色。内面黒褐色。石黄・長石含む。		13
18	R30126	R30	SC3	粘土土器	甕	上半部	口縁部2条の凹線文。外面斜ハケ目・ナ。内面無ナ。外面灰黄褐色。内面暗黄褐色。長石・石黄・雲母含む。		13
19	R30120	R22	SC3	粘土土器	甕	上半部	外面一部ミギ模はか。内面口縁部ササニ。底部斜ミギ。外面黒褐色。内面に白い褐色。内面に白い褐色。石黄・長石含む。		13
20	R30122	R24	SC3	粘土土器	甕	上半部	内外面無ナ。外面ミギ。胴部灰付付文。外面暗褐色。内面に白い褐色。一部暗褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。		13
21	R30119	R21	SC3	粘土土器	甕	上半部	口縁部内外面無ナ。外面縦ハケ目。内面下部黄褐色。外面黒褐色。内面に白い黄褐色。角閃石含む。		13
		R3085	SC3 (2区東上)						
		R3088	SC3 (1区東上)						
		R3091	SC3 (4区東上)						
		R3091	SC3 (3区東上)						
22	R30114	R11	SC3	粘土土器	甕	上半部	胴部付付文。外面黄褐色。内面口縁部縦ハケ目後ナ。胴部ナ。内外面に白い黄褐色。口縁部外面付付文。雲母含む。		13
23	R30135	R3084	SC3 (2区東上)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無ナ。外面に白い褐色。内面に白い褐色。石黄・長石含む。		13
24	R30112	R8	SC3	粘土土器	甕	全形	口縁部2条の凹線文。外面胴部上半縦ハケ目後ナ。下半ミギ。外面褐色。胴上部に一部横付着。下部横付着。内面に白い褐色。石黄・長石多く。赤色粒・角閃石ごく少量含む。		14
		R12	SC3						
		R20	SC3						
		R23	SC3						
		R3090	SC3 (3区東上)						
		R3091	SC3 (4区東上)						
		R3046	SC2 (4区南造成上)						
		R3088	SC3 (1区東上)						
R3525	SC28 (呼南砂り重)								
R3672	SC2 (2区東上)								
R3687	SC2 (1区東上西呼)								

遺物番号		出土状況		遺物の内容			文様・調整・色調・粘土等の特徴		収納番号
図	実照	取上	層位・遺構	種類	器種	部位			
			R2203 R2214 R2280						
25	R30138	R3087	SC3 (11C埋土)	灰生土器	甕	底部	内外面黒ナズ。外面にぶい黄褐色。内面灰褐色。右翼・長石ごく少量含む。	13	
26	R30143	R3088	SC3 (11C埋土)	灰生土器	甕	底部	外面黒ナズ。外面にぶい黄褐色。内面灰褐色。右翼・長石と多く含む。	13	
27	R30149	R3087	SC3 (11C埋土)	灰生土器	甕	口縁部	口縁部直下に黒い粉状物。外面にぶい黄褐色。内面褐色。右翼・長石・角閃石ごく少量。赤色粒や多く含む。表面に丸形・山ノ口式等の磨入土跡。	13	
28	R30117	R19	SC3	石器	磨石	磨面一部残存。磨面片が剥離。重量555g。		15	
29	R30128	R32	SC3	石器	磨石	磨面中央部を中心に磨面が残り磨面としても使用。花崗岩製。重量1625g。		15	
30	R30115	R16	SC3	石器	磨石	磨面不整な三角形状。うち2面を磨面として使用。花崗岩製。重量3023g。酸化進行。		15	
31	R30127	R31	SC3	石器	磨石	磨面中央部を中心に磨面が残り磨面としても使用。花崗岩製。重量1090g。		15	
32	R30121	R23	SC3	石器	磨石	磨面三角形状。表面両面に磨面が残り磨面としても使用。1面は磨面として使用。砂岩製。重量417g。		15	
33	R30341	R3087	SC3 (11C埋土)	石器	磨石	サメカイト製。重量20g。		15	
34	R30136	R3085	SC3 (25C埋土)	石器	磨石	サメカイト製。重量21g。		15	
図30-35 SC-4出土遺物									
1	R30485	R3089	SC4造成土	灰生土器	甕	全形	口縁部内面に段。外面口縁部と天舟部の境に突筋。内外面黒ナズ。天舟部外面黒ナズ。口縁部反時計回り。内外面灰白色。右翼・長石含む。	17	
2	R30462	R3098	SC4埋土	灰生土器	甕	口縁部	口縁部内面に段。外面口縁部と天舟部の境に段。内外面黒ナズ。天舟部外面黒ナズ。口縁部反時計回り。内外面灰白色。粘土精良。	17	
3	R30198	R3091	SC4 (R3091-450914-SD063埋土の一部含む)	灰生土器	甕	口縁部	口縁部内面に段。外面口縁部と天舟部の境に段。内外面黒ナズ。天舟部外面黒ナズ。口縁部反時計回り。内外面灰白色。粘土精良。	17	
4	R30159	R3096	SC4埋土	灰生土器	甕	口縁部	口縁部内面に段。外面口縁部と天舟部の境に段。内外面黒ナズ。天舟部外面黒ナズ。口縁部反時計回り。内外面灰白色。粘土精良。	17	
5	R30192	R3098	SC4造成土	灰生土器	甕	口縁部	口縁部内面に段。外面口縁部と天舟部の境に段。内外面黒ナズ。天舟部外面黒ナズ。口縁部反時計回り。内外面灰白色。粘土精良。	17	
6	R30193	R3090 R3094	SC4埋土	灰生土器	甕	口縁部	口縁部内面に段。外面口縁部と天舟部の境に段。内外面黒ナズ。天舟部外面黒ナズ。口縁部反時計回り。内外面灰白色。粘土精良。	17	
7	R30488	R3094	SC4埋土	灰生土器	甕	天舟部	外面黒ナズ。内外面黒ナズ。青黄褐色。口縁部反時計回り。内外面灰褐色。右翼・長石含む。	17	
8	R30472	R3127 R3149 R3152 R3172 R3174 R3176 R3178 R3180 R3182 R3184 R3186 R3188 R3190 R3192 R3194 R3196 R3198 R3199 R3200 R3202 R3204 R3206 R3208 R3210 R3212 R3214 R3216 R3218 R3220 R3222 R3224 R3226 R3228 R3230 R3232 R3234 R3236 R3238 R3240 R3242 R3244 R3246 R3248 R3250 R3252 R3254 R3256 R3258 R3260 R3262 R3264 R3266 R3268 R3270 R3272 R3274 R3276 R3278 R3280 R3282 R3284 R3286 R3288 R3290 R3292 R3294 R3296 R3298 R3300 R3302 R3304 R3306 R3308 R3310 R3312 R3314 R3316 R3318 R3320 R3322 R3324 R3326 R3328 R3330 R3332 R3334 R3336 R3338 R3340 R3342 R3344 R3346 R3348 R3350 R3352 R3354 R3356 R3358 R3360 R3362 R3364 R3366 R3368 R3370 R3372 R3374 R3376 R3378 R3380 R3382 R3384 R3386 R3388 R3390 R3392 R3394 R3396 R3398 R3400 R3402 R3404 R3406 R3408 R3410 R3412 R3414 R3416 R3418 R3420 R3422 R3424 R3426 R3428 R3430 R3432 R3434 R3436 R3438 R3440 R3442 R3444 R3446 R3448 R3450 R3452 R3454 R3456 R3458 R3460 R3462 R3464 R3466 R3468 R3470 R3472 R3474 R3476 R3478 R3480 R3482 R3484 R3486 R3488 R3490 R3492 R3494 R3496 R3498 R3500 R3502 R3504 R3506 R3508 R3510 R3512 R3514 R3516 R3518 R3520 R3522 R3524 R3526 R3528 R3530 R3532 R3534 R3536 R3538 R3540 R3542 R3544 R3546 R3548 R3550 R3552 R3554 R3556 R3558 R3560 R3562 R3564 R3566 R3568 R3570 R3572 R3574 R3576 R3578 R3580 R3582 R3584 R3586 R3588 R3590 R3592 R3594 R3596 R3598 R3600 R3602 R3604 R3606 R3608 R3610 R3612 R3614 R3616 R3618 R3620 R3622 R3624 R3626 R3628 R3630 R3632 R3634 R3636 R3638 R3640 R3642 R3644 R3646 R3648 R3650 R3652 R3654 R3656 R3658 R3660 R3662 R3664 R3666 R3668 R3670 R3672 R3674 R3676 R3678 R3680 R3682 R3684 R3686 R3688 R3690 R3692 R3694 R3696 R3698 R3700 R3702 R3704 R3706 R3708 R3710 R3712 R3714 R3716 R3718 R3720 R3722 R3724 R3726 R3728 R3730 R3732 R3734 R3736 R3738 R3740 R3742 R3744 R3746 R3748 R3750 R3752 R3754 R3756 R3758 R3760 R3762 R3764 R3766 R3768 R3770 R3772 R3774 R3776 R3778 R3780 R3782 R3784 R3786 R3788 R3790 R3792 R3794 R3796 R3798 R3800 R3802 R3804 R3806 R3808 R3810 R3812 R3814 R3816 R3818 R3820 R3822 R3824 R3826 R3828 R3830 R3832 R3834 R3836 R3838 R3840 R3842 R3844 R3846 R3848 R3850 R3852 R3854 R3856 R3858 R3860 R3862 R3864 R3866 R3868 R3870 R3872 R3874 R3876 R3878 R3880 R3882 R3884 R3886 R3888 R3890 R3892 R3894 R3896 R3898 R3900 R3902 R3904 R3906 R3908 R3910 R3912 R3914 R3916 R3918 R3920 R3922 R3924 R3926 R3928 R3930 R3932 R3934 R3936 R3938 R3940 R3942 R3944 R3946 R3948 R3950 R3952 R3954 R3956 R3958 R3960 R3962 R3964 R3966 R3968 R3970 R3972 R3974 R3976 R3978 R3980 R3982 R3984 R3986 R3988 R3990 R3992 R3994 R3996 R3998 R4000 R4002 R4004 R4006 R4008 R4010 R4012 R4014 R4016 R4018 R4020 R4022 R4024 R4026 R4028 R4030 R4032 R4034 R4036 R4038 R4040 R4042 R4044 R4046 R4048 R4050 R4052 R4054 R4056 R4058 R4060 R4062 R4064 R4066 R4068 R4070 R4072 R4074 R4076 R4078 R4080 R4082 R4084 R4086 R4088 R4090 R4092 R4094 R4096 R4098 R4100 R4102 R4104 R4106 R4108 R4110 R4112 R4114 R4116 R4118 R4120 R4122 R4124 R4126 R4128 R4130 R4132 R4134 R4136 R4138 R4140 R4142 R4144 R4146 R4148 R4150 R4152 R4154 R4156 R4158 R4160 R4162 R4164 R4166 R4168 R4170 R4172 R4174 R4176 R4178 R4180 R4182 R4184 R4186 R4188 R4190 R4192 R4194 R4196 R4198 R4200 R4202 R4204 R4206 R4208 R4210 R4212 R4214 R4216 R4218 R4220 R4222 R4224 R4226 R4228 R4230 R4232 R4234 R4236 R4238 R4240 R4242 R4244 R4246 R4248 R4250 R4252 R4254 R4256 R4258 R4260 R4262 R4264 R4266 R4268 R4270 R4272 R4274 R4276 R4278 R4280 R4282 R4284 R4286 R4288 R4290 R4292 R4294 R4296 R4298 R4300 R4302 R4304 R4306 R4308 R4310 R4312 R4314 R4316 R4318 R4320 R4322 R4324 R4326 R4328 R4330 R4332 R4334 R4336 R4338 R4340 R4342 R4344 R4346 R4348 R4350 R4352 R4354 R4356 R4358 R4360 R4362 R4364 R4366 R4368 R4370 R4372 R4374 R4376 R4378 R4380 R4382 R4384 R4386 R4388 R4390 R4392 R4394 R4396 R4398 R4400 R4402 R4404 R4406 R4408 R4410 R4412 R4414 R4416 R4418 R4420 R4422 R4424 R4426 R4428 R4430 R4432 R4434 R4436 R4438 R4440 R4442 R4444 R4446 R4448 R4450 R4452 R4454 R4456 R4458 R4460 R4462 R4464 R4466 R4468 R4470 R4472 R4474 R4476 R4478 R4480 R4482 R4484 R4486 R4488 R4490 R4492 R4494 R4496 R4498 R4500 R4502 R4504 R4506 R4508 R4510 R4512 R4514 R4516 R4518 R4520 R4522 R4524 R4526 R4528 R4530 R4532 R4534 R4536 R4538 R4540 R4542 R4544 R4546 R4548 R4550 R4552 R4554 R4556 R4558 R4560 R4562 R4564 R4566 R4568 R4570 R4572 R4574 R4576 R4578 R4580 R4582 R4584 R4586 R4588 R4590 R4592 R4594 R4596 R4598 R4600 R4602 R4604 R4606 R4608 R4610 R4612 R4614 R4616 R4618 R4620 R4622 R4624 R4626 R4628 R4630 R4632 R4634 R4636 R4638 R4640 R4642 R4644 R4646 R4648 R4650 R4652 R4654 R4656 R4658 R4660 R4662 R4664 R4666 R4668 R4670 R4672 R4674 R4676 R4678 R4680 R4682 R4684 R4686 R4688 R4690 R4692 R4694 R4696 R4698 R4700 R4702 R4704 R4706 R4708 R4710 R4712 R4714 R4716 R4718 R4720 R4722 R4724 R4726 R4728 R4730 R4732 R4734 R4736 R4738 R4740 R4742 R4744 R4746 R4748 R4750 R4752 R4754 R4756 R4758 R4760 R4762 R4764 R4766 R4768 R4770 R4772 R4774 R4776 R4778 R4780 R4782 R4784 R4786 R4788 R4790 R4792 R4794 R4796 R4798 R4800 R4802 R4804 R4806 R4808 R4810 R4812 R4814 R4816 R4818 R4820 R4822 R4824 R4826 R4828 R4830 R4832 R4834 R4836 R4838 R4840 R4842 R4844 R4846 R4848 R4850 R4852 R4854 R4856 R4858 R4860 R4862 R4864 R4866 R4868 R4870 R4872 R4874 R4876 R4878 R4880 R4882 R4884 R4886 R4888 R4890 R4892 R4894 R4896 R4898 R4900 R4902 R4904 R4906 R4908 R4910 R4912 R4914 R4916 R4918 R4920 R4922 R4924 R4926 R4928 R4930 R4932 R4934 R4936 R4938 R4940 R4942 R4944 R4946 R4948 R4950 R4952 R4954 R4956 R4958 R4960 R4962 R4964 R4966 R4968 R4970 R4972 R4974 R4976 R4978 R4980 R4982 R4984 R4986 R4988 R4990 R4992 R4994 R4996 R4998 R5000 R5002 R5004 R5006 R5008 R5010 R5012 R5014 R5016 R5018 R5020 R5022 R5024 R5026 R5028 R5030 R5032 R5034 R5036 R5038 R5040 R5042 R5044 R5046 R5048 R5050 R5052 R5054 R5056 R5058 R5060 R5062 R5064 R5066 R5068 R5070 R5072 R5074 R5076 R5078 R5080 R5082 R5084 R5086 R5088 R5090 R5092 R5094 R5096 R5098 R5100 R5102 R5104 R5106 R5108 R5110 R5112 R5114 R5116 R5118 R5120 R5122 R5124 R5126 R5128 R5130 R5132 R5134 R5136 R5138 R5140 R5142 R5144 R5146 R5148 R5150 R5152 R5154 R5156 R5158 R5160 R5162 R5164 R5166 R5168 R5170 R5172 R5174 R5176 R5178 R5180 R5182 R5184 R5186 R5188 R5190 R5192 R5194 R5196 R5198 R5200 R5202 R5204 R5206 R5208 R5210 R5212 R5214 R5216 R5218 R5220 R5222 R5224 R5226 R5228 R5230 R5232 R5234 R5236 R5238 R5240 R5242 R5244 R5246 R5248 R5250 R5252 R5254 R5256 R5258 R5260 R5262 R5264 R5266 R5268 R5270 R5272 R5274 R5276 R5278 R5280 R5282 R5284 R5286 R5288 R5290 R5292 R5294 R5296 R5298 R5300 R5302 R5304 R5306 R5308 R5310 R5312 R5314 R5316 R5318 R5320 R5322 R5324 R5326 R5328 R5330 R5332 R5334 R5336 R5338 R5340 R5342 R5344 R5346 R5348 R5350 R5352 R5354 R5356 R5358 R5360 R5362 R5364 R5366 R5368 R5370 R5372 R5374 R5376 R5378 R5380 R5382 R5384 R5386 R5388 R5390 R5392 R5394 R5396 R5398 R5400 R5402 R5404 R5406 R5408 R5410 R5412 R5414 R5416 R5418 R5420 R5422 R5424 R5426 R5428 R5430 R5432 R5434 R5436 R5438 R5440 R5442 R5444 R5446 R5448 R5450 R5452 R5454 R5456 R5458 R5460 R5462 R5464 R5466 R5468 R5470 R5472 R5474 R5476 R5478 R5480 R5482 R5484 R5486 R5488 R5490 R5492 R5494 R5496 R5498 R5500 R5502 R5504 R5506 R5508 R5510 R5512 R5514 R5516 R5518 R5520 R5522 R5524 R5526 R5528 R5530 R5532 R5534 R5536 R5538 R5540 R5542 R5544 R5546 R5548 R5550 R5552 R5554 R5556 R5558 R5560 R5562 R5564 R5566 R5568 R5570 R5572 R5574 R5576 R5578 R5580 R5582 R5584 R5586 R5588 R5590 R5592 R5594 R5596 R5598 R5600 R5602 R5604 R5606 R5608 R5610 R5612 R5614 R5616 R5618 R5620 R5622 R5624 R5626 R5628 R5630 R5632 R5634 R5636 R5638 R5640 R5642 R5644 R5646 R5648 R5650 R5652 R5654 R5656 R5658 R5660 R5662 R5664 R5666 R5668 R5670 R5672 R5674 R5676 R5678 R5680 R5682 R5684 R5686 R5688 R5690 R5692 R5694 R5696 R5698 R5700 R5702 R5704 R5706 R5708 R5710 R5712 R5714 R5716 R5718 R5720 R5722 R5724 R5726 R5728 R5730 R5732 R5734 R5736 R5738 R5740 R5742 R5744 R5746 R5748 R5750 R5752 R5754 R5756 R5758 R5760 R5762 R5764 R5766 R5768 R5770 R5772 R5774 R5776 R5778 R5780 R5782 R5784 R5786 R5788 R5790 R5792 R5794 R5796 R5798 R5800 R5802 R5804 R5806 R5808 R5810 R5812 R5814 R5816 R5818 R5820 R5822 R5824 R5826 R5828 R5830 R5832 R5834 R5836 R5838 R5840 R5842 R5844 R5846 R5848 R5850 R5852 R5854 R5856 R5858 R5860 R5862 R5864 R5866 R5868 R5870 R5872 R5874 R5876 R5878 R5880 R5882 R5884 R5886 R5888 R5890 R5892 R5894 R5896 R5898 R5900 R5902 R5904 R5906 R5908 R5910 R5912 R5914 R5916 R5918 R5920 R5922 R5924 R5926 R5928 R5930 R5932 R5934 R5936 R5938 R5940 R5942 R5944 R5946 R5948 R5950 R5952 R5954 R5956 R5958 R5960 R5962 R5964 R5966 R5968 R5970 R5972 R5974 R5976 R5978 R5980 R5982 R5984 R5986 R5988 R5990 R5992 R5994 R5996 R5998 R6000 R6002 R6004 R6006 R6008 R6010 R6012 R6014 R6016 R6018 R6020 R							

遺物番号	出土状況	遺物の内容	文様・調整・色調・貼土等の特徴	収納番号				
図	実面	取上	種別	部位				
28	R30197	R3031	SC4 (JNK149304+SD903 庫土中一部含む)	土師器	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面にぶい黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	18
29	R30170	R3118	SC5南北碑	土師器	甕	胴部	外面ハケ目。内面オサエ。内外面にぶい黄褐色。右裏・長石含む。	18
30	R30171	R3121	SC4通成土 (碑北)	土師器	甕	口縁部	外面黄褐色。内面ハケ目。外面にぶい黄褐色・浅黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母・赤土を含む。	18
31	R30175	R3130	SC4通成土 (碑南)	土師器	甕	口縁部	内外面ハケ目、口縁部黒面取り。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	18
32	R30180	R3016	SC4P25	土師器	甕	把手部	内外面黄褐色。内外面黄褐色。右裏・長石・雲母多く含む。	18
33	R30184	R3019	SC4通成土	土師器	甕	把手部	表面ナズ。にぶい黄褐色にぶい黄褐色。右裏・長石・雲母多く含む。	18
34	R30190	R3026	SC4通成土	土師器	高坏	坏部	内外面黄褐色。内外面にぶい黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	18
35	R30165	R3102	SC4P1	灰土土師	甕	口縁部	口縁部外面横ナズ。外面ナズ。内面黄褐色。外面黄褐色。内面にぶい黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	18
36	R30203	R3066	SC4	灰土土師	甕	口縁部	外面横ハケ目横ナズ。内面ナズ。外面黄褐色。内面灰白色。右裏・長石・雲母含む。	18
37	R30166	R3112	SC4横断	灰土土師	甕	胴部	縦式ハケ目による2条の文様。その上を系による割目。外面黄褐色。内面灰白色。右裏・長石・雲母含む。	18
38	R30178	R3011	SC4横土 (碑)	灰土土師	甕	胴部	縦断文様。外面横ナズ調整。内面黄褐色。外面黄褐色。内面にぶい黄褐色。右裏・長石・雲母含む。外面横ナズ。	18
39	R30169	R3118	SC4南北碑	灰土土師	甕	底部	胴部外面黄褐色。底部外面ナズ。内面ナズ。内外面灰白色。右裏・長石・雲母含む。	18
40	R30179	R3016	SC4P25	灰土土師	甕	口縁部	口縁部2条の横断。外面ナズ。内面横ナズ。内外面にぶい黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	18
41	R30164	R3100	SC4碑南	灰土土師	甕	口縁部	口縁部外面横ナズ調整。外面横ナズ。内面黄褐色。外面にぶい黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	18
42	R30189	R3026	SC4通成土	灰土土師	甕	底部	内外面にナズ調整。胴部外面オサエ。外面黄褐色。内面灰白色。右裏・長石・雲母含む。	18
43	R30194	R3030	SC4横土	灰土土師	甕	底部	内外面オサエ・ナズ。外面黄褐色。内面灰白色。右裏・長石・雲母多く含む。	18
44	R30191	R3028	SC4通成土	灰土土師	甕	底部	内外面ナズ。内面オサエ。内外面横ナズにぶい黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	18
45	R30148	R35	SC4横土	灰土土師	甕	胴部	外面横ナズ調整。胴部外面オサエ。外面黄褐色。内面灰白色。右裏・長石・雲母含む。	18
46	R30157	R306	SC4カマド	灰土土師	高坏	坏部	口縁部外面横ナズ。胴部内外面横ナズ。右裏・長石・雲母多く含む。	18
47	R30167	R3114	SC4通成土	土師器	分銅形	下半部	無文。表面オサエ。内面灰白色。右裏・長石・雲母の横断。右裏・長石・雲母の横断。	18
48	R30158	R307	SC4	石器	砥石		断面内和目。上面と下面半分を調整する断面。1面粗目。断面。大断面。重量314.2g。	19
49	R30161	R3097	SC4碑南	石器	砥石		表面2面の底面。一底粗断面。火成岩製。重量408.8g。	19
50	R30163	R3097	SC4通成土	石器	明石		扁平長方形。断面断面。片面中央部と両小片に細打痕跡。横い・砂岩製。重量403.7g。	19
51	R30166	R3099	SC4P12	石器	門石		平面不整四角形。凸面横断面中央に1cmの凹み。凹面横断は凹みを残した断面。砂岩製。重量280g。	19
52	R30154	R297	SC4	石器	磨石		扁平長方形。表面2面の断面。結晶片岩製。重量261.1g。	19
53	R30137	R3000	SC4P1	石器	磨石		扁平円形。全面断面。砂岩製。重量753.3g。	19
54	R30204	R3094	SC4-5庫土	石器	打製石		平式。表面と裏面調整断面大きく残し扁平。オサエナズ。重量22.2g。	19
55	R30150	R31	SC4横土	鉄器	鋸		現長163cm。現元長176cm。厚部最大幅17cm。断面断面長方形から台形。厚部5cm程度反り上がり。反り上がった側に溝。	94
56	R30149	R36	SC4横土	鉄器	鋸		重量122.9g。	94
57	R30162	R3048	SC4碑南	鉄器	鋸		重量63.9g。	94
図39-41 SC-14出土遺物								
1	R30211	R47	SC4	灰土土師	甕	全形	内外面横ナズ。灰土土師外面横ナズ。口縁口縁部。内外面横ナズ。黄褐色。右裏・長石含む。	24
2	R30169	R315	SC4	灰土土師	甕	胴部	内外面横ナズ。底部外面横ナズ。底部内面横ナズ。口縁口縁部。黄褐色。右裏・長石含む。	24
3	R30210	R46	SC4	灰土土師	甕	胴部	内外面横ナズ。底部外面横ナズ。底部内面横ナズ。口縁口縁部。黄褐色。右裏・長石含む。	24
4	R30229	R2100	SC11群4区(碑南)	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
5	R30233	R3121	SC11南上北碑	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
6	R30235	R3075	SC11P1	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
7	R30230	R2100	SC11群4区(碑南)	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
8	R30213	R49	SC4	灰土土師	甕	胴部	内外面横ナズ。外面灰白色。内面灰白色。右裏・長石・雲母含む。	24
9	R30212	R48	SC4	灰土土師	甕	底部	底部外面横ナズ。内面横ナズ。口縁口縁部。黄褐色。右裏・長石・雲母含む。	24
10	R30221	R3190	SC11群4区(碑南)	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
11	R30214	R50	SC4	灰土土師	甕	胴部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
12	R30227	R74	SC4P1	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
13	R30223	R85	SC4	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
14	R30219	R81	SC4	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
15	R30225	R89	SC4	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母多く含む。	24
16	R30218	R56	SC4	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
17	R30218	R59	SC4	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
18	R30218	R245	SC11群4区	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24
19	R30218	R282	SC11群4区	灰土土師	甕	口縁部	内外面横ナズ。内外面横ナズ。右裏・長石・雲母含む。	24

遺物番号		出土状況		遺物の内容			文様・調整・色調・粘土等の特徴	収納番号
図	実照	取上	層位・遺構	種類	器種	部位		
			SC13第10段壁中					
			SC13第11段					
			SC13第12段					
			SC13第13段					
17	R30216	R30216	SC14	土師器	甕	底部	外面ハケ目、内面ナデ、下部ケズリ。内外面褐色。石炭・長石含む。	24
18	R30215	R30215	SC14	土師器	甕	把手部	表面ササエ、表面褐色。断面黒褐色。石炭・長石・雲母含む。	24
19	R30232	R30232	SC14出土土師器(内側部分)	土師器	甕	口縁部	外面に灰土玉小口による新文様。口縁部内面ナデ。外面ハケ目、内面ササエ。内外面におい黄褐色。石炭・長石・雲母含む。	24
20	R30224	R30224	SC14	弥生土器	甕	底部	外面ナデ、内面褐色。外面オレンジ色・灰白色。内面黄褐色・灰白色。石炭・長石含む。	24
21	R30220	R30220	SC14	土師器	甕	口縁部	略定形。全面ナデ・ササエ。明赤褐色。石炭・長石含む。重量1029g。	24
22	R30221	R30221	SC14	土師器	甕	口縁部	半分欠損。全面ナデ。明赤褐色。石炭・長石含む。重量204g。	24
23	R30222	R30222	SC14	土師器	甕	口縁部	半分欠損。全面ナデ。明赤褐色。粘土精製。重量323g。	24
24	R30228	R30228	SC13第4段壁中	土師器	甕	口縁部	断面に被熱痕。軽い砂岩質。重量223g。	24
25	R30224	R30224	SC13第5段	土師器	甕	口縁部	45°前後の片部。灰岩質。重量503g。	24
26	R30227	R30227	SC14	土師器	甕	口縁部	重量542g。	24
図42 SC-15出土遺物								
1	R30236	R30236	SC15南壁(南)	灰土器	甕	口縁部	内外面回転ナデ。外面回転ハケ目ナデ。内外面黄褐色。断面黄褐色。石炭・長石含む。	27
2	R30235	R30235	SC15南壁(南)	灰土器	甕	口縁部	内外面回転ナデ。外面回転ハケ目ナデ。内外面黄褐色。断面黄褐色。粘土精製。	27
3	R30231	R30231	SC15南壁(南)	灰土器	甕	口縁部	内外面回転ナデ。内外面黄褐色。粘土精製。	27
4	R30239	R30239	SC15	灰土器	甕	口縁部	口縁部外側に部。上から帯状2条・へろ文様・雲母。内外面回転ナデ。外面ハケ目。外面黄褐色・黄褐色。内面黄褐色。断面黄褐色。石炭・長石含む。	27
5	R30233	R30233	SC15南壁(南)	土師器	甕	口縁部	口縁部内外面褐色。断面内外面褐色・黄褐色。内面ササエ。内外面褐色・黄褐色。断面黄褐色。石炭・長石・雲母含む。	28
6	R30236	R30236	SC15第4段壁中	土師器	甕	口縁部	口縁部外面ナデ。外面ハケ目、内面褐色。内外面褐色。石炭・長石・雲母多く含む。	27
7	R30250	R30250	SC15第5段壁中	土師器	甕	口縁部	口縁部内外面褐色。断面内外面褐色。口縁部ハケ目、内面ササエ。内外面褐色。石炭・長石・雲母多く含む。	27
8	R30240	R30240	SC15第5段壁中	土師器	甕	口縁部	内外面褐色。内外面黄褐色。石炭・長石含む。	27
9	R30238	R30238	SC15	土師器	甕	口縁部	断面中位に把手。外面ハケ目・黄褐色ハケ目。断面ハケ目。外面ハケ目。把手表面ササエ。内外面褐色・黄褐色。石炭・長石・雲母少量含む。	27
10	R30237	R30237	SC15	土師器	甕	口縁部	口縁部外面ナデ・黄褐色。断面内外面褐色・黄褐色。口縁部内外面褐色。口縁部内外面褐色。断面内外面褐色。石炭・長石・雲母含む。	27
図43-45 SC-14-15出土遺物								
1	R30200	R30200	SC13第1段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
2	R30252	R30252	SC13第1段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。粘土精製。	30
3	R30254	R30254	SC13第2段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
4	R30208	R30208	SC13第3段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
5	R30284	R30284	SC13第2段(機張土器)	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
6	R30255	R30255	SC13第3段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
7	R30217	R30217	SC13第4段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
8	R30263	R30263	SC13第5段(西)	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
9	R30261	R30261	SC13第6段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
10	R30209	R30209	SC13第7段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
11	R30265	R30265	SC13第8段(北)	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
12	R30268	R30268	SC13第9段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
13	R30278	R30278	SC13第10段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
14	R30286	R30286	SC13第11段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
15	R30284	R30284	SC13第12段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
16	R30281	R30281	SC13第13段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
17	R30282	R30282	SC13第14段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
18	R30283	R30283	SC13第15段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
19	R30279	R30279	SC13第16段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
20	R30280	R30280	SC13第17段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
21	R30285	R30285	SC13第18段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
22	R30273	R30273	SC13第19段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30
23	R30282	R30282	SC13第20段	灰土器	甕	口縁部	口縁部内外面に段。内外面回転ナデ。内外面黄褐色。石炭・長石少し含む。	30

遺物番号			出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・粘土等の特徴	収納番号
図	実面	取上	部位	形状・造形	種類	部位		
24	R30281	R3239	SCN13群11K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。底部外面紅転ヘラケズリ。ロウロ反時計回り。内外面灰色。石英・長石少し含む。	30
25	R30281	R3257	SCN13群21K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	30
26	R30311	R3277	SCN13群11K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面灰色。石英・長石含む。	30
27	R30301	R3257	SCN13群21K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面黄褐色・黄灰色。断面黄褐色。石英・長石長石わずかに含む。	30
28	R30327	R3303	SCN13群31K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。外面灰色。内面黄褐色・黄灰色。粘土精製。	30
29	R30286	R3290	SCN13群31K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面灰・灰白色。石英・長石わずかに含む。	30
30	R30315	R3278	SCN13群41K(焼)	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面黄褐色。底部外面黄褐色自然釉付着。粘土精製。	30
31	R30304	R3271	SCN13群31K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。底部外面紅転ヘラケズリ。ロウロ時計回り。外面黄灰色。内面灰白・灰色。断面灰白色。石英・長石含む。	30
32	R30256	R3218	SCN13群 P32	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。外面紅転ヘラケズリ。内外面灰白色。断面黄褐色。石英・長石わずかに含む。	30
33	R30267	R3238 R3301	SCN13群新集(北) SCN13群31K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面灰白色。断面黄褐色。粘土精製。	30
34	R30318	R3285	SCN13群11K	灰白色	厚身	口縁部	内外面紅転ナズ。底部外面紅転ヘラケズリ。ロウロ反時計回り。底部外面灰色。口縁部内外面灰白色。断面赤灰色。底部外面黄褐色自然釉付着。石英・長石少し含む。	30
35	R30253	R3294 R3294 R3294 R3294	SCN13群 P15 SCN13群 P32 SCN13群 P48 SCN13群11K SCN13群21K	灰白色	厚身	口縁部	内外面黄褐色。内外面黄褐色。石英・長石赤色を含む。焼成不良。	30
36	R30328	R3303	SCN13群31K	灰白色	高坏	脚部	長方形3方向通。外面紅転ナズ。内面ソリガ。外面灰色。内面灰白色。粘土精製。	30
37	R30282	R3259	SCN13群11K	灰白色	高坏	脚部	内外面紅転ナズ。外面灰色。内面黄褐色。断面赤灰色。石英・長石少し含む。	30
38	R30250	R3257 R3260	SCN13群31K SCN13群31K	灰白色	重底	口縁部	口縁部内面に段。内外面紅転ナズ。内外面黄褐色・黄褐色。石英・長石少し含む。	30
39	R30287	R3254	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面灰白・灰色。石英・長石わずかに含む。	30
40	R30305	R3271	SCN13群31K	灰白色	重	脚部	胴部中に刺突文。外面ソリガ目状。内面紅転ナズ。内外面灰白色。石英・長石含む。	30
41	R30299	R3288	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面灰色。粘土精製。	30
42	R30270	R3241	SCN13群31K(焼)	土褐色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。外面黄色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
43	R30321	R3294	SCN13群新集部分	土褐色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。外面外面黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
44	R30303	R3271	SCN13群31K	土褐色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面に黄褐色。石英・長石含む。	31
45	R30276	R3245	SCN13群31K	土褐色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面に黄褐色・黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
46	R30306	R3238	SCN13群新集(北)	土褐色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面に黄褐色・黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
47	R30329	R3262	SCN13群 P84	土褐色	重	口縁部	内外面ナズ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
48	R30286	R3254	SCN13群31K	土褐色	重	口縁部	口縁部内外面紅転ナズ。口縁部外面オサ。断面内外面黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
49	R30303	R3292	SCN13群31K	土褐色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。外面ソリガ第一灰色。内面黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
50	R30258	R3292	SCN13群 P48	土褐色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。内外面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
51	R30307	R3273	SCN13群31K	土褐色	帆	脚部	靴状下具の押印文。外面黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
52	R30319	R3291 R3232 R3256	SCN13群31K SCN13群21K SCN13群31K	土褐色	高坏	坏部	中央脚部。内外面ナズ。外面黄色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
53	R30282	R3232 R3267	SCN13群31K SCN13群31K	土褐色	重	脚部	口縁部内外面紅転ナズ。断面外面オサ・黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
54	R30310	R3277	SCN13群11K	土褐色	移動式	底部	底部の可能性あり。外面黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
55	R30312	R3278	SCN13群41K(焼)	灰白色	重	口縁部	上下長方形の口縁部に3本の刺突文。口縁部内外面紅転ナズ。外面断面黄褐色。断面内面オサ。外面黄色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
56	R30330	R3299	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	内外面紅転ナズ。内面オサ。内外面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
57	R30339	R3303	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	口縁部内外面紅転ナズ。断面外面黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
58	R30326	R3257	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	クシ指文状。内外面黄褐色。内外面に黄褐色。石英・長石含む。	31
59	R30296	R3261	SCN13群21K	灰白色	重	口縁部	外面ナズ。外面黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
60	R30319	R3279	SCN13群新集北岸土層	灰白色	重	脚部	靴状下具小口による刺突文。外面黄褐色。内面に黄褐色。外面に黄褐色。内面黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
61	R30277	R3242	SCN13群31K	灰白色	重	脚部	クシ指文状。内面黄褐色。外面黄褐色。内面に黄褐色。大型の緑褐色を含む。	31
62	R30251	R3195	SCN13群 P2	灰白色	重	口縁部	口縁部外面に刺突文付着。内外面黄褐色。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・赤褐色・黄褐色を含む。西南四角形。	31
63	R30274	R3243	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	口縁部断面1本の刺突文。内外面黄褐色。内外面黄褐色・黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
64	R30323	R3301	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	上下長方形の口縁部に2本の刺突文。断面断面押印文。内面に黄褐色。内外面黄褐色。石英・長石含む。	31
65	R30294	R3259	SCN13群31K	灰白色	重	脚部	断面に刺突文付着。外面黄褐色。内面に黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
66	R30275	R3244	SCN13群21K	灰白色	重	底部	外面黄褐色。内面に黄褐色。外面に黄褐色・黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。	31
67	R30301	R3271	SCN13群31K	灰白色	重	口縁部	外面ナズ。内面黄褐色。内外面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
68	R30297	R3263	SCN13群11K(灰土成)	灰白色	重	脚部	脚部に刺突文。外面黄褐色。内面に黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
69	R30331	R3269	SCN13群31K	灰白色	重	底部	外面黄褐色。内面に黄褐色。内面に黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
70	R30302	R3271	SCN13群31K	灰白色	高坏	接合部	坏部外面黄褐色。坏部内面に黄褐色。断面外面ナズ。断面内面に黄褐色。断面内面に黄褐色。他に黄褐色。石英・長石含む。	31
71	R30364	R3236	SCN13群新集(南)	灰白色	高坏	高坏	9条の沈線。下部に黄褐色刺突文。外面黄褐色。内面に黄褐色。石英・長石・雲母含む。	31
72	R30257	R3217	SCN13群 P44	石部	台石	台石	表面・断面を磨面。片面中央部に縦行刺突文。底面黄褐色。重量1673g。	31

遺物番号		出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・粘土等の特徴		収納番号
図	番号	取上	部位	種類	器種	部位		
74	R30271	R3241	SC13群3区陶遺状況	右器	磨石		磁面と腹部の一部のみ残。砂岩質。重量351g。	31
75	R30259	R3236	SC13群P48	右器	磨石		扁平な不整形片状。表面両面中央部に縦打痕。花崗岩質。風化進行。重量381.5g。	31
76	R30298	R3230	SC13群11区	右器	磨製石器	刃部	片石片厚約1cm。磁石片質。重量140g。	31
77	R30316	R3278	SC13群4区陶遺	右器	片石片厚約1cm		平造り1面のみの。緑色片質。重量68g。	31
78	R30383	R3279	SC13群11区	右器	磨石		磨石の表面磨滅。尖山形。重量25g。	31
79	R30389	R3239	SC13群11区	右器	刃部		平造り三角状。1面に欠けあり。サカイト割片。重量23g。	31
80	R30332	R3036	SC13群遺物	鉄器	細線		細線状の鉄片。重量4g。	94
81	R30333	R3037	SC13群P43	鉄器	棒状		断面四角の棒状。鉄線部が。重量13g。	94
82	R30337	R3045	SC13群11区	鉄器	鉄片		重量13.7g。	94
83	R30335	R3039	SC13群3区陶遺状況	鉄器	鉄片		重量43g。	94
84	R30336	R3040	SC13群3区陶遺状況	鉄器	舌状の突起あり。		重量10.6g。	94
85	R30347	R388	SC13群	鉄器	鉄片		重量37g。	94
86	R30372	R3241	SC13群3区陶遺状況	鉄器	鉄片		重量5.6g。	94
87	R30334	R3038	SC13群P73	鉄器	鉄片		重量25g。	94
図46 SC-16出土遺物								
1	R30338	R3223	SC13群P60	粘土土器	甕	腹部	肩部ノズ状突起文。外面磨滅しガキ。面磨滅ナシ。内面サセ・ノズハケ目。外面黄褐色。内面褐色。石・長石の微粒わずかに含む。	35
2	R30339	R3234	SC13群南延部	粘土土器	甕	下半部	外面磨滅しガキ。内面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	35
図49 SC-10・11出土遺物								
1	R30347	R3221	SC10-11群	磁器	杯蓋	口縁部	口縁部外面に凹線。口縁部と肩部の境に突。内外面磨滅ナシ。口縁部外面に黄褐色。内外面褐色。石・長石・鉄屑を含む。	36
2	R30348	R3236	SC10-11群	磁器	杯蓋	口縁部	内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	36
3	R30342	R3236	SC10-11群	磁器	杯蓋	口縁部	2段の底文。磨滅した口縁部1条の上に最段の浮文。内外面磨滅ナシ。内外面褐色。内面に自然釉・付着物。石・長石・鉄屑を含む。	36
4	R30344	R3242	SC10-11群	土器	甕	口縁部	内外面磨滅ナシ。内外面褐色。石・長石・鉄屑を含む。	36
5	R30340	R391	SC10	土器	甕	口縁部	外面磨滅。内面サセ。外面褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	36
6	R30343	R3258	SC10-11群	粘土土器	甕	口縁部	内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	36
7	R30341	R337	SC10	粘土土器	甕	底部	内外面磨滅。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	36
8	R30349	R3168	SC10-11	粘土土器	高杯	胴部	外面1条の沈線。外面ハケ目・ナズ。内面シボリ。内外面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	36
9	R30346	R3270	SC11	土製品	円筒状		径約4.5cm。使用・未使用。磨滅・石・長石・鉄屑を含む。126g。	36
10	R30345	R390	SC11	右器	磨石		上面・4面磨滅。底打痕。磨石片質。重量542g。	36
図51 SC-2出土遺物								
1	R30362	R3181	SC12群土師上	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
2	R30361	R3186	SC12群土師上	粘土土器	甕	胴部	瓶状ノズ状ノズによる列点文。内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
3	R30360	R3100	SC12	粘土土器	甕	上腹部	肩部に2段のノズ状突起文。胴部ハケ目・ナズ。内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
4	R30361	R3107	SC12	粘土土器	甕	下腹部	外面磨滅ハケ目。胴部磨滅しガキ。下部磨滅ナシ。内面下部磨滅ナシ。上部ハケ目・ナズ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
5	R30364	R3126	SC12	粘土土器	甕	底部	外面下部磨滅ナシ。上部磨滅ハケ目。内面サセ・ナズ。外面底部磨滅。胴部に黄褐色・灰黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
6	R30366	R3175	SC12P16	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。面磨滅し付着物。内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
7	R30367	R3176	SC12P24	粘土土器	甕	底部	底部ナズ。外面磨滅。内面ナズ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
8	R30369	R3178	SC12群土	粘土土器	甕	底部	底部ナズ。内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
9	R30360	R3178	SC12群土	粘土土器	甕	胴部	胴部磨滅ナシ。外面磨滅しガキ。内面サセ・ナズのナズ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	37
10	R30363	R3125	SC12	右器	台石		平面台形。上面と両側面に打痕・磨滅。砂岩質。重量17.5kg。	38
11	R30365	R3130	SC12	右器	台石		上下面と両側面に打痕・磨滅。花崗岩質。重量3300kg。	38
12	R30362	R3124	SC12	右器	磨石		断面不整形三角。うち4面は。火成岩質。重量1405g。	38
13	R30368	R3177	SC12群南	右器	片石片厚約1cm		断面と前後上面の一部残。緑色片質。重量144g。	38
図55 SC-19出土遺物								
1	R30376	R3232	SC19 4区	粘土土器	甕	口縁部	内外面磨滅ナシ。内外面磨滅。石・長石・鉄屑を含む。	39
2	R30374	R3249	SC19群南	粘土土器	甕	胴部	外面磨滅ナシ。胴部磨滅しガキ。内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	39
3	R30377	R3254	SC19群北	粘土土器	甕	口縁部	口縁部磨滅1条の凹線文。内外面磨滅ナシ。内外面磨滅。石・長石・鉄屑を含む。	39
4	R30375	R3236	SC19群北	粘土土器	甕	上腹部	外面磨滅。内面サセ。外面磨滅。内面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	39
5	R30373	R3236	SC19	粘土土器	甕	口縁部	口縁部外面に2条の肩付突起。内外面に黄褐色。外面磨滅。石・長石・鉄屑を含む。	39
6	R30371	R3130	SC19	粘土土器	甕	底部	外面磨滅しガキ。内面サセ・ナズ。外面に黄褐色に僅かに。内外面磨滅。石・長石・鉄屑を含む。	39
7	R30378	R3236	SC19群南	粘土土器	甕	口縁部	内外面磨滅。外面磨滅。石・長石・鉄屑・赤色粒を含む。	39
8	R30369	R3238	SC19群西群南	右器	鉢		楕円。片面に磨滅。断面から断面あり。磁石片質。重量1225g。	39
9	R30372	R3121	SC19	右器	磨石		表面両面に打痕後磨滅として使用。花崗岩質。重量1180g。	39
10	R30370	R3130	SC19	右器	磨石片質		断面と前後上面の一部残。緑色片質。重量21.4g。	39
図57 SC-20出土遺物								
1	R30379	R3236	SC20群北	粘土土器	甕	口縁部	外面磨滅ナシ。外面磨滅。外面に黄褐色。石・長石・鉄屑を含む。	40
2	R30380	R3238	SC20群	粘土土器	甕	口縁部	内外面磨滅ナシ。外面に黄褐色。石・長石・鉄屑・赤色粒を含む。	40

遺物番号			出土状況		遺物の内容			文様・調整・色調・粘土等の特徴	収納番号
図	実照	取上	層位・遺構	種類	器種	部位			
図59-60 SC-21出土遺物									
1	R30382	R30364	SC21F東	粘土土器	甕	口縁部	口縁部1条の凹線文。内外面無釉ナ。内外面灰褐色。石黄・長石・雲母の顔料を含む。	40	
2	R30383	R30364	SC21F東	粘土土器	鉢	胴部	外面ナ。内面オサエ・ナ。内外面灰褐色。石黄・長石・雲母を含む。	40	
3	R30381	R122	SC21	石器	杵石		扁平な表面と1側面を磨いた後表面として使用。残るもう1側面から被熱赤（赤）泥。磨いた部分。重量43.59g。	40	
図62 SC-42出土遺物									
1	R30386	R30367	SC42	粘土土器	甕	口縁部	口縁部内外面無釉ナ。胴部内面焼いたナ。内外面黒褐色。石黄・長石・雲母や多く含む。	41	
2	R30387	R30341	SK18-SC19	粘土土器	甕?	口縁部	口縁部外面無釉ナ。内外面オサエ。内外面無釉。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	41	
3	R30386	R30366	SC42	粘土土器	甕	胴部	胴部付仲突部。外面胴部無釉ナ。胴部縁ミダ。内面胴部オサエ。胴部焼いたナ。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母の顔料を含む。	41	
4	R30385	R118	SC42上部	粘土土器	甕?	底部	内外面無釉。内面オサエ。底部無釉オサエ。外面に白っぽい。黄褐色。内面灰褐色。石黄・長石・雲母や多く含む。	41	
5	R30395	R30366	SC42	粘土土器	甕	口縁部	外面オサエ。外面無釉ナ。内面オサエ・ナ。外面に白っぽい。内面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	41	
6	R30388	R30375	SC42F	粘土土器	甕	底部	外面縁ミダ。内面ナ。外面に白っぽい。内面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	41	
7	R30394	R30362	SC42-18・19造成土	粘土土器	鉢	胴部	外面胴部無釉ナ。胴部内面縁ミダ。内面縁ミダ。外面灰褐色。内面黒色（黒褐色）。石黄・長石・雲母を含む。	41	
8	R30397	R30368	SC42	粘土土器	高坏	胴部	10cm以上のヘタ部沈没。矢印部通。内面シロリ。内外面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	41	
9	R30386	R30358	SK18-SC194区	石器	砥石		薄く板状の表面両面と1側面と。破断した断面の一部使用。細か目の砂目。重量334g。	41	
10	R30399	R30394	SC42F22	石器	磨石		磨石の一部表面が残る。結晶質。重量126g。	41	
11	R30384	R84	SC42上部	石器	杵石		不規則な多面体状。被熱赤変化した磨いた表面。凹凸を残す部分の2側面。表面側に平滑な部分と。凹凸がよくなる。磨削。重量2280g。	41	
図65-66 SC-22出土遺物									
1	R30414	R30391	SC22 3区	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。口縁部無釉ナ。胴部外面ナ。内面無釉。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母や多く含む。	42	
2	R30413	R30390	SC22 1区	粘土土器	甕	口縁部	外面縁ハタ。内面オサエ・ナ。内外面灰褐色。石黄・長石・雲母や多く含む。	42	
3	R30419	R30391	SC22 4区	粘土土器	甕	口縁部	口縁部外面無釉ナ。内面オサエ・ナ。内外面灰褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	42	
4	R30415	R30392	SC22 5区	粘土土器	甕	胴部	胴部文。内外面ナ。外面に白っぽい。内面に白っぽい。石黄・長石・雲母を含む。	42	
5	R30422	R30403	SC22F上（前面の上）	粘土土器	甕	底部	外面縁ミダ。内面無釉。底面ナ。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母を含む。	42	
6	R30411	R30384	SC22F2-P34-35	粘土土器	甕	底部	外面縁ミダ。内面ナ。外面に白っぽい。内面無釉。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
7	R30405	R30372	SC22 3区(表面以下)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部内外面無釉ナ。胴部外面縁ハタ。内面ナ。内外面無釉の赤。焼いた。内面に白っぽい。黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
8	R30408	R30378	SC22F4	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無釉ナ。外面に白っぽい。焼付。内面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	42	
9	R30417	R30392	SC22 3区(表面以下)	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無釉ナ。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母の顔料を含む。	42	
10	R30412	R30387	SC22 2区	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無釉ナ。内外面無釉。外面焼付。石黄・長石・雲母を含む。	42	
11	R30409	R30382	SC22F30	粘土土器	甕	口縁部	胴上部付仲突点。口縁部内外面無釉ナ。外面無釉。内面縁ミダ。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
12	R30406	R30372	SC22F3	粘土土器	甕	底部	外面縁ミダ。内面ナ。外面焼付。内面に白っぽい。内面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	42	
13	R30410	R30382	SC22F30	粘土土器	甕	底部	外面無釉。内面オサエ。外面に白っぽい。赤褐色。内面無釉。石黄・長石・雲母や多く含む。	42	
14	R30421	R30403	SC22F上（前面の上）	粘土土器	鉢	口縁部	内外面無釉ナ。内面一部オサエ。外面灰褐色。内面黒色。石黄・長石・雲母を含む。	42	
15	R30404	R123	SC22F東下	粘土土器	鉢	底部	上げ底。底部下縁ハタ。内面ナ。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母を含む。	42	
16	R30407	R30373	SC22F23	粘土土器	高坏	胴部	8条のヘタ部直線文と下部に矢印部通。上部凹線灰褐色。内面シロリ。内外面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	42	
17	R30420	R30398	SC22 5区(表面以下)	粘土土器	高坏	胴部	胴部8条以上のヘタ部直線文。外面無釉（縁ミダナ）。内面凹線灰褐色。胴部シロリ。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
18	R30402	R386	SC22F上	石器	石杵・木製品		外周調整の打痕。表面凹凸の磨削痕。結晶質。重量595g。	42	
19	R30403	R387	SC22F上	石器	磨石		扁平な円盤。片側の平坦な面に小さな磨削痕。目の細か。砂目。重量333.5g。	42	
20	R30400	R382	SC22F上	石器	杵石		多面体平らな面をもつ半円状。磨いた面と残る。表面磨削。重量3030g。	42	
図68 SC-41出土遺物									
1	R30389	R30377	SC41 1区	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無釉ナ。外面無釉。内面に白っぽい。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
2	R30390	R30380	SC41 6区	粘土土器	甕	口縁部	口縁部2条の凹線文。内外面無釉ナ。内外面無釉。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
3	R30425	R30372	SC41 3区	粘土土器	甕	胴部	胴部付仲突部。外面縁ミダ。内面ナ。外面無釉。内面に白っぽい。石黄・長石・雲母を含む。	42	
4	R30390	R30377	SC41 1区	粘土土器	甕	胴部	上縁部2条半の直線文6条以上。下部に連続×字状文。外面縁ミダ後ナ。内面オサエ・ナ。内外面に白っぽい。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
5	R30392	R30379	SC41 3区	粘土土器?	甕	口縁部	内外面ナ。外面に白っぽい。赤褐色。内面無釉。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	42	
6	R30423	R30371	SC41 2区	粘土土器	甕	底部	外面縁ミダ。内面無釉。外面に白っぽい。内面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	42	
7	R30424	R30371	SC41 2区	粘土土器	鉢	胴部	内外面無釉ナ。外面無釉。内面灰褐色。石黄・長石・雲母の顔料を含む。	42	
8	R30391	R30378	SC41 2区	粘土土器	高坏	胴部	8条のヘタ部直線文と下部に矢印部通。上部凹線灰褐色。内面シロリ。内外面無釉。石黄・長石・雲母を含む。	42	
図71 SC-23出土遺物									
1	R30454	R30408	SC23F16	灰土器	灰土器	口縁部	口縁部内面に凹。内外面無釉ナ。内外面灰褐色。石黄・長石・雲母を含む。	44	
2	R30453	R30423	SC23 1区	灰土器	灰土器	口縁部	口縁部内面に凹。内外面無釉ナ。内外面灰褐色。粘土質。	44	
3	R30439	R30434	SC23 3区	灰土器	灰土器	口縁部	口縁部内面に凹。外面口縁部と天井部間に凹。内外面無釉ナ。内外面灰褐色。粘土質。	44	
4	R30440	R30435	SC23 3区	灰土器	灰土器	口縁部	内外面無釉ナ。内外面灰褐色。石黄・長石を含む。	44	
5	R30441	R30438	SC23 4区	灰土器	灰土器	口縁部	内外面無釉ナ。内外面灰褐色。石黄・長石を含む。	44	
6	R30431	R30418	SC23 1区	灰土器	灰土器	口縁部	内外面無釉ナ。外面口縁部灰白色。内部灰白色。粘土質。	44	

建物番号	地上状況	建物の内容	文様・調整・色調・貼土等の特徴	収容 数
区画	用途・通称	種別	部材	
7	R30432 R3422 SC21 1区	固定部	床 心 受部	内外面漆調。外面にふい黄褐色。内面褐色。右翼・長石・赤色粒わずかに含む。焼成肌露。 44
8	R30450 R3047 SC23 4区(呼吸器用)	固定部	高 環 口縁部	口縁部内部に段。外面口縁部と大骨部部に凹陥。内外面刷転ナす。底部刷転ナツズリ。内外面刷転ナす。右翼・長石わずかに含む。 44
9	R30447 R3041 SC23 4区南	固定部	密 蓋 口縁部	口縁部内部に段。外面口縁部と大骨部部に凹陥。内外面刷転ナす。内外面刷転。貼土難。 44
10	R30438 R3033 SC23 3区	固定部	密 蓋 口縁部	外面平打タテタキ多き目。内面黄褐色。内外面刷転ナす。右翼・長石多き含む。 44
11	R30442 R3049 SC23 4区北	土師部	差 口縁部	内外面刷転ナす。外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。右翼・長石含む。 44
12	R30434 R3043 SC23 2区	土師部	差 口縁部	内外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 44
13	R30435 R3041 SC23 4区北	土師部	差 口縁部	内外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。内面褐色。右翼・長石・赤色粒わずかに含む。 44
14	R30449 R3045 SC23 4区北	土師部	差 肩部	外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。外面刷転ナす。内面にサエ・ナダ。外面にふい褐色。内面褐色。右翼・長石含む。 44
15	R30440 R3048 SC23 1区北	土師部	差 胴部	外面刷転ナす。外面刷転ナす。外面刷転ナす。内面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 44
16	R30445 R3041 SC23 4区南	土師部	肌 口縁部	口縁部刷転ナす。外面刷転ナす。内面にサテタキナす。外面にふい黄褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 44
17	R30428 R3043 SC23 3区北	土師部	端? 口縁部	外面サエ・ナダ。内外面褐色。右翼・長石やや多し。赤色粒わずかに含む。 44
18	R30443 R3040 SC23 4区北	赤生土部	密 胴部	断面三角形の剝け方異常。内外面刷転ナす。外面褐色。内面にふい褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 44
19	R30406 R30432 SC23 3区	赤生土部	密 胴部	断面片立文。外面刷転ナす。内面ナす。外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色。右翼・長石多き含む。 44
20	R30463 R3008 SC23P16	赤生土部	密 胴部	扁平な剝け方剝け目。外面刷転ナす。内面ナす。外面にふい褐色。内面黒褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 44
21	R30444 R3042 SC23 4区北	赤生土部	密 胴部	断面三角形の剝け方異常。内外面刷転ナす。外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。右翼・長石含む。 44
22	R30429 R30416 SC23 4区北	赤生土部	密 胴部	断面三角形の剝け方異常。内外面刷転ナす。外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。右翼・長石の砂多き含む。直。 44
23	R30451 R3048 SC23 4区	赤生土部	密 胴部	断面片立文。外面刷転ナす。外面刷転ナす。外面刷転。内面黒褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 44
24	R30437 R30432 SC23 3区	赤生土部	差 底部	外面サエ・ナダ。内面刷転。外面にふい褐色。内面にふい褐色。右翼・長石多き含む。 44
25	R30446 R30441 SC23 4区南	赤生土部	高 環 脚部	外面サエ・ナダ。外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。右翼・長石多き含む。 44
26	R30427 R78 SC23 3区	鉄部	素材?	横溝片状。結晶肌露。重量55g。 91
27	R30448 R3043 SC23 4区北	鉄部	刀子 斧ノ一部	片削。刃部上平・下平欠角状。 91
28	R30452 R3049 SC23 3区	鉄部	?	13mm前後の環状。合わせ目あり。 91
29	R30426 R75 SC23	鉄部		重量3636g。 94
第73 SC24区土遺物				
1	R30458 R3457 SC23 4区北	固定部	坯 口縁部	口縁内端部に凹。外面口縁部と大骨部部に凹陥。内外面刷転ナす。外面大骨部部刷転ハツズリ。内外面刷転。貼土難。 46
2	R30456 R3455 SC23 4区北	土師部	差 上脚部	外面刷転ナす。内面サエ・ナダ。外面にふい黄褐色一部黒褐色。内面刷転。右翼・長石・赤色粒含む。 46
3	R30460 R3464 SC24	赤生土部	密 口縁部	口縁部刷転ナす。外面刷転ハツ目。外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。右翼・長石多き含む。 46
4	R30455 R3131 SC24	石部	卵石	扁平片状。断面の中央部とやや偏した位置。両面に斜け角集中。砂研肌。重量553.8g。 46
5	R30461 R3466 SC24	石部	卵石	片面中央部に斜け角あり。両面磨面。花崗岩質。重量308.3g。 46
第75 SC25区土遺物				
1	R30466 R3475 SC23 4区西部南	固定部	坯 口縁部	口縁部内部に段。外面口縁部と大骨部部に凹陥。内外面刷転ナす。内外面刷転。貼土難。 47
2	R30469 R30479 SC23 4区西部南	固定部	坯 脚部	外面口縁部と大骨部部部に凹陥。内外面刷転ナす。内外面刷転。貼土難。 47
3	R30471 R30461 SC23 4区西部南	固定部	外環部	外面底部部刷転ハツズリ。下脚部刷転ナす。胴中央部ナす。内外面刷転ナす。外面刷転。貼土難。 47
4	R30467 R30478 SC23 4区西部南	土師部	差 口縁部	内外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 47
5	R30479 R30479 SC23 4区西部南	土師部	差 上脚部	外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。右翼・長石・角閃石・赤色粒含む。 47
5	R30468 R30481 SC23 4区西部南	土師部	差 上脚部	外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。右翼・長石・角閃石・赤色粒含む。 47
6	R30470 R3065 SC25K2 (H1SK36)	土師部	肌 口縁部	外面刷ナす。外面刷ナす。外面刷ナす。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。右翼・長石・赤色粒含む。 47
7	R30465 R30467 SC25P1	赤生土部	捺 底部	内外面ナす。外面にふい褐色。内面褐色。右翼・長石多き含む。 47
8	R30463 R80 SC25	石部	卵石	扁平片状で片面磨面ながら他面に結晶。結晶片質。重量360.2g。 94
9	R30462 R76 SC25	鉄部		重量561g。 94
第77 SC26区土遺物				
1	R30474 R30485 SC26P17北壁東	赤生土部	密 口縁部	口縁部端部と赤生土面。内外面刷転ナす。外面にふい褐色。右翼・長石含む。 49
2	R30473 R30484 SC26K2	赤生土部	密 口縁部	内外面刷転ナす。外面刷ナす。外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色。右翼・長石含む。 49
3	R30484 R3049 SC26	赤生土部	密 胴部	断面片立文。断面片立文。外面刷転ナす。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。右翼・長石含む。 49
4	R30475 R30485 SC26P17北壁東	赤生土部	密 胴部	断面

遺物番号	出土状況	遺物の内容	文様・調整・色調・粘土等の特徴	収納番号
10	実面 取上	縁取・遺構		
11	R30480 R30485	SC2079北側東	環状部 環身 受部	内外面回転ナズ。内外面灰色。右裏・長石を含む。
12	R30482 R30489	SC2079西	土師器 轆	内外面回転ナズ。外面灰色。内面明黄褐色。右裏・長石を含む。
13	R30472	R249	石部	棒状で半分欠損。細晶片質砂。重量160g。
879 SC27出土遺物				
1	R30486 R30491	SC27南東	粘土土器 壺	口縁部 内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
881 SC29出土遺物				
1	R30491 R30526	SC29北西部	粘土土器 壺	口縁部4条の凹線文。肩部2段ノ字状刺突文。口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
2	R30493 R30513	SC297西	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
3	R30487 R30507	SC297造成土	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。内外面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
4	R30488 R30516	SC2971	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
5	R30489 R30519	SC29 2/4	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
884 SC28・71出土遺物				
1	R30494 R30535	SC28南西 (妙ノ木)	粘土土器 壺	刺突文・波線1条・ノ字状刺突文。内外面回転ナズ。内外面にふい・黄褐色。右裏・長石・赤色の微細粒を含む。
2	R30492 R277	SC28	粘土土器 壺	外面オサエ・ナズ。内面黄褐色。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石を含む。
3	R30485 R30525	SC28南西 (妙ノ木)	粘土土器 壺	口縁部4条の凹線文。内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
4	R30493 R2315	SC28 2/4	粘土土器 高杯	外面黄褐色。口縁部内外面回転ナズ。内面ノ字・縦ミギナ。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
5	R30497 R280	SC71	粘土土器 壺	内外面黄褐色。外面にふい・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母・黒色粒を含む。
6	R30496 R279	SC71	粘土土器 壺	口縁部1条の凹線文。外面にふい・黄褐色。口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
7	R30488 R280	SC71	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
8	R30502 R30538	SC28・71 1区西側	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
9	R30500 R30511	SC28・71南側	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
10	R30503 R30527	SC28・71 1区北西部	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
11	R30504 R30538	SC28・71 1区北西部	粘土土器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
12	R30499 R30510	SC28・71南側	粘土土器 鉢	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
13	R30501 R30530	SC28・71造成土	石部	表面と裏面を全す1個物。断面に黒打痕。砂質。重量145g。
886-89 SC43-44出土遺物				
1	R30521 R30549	SC43南東	環状部 環身	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
2	R30530 R30618	SC43-44西側	環状部 環身	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
3	R30524 R30601	SC43西	環状部 環身	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
4	R30525 R30602	SC43西	環状部 環身	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
5	R30526 R30603	SC43西	環状部 環身	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
6	R30527 R30615	SC43東	環状部 環身	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
7	R30516 R30596	SC43東	環状部 環身	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石を含む。
8	R30509 R3136	SC43東・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
9	R30605 R153 R155 R30599 R30618	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
10	R30508 R3148	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
11	R30529 R30617	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
12	R30514 R30596	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
13	R30517 R30599	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
14	R30518 R30599	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
15	R30528 R30616	SC43-44西側	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
16	R30525 R30606	SC43-44西側	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
17	R30522 R30601	SC43-44西側	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
18	R30512 R30593	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
19	R30513 R30596	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
20	R30510 R30599	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
21	R30511 R30599	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。
22	R30519 R30599	SC43東土・東	土師器 壺	口縁部内外面回転ナズ。外面にふい・黄褐色。内面にふい・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。

遺物番号		出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・粘土等の特徴		収納番号
図	番号	図上	部位・遺構	種類	器種	部位		番号
23	R3007	R142	SC43	右器	磨石	右石	上面磨き面磨面。大底磨面。重量965.6g。	54
24	R3006	R141	SC43	右器	磨石		扁平楕円状。表面磨面。砂磨面。重量214.0g。	54
25	R3008	R0614	SC43-44埋土	右器	磨石		扁平板状。長さ・1横断面。底面使用頻度が高い。チャート製。重量33.9g。	54
26	R3001	R3092	SC43埋土	右器	磨石		円盤状。砂磨面。重量3.1g。	51
27	R3026	R2061	SC43埋土	鉄片			重量2.3g。	94
第92 SC-49出土遺物								
1	R3031	R173 R201 R203 R204 R206 R2091	SC49K1 SC49K1 SC49K1 SC49K1 SC49K1 SC49埋土・灰	灰生土器	甕	全形	口縁部内外面横ナズ。胴部外面縦一割ハケ目。胴部内面縦ナズ縦上縁斜ハケ目ナズ。内面灰白色。中段全面縦ナズ。底部縦。内面灰白色。底部ココヤ付着。右長・長石・雲母含む。	57
第95 SC-52出土遺物								
1	R3034	R158	SC52	灰生土器	甕	上平縁	シキ(有角)和漢。口縁部内外面2段の横ナズ。外面ナズ。胴部部分とくに丁寧ナズ。内面オサエ・ナズ。内外面にいり橙色。右長・長石・雲母・赤色粒含む。	58
2	R3037	R0966	H1SC61	灰生土器	甕	口縁部	口縁部1巻の凹面文。内外面横ナズ。内外面横ナズ。右長・長石・雲母含む。	58
3	R3032	R157	SC52	灰生土器	甕	上平縁	胴部内外面横ナズ。外面横ナズ。内面オサエ・ナズ。外面にいり橙色。下半部縦ナズ。内面にいり橙色。ココヤ付着。右長・長石・雲母含む。	58
4	R3033	R157	SC52	灰生土器	甕	下平縁	外面縦ナズ。内面ナズ。外面横ナズ。下半部縦ナズ。内面灰白色。右長・長石・雲母赤色粒含む。	58
5	R3035	R159	SC52	灰生土器	甕	底部	外面ナズ。底面横ナズ。内面縦ナズ。外面灰白色。内面黒色。右長・長石・雲母含む。	58
6	R3036	R2065	SC52埋土	灰生土器	鉢	口縁部	口縁部内外面横ナズ。胴部外面ナズ。内面オサエ・内面横ナズ。右長・長石・雲母含む。	58
第97 SC-54出土遺物								
1	R3038	R310	SC54	灰生土器	甕	胴部	外面縦横ナズ。胴部縦ナズ。内面縦ナズ。胴部オサエ・ナズ。外面灰白色。内面灰白色。右長・長石・雲母・赤色粒含む。	58
2	R3040	R3039	SC54	灰生土器	甕	胴部	胴部外面ノ字状点文。外面縦ハケ目。内面オサエ・ナズ。外面内面横ナズ。内面横ナズ。右長・長石・雲母含む。	58
3	R3041	R3039	SC55	灰生土器	甕	口縁部	内外面横ナズ。外面にいり橙色。内面横ナズ。右長・長石・雲母・赤色粒含む。	58
4	R3042	R3039	SC56	灰生土器	鉢	口縁部	外面斜ナズ。内面オサエ・ナズ。口縁部内外面横ナズ。右長・長石・雲母含む。	58
5	R3039	R3058	SC57	灰生土器	鉢	胴部	胴部内外面横ナズ。外面縦横ナズ。内面縦横ナズ。内面横ナズ。右長・長石・雲母含む。	58
6	R3043	R3039	SC58	灰生土器	高杯	胴部	胴部4条の凹面文。上段に2条のへつ溝状。矢羽根状溝を切る。外面縦横ナズ。上段ナズ。内面下平縁ナズ。上平ナズ。外面にいり橙色。内面横ナズ。右長・長石・雲母含む。	58
7	R3044	R3039	SC54	右器	蓋材		板状。一部研ぎ等の調整痕あり。結晶質。重量22.3g。	58
第99 SC-64出土遺物								
1	R3045	R3796	SC64SP421	灰生器	灰生	灰生部	内外面横ナズ。外面灰生部凹ハケナズ。内外面灰白色。右長・長石・雲母含む。	59
2	R3046	R3796	SC64SP421	灰生器	甕	胴部	外面下平平ナズナズ。上平ナズ。内面青黄文。内外面灰白色。右長・長石・雲母含む。	59
第102 SB-1出土遺物								
1	R3001	R3010	SP106	灰生器	灰生	口縁部	底部外面凹ハケナズ。内外面横ナズ。内外面灰白色。右長・長石・雲母の縦含む。	1
2	R3002	R3011	SP107	灰生土器	無蓋	口縁部	口縁部外面1条単位の凹面文4条以上。口縁部横ナズ。下半部縦ナズ。内面にいり橙色。右長・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	1
3	R3003	R3012	SP108	灰生土器	甕	胴部	外面口縁部横ナズ。胴部ナズ。内面口縁部オサエ・ナズ。胴部横ナズ。右長・長石・雲母や多く含む。外面黒色。内面内面横ナズ。	1
4	R3004	R3012	SP108	灰生土器	甕	口縁部	胴部外面目録によるノ字状判文。口縁部内外面横ナズ。外面外面ナズ。外面内面横ナズ。内面横ナズ。右長・長石・雲母や多く含む。	1
5	R3005	R3012	SP108	土師器	甕	口縁部	口縁部内外面横ナズ。右長・長石・雲母の微細粒や多く含む。外面横ナズ。内面にいり橙色。	1
6	R3008	R3020	SP174西平	灰生土器	甕	底部	外面縦方ナズ。内面縦方ナズ。外面にいり橙色。内面横ナズ。右長・長石・雲母・赤色粒多く含む。	1
7	R3006	R3019	SP174	土師器	高杯	胴上部	内外面ナズ。外面横ナズ。右長・長石・雲母の縦含む。	1
8	R3007	R3019	SP174	灰生器	甕	胴部	外面ナズ。外面ナズ。内面青黄文。内外面灰白色。右長・長石・雲母の縦含む。	1
9	R3009	R3024	SP175東平	灰生器	環蓋	外縁部	内外面横ナズ。内外面灰白色。右長・長石の縦含む。	1
10	R3010	R3026	SP176東平	土師器	甕	口縁部	内外面横ナズ。外面内面横ナズ。内面にいり橙色。右長・長石・雲母の縦含む。	1
11	R3012	R3027	SP176西平	灰生器	灰生	灰生部	内外面横ナズ。内外面灰白色。右長・長石の縦含む。	1
12	R3011	R3026	SP176東平	鉄片			表面ならかな凹面。重量4.6g。	94
13	R3013	R3035	SP179	灰生器	灰生	口縁部	外面口縁部凹ハケナズ。内外面横ナズ。外面灰白色。内面灰白色。右長・長石・雲母・赤色粒含む。	1
14	R3014	R3035	SP179	右器	磨石		上面平磨。縦断面磨面に面紋にによる凹面縦線に現る。磨面。重量30.6g。	1
15	R3015	R3047	SP179西平	鉄片			表面ならかな凹面で片面にスナ多し。重量5.5g。	94
第104 SB-4出土遺物								
1	R3016	R3797	SP422	灰生土器	甕	胴部	胴部に1条の文様と判文。外面ナズ。内面オサエ・ナズ。内外面にいり橙色。右長・長石・雲母含む。	2
2	R3017	R3797	SP422	灰生器	環蓋	外縁部	内外面横ナズ。内外面灰白色。右長・長石・雲母の縦含む。	2
3	R3018	R3800	SP425	灰生土器	甕	口縁部	胴部貼付帯に布目状。口縁部内外面横ナズ。内外面にいり橙色。右長・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	2
4	R3019	R3800	SP425	灰生土器	？	胴部	8単位前後の凹孔。胴部内外面横ナズ。外面ハケ目。内面横ナズ。縦横一割ハケ目。内外面横ナズ。外面外面と上面に赤色粒。右長・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	2
5	R3020	R3800	SP425	土師器	瓶	胴上部	上面オサエ。上面と下面ナズ。表面横ナズ。右長・長石・赤色の縦含む。	2
6	R3021	R3800	SP425	灰生器	甕	胴部	外面ナズ。外面ナズ。内面青黄文。内外面灰白色。右長・長石の縦含む。	2
7	R3022	R3803	SP427	灰生器	外蓋	外縁部	外面横ハケナズ。内面横ナズ。内外面灰白色。右長・長石の縦含む。	2
8	R3023	R3802	SP427	鉄片			外縁部の面凹溝や多く。縦はスナ等凹溝あり。重量33.2g。	94

遺物番号			出土状況		遺物の内容			文様・調整・色調・貼上等の特徴		収納番号
図	実照	取上	層位・遺構	種類	器種	部位				
遺106 SK-34出土遺物										
1	R30549	R30561	SK34西	弥生土器	甕	口縁部	内外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母・赤色粒含む。		60	
2	R30547	R30559	SK34西	弥生土器	鉢	胴部	外面黄褐色。内面オリーブ・ナツ。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		60	
3	R30548	R30560	SK34西	弥生土器	高坏	口縁部	口縁部5条以上の内縁文。内面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母の粒を含む。		60	
4	R30550	R30562	SK34西	石器	紡錘車		約14/4の残文。底径5.4cm・中央孔径1.0cm。角径2/3定山岩製。重量68.6g。		60	
遺108 SK-35出土遺物										
1	R30552	R30563	SK35	埴土器	埴	底部	内外面黄褐色。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石含む。		60	
2	R30551	R30563	SK35	弥生土器	甕	底部	外面黄褐色。内面オリーブ・ナツ。外面に赤・黄褐色。底付着。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		60	
3	R30553	R30564	SK25-SK35	石器	杵石		表面黄緑打撃。1面黄褐色。花崗岩製。重量2200g。		60	
遺110 SK-39出土遺物										
1	R30554	R30568	SK39	土師器	高坏	胴部	内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面に赤・黄褐色と灰褐色。右裏・長石・雲母含む。		60	
遺112 SK-45出土遺物										
1	R11003	R1101	SK45	土師器	甕	全形	外面に緑部黄褐色。内部オリーブ・ナツ。内面黄褐色。底面高肉内張り状。内外面灰白色。右裏・長石・雲母の微細粒含む。		90	
2	R11004	R30527	SK45西	土師器	甕	口縁部	内外面黄褐色。内外面黄褐色。右裏・長石・雲母・赤色の微細粒を含む。		90	
3	R11001	R144	SK45	土師器	甕	下半部	外面黄褐色。内面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・黒色粒・赤色粒含む。		90	
4	R11002	R145	SK45	石器	杵石		表面黄緑打撃一部残るが磨面として使用。花崗岩製。重量3600g。		90	
遺114 SK-48出土遺物										
1	R30555	R30566	SK48	弥生土器	甕	口縁部	口縁部内外面黄褐色。胴部外面平打ナツ。内面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母微細粒多く含む。輸入品。		61	
遺118 SK-55出土遺物										
1	R30556	R205	SK55	弥生土器	鉢	全形	口縁部内外面黄褐色。胴部内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。底面黄褐色。内面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		61	
遺120 SK-56出土遺物										
1	R30557	R30562	SK56	弥生土器	甕	口縁部	口縁部内外面黄褐色。内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		61	
2	R30558	R30562	SK56	弥生土器	高坏	胴部	通長近縁。外面オリーブ・ナツ。内面黄褐色。外面に赤・黄褐色。外面に赤・黄褐色。右裏・長石含む。		61	
遺122 SK-57出土遺物										
1	R30559	R30563	SK57 (SP483-485)	弥生土器	甕	口縁部	口縁部内外面黄褐色。内外面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		61	
2	R30560	R30563	SK57 (SP483-485)	石器	棒状石		全形。全面磨面。緑色岩製。重量173g。		61	
遺126 SK-70・SP337-338出土遺物										
1	R30566	R30530	SK70・SP337-338	弥生土器	甕	胴部	胴部沈積3条状に判文。外面に赤・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母・赤色粒含む。		62	
2	R30567	R30530	SK70・SP337-338	弥生土器	高坏	口縁部	口縁部4条の内縁文。内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母を含む。		62	
3	R30561	R132	SK70	弥生土器	高坏	胴部	胴部中央より方向判文。内外面黄褐色。胴部内面シロリ。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・赤色粒含む。		62	
4	R30565	R138	SP337	石器	磨石		4面の磨面。右裏片磨面。重量1080g。		62	
5	R30562	R133	SP337	石器	杵石		磨面磨面。表面黄褐色。表面黄褐色。火成岩製。重量631.3g。		62	
6	R30564	R135	SP337	石器	杵石		一部磨面あるがえらるる磨面。磨石磨面。重量175.2g。		62	
7	R30563	R134	SP337	石器	磨石		残状。雲母黄緑岩製。重量100.4g。		62	
遺129 SK-74出土遺物										
1	R30564	R128	SK25K1	弥生土器	甕	全形	口縁部内外面黄褐色。外面上平縁。下部緑ナツ。底部ナツ。内面上位ナツ。腹ヘナツナツ。底部ナツ。外面明赤褐色。内面黄褐色。右裏・長石多く含む。		63	
		R129	SK25K1							
		R30569	SK21-23							
		R30567	SK25曲重部							
		遺130 SK-18出土遺物								
1	R30566	R30531	SK18南	弥生土器	甕	口縁部	胴部付付付付付。内外面黄褐色。内外面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		39	
2	R30565	R30530	SK18南	弥生土器	甕	口縁部	口縁部1条の内縁文。内外面黄褐色。外面黄褐色。内面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		39	
3	R30567	R30531	SK18北	弥生土器	甕	胴部	口縁部4条の内縁文。内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母の微細粒を含む。		39	
4	R30568	R30532	SK18-SC19東部	埴土器	埴	底部	底面外縁にヘナツナツ。内外面黄褐色。内外面黄褐色。右裏・長石含む。		39	
5	R30563	R30539	SK18南	埴土器	埴	受付部	底面外縁にヘナツナツ。内外面黄褐色。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石含む。		39	
6	R30564	R30539	SK18南	埴土器	甕	胴部	内外面黄褐色。内外面黄褐色。右裏・長石・雲母の微細粒を含む。		39	
遺133-135 弥生時代出土遺物										
1	R30569	R30573	SP118	弥生土器	甕	胴部	胴部判文。外面ナツ。内面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母・赤色粒含む。		64	
2	R30569	R30573	SP118	弥生土器	甕	口縁部	口縁部1条の内縁文。内外面黄褐色。内外面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
3	R30570	R30574	SP119	弥生土器	高坏	胴部	外面2条の内縁文。外面黄褐色。内面黄褐色。外面に赤・黄褐色。外面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
4	R30571	R30572	SP185	弥生土器	甕?	口縁部	外面オリーブ・ナツ。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母多く含む。		64	
5	R30573	R30574	SP190	弥生土器	甕	口縁部	内外面黄褐色。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
6	R30574	R30576	SP190	弥生土器	甕	口縁部	口縁部3条の内縁文。内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
7	R30575	R30579	SP197	弥生土器	甕	口縁部	内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
8	R30579	R30581	SP199	弥生土器	甕	口縁部	内外面黄褐色。外面に赤・黄褐色。内面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
9	R30580	R30581	SP199	弥生土器	甕	胴部	胴部付付付付付。内外面黄褐色。内外面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
10	R30584	R30577	SP206-207	弥生土器	甕	口縁部	口縁部4条の内縁文。内外面黄褐色。内外面に赤・黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	
11	R30585	R30579	SP207	弥生土器	高坏	胴部	外面黄褐色。内面黄褐色。外面黄褐色。内面黄褐色。右裏・長石・雲母含む。		64	

遺物番号		出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・粘土等の特徴	収納番号
図	実照	取上	部位・遺構	種類	器種		
12	K30667	K3752	SP240	粘土土器	甕 底部	外面黄褐色。内面ナツ。外面褐色。内面灰黄色。右翼・長石・雲母多く含む。	64
13	K30666	K3751	SP240	石器	残片	ササキイタ類。現重量51g。	64
14	K30668	K3757	SP289	粘土土器	甕 口縁部	外面褐色ハタ目・横ナツ。内面ナツ。内面ナツ。内面ナツ。右翼・長石・雲母多く含む。	64
15	K30669	K3759	SP290	粘土土器	高杯 胴部	外面褐色ハタ目・横ナツ。内面褐色ナツ。縦横ハタ目。外面に赤い黄褐色。内面淡黄褐色。右翼・長石・雲母の微細粒を含む。	64
16	K30691	K3765	SP314	石器	杵石	断面平行四辺形状。表面と1面黄褐色。縦断面を含めて被熱黒炭。花崗岩製。現重量765g。	64
17	K30693	K3775	SP276	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
18	K30694	K3777	SP377	粘土土器	甕 底部	外面褐色ナツ・ナツ。裏面ナツ。内面ナツ。外面に赤い黄褐色。内面灰黄色。右翼・長石・雲母を含む。	64
19	K30695	K3778	SP378	粘土土器	甕 口縁部	縦横ハタ目。外面ナツ。内面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母多く含む。	64
20	K30699	K3784	SP382	粘土土器	甕 底部	外面ササキ・縦ハタ目。内面ナツ。外面明褐色。内面灰褐色。右翼・長石・雲母多く含む。	64
21	K30691	K3788	SP390	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。口縁部2条の陶文。内外面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
22	K30692	K3791	SP403	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。口縁部2条の陶文。内外面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
23	K30693	K3794	SP418	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。口縁部2条の陶文。内外面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
24	K30694	K3806	SP433	石器	残片	小口に自然面。赤色岩質。現重量85g。	64
25	K30695	K3807	SP434	石器	明石	円盤状。平薄な表面。内面中央と外面の一端に細打痕を含む。砂岩製。現重量685g。	64
26	K30696	K3808	SP437	粘土土器	甕 口縁部	外面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。内面褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	64
27	K30697	K3813	SP441	粘土土器	甕 口縁部	内外面ナツ。外面に赤い黄褐色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	64
28	K30699	K3812	SP441	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。内外面褐色ナツ。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
29	K30698	K3812	SP441	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。内外面褐色ナツ。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
30	K30699	K3812	SP441	粘土土器	甕 胴部	外面褐色ハタ目。内面褐色ナツ・ナツ。外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
31	K30691	K3812	SP441	石器	扁平片方石	平面・断面とも扇形状。磨理表面方石。結晶片岩製。現重量46g。	64
32	K30692	K3814	SP447	粘土土器	甕 口縁部	内外面褐色ナツ。内外面明褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
33	K30694	K3812	SP477	粘土土器	甕 口縁部	外面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
34	K30693	K3812	SP477	粘土土器	甕 口縁部	口縁部内外面褐色ナツ。胴部ナツ。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
35	K30695	K3823	SP478	粘土土器	高杯 胴部	胴部3条の陶文。外面褐色。内面ナツ。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒や多く含む。	64
36	K30697	K3826	SP491	粘土土器	甕 底部	外面ササキ・縦ハタ目。内面ナツ。外面に赤い黄褐色。内面褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
37	K30698	K3826	SP491	粘土土器	甕 底部	外面褐色ナツ。内面ナツ。外面に赤い黄褐色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	64
38	K30698	K3829	SP508	粘土土器	甕 胴部	2段のツグ部状。外面ナツ。外面に赤い黄褐色。内面灰黄色。右翼・長石・雲母を含む。	65
39	K30695	K3841	SP557	粘土土器	甕 口縁部	内外面ナツ。外面淡褐色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	65
40	K30696	K3846	SP574	粘土土器	甕 胴部	外面褐色。胴部内面ナツ。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	65
41	K30697	K3847	SP576	粘土土器	甕 口縁部	外面褐色。外面灰黄色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	65
42	K30699	K3855	SP611	粘土土器	甕 口縁部	内外面褐色。外面に赤い黄褐色。内面褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	65
43	K30693	K3861	SP629	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。内外面褐色ナツ。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	65
44	K30694	K3868	SP651	粘土土器	甕 底部	内外面褐色。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母多く含む。	65
45	K30695	K3868	SP651	粘土土器	甕 口縁部	外面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。内面褐色。右翼・長石・雲母を含む。	65
46	K30696	K3868	SP651	粘土土器	高杯 胴部	胴部欠切痕。胴部2条の陶文。外面褐色ナツ・ナツ。胴部褐色ナツ。内面褐色ナツ。胴部ササキ。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	65
47	K30698	K3874	SP662	粘土土器	甕 底部	内外面ナツ。外面に赤い黄褐色。外面灰黄色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	65
48	K30699	K3874	SP662	粘土土器	高杯 胴部	胴部2条の陶文。内外面ナツ。外面に赤い黄褐色。内面褐色。右翼・長石・雲母を含む。	65
49	K30699	K3875	SP668	粘土土器	甕 底部	外面褐色ナツ。内面ナツ。外面に赤い黄褐色。内面明褐色。右翼・長石・雲母を含む。	65
50	K30691	K3875	SP668	粘土土器	甕 底部	内外面褐色。内外面明褐色。右翼・長石・雲母を含む。	65
51	K30692	K3876	SP675	粘土土器	甕 口縁部	内外面褐色ナツ。外面灰黄色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を多く含む。東南部九州系・山ノ口式系の輸入土器。	65
52	K30695	K3882	SP683	粘土土器	付付鉢 口縁部	口縁部3条の陶文。内外面褐色。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	65
53	K30696	K3894	SP712	粘土土器	甕 底部	外面褐色ハタ目・ナツ。内面ナツ・ナツ。外面に赤い黄褐色。外面灰黄色。内面褐色。右翼・長石・雲母を多く含む。	65
54	K30696	K3899	SP717	粘土土器	甕 底部	外面褐色。内面褐色ナツ・ナツ。胴部ナツ。外面に赤い黄褐色。内面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を多く含む。	65
図136～138 古墳時代後期出土遺物							
1	K30672	K3733	SP188	土器	甕 口縁部	内外面褐色ナツ。外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	66
2	K30676	K3737	SP194	灰土器	環 口縁部	内外面褐色ナツ。外面灰褐色。内面灰ナツ。右翼・長石を含む。	66
3	K30675	K3737	SP194	土器	甕 口縁部	内外面褐色ナツ。外面一側門縁状。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母を含む。	66
4	K30678	K3740	SP198	土器	甕 胴部	外面褐色ナツ・ナツ。胴部縦横ハタ目。内面褐色。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	66
5	K30692	K3745	SP203	灰土器	環 底部	外面回紋・ハタ目・ナツ。内面回紋ナツ。外面灰褐色。右翼・長石を含む。	66
6	K30691	K3745	SP203	粘土土器	甕 口縁部	口縁部2条の陶文。内外面褐色。内外面に赤い黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒を含む。	66
7	K30693	K3745	SP203	石器	残片	断面に自然面。花崗岩製。現重量167g。	66
8	K30699	K3763	SP309	灰土器	甕 胴部	外面ナツ・ナツ。内面回紋ナツ。外面灰褐色。自然面。内面灰褐色。右翼・長石を含む。	66
9	K30692	K3771	SP345	灰土器	甕 胴部	外面ナツ・ナツ。内面青褐色。外面灰褐色。内面灰褐色。右翼・長石を含む。	66
10	K30697	K3781	SP354	灰土器	甕 胴部	外面ナツ・ナツ。内面青褐色。内外面灰褐色。右翼・長石を含む。	66
11	K30696	K3781	SP354	粘土土器	高杯 胴部	胴部欠切痕。胴部3条の陶文。胴部2条の陶文。内外面褐色ナツ。内面回紋ナツ。外面に赤い黄褐色。内面褐色。右翼・長石を含む。	66
12	K30698	K3783	SP381	灰土器	環 底部	内外面回紋ナツ。外面回紋・ハタ目・ナツ。内外面灰褐色。右翼・長石を含む。	66
13	K30699	K3787	SP387	灰土器	環 底部	外面回紋・ハタ目・ナツ。内面青褐色・回紋回紋ナツ。内外面灰褐色。右翼・長石を含む。	66
14	K30699	K3832	SP514	灰土器	環 底部	口縁部2条の陶文。内外面褐色ナツ。内外面回紋ナツ。内外面灰褐色。粘土質。	66

遺物番号			出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・粘土等の特徴	図番号
図	実照	取上	種別	部位				
15	R3069	R3832	SP514	赤土土器	甕	腹部	腹部大きい沈降1条、内外面ナナ。外面にふい黄褐色、内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	66
16	R30621	R3953	SP514	鉄土	甕	腹部	腹部大きい沈降1条、内外面ナナ。外面にふい黄褐色、内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	94
17	R30624	R3835	SP523-524	磁土器	甕	腹部	外面回転ナナによる2段の様、内面ナナ。内外面灰色。石黄・長石含む。	66
18	R30623	R3835	SP523-524	赤土土器	無蓋ナナ	口縁部	外面回転ナナ目、内面ナナ。内外面灰色。石黄・長石・雲母の微細粒含む。	66
19	R30622	R3835	SP523-524	赤土土器	高杯	腹部	腹部部2条の凹線文、外面回転ナナ。内面ナナ。外面にふい黄褐色、内面に黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	66
20	R30628	R3853	SP736	黒色部	蓋	腹部	外面平行タタキ目後ナナ目、内面黄褐色文、外面黄褐色。石黄・長石含む。	66
21	R30631	R3863	SP634	土陶器	甕	腹部	外面回転ナナ目、内面下平オサメ・ナナ。上平オサメ・縦タタキ目。外面黒色、内面にふい褐色。石黄・長石・雲母含む。	66
22	R30632	R3864	SP637	黒色部	環身	底部	外面回転ハバタキ目、内面回転ナナ。口口時目回り。外面黄褐色、内面灰オリーブ色。石黄・長石含む。	66
23	R30633	R3866	SP643	黒色部	蓋	腹部	外面平行タタキ目後ナナ目、内面黄褐色文、外面黄褐色。内面にふい黄褐色。石黄・長石含む。	66
24	R30637	R3870	SP654	赤土土器	甕	上半部	口縁部部2条の凹線文、口縁部内外面回転ナナ。外面側部ナナ。内面側部オサメ・ナナ。内外面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	66
25	R30643	R3877	SP672	土陶器	甕	口縁部	外面記号状刻文。内外面回転ナナ。外面側部、内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	66
26	R30644	R3881	SP682	黒色部	環身	受部	内外面回転ナナ。内外面灰白色。石黄・長石含む。地蔵敷。	66
27	R30648	R2966	SP714-715	赤土土器	甕	底部	外面側部ミギキ、内面ナナ。外面にふい黄褐色、内面に黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	66
28	R30649	R2766	SP714-715	赤土土器	鉢	口縁部	外面側部ミギキ、内面側部ナナ目。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母含む。	66
29	R30647	R2966	SP714-715	赤土土器	高杯	外縁部	外面上部1条の凹線、外面側部ミギキ目。石黄・長石・雲母含む。	66
30	R30653	R2890	SP716	黒色部	杯身	下半部	内外面回転ナナ。外面側部回転ハバタキ目。外面黄褐色、内面に黄褐色。石黄・長石含む。	66
31	R30654	R2890	SP716	黒色部	杯身	受部	内外面回転ナナ。内外面灰色。石黄・長石含む。	66
32	R30652	R2890	SP716	土陶器	甕	口縁部	外面口縁部側部ナナ。内面オサメ。内外面側部、石黄・長石・雲母含む。	66
33	R30651	R2890	SP716	赤土土器	鉢	上半部	口縁部内外面側部ナナ。外面側部ミギキ目。内面側部ミギキ目。外面側部、内面に黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	66
34	R30650	R2890	SP716	赤土土器	鉢	底部	外面オサメ。内面ナナ。外面にふい黄褐色、内面にふい黄褐色。石黄・長石多く含む。	66
35	R30655	R184	SP716	石器	白石		枕状。断面縦三角形。3面いずれも磨面。花崗岩製。現重量16,000g。	67
36	R30657	R3062	SP723	黒色部	環身	底部	外面ヘラ記号。内外面回転ナナ。外面側部ハバタキ目。内外面側部、石黄・長石含む。	66
図140 古代後半・中世の出土品								
1	R1105	R127	SP223-224	瓦器	甕	全形	外面口縁部側部ナナ。体部オサメ。内面側部、外面側部、内面に黄褐色。石黄・長石含む。	91
2	R1106	R2782	SP766	土陶器	甕	口縁部	外面口縁部ナナ。腹部側部ハバタキ目。外面にふい黄褐色。底付者。内面にふい黄褐色。コサ目含む。石黄・長石・雲母多く含む。	91
3	R1107	R2818	SP463	瓦器	甕	口縁部	外面口縁部側部ナナ。体部オサメ。内面ナナ。内外面側部、石黄・長石含む。	91
4	R1108	R3036	SP725	瓦器	甕	底部	外面口縁部側部ナナ。体部オサメ。内面側部、外面側部、内面に黄褐色。石黄・長石含む。	91
図141~155 新羅土器								
1	R2030	R249	Ⅲ層 (DY27-6)	縄文土器	甕	腹部	腹部部1条の凹線、外面ナナ・ミギキ。内面ナナ目状のナナ。外面側部、内面に黄褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	71
2	R2009	R2114	Ⅲ層 (DT-DU28周定)	赤土土器	甕	腹部	腹部部1条の凹線、外面ナナ。外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	71
3	R2042	R245	Ⅲ層 (DX29-21)	赤土土器	甕	口縁部	腹部1条の沈降、口縁部の外面側部ナナ。外面側部ハバタキ目・ナナ。外面側部、内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	71
4	R2047	R2158	Ⅲ層 (DX30-22)	赤土土器	甕	口縁部	内外面側部ナナ。外面側部、内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
5	R2001	R2017	Ⅲ層 (DT29-16)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部ハバタキ目、外面側部ナナ。内外面側部、石黄・長石・雲母含む。	71
6	R2007	R2060	Ⅲ層下 (DS-D730)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部1条の凹線、外面側部オサメ・ナナ。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
7	R20378	R2437	Ⅲ層 (DX29-12)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部側部ハバタキ目、外面ナナ。内面オサメ・ナナ。外面にふい黄褐色、内面にふい黄褐色・灰黄色。石黄・長石・雲母含む。	71
8	R20114	R2250	Ⅲ層 (DV30-22)	赤土土器	甕	口縁部	内外面側部、外面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	71
9	R2005	R2144	Ⅲ層 (DX30-6)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部側部ハバタキ目による凹線、内外面側部ナナ。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
10	R20364	R2412	Ⅲ層 (DX28-25)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部1条の凹線文、内外面側部ナナ。外面側部オサメ。内面側部側部ナナ。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
11	R2009	R2034	Ⅲ層下 (DT29周定)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部2条の凹線文、外面側部ハバタキ目。外面側部、内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	71
12	R20072	R2037	Ⅲ層 (DX30-21)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部2条の凹線文、内外面側部ナナ。外面にふい褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	71
13	R2007	R2037	Ⅲ層下 (DT29周定)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部1条の凹線文、内外面側部。外面にふい黄褐色。一部凹線文。内面に黄褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
14	R20151	R2252	Ⅲ層 (DW30-9-10)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部2条の凹線文、内外面側部ナナ。外面側部、内面にふい黄褐色。石黄・長石・赤色粒含む。	71
15	R20176	R2434	Ⅲ層 (DX29-10)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部2条の凹線文、内外面側部ナナ。外面にふい褐色。明赤褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
16	R20155	R2286	Ⅲ層 (DX28-1)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部3条の凹線文、内外面側部ナナ。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
17	R20126	R2298	Ⅲ層下 (DW29島林部)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部3条の凹線文、内外面側部ナナ。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母含む。	71
18	R20161	R2401	Ⅲ層 (DX28-12)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部3条の凹線文、外面側部、外面側部、内面にふい褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	71
19	R20130	R2309	Ⅲ層 (DW28-6)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部3条の凹線文、内外面側部ナナ。外面にふい褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・赤色粒含む。	71
20	R20149	R2348	Ⅲ層 (DW30-4-5)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部3条の凹線文、内外面側部ナナ。外面にふい黄褐色。内面に黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	71
21	R20067	R2148	Ⅲ層 (DX30-6)	赤土土器	甕	口縁部	口縁部部5条の凹線文後垂下クシ文。内外面側部ナナ。外面側部、内面にふい黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	71

遺物番号		出土状況		遺物の内容			文様・調整・色調・貼上等の特徴	収納番号
図	実面	取上	部位・遺構	種類	形状	部位		
22	R20174	R2429	Ⅲ層下 (DX29-7)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部4条の凹線文。外面部ナデ・オサエ。外面ナデナ。外面にふい青褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母を含む。	71
23	R20068	R2101	Ⅲ層 (DX28-1)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部3条の凹線文。面部強い横ナデによる変形 (内面C様)。外面部ナデ。内面口縁部横ナデ目。面部ナデ。内外面にふい青褐色。石黄・長石・雲母・角閃石・赤色粒を含む。中腹部付口縁からの破片品。	71
24	R20094	R2192	Ⅲ層 (DV27-6)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部5条の凹線文。内外面部青褐色。外面にふい黄褐色。内面黄褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	71
25	R20191	R2466	Ⅲ層 (DX30-11)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部1条の沈線・沈線・1条の凹線。内外面部ナデ。内外面黄褐色。石黄・長石・赤色粒を含む。	71
26	R20028	R2076	Ⅲ層 (DT30-6)	粘土土器	壺	口縁部	腹合口縁部ナデ山形文。内外面部青褐色。外面にふい褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母を含む。	71
27	R20134	R2315	Ⅲ層下 (DW28-29)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部内面ナデ文の散列。外面部腹合ナデ目。内外面部。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	71
28	R20027	R2071	Ⅲ層 (DX30-24)	粘土土器	壺	口縁部	外面部ハナ目。面部斜ナデ。内面オサエ・横ナデ。外面にふい青褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母。雲母微細粒多く含む。	72
29	R20023	R2068	Ⅲ層 (DT30-13)	粘土土器	壺	腹部	腹合不明。3条の沈線部に刺突文。内面に強いナデ・横ナデ目。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	72
30	R20183	R2448	Ⅲ層 (DX28-22)	粘土土器	壺	腹部	外面部斜ナデ。内面に強い縦方向のナデ。外面部ナデ。内面に褐色。内面黄褐色。石黄・長石・雲母を含む。	72
31	R20036	R2071	Ⅲ層 (DT30-24)	粘土土器	壺	腹部	9条以上の沈線。内面ナデ。外面にふい褐色。内面黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
32	R20132	R2311	Ⅲ層 (DW28-6)	粘土土器	壺	腹部	腹部貼付変形2条。内外面部ナデ。内外面にふい青褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
33	R20055	R2135	Ⅲ層下 (DX28-6)	粘土土器	壺	腹部	横ナデ貼付変形。内外面ナデ。内外面にふい青褐色。粘土粒多。	72
34	R20123	R2297	Ⅲ層 (DW27-25)	粘土土器	壺	腹部	外面部横ナデ目。内面部斜ナデ目。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
35	R20153	R2368	Ⅲ層 (DW31-11)	粘土土器	壺	腹部	横ナデ貼付変形。外面部青褐色。内面ナデ。外面にふい青褐色・灰黄褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	72
36	R20170	R2430	Ⅲ層 (DX29-1)	粘土土器	壺	腹部	貼付変形2条。外面部青褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
37	R20192	R2468	Ⅲ層 (DX30-13)	粘土土器	壺	腹部	横ナデ貼付変形。変形上下部横ナデ。外面部変形ナデ。内外面部。外面にふい褐色。内面褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
38	R20069	R2415	Ⅲ層下 (DX28)	粘土土器	壺	腹部	腹部刺突文。内外面ナデ。外面にふい褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母を含む。	72
39	R20142	R2332	Ⅲ層 (DW28-10) 腹	粘土土器	壺	腹部	腹部ナデ文の二枚目縦線による刺突文。外面ナデ。内面ナデ目。内外面部。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
40	R20144	R2333	Ⅲ層 (DW28-11)	粘土土器	壺	腹部	腹部ナデ文の二枚目縦線による刺突文。外面部青褐色。内面ナデ。外面にふい褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母を含む。	72
41	R20069	R2182	Ⅲ層 (DX31-13)	粘土土器	壺	底部	内外面ナデ。外面にふい青褐色。内面黄褐色。石黄・長石・雲母を含む。	72
42	R20131	R2339	Ⅲ層 (DW28-6)	粘土土器	壺	底部	内外面部ナデ。外面部ナデ。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母を含む。	72
43	R20092	R2503	Ⅲ層下 (DY30-16)	粘土土器	壺	下半部	外面部ナデ。底部ナデ。底面ナデ。外面部黄褐色。内面黄褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	72
44	R20069	R2151	Ⅲ層 (DX30-11)	粘土土器	壺	底部	外面部斜ナデ。内面ナデ。外面部黄褐色。内面褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
45	R20073	R2137	Ⅲ層 (DX30-21)	粘土土器	壺	底部	外面部斜ナデ。内面ナデ。外面部黄褐色。内面褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
46	R20171	R2421	Ⅲ層下 (DX29-14) 腹	粘土土器	壺	底部	外面部ハナ目・ナデ。外面オサエ・ナデ。内面オサエ。外面部黄褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	72
47	R20147	R2341	Ⅲ層下 (DW28-S-10) 腹	粘土土器	壺	底部	外面部ナデ。底部オサエ・ナデ。内面部腹合ハナ目。底部オサエ。外面にふい青褐色。内面黄褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	72
48	R20109	R2242	Ⅲ層 (DV30-15)	粘土土器	壺	底部	外面部ハナ目。内面ナデ。外面部黄褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	72
49	R20186	R2455	Ⅲ層下 (DX30-2-6) 腹	粘土土器	壺	口縁部	腹部刺突文。内外面部。内外面にふい褐色。石黄・長石・赤色の粒を含む。	73
50	R20146	R2338	Ⅲ層下 (DW28-19) 腹	粘土土器	壺	口縁部	腹部横ナデ目による目形貼付変形。内外面部ナデ。外面にふい褐色。内面部ナデ・明褐色。石黄・長石を含む。	73
51	R20033	R2279	Ⅲ層 (DS-D730)	粘土土器	壺	口縁部	内外面部ナデ。外面にふい褐色。内面黄褐色。石黄・長石・雲母の微細粒を含む。	73
52	R20036	R2380	Ⅲ層下 (DS-D730)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部内外面部ナデ。外面部腹合ハナ目ナデ。腹部内面ナデ。外面にふい青褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	73
53	R20066	R2199	Ⅲ層 (DV27-17)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部内外面部ナデ。外面部ナデ。外面にふい青褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73
54	R20122	R2288	Ⅲ層 (DW27-36)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部内外面部ナデ。腹部内外面部ナデ。外面にふい青褐色。内面にふい褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73
55	R20022	R2066	Ⅲ層 (DT30-14)	粘土土器	壺	上半部	口縁部内外面部・外面部腹合ナデ。内面ナデ目ナデ。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73
56	R20018	R2034	Ⅲ層下 (DT28-6) 腹	粘土土器	壺	口縁部	外面口縁部横ナデ。腹部腹合ハナ目。内外面部。外面にふい青褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73
57	R20190	R2466	Ⅲ層 (DX30-11)	粘土土器	壺	上半部	口縁部内外面部ナデ。外面部腹合ナデ。内外面部ナデ。外面部黄褐色。内面にふい青褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73
58	R20136	R2322	Ⅲ層 (DW28-2)	粘土土器	壺	口縁部	腹部ナデ刺突文。口縁部内外面部ナデ。外面にふい青褐色。内面黄褐色。石黄・長石を含む。	73
59	R20127	R2298	Ⅲ層下 (DW27-5) 腹	粘土土器	壺	口縁部	口縁部内外面部ナデ。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73
60	R20162	R2402	Ⅲ層 (DX28-13)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部腹合ハナ目。外面オサエ。内外面部ナデ。外面にふい褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73
61	R20163	R2407	Ⅲ層 (DX28-19)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部腹合ハナ目。外面部黄褐色。内外面部。石黄・長石多く含む。東海部九州系・山ノ口式土器の類土器。	73
62	R20070	R2154	Ⅲ層 (DX30-16)	粘土土器	壺	上半部	口縁部腹合ハナ目。口縁部内外面部ナデ。外面部ナデ。内外面部ナデ。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒を含む。	73
63	R20100	R2222	Ⅲ層 (DV29-14)	粘土土器	壺	口縁部	口縁部腹合ハナ目。外面部黄褐色。内外面部ナデ。内外面にふい褐色。石黄・長石・雲母を含む。	73

遺物番号	出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・粘土等の特徴	収納番号
	実面	取上 部位・遺構	種類	部位		
64 R20145	R2328	Ⅱ層下 (DW29-19間近)	粘土土器	甕	口縁部 口縁部2条の凹溝文、面影部貼付突起。口縁部内外面横ナズ。外面ナズ。内面斜ハナ目。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	73
65 R20140	R2330	Ⅱ層下 (DW29-19間近)	粘土土器	甕	口縁部 口縁部2条の凹溝文。内外面横ナズ。外面灰黄色。内面褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
66 R20124	R2297	Ⅱ層 (DW27-35)	粘土土器	口縁部	口縁部2条の凹溝文。内外面横ナズ。内外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
67 R20003	R2048	Ⅱ層 (DT30-9)	粘土土器	甕	口縁部 口縁部2条の凹溝文。内外面横ナズ。外面にふい・褐色。一部赤砂。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母の微細粒含む。	73
68 R20038	R2084	Ⅱ層 (DT31-1)	粘土土器	上平部	口縁部 口縁部2条の凹溝文、面影ノミ状文。口縁部内外面横ナズ。外面頸部横ハナ目。内面頸部斜ハナ目。内外面灰黄色。石黄・長石・雲母含む。	73
69 R20185	R2455	Ⅱ層下 (DX30-12-67間近)	粘土土器	甕	口縁部 口縁部2条の凹溝文。内外面口縁部・面影部横ナズ。面影部横。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・赤色の微細粒含む。燧石・燧石。	73
70 R20102	R2223	Ⅱ層 (DV29-15)	粘土土器	甕	口縁部 口縁部2条の凹溝文、面影ノミ状文。外面口縁部横ナズ。面影部横ハナ目。内面横。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
71 R20001	R2088	Ⅱ層 (DT31-3)	粘土土器	甕	口縁部 布目押圧貼付突起。内面横ナズ。内外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
72 R20125	R2297	Ⅱ層 (DW27-35)	粘土土器	甕	口縁部 外面頸部横ナズ。頸部横ハナ目・ナズ。内面頸部横ナズ。頸部ナズ。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
73 R20096	R2200	Ⅱ層 (DW27-35)	粘土土器	甕	口縁部 外面上ナズ・ミナギ。下部ナズ。内面下部横ナズ・ナズ。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	73
74 R20090	R2182	Ⅱ層 (DX31-13)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ハナ目。内面下部ナズ・中位以上ナズ。外面灰褐色。下部横。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	73
75 R20075	R2158	Ⅱ層 (DX30-22)	粘土土器	甕	口縁部 面影部突起。外面頸部横ナズ。頸部ナズ。内面オサエ・ナズ。外面褐色。内面灰褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	73
76 R20112	R2247	Ⅱ層 (DV30-19)	粘土土器	甕	口縁部 面影部突起。外面横ハナ目・ナズ。内面ナズ。外面にふい・褐色。下部横。内面褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
77 R20173	R2427	Ⅱ層下 (DX29-6)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ミナギ。下部オサエ。底面ナズ。内面横。外面にふい・褐色。内面灰褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	73
78 R20179	R2439	Ⅱ層 (DX29-15)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ミナギ。底面ナズ。内面横。外面にふい・褐色。内面赤褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
79 R20088	R2180	Ⅱ層 (DX31-11)	粘土土器	甕	口縁部 外面オサエ・ナズ。内面ナズ・ナズ。内外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
80 R20064	R2169	Ⅱ層 (DX31-2)	粘土土器	甕	口縁部 内外面ナズ。外面にふい・褐色。内面灰褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
81 R20181	R2142	Ⅱ層 (DX29-18)	粘土土器	甕	口縁部 外面オサエ。底面ナズ。内面横。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
82 R20195	R2171	Ⅱ層 (DX30-15)	粘土土器	甕	口縁部 外面頸部ナズ。下部布目オサエ。底面ナズ。内面ナズ。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
83 R20143	R2232	Ⅱ層 (DW29-19間近)	粘土土器	甕	口縁部 外面横。外面にふい・褐色。内面灰黄色。コケ付着。石黄・長石・雲母多く含む。	73
84 R20160	R2298	Ⅱ層 (DX28-9)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ミナギ。内面オサエ・ナズ。外面灰黄色。内面灰褐色。石黄・長石・雲母含む。	73
85 R20165	R2113	Ⅱ層下 (DX28)	粘土土器	甕	口縁部 内外面ナズ・ナズ。外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	73
86 R20157	R2296	Ⅱ層 (DX28-2)	粘土土器	甕	口縁部 内外面オサエ・ナズ。外面横。内面灰黄色。石黄・長石・雲母多く含む。	73
87 R20159	R2298	Ⅱ層 (DX28-9)	粘土土器	甕	口縁部 外面オサエ・ナズ。底面ナズ・横ナズ。内面横。外面にふい・褐色。内面灰黄色。石黄・長石・赤色粒含む。	73
88 R20077	R2160	Ⅱ層 (DX30-24)	粘土土器	甕	口縁部 外面ナズ・横ミナギ。内面オサエ・ナズ。下部横ハナ目。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母多く含む。	73
89 R20051	R2124	Ⅱ層 (DX29-19)	粘土土器	上平部	口縁部 口縁部内外面横ナズ。外面頸部横。内面頸部ナズ。外面灰黄色。内面褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
90 R20198	R2400	Ⅱ層 (DX31-13)	粘土土器	上平部	口縁部 口縁部内外面横ナズ。外面頸部横。内面頸部ナズ。外面灰黄色。内面褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
91 R20043	R2099	Ⅱ層下 (DT31間近)	粘土土器	口縁部	口縁部 内外面横ナズ。内外面にふい・褐色。石黄・長石含む。雲母微細粒多く含む。	74
92 R20064	R2142	Ⅱ層 (DX30-3)	粘土土器	口縁部	口縁部 口縁上部ナズ・横直線文。口縁部頸目貼付突起。外面2条以上の沈線。内外面横ナズ。外面褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
93 R20117	R2280	Ⅱ層下 (DV30-31間近)	粘土土器	口縁部	口縁部 口縁部2条のツリ線直線文、面影文。内面横。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
94 R20113	R2247	Ⅱ層 (DV30-19)	粘土土器	口縁部	口縁部 口縁部内外面横ナズ。外面内外面オサエ。外面内外面ナズ。内外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
95 R20121	R2287	Ⅱ層下 (DW25-11)	粘土土器	甕	口縁部 外面頸部突起。外面斜ハナ目・横ミナギ。内面ナズ。外面灰黄色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
96 R20015	R2102	Ⅱ層下 (DT29間近)	粘土土器	上平部	口縁部 外面頸部突起。外面横ナズ。内面ナズ。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
97 R20047	R2030	Ⅱ層 (DW27-35)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ミナギ。内面オサエ・ナズ。外面横ハナ目・ナズ。内面オサエ・ナズ。外面にふい・褐色。内面灰黄色。石黄・長石・雲母の微細粒含む。	74
98 R20063	R2168	Ⅱ層 (DX31-1)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ミナギ。内面横。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
99 R20071	R2155	Ⅱ層 (DX30-18)	粘土土器	甕	口縁部 外面オサエ・ナズ。内面ナズ。内外面横。石黄・長石・雲母含む。	74
100 R20188	R2261	Ⅱ層下 (DX30-5・10間近)	粘土土器	甕	口縁部 外面オサエ。底面ナズ。内面ナズ。外面横。外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	74
101 R20150	R2361	Ⅱ層下 (DW30-9間近)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ミナギ。底面オサエ。内面ナズ。外面灰褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
102 R20148	R2347	Ⅱ層下 (DW30-2間近)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ミナギ。内面ナズ。外面にふい・褐色。内面灰黄色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	74
103 R20158	R2296	Ⅱ層 (DX28-2)	粘土土器	甕	口縁部 外面横ハナ目。底面オサエ・ナズ。内面ナズ。外面にふい・褐色。内面灰黄色。外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	74
104 R20107	R2275	Ⅱ層下 (DV29間近)	粘土土器	高坏	口縁部 内外面横ナズ。内外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
105 R20110	R2242	Ⅱ層 (DV30-15)	粘土土器	高坏	口縁部 外面頸部オサエ。頸部ナズ。内面ナズ。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
106 R20133	R2314	Ⅱ層下 (DW38-12)	粘土土器	高坏	口縁部 外面横。内面横ミナギ。外面にふい・褐色。内面にふい・褐色・にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74
107 R20045	R2100	Ⅱ層下 (DT31間近)	粘土土器	高坏	口縁部 口縁部内外面横ナズ。外面ナズ。内面ナズ・ミナギ。外面にふい・褐色。内面横。石黄・長石・雲母含む。	74
108 R20065	R2169	Ⅱ層 (DX31-2)	粘土土器	高坏	口縁部 内外面横。内面にふい・褐色。石黄・長石・雲母・赤色粒含む。	74
109 R20105	R2230	Ⅱ層 (DV29-22)	粘土土器	高坏	口縁部 内外面横ハナ目。内外面にふい・褐色。石黄・長石・雲母含む。	74

図	遺物番号		出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・粘土等の特徴	収録番号
	実面	取上	層位・遺構	種類	部材	部分		
100	R20166	R2413	Ⅲ層下 (DX28)	粘土土器	高坏	口縁部	口縁部2条の浅い凹線文。外面磨光。内面口縁部横ナナ、環部ナナ。外面に黄褐色、内面灰褐色。右長・長石・雲母含む。	74
111	R20184	R2413	Ⅲ層下 (DX28)	粘土土器	高坏	口縁部	口縁部外面に黄褐色。内外面横ナナ。外面磨光。内面に黄褐色。右長・長石・雲母・赤土を含む。	74
112	R20189	R2462	Ⅲ層 (DX30-6)	粘土土器	高坏	口縁部	口縁部5条の凹線文。内外面横ナナ。内面に黄褐色。右長・長石・雲母の微細粒含む。	74
113	R20187	R2455	Ⅲ層下 (DX31-2-6-7間)	粘土土器	高坏	口縁部	口縁部4条の凹線文。口縁部内横ナナ。環部内外面ナナ。外面に黄褐色。内面褐色。右長・長石・雲母含む。	74
114	R20154	R2390	Ⅲ層 (DX27-22)	粘土土器	高坏	脚部	外面磨光ナナ。内面上部ナナ。下部オサヌ。内外面磨光。右長・長石・雲母・赤土を含む。	74
115	R20108	R2241	Ⅲ層 (DV30-14)	粘土土器	高坏	脚部	内外面磨光。外面褐色。内面に黄褐色。右長・長石・赤土を含む。	74
116	R20167	R2413	Ⅲ層下 (DX28)	粘土土器	高坏	環部	内外面ナナ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。右長・長石・雲母多く含む。	74
117	R20177	R2404	Ⅲ層 (DX29-10)	粘土土器	高坏	脚部	内面通。内外面ナナ。外面一部横ナナ。内外面に黄褐色。右長・長石・雲母含む。	74
118	R20092	R2184	Ⅲ層下 (DX31間)	粘土土器	高坏	脚部	環部4条・環部1条の凹線文。脚部矢引横ナナ。外面に黄褐色。右長・長石・雲母含む。	74
119	R20091	R2182	Ⅲ層 (DX31-13)	粘土土器	高坏	脚部	環部4条・環部1条の凹線文。脚部本貫通矢引横ナナ。環部中に2条の凹線。外面脚部ナナ。内面ナナ。外面に黄褐色。内面に黄褐色。右長・長石・雲母含む。	74
120	R20128	R2296	Ⅲ層下 (DW27高状部)	粘土土器	高坏?	脚部	環部半環状状変文。環部1条の凹線。外面環部横ナナ。脚部環ナナ。内面ナナ。内外面に黄褐色。右長・長石・雲母含む。	74
121	R20099	R2220	Ⅲ層 (DV29-10)	粘土土器	高坏?	口縁部?	内外面に黄褐色。外面横ナナ。内面横ナナ。内外面褐色。右長・長石・雲母・赤土を含む。	74
122	R20137	R2205	Ⅲ層 (DV29-6)	粘土土器	高坏?	脚部?	内外面に黄褐色。内外面横ナナ。右長・長石・赤土を含む。	74
123	R20013	R2031	Ⅲ層下 (DX29-6)	粘土土器	支脚	脚部	外面ナナ。内外面横ナナ。内外面に黄褐色。右長・長石・雲母多く含む。	74
124	R20135	R2018	Ⅲ層 (DV29-22)	粘土土器	支脚	脚部?	表面オサヌ。内外面に黄褐色。右長・長石・雲母含む。	74
125	R20101	R2222	Ⅲ層 (DV29-14)	灰土器	環壺	全形	口縁部内面に2段。口縁部と天身部に凹線。内外面横ナナ。外面天身部凹線ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
126	R20088	R2216	Ⅲ層 (DV29)	灰土器	環壺	全形	口縁部内面に2段。口縁部と天身部に凹線。内外面横ナナ。外面天身部凹線ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
127	R20115	R2270	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	環壺	口縁部	口縁部と天身部に凹線。内外面横ナナ。内外面灰色。粘土磨光。	75
128	R20062	R2125	Ⅲ層 (DV29-20)	灰土器	環壺	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。粘土磨光。	75
129	R20068	R2413	Ⅲ層下 (DX28)	灰土器	環壺	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
130	R20044	R2096	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	環壺	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。粘土磨光。	75
131	R20061	R2239	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	環壺	口縁部	口縁部内面に2段。口縁部と天身部に凹線。内外面横ナナ。外面天身部凹線ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
132	R20078	R2245	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	環壺	全形	内外面横ナナ。外面天身部凹線ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
133	R20111	R2164	Ⅲ層 (DV30-16)	灰土器	環壺	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。粘土磨光。	75
134	R20119	R2290	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	環壺	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
135	R20175	R2240	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	環壺	口縁部	内外面横ナナ。外面凹線。内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
136	R20096	R2100	Ⅲ層 (DX27-25)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
137	R20196	R2479	Ⅲ層下 (DX30)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。外面凹線。内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。受部に環壺との重なり痕。	75
138	R20011	R2036	Ⅲ層 (DV29-24)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
139	R20004	R2108	Ⅲ層下 (DV29-17)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。外面重なり痕。	75
140	R20138	R2228	Ⅲ層 (DV29-30)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
141	R20172	R2413	Ⅲ層下 (DX29-16間)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
142	R20005	R2018	Ⅲ層 (DV29-17)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石の微細粒含む。焼成不良。	75
143	R20010	R2036	Ⅲ層 (DV29-24)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。外面凹線。内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
144	R20066	R2146	Ⅲ層 (DX30-7)	灰土器	杯	口縁部	内外面横ナナ。外面凹線ナナ。内外面灰色。右長・長石の微細粒含む。	75
145	R20044	R2079	Ⅲ層下 (DX27-30)	灰土器	碗	口縁部	口縁部内面に2段。口縁部と天身部に凹線。内外面横ナナ。外面天身部凹線ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
146	R20067	R2135	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	碗	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
147	R20066	R2135	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	碗	口縁部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。	75
148	R20029	R2076	Ⅲ層 (DV30間)	灰土器	高坏	脚部	外面通。内外面横ナナ。外面磨光。内面に黄褐色。右長・長石の微細粒含む。	75
149	R20001	R2076	Ⅲ層 (DV30間)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。内外面灰色。粘土磨光。	75
150	R20068	R2135	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	高坏	脚部	外面通。内外面横ナナ。外面磨光。内面に黄褐色。右長・長石の微細粒含む。	75
151	R20068	R2135	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	高坏	脚部	外面通。内外面横ナナ。外面磨光。内面に黄褐色。右長・長石の微細粒含む。	75
152	R20120	R2280	Ⅲ層 (DV30-31間)	灰土器	高坏	脚部	外面通。内外面横ナナ。外面磨光。内面に黄褐色。右長・長石の微細粒含む。	75
153	R20000	R2076	Ⅲ層 (DV30-31間)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
154	R20003	R2017	Ⅲ層 (DV29-16)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。内外面灰色。粘土磨光。	75
155	R20180	R2440	Ⅲ層 (DX29-16)	灰土器	高坏	脚部	外面環部ナナ。内面横ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
156	R20002	R2017	Ⅲ層 (DV29-16)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
157	R20002	R2136	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	高坏	脚部	外面環部ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
158	R20008	R2017	Ⅲ層 (DV29-16)	灰土器	高坏	脚部	外面環部ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
159	R20016	R2017	Ⅲ層 (DV29-16)	灰土器	高坏	脚部	外面環部ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
160	R20012	R2017	Ⅲ層 (DV29-16)	灰土器	高坏	脚部	外面環部ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
161	R20009	R2096	Ⅲ層 (DV31-2)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。内外面灰色。粘土磨光。	75
162	R20069	R2135	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。焼成やや軟弱。	75
163	R20139	R2238	Ⅲ層 (DV29-30)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
164	R20063	R2136	Ⅲ層下 (DX29-11間)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。内外面灰色。右長・長石を含む。焼成やや軟弱。	75
165	R20003	R2079	Ⅲ層 (DX27-30)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。粘土磨光。	75
166	R20199	R2491	Ⅲ層 (DX31-14)	灰土器	高坏	脚部	外面環部ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
167	R20104	R2227	Ⅲ層 (DV29-24)	灰土器	高坏	脚部	外面環部ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。外面環部ナナ。外面環部ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
168	R20079	R2167	Ⅲ層下 (DV-30-31)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75
169	R20025	R2065	Ⅲ層 (DV30-31)	灰土器	高坏	脚部	内外面横ナナ。外面灰色。内面に黄褐色。右長・長石を含む。	75

遺物番号	出土状況	遺物の内容	文様・調整・色調・貼上等の特徴	収納番号
170 R20008 R2130	遺層 (DX30-9)	土師器 甕	内外面黒ナツ。内外面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒含む。	76
171 R20106 R2274	遺層下 (DV29-2周)	土師器 甕	内外面黒ナツ。内外面にふい黄褐色。右翼・長石多く含む。	76
172 R20118 R2280	遺層下 (DV30-31周)	土師器 甕	外面オサエ・黒ナツ。内面ナツ。内外面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母含む。	76
173 R20082 R2507	遺層 (DT30-8周)	土師器 甕	内外面黒ナツ。内外面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母含む。	76
174 R20067 R2523	遺層下 (DT29-30)	土師器 甕	内外面黒ナツ。内外面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母含む。	76
175 R20454 R2122	遺層下 (DT29-25)	土師器 甕	内外面黒ナツ。内外面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母含む。	76
176 R20014 R2503	遺層下 (DT29-2周)	土師器 甕	外面黒ハケ目・黒ナツ。内面黒部黒ハケ目・黒部オサエ。内外面黒色。右翼・長石含む。	76
177 R20116 R2279	遺層下 (DV30周)	土師器 甕	口縁外側ナツ。下部黒ハケ目。内面黒部・内外面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母多く含む。	76
178 R20063 R2127	遺層下 (DV29-22)	土師器 甕	外面黒ハケ目・黒ナツ。内面ナツ。内外面黒色。右翼・長石・雲母含む。	76
179 R20000 R2136	遺層下 (DV29-2周)	土師器 甕	外面黒部・オサエ。全体黄褐色。右翼・長石・赤色粒多く含む。	76
180 R20097 R2203	遺層下 (DV27-22)	土師器 甕	外面オサエ。表面にふい黄褐色。右翼・長石多く含む。	76
181 R20003 R2165	遺層下 (DV30周)	土師器 甕	外面口縁部黒ナツ。下部黒ハケ目。内面黒部。外面黒部。内面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒含む。	76
182 R20103 R2468	遺層下 (DX30-13)	土師器 鉢	内外面オサエ・黒ナツ。内外面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母・赤色粒含む。	76
183 R20194 R2147	遺層 (DX30-15)	土師器 高坏	外面ナツ。内面オサエ。外面赤部赤黒部・内面にふい黄褐色。右翼・長石・雲母の微細粒含む。	76
184 R20080 R2167	遺層下 (DU-DV30-31)	土師器 泡盛甕	内外面黒部・外面黒部。横線により一部にふい黄褐色。内面黒部。右翼・長石多く含む。	76
185 R20081 R2167	遺層下 (DU-DV30-31)	土師器 泡盛甕	外面オサエ。内面シロリ。内面・内外面にふい黄褐色。右翼・長石多く含む。	76
186 R20082 R2167	遺層下 (DU-DV30-31)	土師器 泡盛甕	外面オサエ。内面シロリ。内面・内外面にふい黄褐色。右翼・長石多く含む。	76
187 R20009 R2263	遺層下 (DT29-30)	土師器 甕	外面・外面および表面部平直に研ぎ。結晶片質。重量108g。	77
188 R20050 R2114	遺層下 (DT28-14周)	石器 石片	片面微細粒。片面微細粒。片面微細粒一部あり。結晶片質。重量296g。	77
189 R20156 R2295	遺層下 (DX30-13)	石器 石片	片面微細粒。片面微細粒。片面微細粒一部あり。結晶片質。重量89g。	77
190 R20097 R2129	遺層下 (DX31-7)	石器 石片	片面に微細粒一部あり。結晶片質。重量191g。	77
191 R20096 R2275	遺層下 (DV30-15周)	石器 石片	断面片。断面片と外面がわずかに残る。火成岩製。重量14.7g。	77
192 R20024 R2168	遺層 (DT30-15)	石器 磨製石片	平直な石片表面が微細。断面が粗く。断面に微細粒多数あり。火成岩製。重量81.3g。	77
193 R20086 R2219	遺層 (DX31-6)	石器 柱状片石片	断面に沿って断面と外面が粗く残る。結晶片質。重量106g。	77
194 R20026 R2173	遺層下 (DV30-9周)	石器 柱状片石片	断面に沿って断面と外面が粗く残る。結晶片質。重量288g。	77
195 R20152 R2261	遺層下 (DV30-11)	石器 石片	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量198g。	77
196 R20141 R2261	遺層下 (DV30-10周)	石器 石片	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量198g。	77
197 R20035 R2215	遺層下 (DV30-13周)	石器 石片	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量198g。	77
198 R20033 R2255	遺層下 (DV30-30)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量65.3g。	77
199 R20013 R2010	遺層 (DX28-23)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量53.3g。	77
200 R20097 R2211	遺層下 (DX29-14周)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量61.4g。	77
201 R20040 R2086	遺層 (DT31-2)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量7.9g。	77
202 R20029 R2295	遺層 (DV28-2)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量5.7g。	77
203 R20021 R2065	遺層 (DV30-14)	石器 打製石片	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量0.8g。	77
204 R20022 R2089	遺層 (DT31-4)	石器 打製石片	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量13.3g。	77
205 R20014 R2096	遺層下 (DV27-2周)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量44.9g。	77
206 R20038 R2524	遺層下 (DX30-14周)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量64.3g。	77
207 R20081 R2503	遺層下 (DV30-16)	石器 磨石	断面。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量1.8g。	77
208 R20033 R2509	遺層下 (DT30周)	鉄片	重量20.3g。	94
209 R20084 R2512	遺層下 (DT31周)	鉄片	重量25.4g。	94

図157 古代後半・中世の出土土器

1 R12021 R0617	SC43-44周	土師器 鉢	外面黒ハケ目・内面黒ナツ。外面黄褐色。内面黒部。右翼・長石多く含む。	92
2 R12014 R2530	遺層下 (DX28-7)	土師器 坏	外面黒部・内面黒部。外面黒部・内面黒部。外面・内面黄褐色。右翼・長石・雲母含む。	92
3 R12005 R2228	遺層 (DV29-10)	土師器 甕	内外面黒ナツ・ナツ。内外面黄褐色。右翼・長石・赤色粒含む。	92
4 R12012 R2272	遺層 (DX30-16)	土師器 甕	内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石含む。	92
5 R12006 R2228	遺層 (DV29-10)	土師器 甕	内外面黒部・内外面黄褐色。右翼・長石・赤色粒含む。	92
6 R12011 R2049	遺層下 (DV30-13周)	土師器 小皿	内外面黒ナツ。内外面黄褐色。右翼・長石含む。	92
7 R12010 R2466	遺層 (DX30-11)	土師器 小皿	内外面黒部・内外面黄褐色。右翼・長石の微細粒含む。	92
8 R12004 R2228	遺層 (DV31-6)	土師器 坏	内外面黒部・外面黒部・外面黒部。右翼・長石・赤色粒含む。	92
9 R12003 R2258	遺層 (DT31-5)	土師器 坏	内外面黒部・外面黒部・外面黒部。右翼・長石・赤色粒含む。	92
10 R20028 R2228	遺層 (DV29-10)	土師器 甕	内外面黒ナツ。内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石の微細粒含む。	92
11 R12066 R2529	遺層下 (DV29-10) R127上層	土師器 全形	内外面黒ナツ・外面黒部・外面オサエ。内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石含む。	92
12 R12017 R2529	遺層下 (DV29-10) R127上層	土師器 甕	内外面黒ナツ・外面黒部・外面オサエ。内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石含む。	92
13 R12013 R2504	遺層 (DV29-10)	土師器 甕	外面口縁部黒ナツ。外面オサエ。内面黒部。外面黒部・外面黒部。右翼・長石の微細粒含む。	92
14 R12017 R2228	遺層 (DV29-10)	土師器 甕	内外面黒ナツ・外面黒部・外面オサエ。内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石の微細粒含む。	92
15 R12015 R2522	遺層下 (DV29-10) R127上層	土師器 甕	外面黒ナツ・内外面黒部。右翼・長石の微細粒含む。	92
16 R12018 R2530	遺層 (DX30-18)	土師器 小皿	内外面黒ナツ・外面黒部・外面オサエ。内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石含む。	92
17 R12010 R2103	SC43-44周	土師器 小皿	内外面黒ナツ・外面黒部・外面オサエ。内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石含む。	92
18 R12023 R2029	SC4-5	土師器 小皿	内外面黒ナツ・外面黒部・外面オサエ。内外面黒部・内外面黒部。右翼・長石含む。	92
19 R12019 R2468	SC29-31	土師器 甕	内外面黒部・外面黒部。右翼・長石の微細粒含む。	92
20 R12002 R2061	遺層 (DV30-11)	土師器 甕	外面上・外面黒部・外面黒部。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量1.8g。	92
21 R12011 R2507	遺層 (DT31-1)	土師器 甕	外面黒部・外面黒部。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量1.8g。	92
22 R12009 R2523	遺層 (DX29-4)	土師器 小皿	外面黒部・外面黒部。断面片と外面が粗く残る。結晶片質。重量1.8g。	92

図版





1 表土掘削後全景（南東から）



2 遺構検出状況全景（南東から）



1 完掘全景（北から）



2 完掘全景（西から）



1 完掘全景（北東から）



2 古代・中世遺構完掘全景（南から）



1 調査区中央北部完掘状況（北から）



2 調査区中央東部完掘状況（西から）



1 SC-2・72・73, SC-3 検出状況 (南から)



2 SC-2・73 床面検出状況 (南から)



3 SC-2・73 完掘 (南から)



4 SC-72 中央土壇遺物出土状況 (北東から)



1 SC-3 遺物出土状況（北東から）



2 SC-3 完掘（南から）



1 SC-4, SC-14・15, SC-19・20・21・43 等完掘状況 (北から)



2 SC-14・15 完掘 (西から)



1 SC-14 カマド周辺土器出土状況（南東から）



2 SC-14 カマド土器出土状況（南から）



3 SC-14 カマド土器出土状況（南西から）



4 SC-14 カマド土器出土状況（南東から）



1 SC-19・20・21・42完掘（北から）



2 SC-22 完掘（北から）



1 SB-1, SC-23・24・25・26・27・29 完掘 (北から)



2 SC-52・54 完掘 (西から)



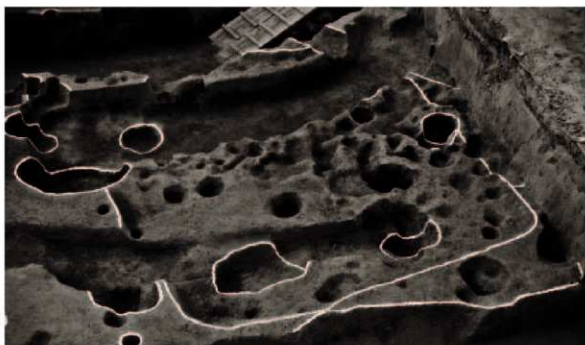
1 SC-43 カマド?遺物出土状況(南から)



2 SC-49 土壙遺物出土状況(北から)



3 SC-49 土壙遺物出土状況(北から)



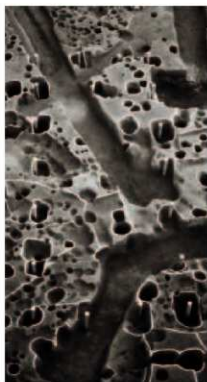
4 SC-43・44・49 完掘(東から)



1 SB-1 完掘 (1) (北から)



2 SB-1 完掘 (2) (北から)



3 SB-1 完掘 (3) (北から)



1 SB-1 SP-102 検出状況（南から）



2 SB-1 SP-102 土層（東から）



3 SB-1 SP-103・104 検出状況（北から）



4 SB-1 SP-103・104 土層（北から）



5 SB-1 SP-105 検出状況（西から）



6 SB-1 SP-106 検出状況（西から）



8 SB-1 SP-108 土層（東から）



7 SB-1 SP-106 土層（北西から）



2 SB-1 SP-110 土層 (西から)



3 SB-1 SP-111 検出状況 (西から)



1 SB-1 SP-109 土層 (北東から)



4 SB-1 SP-111 土層 (西から)



5 SB-1 SP-174 土層 (西から)



7 SB-1 SP-179 土層 (東から)



6 SB-1 SP-178 土層 (東から)



8 SB-1 SP-180 土層 (東から)



1 SB-63 完掘 (東から)



2 SP-118 土層 (南から)



4 SC-25 SP-194 土層 (北から)



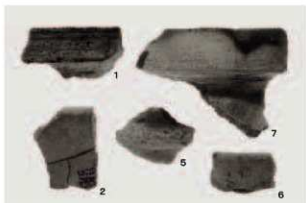
3 SP-420 (西から)



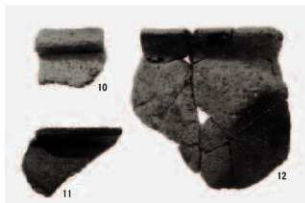
5 SC-64 SP-421 土層 (北から)



6 SP-223・224 遺物出土状況 (南から)



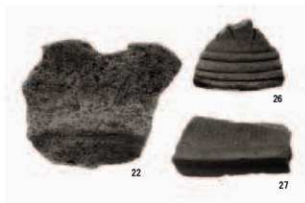
1 SC-2 出土遺物 (1)



2 SC-2 出土遺物 (2)



3 SC-2 出土遺物 (3)



4 SC-2 出土遺物 (4)



5 SC-2 出土遺物 (5)



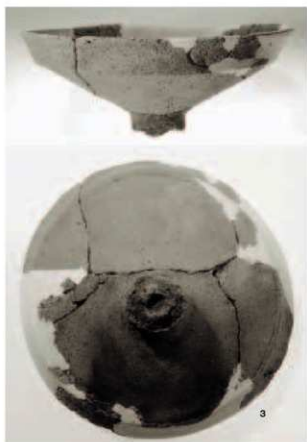
6 SC-2 出土遺物 (6)



7 SC-2 出土遺物 (7)



8 SC-2 出土遺物 (8)



1 SC-72 出土遺物 (1)



3 SC-72 出土遺物 (3)



5 SC-72 出土遺物 (5)



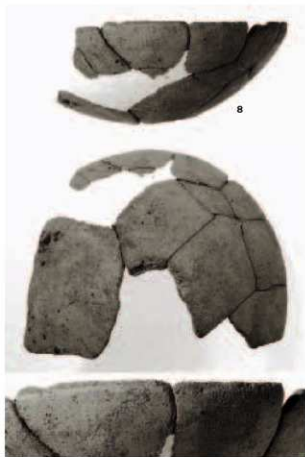
2 SC-72 出土遺物 (2)



4 SC-72 出土遺物 (4)



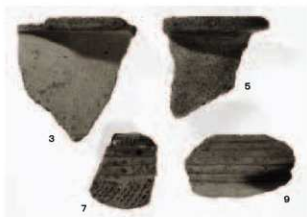
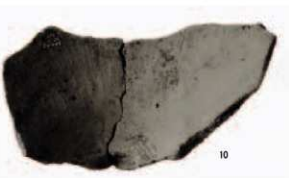
1 SC-73 出土遺物 (1)



3 SC-73 出土遺物 (3)



4 SC-73 出土遺物 (4)



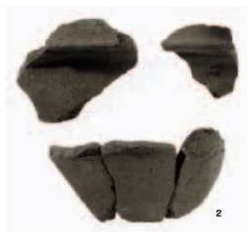
2 SC-73 出土遺物 (2)



5 SC-73 出土遺物 (5)



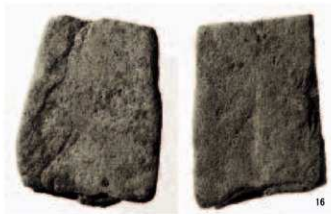
1 SC-13 出土遺物 (1)



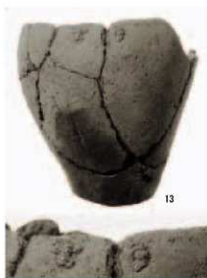
2 SC-13 出土遺物 (2)



3 SC-13 出土遺物 (3)



7 SC-13 出土遺物 (7)



4 SC-13 出土遺物 (4)



5 SC-13 出土遺物 (5)



6 SC-13 出土遺物 (6)



8 SC-13 出土遺物 (8)



1 SC-30 出土遺物 (1)



2 SC-30 出土遺物 (2)



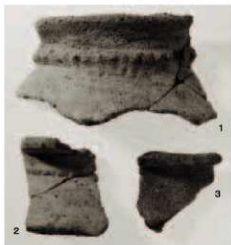
3 SC-30 出土遺物 (3)



4 SC-30 出土遺物 (4)



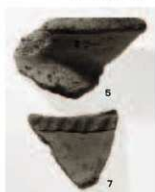
5 SC-30 出土遺物 (5)



1 SC-3 出土遺物 (1)



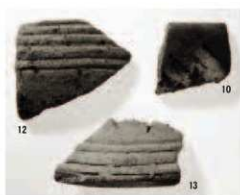
2 SC-3 出土遺物 (2)



3 SC-3 出土遺物 (3)



4 SC-3 出土遺物 (4)



5 SC-3 出土遺物 (5)



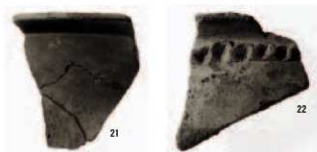
7 SC-3 出土遺物 (7)



6 SC-3 出土遺物 (6)



8 SC-3 出土遺物 (8)



1 SC-3 出土遺物 (9) 2 SC-3 出土遺物 (10)



4 SC-3 出土遺物 (12)



3 SC-3 出土遺物 (11)



5 SC-3 出土遺物 (13)



6 SC-3 出土遺物 (14)



8 SC-3 出土遺物 (16)



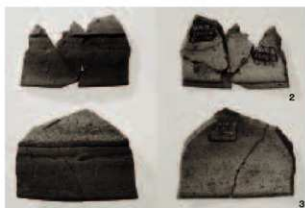
7 SC-3 出土遺物 (15)



1 SC-4 出土遺物 (1)



4 SC-4 出土遺物 (4)



2 SC-4 出土遺物 (2)



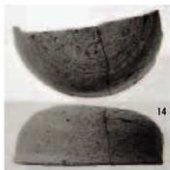
3 SC-4 出土遺物 (3)



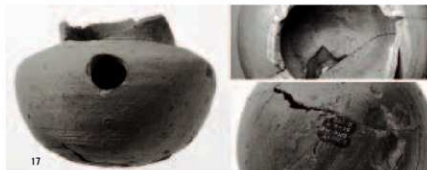
5 SC-4 出土遺物 (5)



6 SC-4 出土遺物 (6)



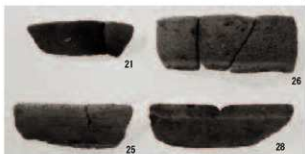
1 SC-4 出土遺物 (7)



2 SC-4 出土遺物 (8)



3 SC-4 出土遺物 (9)



4 SC-4 出土遺物 (10)



5 SC-4 出土遺物 (11)



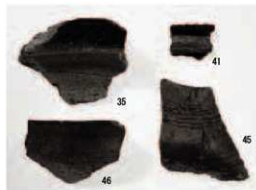
6 SC-4 出土遺物 (12)



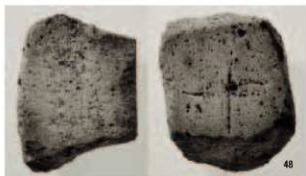
7 SC-4 出土遺物 (13)



9 SC-4 出土遺物 (15)



8 SC-4 出土遺物 (14)



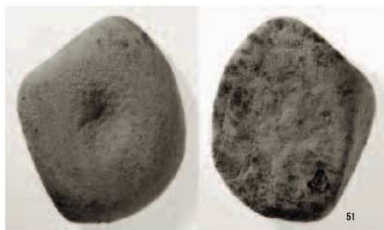
1 SC-4 出土遺物 (16)



2 SC-4 出土遺物 (17)



3 SC-4 出土遺物 (18)



4 SC-4 出土遺物 (19)



5 SC-4 出土遺物 (20)



6 SC-4 出土遺物 (21)



7 SC-4 出土遺物 (22)



8 SC-4 出土遺物 (23)



9 SC-4 出土遺物 (24)



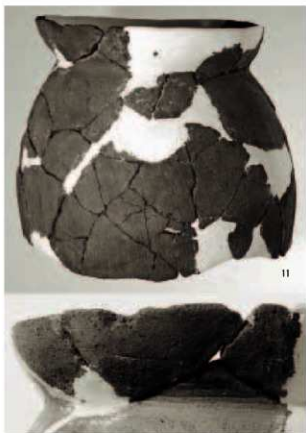
10 SC-4 出土遺物 (25)



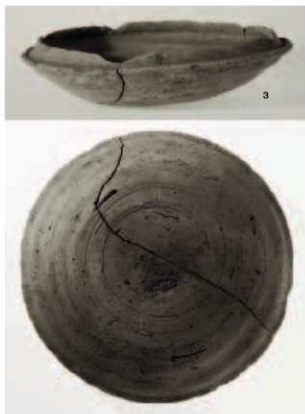
1 SC-14 出土遺物 (1)



2 SC-14 出土遺物 (2)



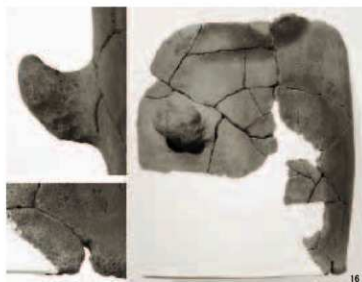
4 SC-14 出土遺物 (4)



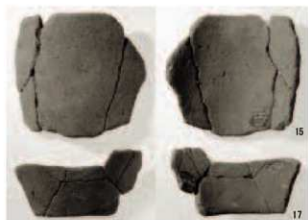
3 SC-14 出土遺物 (3)



1 SC-14 出土遺物 (5)



2 SC-14 出土遺物 (6)



3 SC-14 出土遺物 (7)



4 SC-14 出土遺物 (8)



6 SC-14 出土遺物 (10)



5 SC-14 出土遺物 (9)



7 SC-14 出土遺物 (11)



8 SC-14 出土遺物 (12)



9 SC-14 出土遺物 (13)



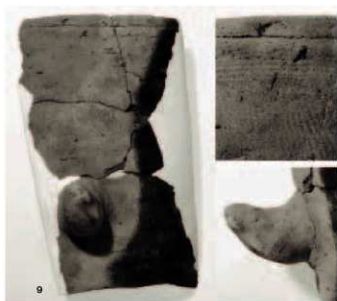
1 SC-15 出土遺物 (1)



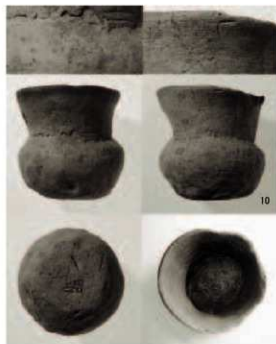
3 SC-15 出土遺物 (3)



2 SC-15 出土遺物 (2)



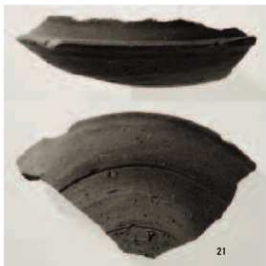
4 SC-15 出土遺物 (4)



5 SC-15 出土遺物 (5)



1. SC-14·15 出土遺物 (1)



3. SC-14·15 出土遺物 (3)



2. SC-14·15 出土遺物 (2)



4. SC-14·15 出土遺物 (4)



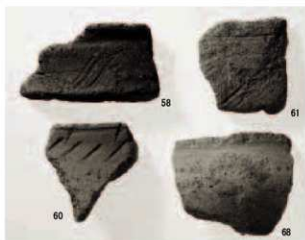
5. SC-14·15 出土遺物 (5)



7. SC-14·15 出土遺物 (7)



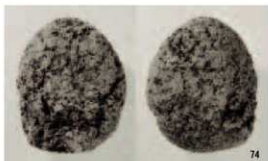
6. SC-14·15 出土遺物 (6)



8. SC-14·15 出土遺物 (8)



1 SC-14·15 出土遺物 (9)



3 SC-14·15 出土遺物 (11)



6 SC-14·15 出土遺物 (14)



7 SC-14·15 出土遺物 (15)



9 SC-14·15 出土遺物 (17)



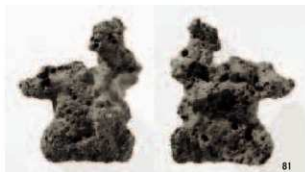
2 SC-14·15 出土遺物 (10)



5 SC-14·15 出土遺物 (13)



4 SC-14·15 出土遺物 (12)



8 SC-14·15 出土遺物 (16)



10 SC-14·15 出土遺物 (18)



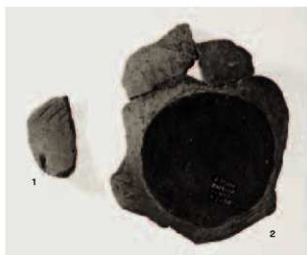
11 SC-14·15 出土遺物 (19)



12 SC-14·15 出土遺物 (20)



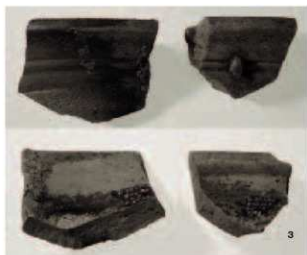
13 SC-14·15 出土遺物 (21)



1 SC-16 出土遺物



2 SC-10-11 出土遺物 (1)



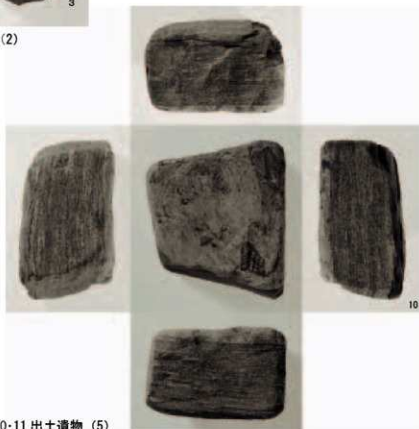
3 SC-10-11 出土遺物 (2)



4 SC-10-11 出土遺物 (3)



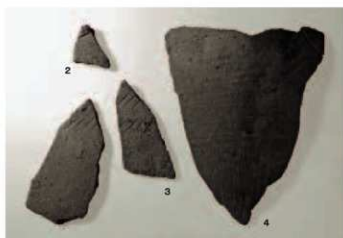
5 SC-10-11 出土遺物 (4)



6 SC-10-11 出土遺物 (5)



1 SC-12 出土遺物 (1)



2 SC-12 出土遺物 (2)



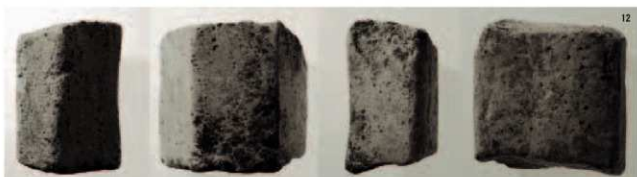
3 SC-12 出土遺物 (3)



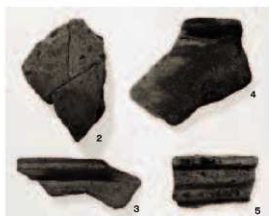
4 SC-12 出土遺物 (4)



6 SC-12 出土遺物 (6)



5 SC-12 出土遺物 (5)



1 SC-19 出土遺物 (1)



4 SC-19 出土遺物 (4)



2 SC-19 出土遺物 (2)



3 SC-19 出土遺物 (3)



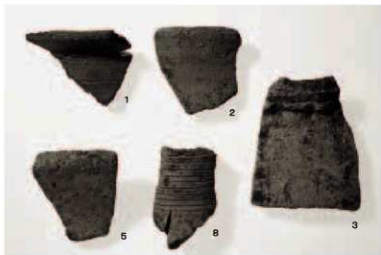
5 SC-20 出土遺物



6 SC-21 出土遺物 (1)



7 SC-21 出土遺物 (2)



1 SC-42 出土遺物 (1)



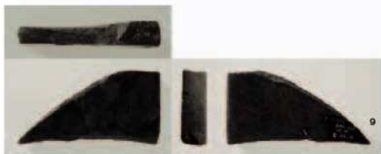
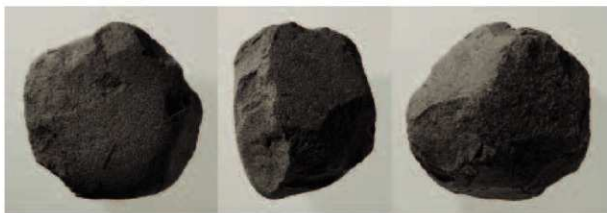
3 SC-42 出土遺物 (3)



2 SC-42 出土遺物 (2)



5 SC-42 出土遺物 (5)



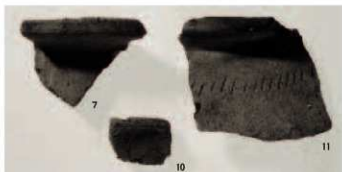
4 SC-42 出土遺物 (4)



6 SC-42 出土遺物 (6)



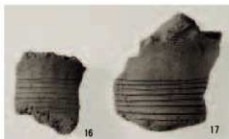
1 SC-22 出土遺物 (1)



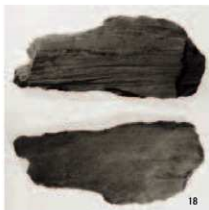
2 SC-22 出土遺物 (2)



3 SC-22 出土遺物 (3)



4 SC-22 出土遺物 (4)



5 SC-22 出土遺物 (5)



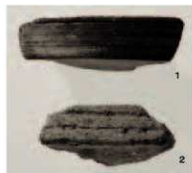
6 SC-22 出土遺物 (6)



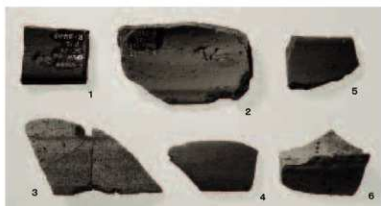
7 SC-22 出土遺物 (7)



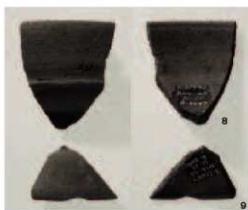
9 SC-41 出土遺物 (2)



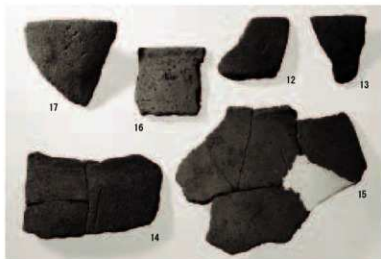
8 SC-41 出土遺物 (1)



1 SC-23 出土遺物 (1)



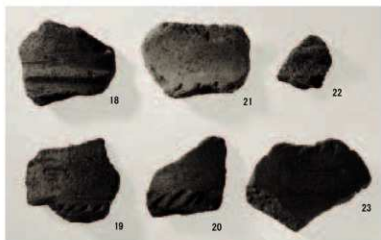
2 SC-23 出土遺物 (2)



3 SC-23 出土遺物 (3)



6 SC-23 出土遺物 (6)



4 SC-23 出土遺物 (4)



7 SC-23 出土遺物 (7)



5 SC-23 出土遺物 (5)



8 SC-23 出土遺物 (8)



1 SC-24 出土遺物 (1)



3 SC-24 出土遺物 (3)



2 SC-24 出土遺物 (2)



4 SC-25 出土遺物 (1)



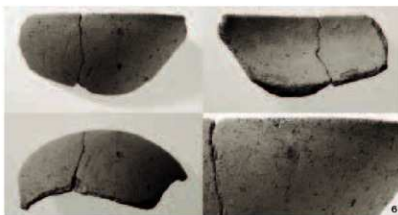
5 SC-25 出土遺物 (2)



6 SC-25 出土遺物 (3)



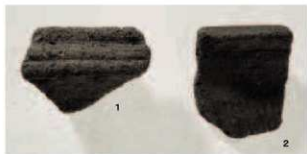
8 SC-25 出土遺物 (5)



7 SC-25 出土遺物 (4)



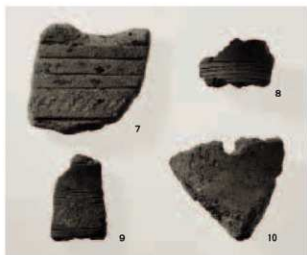
9 SC-25 出土遺物 (6)



1 SC-26 出土遺物 (1)



2 SC-26 出土遺物 (2)



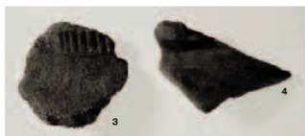
3 SC-26 出土遺物 (3)



4 SC-26 出土遺物 (4)



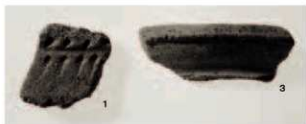
5 SC-27 出土遺物



7 SC-29 出土遺物 (2)



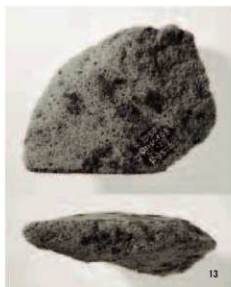
6 SC-29 出土遺物 (1)



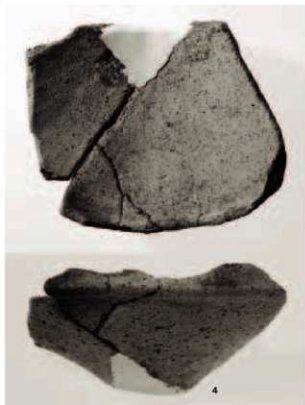
1 SC-28·71 出土遺物 (1)



4 SC-28·71 出土遺物 (4)



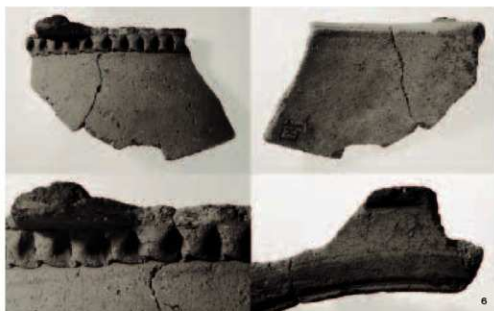
6 SC-28·71 出土遺物 (6)



2 SC-28·71 出土遺物 (2)



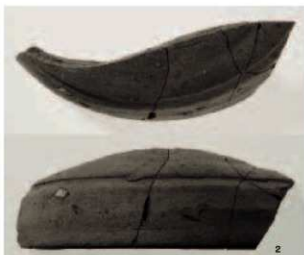
5 SC-28·71 出土遺物 (5)



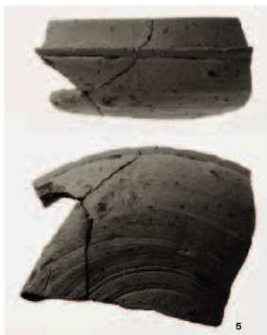
3 SC-28·71 出土遺物 (3)



1 SC-43·44 出土遺物 (1)



2 SC-43·44 出土遺物 (2)



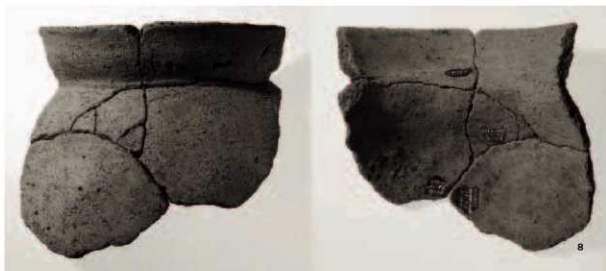
3 SC-43·44 出土遺物 (3)



6 SC-43·44 出土遺物 (6)



5 SC-43·44 出土遺物 (5)



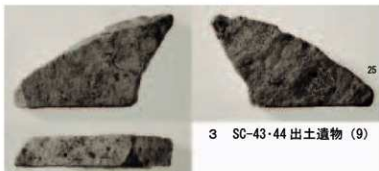
4 SC-43·44 出土遺物 (4)



1 SC-43·44 出土遺物 (7)



2 SC-43·44 出土遺物 (8)



3 SC-43·44 出土遺物 (9)



4 SC-43·44 出土遺物 (10)



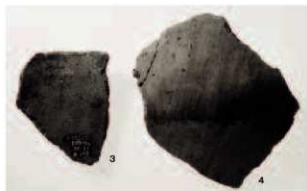
5 SC-43·44 出土遺物 (11)



6 SC-49 出土遺物



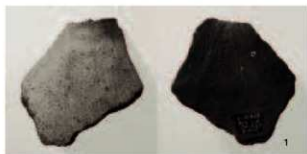
1 SC-52 出土遺物 (1)



2 SC-52 出土遺物 (2)



3 SC-52 出土遺物 (3)



4 SC-54 出土遺物 (1)



5 SC-54 出土遺物 (2)



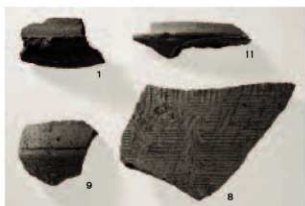
6 SC-54 出土遺物 (3)



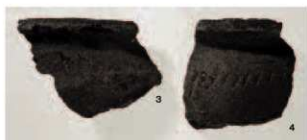
7 SC-54 出土遺物 (4)



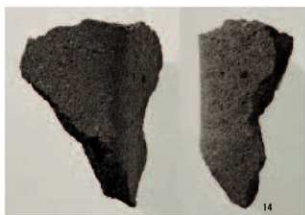
1 SC-64 出土遺物



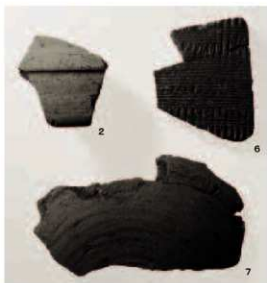
2 SB-1 出土遺物 (1)



3 SB-1 出土遺物 (2)



4 SB-1 出土遺物 (3)



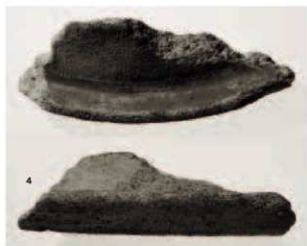
7 SB-63 出土遺物 (1)



5 SB-1 出土遺物 (4)



6 SB-1 出土遺物 (5)



8 SB-63 出土遺物 (2)



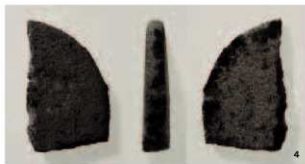
9 SB-63 出土遺物 (3)



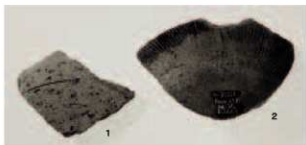
10 SB-63 出土遺物 (4)



1 SK-34 出土遺物 (1)



2 SK-34 出土遺物 (2)



3 SK-35 出土遺物 (1)



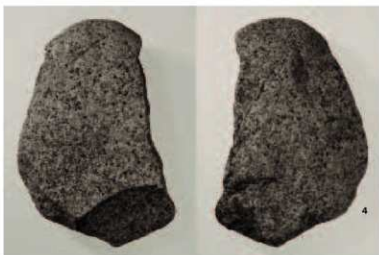
6 SK-45 出土遺物 (1)



7 SK-45 出土遺物 (2)



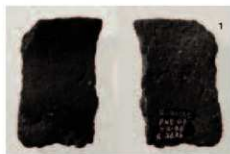
4 SK-35 出土遺物 (2)



8 SK-45 出土遺物 (3)



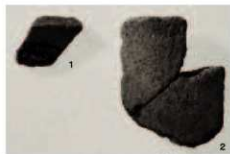
5 SK-39 出土遺物



9 SK-48 出土遺物



1 SK-55 出土遺物



2 SK-56 出土遺物



4 SK-70 他
出土遺物 (1)



5 SK-70 他出土遺物 (2)



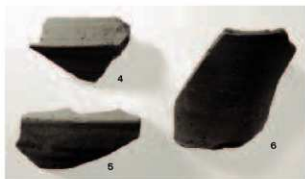
6 SK-70 他出土遺物 (3)



3 SK-57 出土遺物



7 SK-70 他出土遺物 (4)



11 SX-18 出土遺物



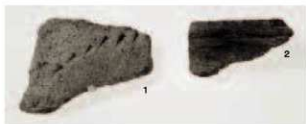
8 SK-70 他出土遺物 (5)



9 SK-70 他出土遺物 (6)



10 SK-74 出土遺物



1 弥生時代柱穴出土遺物 (1) - SP-118 -



2 弥生時代柱穴出土遺物 (2) - SP-119 -



4 弥生時代柱穴出土遺物 (4) - SP-193 -



5 弥生時代柱穴出土遺物 (5) - SP-206・207 -



6 弥生時代柱穴出土遺物 (6) - SP-240 -



3 弥生時代柱穴出土遺物 (3) - SP-185 -



7 弥生時代柱穴出土遺物 (7) - SP-289 -



8 弥生時代柱穴出土遺物 (8) - SP-290 -



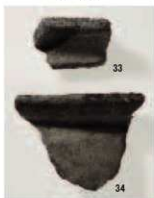
9 弥生時代柱穴出土遺物 (9) - SP-314 -



1 弥生時代柱穴出土遺物 (10)
—SP-418—



2 弥生時代柱穴出土遺物 (11)
—SP-433—



6 弥生時代柱穴出土遺物 (15)
—SP-477—



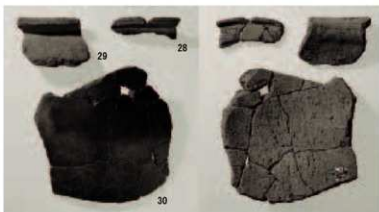
7 弥生時代柱穴出土遺物 (16)
—SP-508—



8 弥生時代柱穴出土遺物 (17)—SP-629—



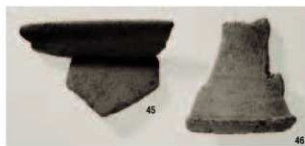
3 弥生時代柱穴出土
遺物 (12)—SP-434—



4 弥生時代柱穴出土遺物 (13)—SP-441—



5 弥生時代柱穴出土遺物 (14)—SP-441—



9 弥生時代柱穴出土遺物 (18)—SP-651—



1 古墳時代柱穴出土遺物 (1) —SP-194—



2 古墳時代柱穴出土遺物 (2) —SP-203—



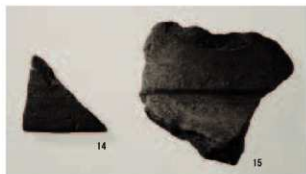
3 古墳時代柱穴出土遺物 (3) —SP-309—



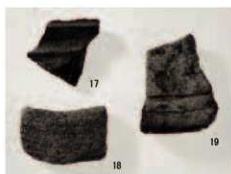
6 古墳時代柱穴出土遺物 (6) —SP-514—



4 古墳時代柱穴出土遺物 (4) —SP-387—



5 古墳時代柱穴出土遺物 (5) —SP-514—



7 古墳時代柱穴出土遺物 (7) —SP-523-524—



8 古墳時代柱穴出土遺物 (8) —SP-634—



10 古墳時代柱穴出土遺物 (10) —SP-672—

9 古墳時代柱穴出土遺物 (9) —SP-654—



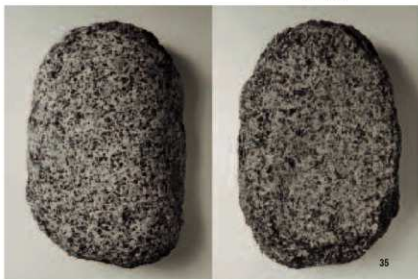
1 古墳時代柱穴出土遺物 (11)
—SP-714・715—



3 古墳時代柱穴出土遺物 (13)
—SP-716—



2 古墳時代柱穴出土遺物 (12)
—SP-716—



4 古墳時代柱穴出土遺物 (14)—SP-716—



5 古墳時代柱穴出土
遺物 (15)—SP-723—



6 古代中世柱穴出土遺物 (1)—SP-223・224—



9 古代中世柱穴出土
遺物 (4)—SP-525—



8 古代中世柱穴出土
遺物 (3)—SP-463—



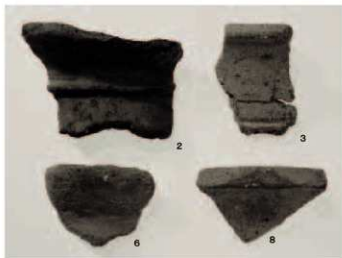
7 古代中世柱穴出土遺物 (2)—SP-356—



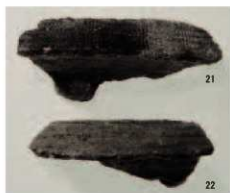
1 Ⅲ層出土遺物—縄文土器—



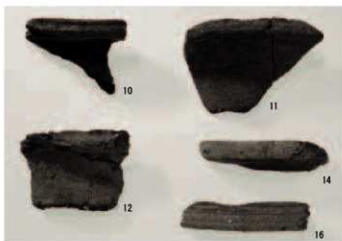
4 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (3)—



2 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (1)—



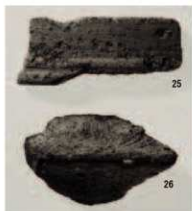
5 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (4)—



3 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (2)—



6 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (5)—



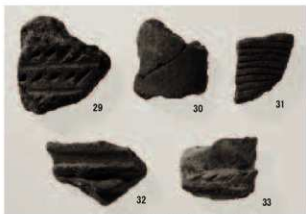
8 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (7)—



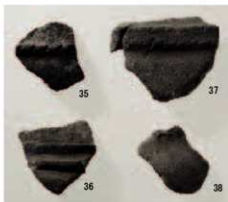
7 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (6)—



9 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (8)—



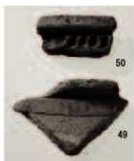
1 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (9) —



2 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (10) —



3 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (11) —



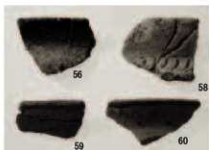
5 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (13) —



6 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (14) —



4 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (12) —



8 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (16) —



7 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (15) —



9 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (17) —



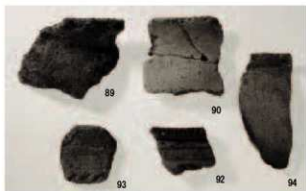
10 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (18) —



11 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (19) —



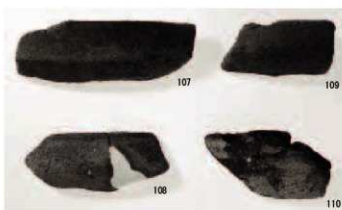
1 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (20) —



3 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (22) —



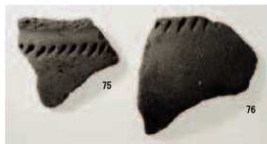
5 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (24) —



8 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (27) —



11 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (30) —



2 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (21) —



4 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (23) —



6 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (25) —



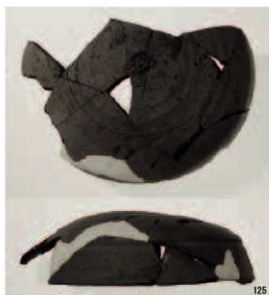
7 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (26) —



9 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (28) —



10 Ⅲ層出土遺物—弥生土器 (29) —



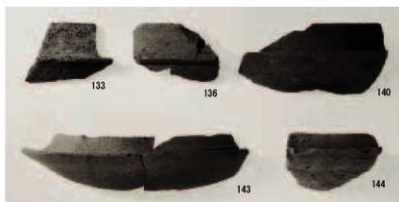
1 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (1) —



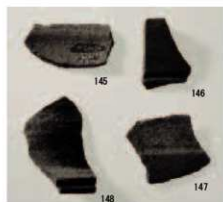
2 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (2) —



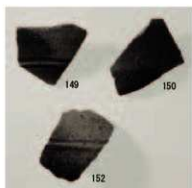
3 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (3) —



4 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (4) —



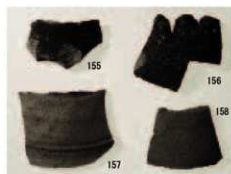
5 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (5) —



6 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (6) —



7 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (7) —



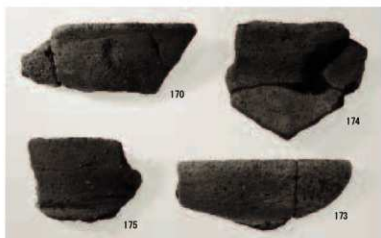
8 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (8) —



9 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (9) —



10 Ⅲ層出土遺物—須惠器 (10) —



1 Ⅲ層出土遺物—土師器 (1) —



3 Ⅲ層出土遺物—土師器 (3) —



6 Ⅲ層出土遺物—土師器 (6) —



7 Ⅲ層出土遺物—土師器 (7) —



8 Ⅲ層出土遺物—土師器 (8) —



9 Ⅲ層出土遺物—土製品 (1) —



2 Ⅲ層出土遺物—土師器 (2) —



4 Ⅲ層出土遺物—土師器 (4) —



5 Ⅲ層出土遺物—土師器 (5) —



10 Ⅲ層出土遺物—土製品 (2) —



11 Ⅲ層出土遺物—土製品 (3) —



1 Ⅲ層出土遺物—石器 (1) —

187



3 Ⅲ層出土遺物—石器 (3) —

189



2 Ⅲ層出土遺物—石器 (2) —

188



4 Ⅲ層出土遺物—石器 (4) —

190



5 Ⅲ層出土遺物—石器 (5) —

191



8 Ⅲ層出土遺物—石器 (8) —

194



6 Ⅲ層出土遺物—石器 (6) —

192

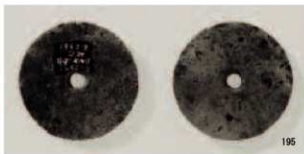


7 Ⅲ層出土遺物—石器 (7) —

193



196

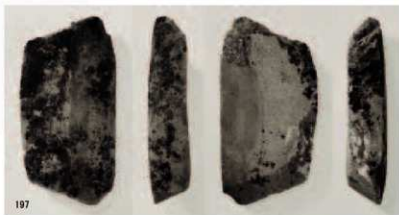


195

1 Ⅲ層出土遺物—石器 (9) —



2 Ⅲ層出土遺物—石器 (10) —



197

3 Ⅲ層出土遺物—石器 (11) —



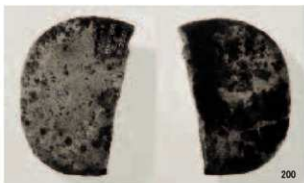
198

4 Ⅲ層出土遺物—石器 (12) —



199

5 Ⅲ層出土遺物—石器 (13) —



200

6 Ⅲ層出土遺物—石器 (14) —



1 Ⅲ層出土遺物—石器 (15) —



2 Ⅲ層出土遺物—石器 (16) —



4 Ⅲ層出土遺物—石器 (18) —



3 Ⅲ層出土遺物—石器 (17) —



5 Ⅲ層出土遺物—石器 (19) —



6 Ⅲ層出土遺物—石器 (20) —



7 Ⅲ層出土遺物—鉄滓 (1) —



8 Ⅲ層出土遺物—鉄滓 (2) —



1 古代中世の遺物 (1)



2 古代中世の遺物 (2)



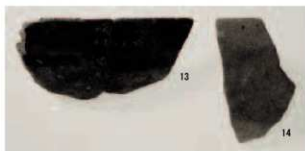
3 古代中世の遺物 (3)



5 古代中世の遺物 (5)



4 古代中世の遺物 (4)



6 古代中世の遺物 (6)



8 古代中世の遺物 (8)



7 古代中世の遺物 (7)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ぶんきょういせき VII-4						
書名	文京遺跡 VII-4						
副書名	文京遺跡16次調査B区						
巻次							
シリーズ名	愛媛大学埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	XXVI-4						
編著者名	吉田広						
編集機関	愛媛大学埋蔵文化財調査室						
所在地	〒790-8577 松山市道後樋又10番13号						
発行年月日	2013年11月29日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
文京遺跡 16次調査B区	松山市文京町3番	38201	33° 50′ 57″	132° 46′ 12″	1997. 4. 9 ～ 7.29	627㎡	校舎（工学 部校舎）新 営Ⅲ基工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
文京遺跡 16次調査 B区	集落	弥生	堅穴建物 土壇	22 9	弥生土器 石器 分銅形土製品 ガラス小玉	絵画土器・東南部九州 系土器含む	
		古墳	堅穴建物 掘立柱建物 土壇 その他	11 1 7 1	須恵器・土師器 土製品 鉄器・鉄滓		
		古代 ～中世	掘立柱建物 土壇	1 1	土師器・瓦器・陶磁器	3間×6間の大型建物	

文京遺跡 VII-4

— 文京遺跡16次調査B区 —

愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XXVI - 4

2013年11月29日

発行 愛媛大学埋蔵文化財調査室
〒790-8577 松山市道後樋又10-13
TEL 089-927-9127

印刷 岡田印刷株式会社
〒790-0012 松山市湊町7-1-8
TEL 089-941-9111
